

国際ロータリー第2790地区
2019-20年度

地区研修・協議会
District Training Assembly
報告書



ロータリーは
世界をつなぐ

2019年4月20日(土)

アパホテル&リゾート東京ベイ幕張ホール

ロータリーは世界をつなぐ

ROTARY CONNECTS THE WORLD

(2019-20年度 RI会長のテーマ)

Object of Rotary ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

The Four-Way Test

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

Rotarian Code of Conduct ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準を持って行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
5. ロータリーの会合、行事、および活動においてハラスメントのない環境を維持することを支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらないよう確認する。

国際ロータリーの青少年と 接する際の行動規範に関する声明

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために、安全な環境をつくり、維持するために努力している。

ロータリアン、その配偶者、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるいは精神的な虐待から彼らの身の安全を守るため、最善を尽くす責任がある。

2006年11月、RI理事会により承認

目 次

目次	1	
プログラム	4	
歓迎の言葉	ホストクラブ・柏西ロータリークラブ会長 高田 住男	5
ガバナー挨拶	橋岡 久太郎	6
地区研修リーダー挨拶	関口 徳雄	7
地区研修・協議会 / 地区運営方針	諸岡 靖彦	8
地区研修・協議会 受賞者一覧		14
2018-19 年度地区組織図		17

～ 部会別協議会のご案内 ～

会 長 部 会	19
幹 事 部 会	37
研 修 部 会	45
管 理 運 営 部 会	58
奉仕プロジェクト部会	73
青少年プログラム統括部会	85
ロータリー財団部会	90
米 山 記 念 奨 学 部 会	100





地区研修・協議会プログラム

District Training Assembly

09:00 登録開始

■【第1部】本会議

		司会：次期地区幹事長	堀口 路加
10:00	点鐘	ガバナーエレクト	諸岡 靖彦
	国歌斉唱		
	ロータリーソング「奉仕の理想」		
	ホストクラブ歓迎の言葉	柏西RC会長	高田 住男
10:10	地区研修・協議会開催のご挨拶	ガバナー	橋岡久太郎
10:20	地区研修・協議会開催によせて	次期地区研修リーダー	関口 徳雄
10:30	RI会長方針および地区運営方針	ガバナーエレクト	諸岡 靖彦
11:10	表彰	ガバナー	橋岡久太郎
11:30	ガバナーノミニー挨拶	ガバナーノミニー	漆原 摂子
	ガバナーノミニー・デジグネート挨拶	ガバナーノミニー・デジグネート	梶原 等
	次年度地区大会の案内	地区大会実行委員長	設楽 正行
	地区大会記念ゴルフ大会の案内	ゴルフ大会会長	小宮山四郎
	諸事お知らせ	次年度地区幹事長	堀口 路加
12:00	点鐘	ガバナーエレクト	諸岡 靖彦
	昼食		

■【第2部】部会別協議会

13:00	会長部会	地区予算案採択 方針説明・依頼事項 質疑応答 各クラブ会長による所信表明と事業計画発表
	他部会	方針説明・依頼事項 質疑応答 各クラブ委員長による所信表明と事業計画発表
16:00	部会閉会	



歓迎の言葉 地区研修・協議会ホストクラブ挨拶

2019年度地区研修・協議会ホストクラブ
柏西ロータリークラブ会長 高田 住 男

ロータリアンの皆様、おはようございます。

国際ロータリー第2790地区 2019-20年度地区研修・協議会のホストクラブを仰せつかりました柏西ロータリークラブの高田と申します。

クラブを代表して、歓迎のご挨拶を申し上げます。

本日は、週末の早朝の開催にも拘わらず、北は野田市から、南は館山・鴨川まで県内各地から多数のロータリアンの皆様に、当地区研修・協議会にご出席頂きまして、心より感謝申し上げます。有難うございます。

昨年、大変名誉なことに弊クラブはホストクラブとしてご指名頂きましたが、本日の開催に当っては、諸岡靖彦ガバナーエレクト、堀口路加次期地区幹事長、成田ロータリークラブそしてガバナーエレクト事務所の皆様のご指導とご協力の基、本日を迎えることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、ご参加の皆様には、行き届かない点多々あろうかと存じますが、ロータリーの寛容なお心をもってお許し願えれば幸いと存じます。

さて、新年度のRIテーマは「ロータリーは世界をつなぐ」です。

新年度の、各クラブの重要な役割を担う皆様が、本日の研修及び協議会を通じて、より一層の知識と認識を深められご活躍をされることを、心よりお祈り申し上げます。

最後になりましたが、諸岡年度の栄えある出発と各クラブの益々の隆盛を祈念申し上げ歓迎の言葉とさせていただきます。有難うございました。



ガバナー挨拶 「地区研修・協議会」開催にあたって

国際ロータリー 第2790地区
2018-19年度 ガバナー 橋 岡 久太郎
(佐倉中央RC)

若葉の萌える頃となり、心若やぐ季節となりました。春は生命の力強さと成長を感じる季節です。この良き日に、諸岡靖彦ガバナーエレクト年度の三大セミナーの最後となる「地区研修・協議会」が、研修リーダー関口徳雄様、研修サブリーダー寺嶋哲生様、諮問委員会のパストガバナー方、次年度の地区役員、各クラブの会長・幹事、クラブ幹部のご出席を頂き、盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。

諸岡靖彦ガバナーエレクトは、今年の1月にカリフォルニア州サンディエゴで開催されました国際協議会：GETS（ガバナーエレクト トレーニングセミナー）に出席され、**マーク・ダニエル・マローニー国際ロータリー(以降RI)会長エレクト**による、**2019-20年度RIテーマ「ROTARY CONNECTS THE WORLD」**（ロータリーは世界をつなぐ）に基づくRIの活動指針を全世界約200数十ヶ国525地区のガバナーエレクトと共に習得されました。

そのRIの方針を踏まえ、2月16日の第1回会長エレクト研修セミナー、3月2日の地区チーム研修セミナー、3月24日の第2回会長エレクト研修セミナーを通じて地区の運営方針や行動指針と地区テーマ「**ロータリーから千葉を元気に**」を会長エレクト、次期地区役員の皆様に伝えられました。

本日はその集大成として次年度の各組織でのリーダーとなる皆様の前で発表し次年度地区予算の承認を受け、諸岡靖彦ガバナーエレクトの正式な年度スタート準備となるわけです。

ロータリーでは、基本的にRI、地区、クラブにおいて組織構成メンバーが毎年替わります。しかし、メンバーが毎年替わっても、ロータリーの基本的な考え方は変わるものではありません。活

動も長期的な計画と行動を必要とするものが多いです。

それゆえに、新しい年度に、クラブでリーダーとなる皆様方が、ロータリーの基本とマローニーRI会長エレクト、諸岡靖彦ガバナーエレクトの方針をよく理解して頂き、それを各クラブに持ち帰って、クラブの会員にお伝えください。

諸岡ガバナーエレクトは会員の増強、女性会員の拡大、クラブ新設など会員増強を推進しつつ、リーダーとなる人材の育成とともに、クロスファンクショナルな地区運営を目指しておられます。

まさに、マローニーRI会長エレクトの活動方針を当地区に沿った形に取り込んでいच्छいます。この地区テーマの基に皆で力を合わせて、諸岡靖彦ガバナー年度を盛り上げて頂きたいと思っています。

結びにあたり、本日の地区研修・協議会の開催にあたり、ホストクラブとして設営にご尽力頂きましたホストクラブの柏西ロータリークラブの皆様に心より感謝申し上げますとともに、本日ご参加頂いている皆様にとって、本日の地区研修・協議会が愉しく稔り多きものとなりますようお祈り申し上げます。



地区研修リーダー挨拶 地区研修・協議会を迎えて、ご挨拶

国際ロータリー 第2790地区

2019-2020年度 地区研修リーダー 関 口 徳 雄

(浦安RC)

1、この時期毎年開催される「地区研修・協議会」はGEの責任のもとに開催され、GEの指示及び監督のもとに、計画、実施されます。

この会に出席が要請されるのは、次期クラブ会長と次年度に重要な指導者の役割を務めるために次期会長から指名されたクラブの会員です。

その目的は以下の通りです。

- ①就任に先立ち、次期クラブ指導者がクラブの指導者チームを築けるようにすること。
- ②地区GE、次期ガバナー補佐、地区委員会にクラブ指導者チームの意欲を喚起し、協力関係を築く機会を提供すること

2、ところで経験の浅い会員はともかく、ベテランの会員でも、ロータリーは「奉仕の理念」を奨励し、他人を思いやり他人のために尽くす団体とか、他の奉仕団体にはない職業奉仕があるとか、ロータリーの奉仕には哲学があるとか、いろいろ蘊蓄を傾けた意見をのたまうが、ある日突然にロータリアン以外からロータリーって何ですか？と問われたら、一体何と説明したらいいのか、頭ではわかっている、理論を極めた会員であっても、すぐには出てこないものです。

さてロータリーって何ですか？と他から質問されたときに、以下のように答えなさいと、約30数年前にRI理事会が決めた定義がありますのでこれを覚えておくと恥(?)をかかずに済むかもしれません。

それをフレーズごとにやさしくまとめると、ロータリーとは、

- ①世界中の事業及び専門職務従事者からなる国際的組織で、
 - ②人道的奉仕活動を行い、
 - ③あらゆる職業において高い道德的水準を奨励し、
 - ④世界中で親善及び平和を築くために助力している、団体である。
- ということになります、①については今では原

則としてとなるでしょうが、ロータリアンは職業人の集まりであること、②については二つのモットーのうちの「超我の奉仕」であり他人のことを思いやり、他人のために尽くす「Service above Self」即ち人道的奉仕理念であって、具体的にはポリオの撲滅やR財団の人道的プログラムでしょう。③は申すまでもなくロータリー固有の職業奉仕における奉仕理念と継続的な繁栄の礎となる職業倫理の向上と、具体的には「4つのテスト」に表現されるロータリアンの心構えでしょう。④はロータリーの究極の目標である世界平和の実現であります。ただここで注目すべきは「助力」という一歩退いた表現を使っていることです。

思うにロータリーは地域社会のみならずあらゆる場面で伝統的にあるいは原則的に主体的行動をとらず、常に何々に「寄与する」とか「助力」という言い方をします。これはロータリーが主体的言動をとることによって力をつけると、必ずやこれを政治権力に利用しようとする輩が現れ、するといずれ権力闘争に巻き込まれてやがて滅びるとというのが、歴史が示す事実だからです。

ロータリーがやや地味ながら今日110年を超えて繁栄を続けられたのはこれを守ったからです。

3、次にRIと地区とクラブの関係です。RIの会員はロータリアンだと思っている会員がいるくらいですからこれもわかっているようで、わからない。特に各々の権利と義務、そしてそれぞれの目的、ガバナーとは何ぞや、地区とガバナーの関係や、ガバナーとクラブの関係はどうか、RIのロータリー財団と公益財団法人ロータリー日本財団との関係は、長期計画と戦略計画はどう違うのか、等などについて、いざという時は何と説明すべきなのか時間があたらきちんと整理しておくべきだと思います。

4、終わりに本日の会が皆様にとって意義あるものとなりますようご祈念申し上げます。



国際ロータリー 第2790地区 2019-20年度に向けて 地区研修・協議会／地区運営方針

国際ロータリー 第2790地区
2018-19年ガバナーエレクト 諸 岡 靖 彦
(成田RC)

1. はじめに

2019-20年度に向けて、国際ロータリー第2790地区 地区研修・協議会を開催するに当たり、橋岡久太郎ガバナー、関口徳雄地区研修リーダー、寺嶋哲生同サブリーダー、並びにパストガバナーの皆様にご臨席を賜り、ご指導をいただけますことに深く感謝申し上げます。次期ガバナー補佐の皆様、地区委員長および地区委員会委員の皆様の協力の下に、次年度各クラブをご指導いただく会長、幹事の皆様、各クラブの運営に携わるリーダーの皆様にご参加いただき、まことにありがとうございます。心より御礼申し上げます。

私は去る1月13日より18日まで米国サンディエゴで開催されました国際協議会に参加してガバナーとなる最後の関門を通過しました。身に余る役職ですが、心して責任を果たす所存です。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2. RI会長テーマ

次年度RI会長は、米国アラバマ州Decaturロータリークラブに所属するマーク・ダニエル・マローニー氏(職業分類は弁護士)です。マローニー会長エレクトは、1月14日に開催されました国際協議会第1回本会議において、**2019-20年度のRIテーマを「ロータリーは世界をつなぐ」(英文 ROTARY CONNECTS THE WORLD)**と発表されました。

冒頭、氏はサンディエゴへの参加者をねぎらい、「旅とは全て自分でつくるもの、今週私たち一人ひとりが始める2019-20年度に向けて、またその先へ共に歩んでゆく旅は、私たちが一緒につくるものです。出身国や話す言語や文化や伝統が何であれ、私たちがここにきた目的は一つ、それは、より多くのロータリアン、ローターアクター、全てのロータリーファミリーが、これまでよりもっと良く奉仕できるように、より強いロータ

リーを築くことです」と切り出して、真のリーダーの目標は「最大限を達成することではなく、周りの人が可能な限り最大限を達成できるようにすること」であると述べ、地区ガバナーにクラブで活動するロータリー会員を支援すること、そしてより強い組織を築くこと、奉仕の参加者により大きなインパクトをもたらし、基盤を広げ、積極的なつながりをもたらし、適応力を高めることを求めました。そして4つの強調事項を掲げました。

1) ロータリーを成長させる：会員の増強については、全世界で20年間足踏みが続いている。これは危機的状況である。奉仕活動やプロジェクトのインパクトを成長させること、そのために重要なのは、会員基盤を成長させることである。つまり穴だらけの高齢化対策に歯止めをかけ、新しい会員モデルをつくり、入会への新しい道を開き、新しいニーズにかなう新しいロータリークラブとローターアクトクラブをつくることである。

2) 家族を参加させる：実際ロータリーは家族である。ロータリーの活動と家族との時間を競合させず、補完しあう文化をつくる。ロータリーに最も必要な人々、すなわち地域社会に貢献したいという若い職業人の日常的な現実を無視したままではロータリー会員の平均年齢を変えることはできない。人生の階段の途上にある若い世代をありのままに迎え入れる必要がある。

3) ロータリーのリーダーになる道を拓く：クラブ会長の仕事は、忙しい職業人には重過ぎる時間のコミットメントであるとみなされるべきではない。ロータリーが最も必要としている奉仕とリーダーシップを発揮できる潜在力のある人たちに、貢献への扉を閉ざしてしまってはならない。ロータリーの梯子は上るのが難しいものであるべきでない、その必要もない。この障壁の多くは、私たち自身が築いたものであり、過

去の時代、違う世代に合わせてつくられたものである。各地区でロータリーのリーダーシップの文化を変え始めて欲しい。

4) 国際連合との歴史的な関係に焦点を置く：

2020年はロータリーの115周年に当たり、国連は設立75周年を迎える。ロータリーはより健康的で、平和で、持続可能な世界に向けた国連の継続した長年のコミットメントを共有している。ロータリーは他の組織では得られない奉仕と平和という精神の下に世界中の人びとがつながることができるインフラを有している。ロータリーのビジョン声明は「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」と謳っており、私たちは行動人であり、世界を変えたいと望むだけでなく、インスピレーションを持続可能な真の力に変える力を持っている。

世界はかつてないほど分断されています。しかしロータリーを通じて、私たちはつながります。私たちをつなぐものはロータリーです。比類のない基盤を有するロータリーを通じて、私たちは人類の素晴らしい多様性とつながり、共通の目的を追求し、末永く深い絆をつくりましょう。楽観主義、勇気、そして喜びを胸に、ともに旅立つ今、これまでの何世代ものロータリアンにインスピレーションを与えてきた奉仕と友情の精神で次年度に取り組みましょう！奉仕、友情、そしてコミットメントを通じて、「ロータリーは世界をつなぐ」という確信を胸に。

以上を総合して、RIが目指す方向は、ロータリーの組織としての勢いを回復させる⇒地域社会や家庭、職域に新しいつながりをつくる⇒国際社会との新たなつながり（CONNECT）をつくる⇒（分断された）世界をつなぐ役割を果たすこと、であると理解できます。国際協議会の会場入口に **JOIN LEADERS EXCHANGE IDEAS TAKE ACTION** 〈リーダーを結びつける、意見を交わす、行動を起こす〉とありました。我が地区でも、行動を起こす時です。

3. 当2790地区の課題と地区スローガン

千葉県は首都圏の一角に位置し、気候温暖、風光明媚、災害が少なく全国的には恵まれた地域です。人口の社会移動の流入超過で、全県で人口の微増を維持しています。商工業、農林水産畜産業の構成もバランスよく、県民所得も全国12位の位置を占めています。千葉の半島性が千葉の後進性の理由として永く考えられてきましたが、成田空港の機能拡充、東京湾アクアライン、東京外郭環状道路や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の実現で、交流人口が増大し、地域経済の潜在力が高まっています。半面、東京に近接した北西部地域と、東総、九十九里、南房総の東南部沿岸地域間との経済、社会基盤の過密、過疎の問題が際立ってきています。

ロータリーにもこの社会基盤の変遷による、様々な課題が迫ってきています。首都圏内に枢要な位置を占める我が千葉県ですが、全83クラブを擁する第2790地区のロータリーがそれぞれに問題を抱え、将来の会員基盤が安泰という訳ではありません。

ロータリーの未来を形づくる本来の場はクラブです。刻々と変化する現実に対応するために、ロータリーはクラブに注力してゆかねばなりません。次年度国際ロータリーのマーク・マローニー会長は **ROTARY CONNECTS THE WORLD** 〈ロータリーは世界をつなぐ〉と宣言されました。私は、地区スローガンとして **〈ロータリーから千葉を元気に〉**と宣言します。当地区83クラブのそれぞれの課題を地域の会員基盤や奉仕のあり方、新しいアイデアについて語り合い、クラブを元気にして、ロータリーが千葉を元気にすることを目指したいと考えます。

4. 地区運営の基本的考え方

1) 地区ロータリーを元気にするための目標として、**地区3,000会員、300女性会員、30会員未満のクラブの基盤強化、3クラブ新設**を目指します。クラブに刷新性、柔軟性を持ち込み、戦略計画を創り、地域の可能性を求め、誇りを回復します。会員意識のうえでロータリーの優先順位を高め、地域リーダーたるにふさわしいロータリアン・リーダーシップを推奨します。変化への対応力を高めるために、会員基盤に女性、若手職業人を加え、ローターアクターを育

成します。クラブの経営を確立するために、親睦、例会、委員会、奉仕プロジェクト、クラブ戦略に於いて求心力を高め、クラブのガバナンス（統治）確立を支援し、他団体との良き関係づくりを推奨します。2020オリパラ、日本のロータリー100周年を控えて、各グループ、地域ごとにロータリーの公共イメージを盛り上げます。

2) 地区リーダーシップ・チームの運営方針

- ① 関口徳雄地区研修リーダー、寺嶋哲生サブリーダーの指導の下に地区活動の革新を図り、ガバナー補佐の活動と相俟って会員基盤を拡充します。
- ② 地区研修リーダーの指導の下に、3大セミナーの企画と運営に新風を吹き込み、集大成としての地区大会には、3～5年後に向けた地区ビジョンと目標を提言します。
- ③ 地区委員会は事業の継続性を図るための専門性と、活動の刷新性を図るための新陳代謝を共に備えるべく、地区リーダーたりうる人材の育成に注力します。
- ④ 地区チームは目先の縦割り志向に走らずに、タテヨコ関係でつながり合うクロスファンクショナルな指向をもって行動し、クラブと地区の距離感を埋めるためにガバナー補佐との相互連絡、連絡に努めます。
- ⑤ 多様性、柔軟性、刷新性を採り入れた元気なクラブ、ロータリアンづくりのために地区チームは丸となってクラブを支援します。
- ⑥ 地区内シニアメンバー、女性アクティブ、少壮気鋭の会員の積極参加を求めます。
- ⑦ 未来のロータリーを創る青少年育成プロジェクトへの積極的参加を支援します。
- ⑧ 2021年地区70周年を展望して、地区史編纂の準備を進めます。
- ⑨ 2020年6月のホノルル国際大会に参加しましょう。

5. 地区組織

2019-20年度の地区組織は前年度からの継続性を維持しつつ、将来への戦略計画をベースとした取組みを進める組織設定と致しました。一つには常設プログラムを担当する事業委員会として青少年プログラム、ロータリー財団、米山記念奨学会の各委員会の位置づけ、二つには会員基盤と奉仕

の心を守り立てて、地区運営の刷新性とクラブ支援を進める管理運営、奉仕プロジェクトの各委員会の設定を意図しました。また地区研修リーダーの直轄でロータリー研修委員会、RLI推進委員会を位置づけ、理念研究委員会を復活いたしました。この3委員会は3大セミナーの立ち上げを企画し、地区大会の大綱を構想します。

こうして各委員会が固有の役割を分担しながら、クロスファンクショナルに活動して、クラブを実践支援し、年度地区目標に挑戦します。

戦略計画委員会

ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、同デジグネート、直前ガバナー、前々年ガバナーからなる委員会として、中長期的視点で地区ロータリーのあるべき姿を検討し、今年度は向こう3ヵ年の継続事業課題や近年の地区会員基盤の変動と拡充についての対応策を協議したいと考えております。なお、必要に応じて実務レベルの検討を行う委員を任命することといたします。

地区研修リーダー直轄三委員会

地区研修リーダーはロータリー研修委員会、RLI推進委員会、理念研究委員会を直轄して、地区運営の基本課題に取り組みます。この三委員会は共同して三大セミナーの実施に当たり、ガバナーエレクトの構想と課題を進め実現するために、地区研修リーダーの指導のもとに地区運営の企画を担当します。殊には、当年度は2020年東京オリンピック、パラリンピック開催の直前であり、日本のロータリー100周年を控えた時宜に当たります。このタイミングで行動できるようインスピレーションとなることを期待いたします。

ロータリー研修委員会はガバナー補佐が主催する各グループのロータリー情報研修会を支援して、クラブの活動ベースとなるRI情報の提供、会員の自覚と誇りを鼓舞し、リーダーシップ研修のお膳立てに当たります。RLI推進委員会はロータリーが有する最良のロータリー学習プログラムでありますRLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）セッションの着実な実行と運営を進めると共に、参加者の拡大、DL（ディスカッション・リーダー）の養成を通じて、地区人材の育成と発掘に務めます。理念研究委員会は奉仕の理念と中核的価値観を日常適用することについて取りまと

めて、地区大会に中期ビジョン提言することを目指します。

管理運営統括委員会

会員増強・維持拡大委員会、フェローシップ・親睦活動委員会、広報・公共イメージ向上委員会を統括します。統括委員長は元気なクラブづくりの支援窓口として、クラブと地区の深い関係づくりに当たります。必要に応じて、地区人材からスペシャリストを編成して、「クラブ活性化支援チーム」をクラブに派遣します。女性、若手職業人に会員基盤を広げることは、クラブの多様性確保のために急務であります。新しい括りで新クラブ結成を目指すとともに、衛星クラブ、SNSを活用したクラブ（Eクラブ）、ローターアクトクラブの組成を準備することのために調査し、調整し、行動することは、近い未来を切り拓く重要な課題であり、戦略的に取り組むべきテーマです。会員増強・維持拡大委員会は増強の芽を持つクラブや地域とつながり、青少年所管の他の地区委員会と連携して活動します。各クラブの会員増強スタンスについても、こうした動きを強く推奨します。

フェローシップ・親睦活動委員会はロータリーの原点にある親睦のあり方を明確にクラブに示して、親睦の、奉仕活動につながる意義を考えます。地区内各フェローシップ活動の推奨、交流の促進、会員維持に努めます。

広報・公共イメージ向上委員会は、下半期のオリパラ機運の高まるタイミングで、ロータリーの発信を企画します。クラブ、グループ、地域ごとにインターシティ・ミーティング（IM）やロータリー・デイでの発信コンテンツを提供します。また、クラブ管理運営のためのロータリー・リソース（My Rotary、ロータリークラブセントラル等のオンラインツール）の活用推奨とその支援に務めます。

奉仕プロジェクト統括委員会

社会奉仕委員会、職業奉仕委員会、国際奉仕委員会、青少年奉仕委員会（ロータリー学友会担当）を統括します。各委員会は奉仕プロジェクトの各プログラム担当委員会とつながり、クラブや地区チームに対して、奉仕活動の新しいIdea & Inspirationを提供することが基本使命です。奉仕に資金の必要なプロジェクトはロータリー財団委

員会と連携して、補助金審査やマッチングの相方探し、申請手続き等を支援いたします。クラブや地域や世界でロータリーが良いことを進めてゆくためには、将来のリーダーとなる青少年同士のヨコのつながりが大切です。青少年奉仕委員会（ロータリー学友会担当）では、青少年プログラムの学友、財団学友、米山学友との大きなつながりを作るために汗をかきます。

なお東日本大震災の被災遺児支援の希望の風奨学金プロジェクトは青少年奉仕委員会で担当します。

青少年プログラム統括委員会

インターアクト委員会、ローターアクト委員会、青少年交換委員会、RYLA委員会を統括します。

青少年育成の常設プログラムの着実な実行運営に当たっては、青少年の健全育成の大前提として、個別青少年へのハラスメント防止を含む安全確保があります。その上で、海外を含む他地区との交流や多彩な展開のために、相手方との綿密な打合せ、準備、調査が必要です。RIは、ローターアクトおよびインターアクト等の若い世代へのつながりが拡大するよう強く求めています。提唱クラブ、学校関係者、ロータリーファミリーとのつながり、そして学友との関係は丁寧なメンテナンスを必要とします。プログラムの実行には、これを理解して進めます。

広く青少年プログラムを広報し、紹介して、青少年がその年代に応じた社会とつながるよう支援して、ロータリーの奉仕が若い世代とつながる基盤づくりを進めてまいります。

ロータリー財団統括委員会

財団資金・推進管理委員会、グローバル事業補助金委員会、地区補助金プロジェクト委員会、奨学生・学友委員会、ロータリーポリオプラス委員会（ロータリーカード推進兼務）、ロータリー平和フェローシップ委員会を統括します。

会員のロータリー財団理解のために、「世界で良いことをしよう」というスローガンの下に活動しているロータリー財団について、その活動の仕組みについて理解しなければなりません。財団への寄付と認証、資金のシェアシステムを会員に周知し、ロータリーの奉仕活動の意義と成果について会員の理解を進めます。地区補助金（DG）、グ

ローバル補助金（GG）プログラムとともに、RIの最優先プログラムであるポリオプラス、今後重要性が高まる世界平和フェローについて、その活動の意義をしっかりと伝えます。

会員からの寄付金は財団で運用された後に、地区活動資金（DDF）として地区に提供されます。近年DDFの活用が追いつかず、奉仕活動に回らずに残高が増える傾向があります。本年度は積極的にこれを活用することが推奨されています。

当地区は3年間つづいて全クラブから年次基金への寄付を戴いております。本年度も「寄付ゼロクラブ無し」を継続するために、上半期中に送金が戴けるよう広報を進めます。会員1人当たり寄付目標額を、年次寄付150米ドル、ポリオプラス30米ドルとして、この達成を目指します。

関東圏10地区中、会員1人当たり年次基金寄付額のランキングで、当地区は例年最下位という実態があります。我が地区の潜在力を顕在化するためには、日常の地域への奉仕活動の盛り上がりが何より大切です。クラブを元気にして、当地区の活性化を進めます。

米山記念奨学委員会

米山記念奨学会のプログラムの目標は、世界から日本との架け橋となる人材を奨学生として受入れ、クラブがお世話して、卒業後の交流を含めて、ロータリーが目指す「平和と国際理解の推進」に貢献することです。米山学友は帰国して、各国のリーダーとして活躍している方々が数多く、大きな成果をあげておりますが、民間奨学金としての事業規模は大きく成長して、今や国内最大級です。先ずはこの米山プログラムの実績とロータリアンの取り組みについて、地区内に伝えることが大切です。米山プログラムを継続し、更に進んだ成果をあげてゆくために、世話クラブの開発、大学や指導教授との相互理解の積み重ねが大切です。

そして会員1人当たり寄付額目標15,000円を達成できるよう推奨します。

6. ガバナー補佐、クラブ会長・幹事並びにクラブ・リーダーの皆様へ

グループ内各クラブと直接対話ができる機会を持ち、クラブを元気にする要の役割をお願いいたします。クラブがそれぞれに独自のクラブ戦略を持ち、地域社会のニーズに応える奉仕活動に取り

組んで行けるよう、また地区と各クラブとの距離を近づけていただくためにご尽力を賜りたく、強く期待いたします。

1) コミュニケーション

ガバナー補佐の皆様との地区連絡会議は年度内に6回開催し、地区委員会との合同開催として、地区チーム内での情報共有を進めます。

グループ単位で行われるクラブ会長、幹事の会合には、年度内6回の開催を推奨します。加えて、ガバナー補佐は四半期ごとにクラブ訪問の上、各クラブとの交流、課題の相互確認をお願いいたします。

2) ガバナー公式訪問

公式訪問は2クラブ合同開催を基本として、単独開催にも対応いたします。地区全体の傾向、グループ地域社会のニーズを捉えて、個別クラブの実状に耳を傾けて、真にクラブの持続的奉仕活動が進み、会員基盤が満たされますよう一緒に考えましょう。

3) ロータリー情報研修会

上半期中にガバナー補佐が主催者となり、「クラブの活性化」についてグループ内クラブが討議し、交流できる機会としていただきます。クラブの日常活動（例会、奉仕活動、親睦、研修…）が楽しく運営できる基盤づくりや、柔軟性、刷新性について相互にInspirationが得られる会合にしてください。研修のお膳立てや企画については、地区ロータリー研修委員会が窓口となって、グループのニーズにお応えし、お手伝いいたします。

4) インターシティ・ミーティング（IM）

下半期にガバナー補佐が主催者となり、ロータリーの公共イメージ向上と地域社会の活性化について行動するよう推奨します。2020年7月、8月は東京オリンピック、パラリンピックの開催があり、県内で競技が行われ、海外からも多くの来訪者が予想される稀な機会を迎えます。この機会にロータリーの奉仕活動を地域社会に発信してゆきましょう。座学の交流会よりも、新しいつながりを求めて、戸外へ、オリパラの人が集まる所に向いて行動し、ロータリーをアピールしましょう。ガバナーが先頭に立ちます。なお、2020年10月には日本のロータリー100周年を迎えます。この発信も含めて各グループで討議されますよう推奨いたします。

5) 会員増強について

各クラブに対して、年度内の会員数の純増1名以上の成果を求めます。女性会員がクラブの1割以上在籍すること、また若手職業人の増強を目指してください。そして女性や若手職業人を育成して、新クラブ結成を目指しましょう。

6) ロータリー賞、RI会長特別賞

次年度のRI会長賞は、ロータリークラブ対象のロータリー賞、ローターアクトクラブ対象のロータリー賞、インターアクトクラブ対象のロータリー賞の3部門になりました。RACやIAC提唱クラブは、これを励みとするようローターアクター、インターアクターを支援して下さい。さらに、今年度はこれらの3部門で必須項目を達成し、追加項目（・リーダーをつなぐ・家族をつなぐ・職業や専門知識をつなぐ・地域社会をつなぐ）を1～3項目を達成すると、RI会長より「シルバー賞」、「ゴールド賞」、「プラチナ賞」が贈られます。

クラブ活性化の試金石です。ロータリー賞、RI会長特別賞に挑戦してみましょう。

7) 推奨事項

- ① My Rotaryおよびロータリークラブセントラルは、クラブの長期戦略立案の有益な資源であり、拠り所です。クラブ会長、幹事に、リソース活用を、各クラブ会員の登録、認証をお勧めください。
- ② 各クラブには独自のホームページ（HP）を開設し、会員の連絡手段としてSNSの活用を推奨してください。HPは定期的に更新されるべきです。HPでクラブの奉仕活動を広報することによって、地域社会とつながるよう努めてください。
- ③ ロータリー財団の地区活動資金（DDF）の活用のために、各クラブは地区補助金、グローバル補助金を積極的に活用した奉仕プロジェクトを申請し、実施してください。
- ④ 地区活動資金の原資となる年次寄付について、「寄付ゼロクラブ」を無くすことにご理解ください。ポリオ撲滅や世界平和フェロウシップの正しい情報を把握して、ご協力ください。米山記念奨学事業の趣旨にご賛同のうえ、ご支援ください。日本円でのご寄付は個人、法人を問わず、税制上の優遇措置があります。

- ⑤ 会員の皆様の日常経済生活上のクレジット決済にロータリーカードのご利用を推奨します。個人、法人のご利用のほかに、クラブや地区、地区委員会単位の諸経費の支払が可能で、ポリオ基金の増加に寄与することが出来ます。詳しくはロータリー財団委員会発行の「ロータリー財団ハンドブック」をご覧ください。

7. おわりに

これを知る者はこれを好むものに如かず。

これを好むものはこれを楽しむものに如かず。（『論語』雍也篇）

孔子は学びについて、「知る」「好む」「楽しむ」という三段階でとらえています。

ロータリーは卒業のない学びの道です。新しい会員も経歴の長い会員も、思い立った時がロータリーを学ぶチャンスです。ロータリーの最新情報には、絶えず関心を持って向き合しましょう。知っていると知らないとでは、ロータリーに関わって得られるインパクトには雲泥の差が生じます。まずはロータリーの基本知識と最新情報に慣れ親しんでゆきましょう。その次は積極的な意志を持って、ロータリーに臨みましょう。初めてクラブで役職を得た皆様、畏れることはありません。与えられた今がチャンスです。ロータリーへの責任を果たすことを通じて、ロータリーを学習し、身につけてゆきましょう。やがて、ロータリーライフを心行くまで楽しめる世界が広がってきます。

ロータリーを楽しみ、人生を充実させてゆきましょう！

地区研修・協議会受賞者一覧

(敬称略)

クラブ奉仕活動優秀クラブ

《クラブ会報優秀クラブ》

千葉西ロータリークラブ

クラブのウェブサイトを利用し、会員ならびに一般向けに活動内容を視覚的かつ魅力的に、生き生きと表しコンテンツされている。ロータリーマークならびにR I 会長テーマも推奨通りに掲載され、公共イメージの高揚を図っている。

銚子ロータリークラブ

クラブのウェブサイトを利用し、会員ならびに一般向けに活動内容を視覚的かつ魅力的に、生き生きと表しコンテンツされている。ロータリーマークならびにR I 会長テーマも推奨通りに掲載され、公共イメージの高揚を図っている。

成田コスモポリタンロータリークラブ

クラブのウェブサイトを利用し、会員ならびに一般向けに活動内容を視覚的かつ魅力的に、生き生きと表しコンテンツされている。ロータリーマークならびにR I 会長テーマも推奨通りに掲載され、公共イメージの高揚を図っている。

《会員増強優秀クラブ》

千葉ロータリークラブ

上半期最多9名の増強を達成した。

市川ロータリークラブ

上半期割合で最多20%の増強を達成した。

《職業奉仕活動優秀クラブ》

茂原ロータリークラブ

地区内において、2002年（平成14年）、出前教室を最初に実地したクラブであり、以来、毎年度開催し、17年間に及んでいる。今年度の茂原市立南中学校において10講座を実施した。この模様は千葉日報に掲載された。

《社会奉仕活動優秀クラブ》

千葉幕張ロータリークラブ

2000年より障害者支援を目的とした美術展『アートフレンズ展』を毎年開催。障害のある方に作品発表の場を提供してきた。第20回目を迎える今年、「障害者の生涯学習支援活動」として文部科学大臣表彰を受賞。

松戸東ロータリークラブ

地元の特別支援学校に「出前教室・職場体験」を実施し、更に一步踏み込み対象生徒の将来における就労を考慮した職場体験等の取組を行っている。親御・学校・RCの連携が意義のある社会奉仕活動である。

《国際奉仕活動優秀クラブ》

千葉北ロータリークラブ

地区補助金を活用した”多言語紙芝居”を実施。題材は「千葉寺に伝わる千葉笑い」。その話を5ヶ国語に翻訳し、日本語学校や日本語教室等10先において紙芝居を実演。日本と千葉の文化紹介をした。実演後は在日外国人に母国語での紙芝居の実演を講習、5ヶ国語に翻訳した紙芝居セットと紙芝居専用の木枠を寄贈、今後、在日外国人自らが紙芝居の実演を出来るようにした。在日外国人に向けての国際

奉仕活動となり、外部から高い評価を得た。

四街道ロータリークラブ

フィリピンセブRC・セブサウスRCを1月25日～30日まで訪問し、国際奉仕活動を実行した。これは30年以上も継続していて、今後も次世代に継続して行く予定である。

《青少年奉仕活動優秀クラブ》

市川シビックロータリークラブ

創立20周年を機に「小学生朝食選手権」を開催し、9年連続9回目を実施。平成29年3月17日文部科学大臣賞を受賞した。

勝浦ロータリークラブ

ロータリー青少年交換生を毎年度輩出しており、地区内でも特に青少年交換活動に熱心に取り組んでいる。

《クラブ奉仕活動優秀クラブ》

千葉ロータリークラブ

マイロータリーの登録者100%達成した。

大原ロータリークラブ

マイロータリーの登録者100%達成した。

八千代ロータリークラブ

マイロータリーの登録者100%達成した。

《広報活動優秀クラブ》

木更津ロータリークラブ

アクアラインマラソンでゴールした参加者に木更津名産のブルーベリーを配り、広報活動をしている。

奉仕活動優秀ロータリアン

高橋 昌宏（千葉RC）

従来の会員個人任せだった会員推薦を各委員会に割り振り、候補者推薦を推進し進捗状況を把握、随時報告に努めた。会員意識が向上し、今期1月末迄に10名の増員が図られた。更に、会員数100名を目指し増強に取り組んでいる。

金親 博榮（千葉南RC）

千葉南RCでは「第16回国際里山の集い」をロータリーデーイベントとして開催。長年に亘り、地区、地区委員会、千葉県、千葉県緑化推進委員会、千葉市の後援依頼、作業現場や懇親会の会場設営等に尽力してきた。

万崎 英正（市原RC）

ここ数年の市原RC会員増数は、万崎会員のリーダーシップにより、クラブ一体となって行った成果である。（9名増員された）

荒井 成喜（千葉港RC）

会員増強に尽力（2018-19）5名増強された。

日野 久美子（船橋みなとRC）

「愛のコンサート活動」の中心的役割を永年務め、学校教育への関わりが大変困難な近年、教育行政関係者の理解を得た活動は称賛に値する。

岡村 美智子（佐倉RC）

ロータリー青少年交換活動において、過去に委員長を多年経験し、現在も青少年交換アドバイザーとして、青少年への助言、諸外国との交渉、委員の育成に多く寄与している。また、長年にわたり当地区の青少年交換活動の中心的な役割を担っている。

感謝状—クラブ、会員—

茂原東ロータリークラブ

2018 年地区研修・協議会ホストクラブとして
尽力したことを評価する。

感謝状—会員以外—

(千葉県高等学校文化連盟インターアクト専門部長)
千葉県立安房拓心高等学校 校長 松本 良二
インターアクト年次代表校として諸行事の成功
に大きく貢献されたことに感謝する。

(千葉県高等学校文化連盟インターアクト専門部 顧問教師会代表)
千葉県立安房拓心高等学校 教諭 天野 重彦
インターアクト年次代表校として諸行事の成功
に大きく貢献されたことに感謝する。

2019－20年度 国際ロータリー第2790地区 組織図

RI理事	
三木 明	(姫路)

RI会長
マーク・ダニエル・マローニー (シケターRC・アメリカ)

RI理事会

ガバナー
諸岡 靖彦 (成田)

副ガバナー
橋岡 久太郎 (佐倉中央)

ガバナーエレクト
漆原 摂子 (勝浦)

ガバナーノミニー
梶原 等 (千葉)

地区監査(委) 兼 R財団資金監査(委)	
◎ 仲田 一元 (印西)	
五十嵐 玲彦 (佐倉)	
岡田 敏男 (船橋東)	
PG 山田 修平 (木更津東)	
戦略計画委員会	
◎ G 諸岡 靖彦 (成田)	
PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	
PG 寺嶋 哲生 (柏)	
GE 漆原 摂子 (勝浦)	
GN 梶原 等 (千葉)	

地区リーダー育成会議	PG 宇佐見 透 (千葉幕張)
グループ再編会議	PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)

公益財団法人ロータリー日本財団	
副理事長	PG 森島 庸吉 (船橋西)
評議員	PG 鈴木 雅博 (市原中央)
規定審議会代表議員	
正	PG 山田 修平 (木更津東)
補	PG 崎山 征雄 (習志野中央)
ロータリー平和センター	
ホストエリアアドバイザー	山崎 敬生 (市川)
受入17期生(18-20)カウンセラー	城 安雄 (市川東)
受入18期生(19-21)カウンセラー	石井 博 (船橋みなと)
受入18期生(19-21)カウンセラー	松丸 隆一 (柏)
一般社団法人国際ローター日本青少年交換 多地区合同機構(RIJYEM)	
社員	PG 関口 徳雄 (浦安)
研修部門委員	津留 起夫 (市原)
(RIJYEM保険管理者)	

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会	
理事	PG 関口 徳雄 (浦安)
監事	PG 森島 庸吉 (船橋西)
評議員	PG 得居 仁 (松戸東)
ロータリー文庫運営委員会	
相談役	PG 中村 博亙 (柏西)
副委員長	PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)
ロータリーリーダーシップ研究会 日本支部	
地区代表委員	PG 櫻木 英一郎 (千葉)
ロータリーの友委員会	
地区代表委員	長原 正夫 (成田)
一般財団法人ロータリーの友事務所	
監事	宮嶋 康明 (新千葉)

地区管理運営部門	
地区指名委員会	
◎ PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)	
PG 宇佐見 透 (千葉幕張)	
PG 櫻木 英一郎 (千葉)	
PG 寺嶋 哲生 (柏)	
PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	
地区危機管理委員会	
◎ 津留 起夫 (市原)	
PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)	
GE 漆原 摂子 (勝浦)	
GN 梶原 等 (千葉)	
笠原 智 (成田)	
宮嶋 三郎 (千葉県商工会議所連合会)	
地区立法案検討委員会	
◎ PG 山田 修平 (木更津東)	
○ PG 崎山 征雄 (習志野中央)	
PG 関口 徳雄 (浦安)	
PG 宇佐見 透 (千葉幕張)	
PG 櫻木 英一郎 (千葉)	
PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)	
PG 寺嶋 哲生 (柏)	
PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	
G 諸岡 靖彦 (成田)	
GE 漆原 摂子 (勝浦)	
地区表彰委員会	
◎ PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	
PG 寺嶋 哲生 (柏)	
地区会計長	
佐久間 英利 (千葉)	
地区財務委員会	
◎ PG 寺嶋 哲生 (柏)	
PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	
G 諸岡 靖彦 (成田)	
GE 漆原 摂子 (勝浦)	
地区大会関係	
資格審査(委) ◎ PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	
選挙管理(委) ◎ PG 寺嶋 哲生 (柏)	
決議(委) ◎ PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)	

地区諮問委員会	
PG 佐川 一元 (船橋南)	
PG 土屋 亮平 (松戸)	
PG 大矢 惣一郎 (千葉幕張)	
PG 石井 亮太郎 (松戸東)	
PG 秋元 秀夫 (君津)	
PG 鈴木 雅博 (市原中央)	
PG 森島 庸吉 (船橋西)	
PG 増田 豁 (千葉中央)	
PG 杉本 禰夫 (茂原)	
PG 山中 義忠 (船橋南)	
PG 白鳥 政孝 (市原)	
PG 崎山 征雄 (習志野中央)	
PG 中村 博亙 (柏西)	
PG 山田 修平 (木更津東)	
PG 得居 仁 (松戸東)	
PG 関口 徳雄 (浦安)	
PG 宇佐見 透 (千葉幕張)	
PG 櫻木 英一郎 (千葉)	
PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)	
PG 寺嶋 哲生 (柏)	
PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	

地区史編集委員会	
◎ PG 関口 徳雄 (浦安)	
PG 櫻木 英一郎 (千葉)	
PG 青木 貞雄 (成田コスモポリタン)	
PG 寺嶋 哲生 (柏)	
PG 橋岡 久太郎 (佐倉中央)	
神野 美明 (柏)	

地区研修リーダー	
PG 関口 徳雄 (浦安)	
地区研修サブリーダー	
PG 寺嶋 哲生 (柏)	

ロータリー研修委員会	
◎ PG 寺嶋 哲生 (柏)	
○ 中村 俊人 (柏東)	
小寺 真澄 (成田)	
今野 文明 (千葉西)	

RLI推進委員会	
◎ 山下 清俊 (市川東)	
藤原 和子 (柏東)	
周藤 行則 (浦安)	
山本 衛 (松戸西)	
清田 浩義 (千葉)	

理念研究委員会	
◎ 海寶 勘一 (千葉西)	
石橋 菊太郎 (成田)	
笠原 智 (成田)	
森田 雅久 (松戸)	

ガバナー補佐	
第1グループ 麻谷 和也 (市川南)	
第2グループ 青木 忠茂 (船橋)	
第3グループ 鶴沢 和広 (千葉若潮)	
第4グループ 時田 清次 (市原中央)	
第5グループ 小川 義則 (袖ヶ浦)	
第6グループ 川名 光俊 (館山)	
第7グループ 堤 正広 (東金ビュー)	
第8グループ 石井 哲也 (銚子東)	
第9グループ 保津 豊徳 (佐原香取)	
第10グループ 寒部 茂樹 (富里)	
第11グループ 土村 文明 (我孫子)	
第12グループ 猪飼 清文 (八千代中央)	
第13グループ 森谷 博 (松戸中央)	
第14グループ 山崎 達男 (野田セントラル)	

地区幹事長	
堀口 路加 (成田)	
月信委員会	
◎ 齊藤 三智夫 (成田)	
○ 長原 正夫 (成田)	
成田 温 (成田)	
加瀬 邦雄 (成田コスモポリタン)	
関 一恵 (勝浦)	
池田 勝之 (千葉)	
国際大会参加推進委員会	
◎ 平山 秀樹 (成田)	
甲田 直弘 (成田)	
石田 洋平 (成田)	
中野 直人 (成田)	

地区幹事団	
地区副幹事長	成田 温 (成田)
地区副幹事長	神崎 誠 (成田)
地区幹事	村嶋 隆美 (成田)
地区幹事	平山 秀樹 (成田)
地区幹事	菊地 貴 (成田)
地区幹事(会計担当)	近藤 博貴 (成田)
地区幹事(会計担当)	ローソンかおり (成田)
地区幹事	長原 正夫 (成田)
地区幹事(月信担当)	齊藤 三智夫 (成田)
地区幹事	奥山 信行 (成田)
地区幹事	ポール・ツジ (成田)
地区幹事	矢野 理恵 (成田)
地区幹事	片岡 孝治 (成田コスモポリタン)
地区幹事	平野 雅敏 (八街)
地区幹事	松永 達人 (富里)
地区幹事	米井 重行 (印西)
地区幹事	鈴木 孝 (白井)
地区幹事(20-21幹事長)	吉田 理愛 (勝浦)

地区大会委員会	
大会会長	池内 富男 (成田)
実行委員長	設楽 正行 (成田)
副実行委員長	佐瀬 和年 (成田)
ホストクラブ	成田ロータリークラブ
コ・ホストクラブ	八街ロータリークラブ
コ・ホストクラブ	印西ロータリークラブ
コ・ホストクラブ	白井ロータリークラブ
コ・ホストクラブ	富里ロータリークラブ
コ・ホストクラブ	成田コスモポリタンロータリークラブ
地区大会記念ゴルフ大会委員会	
大会会長	小宮山 四郎 (成田)
大会副会長	石川 憲弘 (成田)
実行委員長	永井 秀和 (成田)

事務局

《凡 例》
PG … バストガバナー
G … ガバナー
GE … ガバナーエレクト
GN … ガバナーノミニー
GND … ガバナーノミニー・デジグネート
● … 統括委員長
◎ … 委員長
○ … 副委員長
Adv. … アドバイザー

管理運営統括委員会	
● 堀内 正一 (木更津)	
会員増強・維持拡大委員会	
◎ 諸岡 正徳 (成田)	
矢野 理恵 (成田)	
小林 亘 (柏南)	
高橋 昌宏 (千葉)	
フェローシップ・親睦活動委員会	
◎ 森島 弘道 (新千葉)	
角田 幸弘 (成田)	
野城 隆憲 (千葉西)	
伊藤 愛彦 (千葉幕張)	
萩原 博 (千葉)	
広報・公共イメージ向上委員会	
◎ 大塚 義仁 (浦安)	
岩瀬 和仁 (茂原)	
吉田 正子 (大原)	

奉仕プロジェクト統括委員会	
● 関 一憲 (勝浦)	
社会奉仕委員会	
◎ 三神 秀樹 (千葉南)	
池田 勝之 (千葉)	
野本 茂雄 (千葉)	
星 聡 (新千葉)	
職業奉仕委員会	
◎ 高橋 潤一 (新千葉)	
山崎 新一 (船橋東)	
寄主 俊雄 (千葉北)	
藤崎 泰裕 (千葉西)	
国際奉仕委員会	
◎ 吉田 朋令 (千葉東)	
谷 直知 (成田)	
関 泰之 (千葉)	
古西 弘和 (成田空港南)	
青少年奉仕委員会 (ロータリー学友会担当)	
◎ 山本 美代子 (習志野中央)	
小坂 学 (千葉)	
安藤 泰健 (東金ビュー)	
井上 大輔 (習志野中央)	
富 一美 (成田空港南)	

青少年プログラム統括委員会	
● 中澤 良夫 (四街道)	
○ 岡村 美智子 (佐倉)	
インターアクト委員会	
◎ 藤代 祐孝 (四街道)	
小沢 恒夫 (茂原中央)	
坪谷 寿一 (千葉)	
長谷川 七三一 (新千葉)	
ローターアクト委員会	
◎ 原田 宗広 (千葉若潮)	
土井 豊彦 (成田)	
水野 正則 (勝浦)	
小林 宏子 (茂原中央)	
青少年交換委員会	
◎ 小菅 和彦 (習志野中央)	
田村 隆治 (八千代)	
渡邊 昌俊 (勝浦)	
大木 康正 (千葉)	
中川 雅晃 (茂原)	
Adv. 岡村 美智子 (佐倉)	
RYLA委員会	
◎ 黒岩 靖之 (君津)	
北原 剛志 (千葉)	
浅野 正博 (成田)	
内藤 智介 (君津)	

ロータリー財団統括委員会	
● PG 櫻木 英一郎 (千葉)	
○ 水野 晋治 (柏西)	
○ GN 梶原 等 (千葉)	
財団資金・推進管理委員会	
◎ 浅野 肇 (柏西)	
北村 謙介 (市原中央)	
栗原 洋一 (千葉北)	
大野 雅章 (千葉)	
グローバル事業補助金委員会	
◎ 諸岡市郎左衛門 (成田)	
吉岡 正之 (成田コスモポリタン)	
助川 昌弘 (柏西)	
地区補助金プロジェクト委員会	
◎ 坪井 尚也 (佐倉)	
田中 康雄 (市川シビック)	
堀内 正人 (木更津東)	
大谷 京子 (千葉北)	
奨学生・学友委員会	
◎ 沢田 克洋 (成田コスモポリタン)	
渡邊 宏 (茂原)	
佐藤 孝彦 (浦安)	
ロータリーポリオプラス委員会 (ロータリーカード推進兼務)	
◎ 朱 孝 (習志野中央)	
遠藤 章雄 (八千代)	
西崎 和治 (勝浦)	
ロータリー平和フェローシップ委員会	
◎ 佐川 清 (松戸)	
安田 勝紀 (柏西)	
織田 信幸 (松戸)	

米山記念奨学委員会	
◎ 鈴木 莊一 (君津)	
○ 生形 健一 (八街)	
森 秀樹 (柏南)	
高木 恒雄 (船橋西)	
佐藤 廣子 (大網)	
加藤 隆 (千葉東)	
箕輪 晃 (佐倉中央)	
劉 亜斌 (千葉南)	

第1グループ	第2グループ	第3グループ	第4グループ	第5グループ	第6グループ	
市川 市川東 市川南 浦安 市川シビック 浦安ベイ	船橋 船橋西 鎌ヶ谷 船橋東 船橋南 船橋みなと	千葉 新千葉 千葉西 千葉中央	千葉幕張 千葉東 千葉若潮	千葉南 市原 千葉港 市原中央 千葉北 千葉緑	木更津 上総 富津中央 木更津東	君津 袖ヶ浦 富津シティ

地区内 82 クラブ									
第7グループ	第8グループ	第9グループ	第10グループ	第11グループ	第12グループ	第13グループ	第14グループ		
茂原 東金 大原 大多喜	成田空港南 茂原中央 大網 東金ビュー	銚子 旭 八日市場 銚子東	佐原 多古 小見川 佐原香取	成田 八街 印西 白里 富里 成田コスモポリタン	習志野 八千代 佐倉 八千代中央	四街道 習志野中央 佐倉中央	松戸 松戸東 松戸北 松戸中央 松戸西	野田 流山 野田東 流山中央 野田セントラル	

会長部会



■会長部会

リーダー	ガバナーエレクト	諸岡 靖彦
サブリーダー	ガバナー	橋岡 久太郎
サブリーダー	ガバナーノミー	漆原 摂子
アドバイザー	次期・地区研修リーダー	関口 徳雄
オブザーバー	次期・地区会計長代理	福島 一嘉
オブザーバー	次期・地区監査（委）兼R財団資金監査委員会 委員	五十嵐 玲彦
オブザーバー	次期・地区監査（委）兼R財団資金監査委員会 委員	岡田 敏男

（漆原摂子ガバナーノミー）

只今より2019-20年度地区研修協議会会長部会プログラムを始めさせていただきます。私は司会進行を承っておりますガバナーノミーの漆原摂子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この部会の大体の流れとしましては次第の1から7まで進めた時点で一旦休憩を挟ませていただきます。その後、次第の8、クラブ運営方針でございますが、全クラブ会長エレクトの皆様方に一言ずつお話し頂きたい所ですが、時間的にそれは厳しいかと思ひます。各グループから2～3クラブをこちらから指名させていただきますので、運営方針を発表していただければと考えております。挙手でも結構です。その後、本日次年度のガバナー補佐の皆様もお揃いですので、グループのクラブ発表が終わった後に、ガバナー補佐の皆様からコメントを頂きたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、前回のPETSにおきまして次年度の地区予算を各クラブでご検討いただくということでお持ち帰りを頂いております。本日この会長部会にて、ご承認を頂いて決定したいと思ひます。

ガバナーエレクトから一言よろしいでしょうか。

（諸岡靖彦ガバナーエレクト）

まずもって皆様方には本日、会長部会にご参加いただきましてありがとうございます。午前中の説明で行き届かなかったことを補足し、また相互交通ということで会長エレクトの皆様方からお話を頂きながら、そして最後は次年度の方向性について意見交流をしていただきまして、クラブにお帰りになられてから、新年度の始まる

までのご準備に最後の拍車をかけていただきたいと存じます。

皆様方お気づきの通り、会場のレイアウトをこのように対面型にいたしました。昨年は私がノミーということで司会進行をさせて頂いて、学校方式の座り方でやりました。ちょうど一番後ろの所に、ガバナーはじめ研修リーダーという席があって、こちらにガバナー補佐の皆さん方がいらっしゃって、その後ろに学校スタイルで会長さん方がお座りになっていました。私は大変息苦しい思いをしながら進行させていただいたのが記憶にございます。今日はこのように開放的にして、皆さん方がお互いの顔をご覧いただけるようなレイアウトにさせていただきました。皆様方と相互交流で地区とクラブの距離を少しでも近づけたいとの意志表示とご理解いただければ幸いです。

早速でございますが、お手元の冊子の25ページ以降3ページにわたりまして、地区の予算について、4週間の予告期間を設けて、各クラブでご検討いただいておりますので、これにつきまして皆様方にご承認をいただきたく、おはかりいたします。皆様方からまずはご意見あるいはご質問等ございましたら、この場でお答えをさせていただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

（漆原ガバナーノミー）

それでは次年度地区予算案につきましてご質問等ございましたら挙手をお願いします。……。

特にございませんようですので、この予算案は承認ということでよろしいでしょうか。

拍手をもってご承認ください。（拍手で承認される）

(諸岡ガバナーエレクト)

ありがとうございます。皆様からご支持をいただきましたので、この予算で進めさせていただきます。この結果を幹事部会に伝達いたします。

(漆原ガバナーミニ)

続きまして、ガバナーのご挨拶でございますが、橋岡ガバナーは所用のためにお帰りにになりましたので、研修リーダーご挨拶を、次期研修リーダー関口パストガバナーよりお願いいたします。

(次期地区研修リーダー 関口徳雄パストガバナー)

今予算が通りまして、これで諸岡さんも大きな区切りを得たということですね。ありがとうございます。私からもお礼申し上げます。それから午前中は気分が入っております、ロータリーの多様な価値観について、もし序列があるならばの前提でお話し申し上げました。普段から考えていることだったものですからお話しさせていただきました。

さて、今日は会長部会でありますので、私も過去何度も出ておりますけれども、まず PETS で 1 日半やりました。屋上屋を重ねるということになりますので簡単にさせていただきます。まず、諸岡さんの本年度の地区の運営方針、各クラブのトップの皆さんへのお願い事についてはもう二日にわたる基調講演でご理解いただいていると思います。要は**元気なクラブ作り、すなわちクラブの活性化**ですね。付随的には**ロータリーから千葉を元気に**ということでしょう。それで皆さんにそのための工夫は出来ていますかという問いかけじゃないでしょうか。例えばリソース、直訳は資源ですよね。余計なことですけどロータリーにはわかりにくい用語がありましてね、あちこちでリソース、リソースと出てくる。辞書を引くと資源。何でロータリーに資源が関係あるのかと非常に違和感がある仕方がないのですが、私流に言わせると資源というのは人、金、物、情報、この 4 つです。これを集めてどう駆使するか、どう使うか。その能力があるかどうか。そういうところに尽きるのではないのかなと思います。ですからクラブのトップになる皆さんは、**リソースの発掘、調査し、研究の上で、地域社会に貢献できるような奉仕活動への取り組み、その他クラブの会員が一体となって活動できるような行事、イベント、奉仕活動を実行することではないか**と思います。それには人、金、物、情報をどんな風に集めるか、その工夫があるのではないのでしょうか。これも PETS でもお話ししましたが、我が地区は地区の活動が活発ですので、活発である結果どうもクラブの奉仕活動を消極的にさせている。活動的なのはいいのですが、地区が表に出すぎるという面がありまして、これは私の反省も含めて申し上げているのですが、あくまで奉仕活動の実践母体はクラブである。そして実際動くのはロータリアンです。皆さんはそのクラブのトップであるということでもあります。

次に奉仕活動はうちはやっているよと、いうクラブがたくさんあると思うのですが、ただどうなのでしょう。何の工夫もなく前例踏襲、マンネリ化した奉仕活動になっていないだろうか。あるいは奉仕活動をやるけれどもど

う見てもいつも同じメンバーじゃないか、実行している人が同じ人。またクラブの奉仕活動に対して地域の意識変化が読めない、気がつかずに地域との意識のズレが生じていないか。そんなことが考えられますので、どうか会長になられる皆さんは、会長としてご自分のクラブの奉仕活動がこれでよいのかどうか、真横から客観的な視点を持って今一度見つめ直していただきたいというのが私からのお願いでございます。

次にこれも PETS で申し上げたことですが、諸岡さんの強い要望でありますところの**クラブの戦略計画**。これはお一人だけではなくて前後あるいは次の指導者、できれば若い指導者がいれば、そういう人と語らって、クラブの将来にわたる継続的な発展を目指して、クラブの戦略計画を立てていただきたい。83 クラブのうち、戦略計画委員会はほとんどないですね。我が浦安も今年度から細則をやっと変更、この間議決が通りましてね、変更することになり、戦略計画委員会を作ることになりました。これはもちろん理事会の承認がいりますし、細則を変更しなければいけません。3 分の 2 賛成で戦略計画委員会を作りました。できれば皆さんのクラブでも、細則を変更して、戦略計画委員会を作っていただきたいと思います。戦略計画の究極の目的は、クラブの継続した繁栄です。今申し上げた通りですが、具体的にはクラブの活性化です。クラブが活性化すればどうなるか、当然会員の士気が高まる、それが活発な奉仕活動を惹起する。地域社会に貢献することによって公共イメージと認知度が向上する。それがまた退会防止や会員増強へと繋がっていく。それがさらにクラブを活性化するというプラスの連鎖が期待されるからであります。ですから戦略計画をどうかよろしくお願いします。重ねて申し上げますけれども、戦略計画って何ですかと、うちのクラブでも言われたんですけども、長期計画とどこがどう違うのですかと質問を受けました。これも前回申し上げた通りです。定義すれば、ざっくりと言えば、戦略計画とはある目標を達成するために総合的に俯瞰的に物事を考える計画のこと。時間的に長い期間に、あるものを維持したり、運用したり、発展できるように計画を立てることを言います。いっしょやドラッカーの経済用語じゃないのかなあという言い方をしまして、たとえば話で申し上げました。どうか諸岡さんのたつての願いでありますので、戦略計画を立て、継続的な、将来に向けてのクラブの発展のためにクラブの運営の仕方を変えていただきたいと思います。どうか一年間、クラブ研修リーダーとも連携して会員の皆様に指導していただきたいと思います。終わります。

(漆原ガバナーミニ)

関口リーダーありがとうございます。

続きましてオブザーバーの方々をご紹介申し上げます。次期会計長代行 福島一嘉様、同じくオブザーバー次期地区監査委員兼ロータリー財団資金監査委員会委員 岡田敏男様、よろしくお願い致します。

それでは議題に入りたいと思います。ガバナーエレクトよりクラブ会長へ RI ロータリー賞について、そしてガバナー公式訪問について説明を、お願いいたします。

(諸岡ガバナーエレクト)

お手元の冊子の13ページですね。「ガバナー補佐、クラブ会長・幹事ならびにクラブ・リーダーの皆様へ」という項目があります。皆様方はクラブの中で、直接対話ができる機会をお持ちでございます。会長さんはクラブ内の直接対話をされるわけですので、その機会を大切にしていきたい。例会、クラブの各会議、そしてクラブの事業、親睦活動もあれば奉仕活動、或いはクラブの中で全体で協議をして、お話する機会をお持ちです。その機会を大切にしていきたい。特に例会では会長の時間というのがあります。会長の時間の中でクラブの方々に語りかけていただきたい。特にお願いしたいのはロータリーの月間テーマがあります。またその時々ロータリーの最新情報、今の最新情報であれば、山田パストガバナーがアメリカからお帰りになったばかりでありますけども、規定審議会。3年に一度のロータリークラブのそれぞれの定款に影響のある項目を審議するということがあります。今回はまだ私自身も全部フォローしているわけではございません。これは7月1日、私どの年度始めから反映させていくという課題があります。これについては、山田パストガバナーを中心に検討し、また国際ロータリーの日本支部からも情報が整理されてくると思います。それが整理された段階でできるだけ早く各クラブにご連絡をさせていただくことを考えております。そのことについてご質問、或いはお問い合わせがございましたらガバナー事務所を通してご質問いただきたいと思っております。規定審議会の問題以外にも、ロータリーの全国的な会合があります。そのような会合で話題になったことがインターネット等を通じまして情報が入る場合があります。ロータリーの情報について、ロータリーの友、それからガバナー月信はできるだけお読みいただき、クラブにそれをご説明いただくということが一番必要なことであります。当然、地域社会の動きをクラブの皆様方と協議されるということもあると思います。例会を通じて、それからクラブの活動を通じてクラブの会員の皆様方との対話とコミュニケーションを交わしていただきたいということです。またガバナー補佐の皆様方と一緒にグループの会長・幹事会を構成されることと思しますので、その中でグループ内話題をご協議いただく、又、地区からこのようなテーマが、このような行事があるということの案内に対するそれぞれのクラブ単位での対応の意見交換、コミュニケーションを是非とも会長・幹事会のレベルで、グループ内のコミュニケーションを交わしていただきたいと思っております。ふた月に1回くらいのペースを皆様にお奨めさせていただきます。地区レベルでは地区委員長の方々とガバナー補佐の皆様との合同会議も年に6回ほど持って、地区チーム内でのコミュニケーションを交わしていく予定です。まずはそんな意味でクラブの中、グループ内、そして地区内でのコミュニケーションを確実にこなしていただきたいということが第一のお願いでございます。

それから二番目がガバナー公式訪問です。お手元の冊子の中にグループ別、そしてまたスケジュール順の訪問予定が載っております。これに従い訪問させていただきますが、まずはガバナー補佐の皆様方に事前に各クラブを訪問していただくことになります。単独訪問の場合

と2クラブあるいは、3クラブ合同の場合とがあります。それぞれ各クラブからクラブ活動計画書をご提供いただくわけですが、クラブ活動計画書とガバナー補佐の皆様方からのご報告をベースにして準備を進めて訪問をさせていただきます。訪問の折には例会の前に各クラブとの個別の懇談会を予定させていただきます。そして例会の中で20分程度の卓話をさせていただきます。クラブの会員の方々に国際ロータリーの現況をご報告するということになりますが、地区ロータリーの状況或いは各クラブの背景となります地域社会の話題等を取り上げて、私の認識をお示しさせていただき予定でございます。その後クラブ協議会でクラブの活動の様子を発表いただくという例年のやり方で公式訪問を計画させていただきたいと思っております。特にクラブを元気にということが私のメインのテーマでございますので、本当にクラブが元気に活動しているのかということ、それを見させて頂いて、その辺について質問させていただくようなことになろうかと思っております。それが二番目でございます。

三番目にロータリー情報研修会。これは上期中にガバナー補佐の皆さん方に主催をして頂いてクラブの活性化について、元気なクラブになるためにはどうしたらいいんだろうということを共通のテーマとしてご議論いただきたいと思っております。研修会のやり方と致しましてはすでにガバナー補佐の皆様方にお示しをしておる通りでございますけども、基調講演では、地区の中にガバナー経験者の方々、それからいろんな形でロータリーに貢献のある方々を講師にお呼びをして、お話を聞いてその上で共通のクラブを元気にする話題を皆さん方とともにご議論いただくということです。或いは基調講演ではなくて、パネルディスカッションでもよろしゅうございますし、或いは先だって会長エレクト研修セミナーでご経験いただきました円卓ディスカッションですね、そういう方法を通じまして、ともかく皆さんで各クラブの現状、そしてまた元気になるための方策、或いはどういう物の考え方をして行ったらいいのかというようなことについて共同でご討議いただき、ヒントを得ていただきたいということでございます。このプログラムの内容につきましては、ガバナー補佐の皆様方には地区委員会がいろいろお手伝いをさせていただきますので、まずはガバナー補佐と、どういう企画をしていったらいいかということについて会長エレクトの皆様方にご参画をいただきたいと考えております。

その次は下半期にお願いしたいことでございまして、例年通りインターシティ・ミーティング(IM)をご企画いただきたい。これはやはりガバナー補佐の皆様が主催者となって、特に今回はロータリーを地域社会でもっと知ってもらいたい、或いは地域の方々にロータリーというものはどういう活動しているのかということをも具体的に、できれば行動で示してみたいと今年度は思っております。IMでは戸外に出て具体的に行動するための準備を議論いただく機会ということになるわけですね。具体的には5月中の気候が良くなりました時季に、ちょうど7月からは東京オリンピック・パラリンピックが始まるという前段階なる頃です。そのタイミングをみて、グループの中で皆さんが参加しやすい場所と時を選んでいただき

して、外へ出て「行動するロータリー」をアピールするような形のロータリーデーを是非設けていただきたいというのが私のお願いでございます。

そのようなことでコミュニケーション、クラブ内、或いはグループ内のコミュニケーションそして公式訪問、ロータリー情報研修会、インターシティ・ミーティングということでございます。

次に、**当地区の年間活動数値目標**についてです。今回 3,000 そして 300、30、3 と数値で地区目標として掲げさせていただきました。現在当地区の会員数はだいたい 2,800 から 2,900。その辺を行ったり来たりしている状況でございますけども、何とか最終的には 3,000 会員を安定的に確保できるレベルを目指したい、これは中期的な目標として、考えております。3,000 の会員に対して 1 割の 300 名ほどは女性会員にしていきたい。現在約 200 名強でしょうかね。200 名くらいの女性会員がおられます。何とか 300 にできないだろうか。これは先ほど関口研修リーダーがお話の中で語られておりましたクラブの中に多様性を作っていくということにも繋がります。まだ女性会員のおいでにならないクラブが 20 クラブくらいあります。もちろん女性会員がいる、いないというのはそのクラブの会員基盤の設定の仕方、これはよろしいわけでありまして、女性がいた方が多様性のあるクラブの展開ができるということが国際ロータリーでは推奨されております。当節は、若い人がこれから少なくなっていくということになってまいりますと、経験豊かな女性会員がいらっしゃることが様々な意味で地域奉仕活動に対して大きな新しい戦力になるだろうと思います。女性会員と若い職業人という言い方をしております。ビジネス関係でも皆様方は各クラブの職業分類表をご覧になりながら、又職業分類表の中で、地区内で、或いはクラブのテリトリーの中で新しい職業分類に取り入れるべき職業というのが多分出て来ているのではないのかと思います。例えば一人でご商売をされているようなベンチャービジネスの方、そのような方が見えなくていらっしゃるのではないのかなという気がします。そんなことも含めまして新しい職業の方々を是非クラブ会員として増強してゆくようなお計らいをしていただきたいと思っております。そしてクラブの純増で是非とも 1 名は確保していただきたい。

それが、次の**ロータリー賞**に繋がってくる話になります。毎年 RI 会長賞というのが設けられますけれども、今年は冊子の中の 4 ページ、5 ページにございますように、ロータリーは世界を繋ぐということでマローニー会長の方針、方向性、そしてロータリークラブ対象のロータリー賞、今年はロータリークラブ対象の他にローターアクトクラブ対象、インターアクトクラブ対象のロータリー賞が新しく設けられています。そんな意味でまずは会員を増強しながら人々を繋ぐ。そして行動する。そういうカテゴリーの中の課題を少なくとも 5 項目達成していただく、これを申告していただくとロータリークラブ対象のロータリー賞に繋がるということでございます。これは申告しなければなりませんので、申告するためにはロータリークラブセントラルというところにクラブの数値目標をあらかじめインプットしていただく作業が必要になります。その意味で是非ともクラブの会員基盤、或いはクラブの活

動の成果を高めていくために計画の入り口として設定していただきたい。これが、先々のクラブの長期戦略計画に繋がる発想の仕方、プロセスになるということでございます。

その次に**推奨事項**ということでございますけども、これは橋岡ガバナーが力説を今日しておられましたけども **MY ROTARY に対する登録**ですね。これは会員の皆様方が登録をしていただけますとロータリークラブに対するいろんな情報が得られる。これが先ほど関口研修リーダーがお話しされましたクラブのリソースの一つです。クラブの抱えている現実、そして会員数が過去数年間にわたってどんな風に変化したというクラブレベルのデータ、そのようなものを得ることができます。そうすることによって会員の動向をつかむことができます。そういう MY ROTARY に対する会員の皆様方の登録・認証を推奨いたします。さらにクラブにはクラブ会員に対する広報と同時に、地域社会の方々にロータリーの活動の内容をお伝えするホームページがあると思います。よくこのホームページについても、メンテナンスが例年できていればこれは申し分ないわけでありまして、これがそのままになっておりますと陳腐化したものになって、かえってホームページで見ていただくことがマイナスの宣伝になってしまうということではいけませんので、ホームページは更新をすることをお奨めいたします。この辺りについてのご相談がございましたら地区委員会に広報・公共イメージ向上委員会で、お手伝いすることができます。それからあとは財団に関すること、或いは米山に関する寄付のお願いでございます。これは鶏が先か、卵が先かということですけども、ロータリーの寄付金、特に財団の資金は、3 年経ちますとその半分が地区に戻って参ります。それが地区補助金でありますとか、グローバル補助金の原資になる。そういう仕組みがございます。地区の、クラブの奉仕事業に仕える補助金となって返ってきます。そしてさらに、寄付は第二の奉仕であるとも言われます。奉仕活動の意味を十分にご理解いただいて、進んでご寄付をお願いいたします。少しでも手が行き届かない、行動が行き届かないところに対しては、これはお気持ちの範囲で、少額で結構です。また、計画的にご寄付いただければなお結構でございます。寄付についての認識を明確にお持ちいただければと思っております。特にロータリー財団の活動資金としましては、年次基金というものがございます。年次基金についてはロータリー財団委員会が強調されていることですが、ここ数年日本のロータリークラブが全体でクラブから年次基金に対する寄付がなかったということを一掃しております。日本の一国で『寄付ゼロなし』は画期的なことでございます。年次寄付は上半期中にお済ませいただけるように各クラブの会長さん、ロータリー財団委員会の方々が中心になりまして、早めに年次寄付をお済ませいただくようお願いをしたいと思います。

先程橋岡ガバナーからロータリーカードについてお話がありました。櫻木パストガバナーが第 1 ゾーンのロータリーカード推進コーディネーターという役割を現在頂いています。そのこともあって全国で第 3 位に躍進した、という話がありました。各クラブの費用の支払い、或いは地区の委員会の費用等につきまして、このカードを

活用していただきますとその0.3%がロータリーのポリオに資金が回ります。ロータリーでは国際ロータリーとロータリー財団の二つが、ロータリー動かしています。お金の方はロータリー財団の管理委員会が中心になって運用したり資金を集約したり或いは財団の活動をPRしております。ロータリー財団が国際ロータリーを支えているという言い方をしても言い過ぎではないと思いますが、私どもロータリアン一人ひとりが財団を理解するということが大事なことです。それが私どもの奉仕活動を支えている、或いは奉仕活動の大きな目標を示してくれるということをご理解いただければ幸いです。

いろいろお願い事ばかりになりましたけれども、ロータリー活動していくためには、まずクラブが元気になって行かなければいけないということでございます。先ほど関口さんのお話にありました通り、自分たちのクラブについて果たして今現在の状態と、これから数年経つとどうなるのかということです。特に会員が30名以下のクラブにありましては、現在は大変元気にやっているというクラブでありまして、数年経って会員増強がなされなければ、平均年齢がそのまま上がっていくということになりますから、クラブの活性度は明らかに、確実に落ちていくということになります。今から会員増強していくとすれば、どういう新しい会員を選んでいったらよいのかということクラブの中で議論する。それがクラブの戦略計画を立てるということにつながってゆきます。それと同時にクラブは地域社会の中で様々な奉仕活動をされていると思いますけども、その奉仕活動が時代の変化に対応して、新たに生まれてくる地域社会のニーズに役立っているかどうかということですね。これについて踏み込んでご議論いただく。そしてそれを数人の方々だけではなく、クラブ全体で議論する。全員参加でクラブの計画について議論して、そして1年経ったところで次年度はどうしようかということで年々積み上げをしていくと戦略計画が具体化してゆきます。クラブを元気にするためのクラブの日々の運営、そしてまた一年間の活動目標、そして数年後を視野に入れた戦略計画という形をクラブの中で一つずつ取り上げながら、確実に積み上げていくとそのクラブは地域社会にあって、なくてはならないロータリークラブになる、又地区内にあっては、有力なクラブとして尊敬されることになるのだろーと思えます。そのようなことでクラブを元気にすることについて縷々申し上げさせていただきました。皆様方のご理解を頂戴したいと思います。

以上の通り、クラブ会長の皆様へのお願い、RIロータリー賞についてのご説明、公式訪問について、或いはロータリー情報研修会、IMについてのご案内ということで私の話を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(漆原ガバナーノミニ)

諸岡ガバナーエレクト、ありがとうございました。今、色々なお話を頂戴いたしました、せっかくでございますので、ガバナーエレクトに直接お伺いしたいことなどがありましたら、ガバナー補佐の皆様からでも結構ですが、ございませんでしょうか。

(木更津東 RC 加藤会長)

2点質問があります。まず公式訪問ですが、公式訪問の日程が変更可能なのかどうか。今年はまだこの日程でやろうとは思っていますが、来年度以降変更は可能なのかどうか。

それから、先ほどRI会長の動画が流れたと思うのですが、これを何らかの形でいただけるのはいかがでしょうか。

(諸岡靖彦ガバナーエレクト)

公式訪問の件ですが、今年はこの日程で進めさせていただきたいというのが希望でございます。何か突然のことがあればそれはまたご相談の範囲であるかと思えます。それから決める過程でガバナー補佐の皆様方を通して各クラブと調整をいただいたというステップを踏まさせていただきました。木更津東RCの場合、何か行き届かないことがあったとすれば次年度何らかの形で改善しなければいけないことだと思います。第1点はそのようなことでよろしゅうございましょうか。

それと2点目ですが、マローニー会長の動画は私のところにデータがございます。これはクラブでご利用いただけるような形で、できれば地区のホームページの中に入れるようなことで考えたいと思います。どしどしお使いいただいて結構でございます。直接RI会長の雰囲気とか、そういうものに接していただければずいぶん認識が変わって来られるのではないかと思います。よろしゅうございましょうか。

(木更津東 RC 加藤会長)

はい、ありがとうございます。

(漆原ガバナーノミニ)

他にございませんでしょうか。

(第6グループ 川名光俊ガバナー補佐)

第6グループの川名で川名でございます。第6グループは公式訪問につきまして3クラブずつやりますので、始まる時間が冊子に書いてある時間よりも早く始まるということで、また帰りましたらエレクト会長会議の中でお話しますが、それだけ頭に入れておいていただきたいと思います。遅くとも9時半頃から始めませんと3クラブとガバナーとの話し合いができないということになりますのでご留意いただきたいと思います。以上でございます。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

(市原中央 RC 宮寺 仁会長)

東京オリンピックが2020年7月24日から8月9日(日)まで33競技開催されるようですが、その中で千葉の方もフェンシング、レスリング、テコンドー、サーフィン、その他ゴールボールなど7つほど開催予定があるのですが、これについてロータリークラブの方でのご計画を持っていられませんか。

(諸岡靖彦ガバナーエレクト)

千葉市と一宮町が千葉県内ではオリンピック・パラリンピックの会場になっております。それから千葉県内の各地で、事前キャンプが行われるということが情報として入ってきております。オリンピックとパラリンピックの情報はすでに発表されておりますが、どこの市町で予備キャンプが行われるのか、これは今広報公共イメージ向上委員会の方で調査をしております。できればそういうものに関わった形でロータリーデーの活動をして、そこに集まってきた海外の方、或いは千葉県の方、日本人の方、そういう方々に対してロータリーのアピールをしてみたいということです。モチーフとしては国際ロータリーがやっているポリオを根絶しようということが「あと少し」というところに来ております。ロータリーが平和理解のために学生を交換しあっていること、世界平和フェローの奨学生を応援していることなど、ロータリーの様々な国際奉仕がございまして。千葉県内で、そういう人々が集まったところで、やってみるということが地区内の各市で行われると、大きなムーブメントになってくると思います。オリンピックの会場であります千葉市内、それから一宮町周辺。人が集まる成田空港や浦安のディズニーランドなど、いくつか候補地が考えられます。具体的にどのような形で進めていくかということについてはガバナー補佐の皆さんや地区の委員長さん方と詰めながら、下期にIMと絡めて計画していただきたいと思います。その活動に間に合うような形で、地区として情報提供して皆様方に推奨していきたい、と考えております。

(市原中央 RC 宮寺 仁会長)

わかりました。ありがとうございました。

(漆原ガバナーノミニー)

他にはございませんでしょうか。

(第3グループ 鶴沢和広ガバナー補佐)

第3グループの鶴沢です。ロータリー情報研修会についてですけど、以前は割と入会歴の浅い会員の方が中心にということと言われておりましたけれども、今年はすでに私のところに人クラブ何名くらい出せばいいですか、何人くらいいいですかという問い合わせがありましたけれどもガバナーは決してそういうようには考えていないのではないのかなと思います。ぜひガバナーから会長エレクトの皆さんにお話してください。

(諸岡靖彦ガバナーエレクト)

ロータリー情報研修会について、対象をどう考えるかというご質問です。入会歴の新しい方が従来は声かけの対象だったと思いますし、どのくらいの人数規模でやるかということですが、これはロータリー経験の短い、長いとは別にしまして、経歴の新しい方はその経歴の範囲で認識を深めていただく。又ロータリー歴の長い方にもぜひご参加をいただいて最近のロータリーの傾向を感じていただくということですから、全方位で会員を集めていただきたいと思いますというのが私の念願でございまして。会員の規模につきましてはフルメンバーが集まるということとはなかなか難しいと思いますが、グループの中でいつも

使っている会場であるとか、より条件のいい会場をお選びいただいて、これは費用対効果も考えていただきながら、効果の高い情報研修会、地域を元気にするために、会員お一人お一人のロータリー認識が深まり広がっていくということが第一の条件です。それをグループで集約していただくと、それがクラブにフィードバックされていくのではないだろうかと考えています。

(漆原ガバナーノミニー)

他にはいかがでしょうか。

(富里 RC 松永達人会長)

この機会にお聞きしたかったのですが、クラブを元気にするためという諸岡ガバナーが掲げている方針を最近考えていまして、次年度のクラブ運営において、当クラブは夜例会をやっていないくてやろうということになったのですが、現在の83クラブのうち、夜例会を行なっているクラブ、行っていないクラブの内訳を知りたいと思います。

(諸岡靖彦ガバナーエレクト)

いまずぐにそのデータがないので、この場で手を挙げていただきましょうか。

夜間例会をやっているクラブ、これは定例でやっている場合と、月に何回かやっている場合とがありますね。まず定例で夜間例会をやっているというクラブは、結構ありますね。次に月に何回か夜間例会もやるというクラブ、なるほど。松永さん、そんなところでしょうか。前回の2016年の規定審議会では、例会のあり方については回数や設定など制約がなくなってきました。若い会員の方々が増えてくる、或いは増やしていくということになりますと夜間例会が大事になるでしょうね。

(漆原ガバナーノミニー)

柔軟性を取り入れるということでございますね。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(流山 RC 青木 修会長)

流山の青木でございます。先ほど規定審議会から山田バスターガバナーが帰ってこられて、今後そのことについては討議するという話がありましたけれども、活動計画書を作る上で5月の末には全部終えて6月中旬にはもう出来上がってしまいます。ですから定款の見直しはクラブの方に下りてくるとすれば5月中くらいでしょうか、或いは新年度入ってからでしょうか。よろしく願います。

(次期地区研修リーダー 関口徳雄バスターガバナー)

3年ごとに、同じ疑問がありまして、私がガバナーの時は間に合わなくてそのままやりました。そして7月1日から正式に始まった後に訂正、こんな風になりましたという追加の補正を出した経験があります。ですから事実上間に合わないはずで、実際は7月1日からの話ですがもう印刷に入るので活動計画書には間に合わないでしょう。そういうやり方をしております。良い悪いはともかくとして。

(諸岡靖彦ガバナーエレクト)

クラブ活動計画書に間に合うような体制が取れるクラブはもちろんそれが一番望ましいのです。けれども、なかなかそういうわけにもいきません。適宜、地区から情報を提供させていただきながら次年度に向けてご準備をいただく、或いは頭において活動されていくという形が現実的かなと思います。その辺でご理解をいただければと思います。

(次期地区研修リーダー 関口徳雄バストガバナー)

例の訂正になった新しいのは早くて12月、大抵1月頃にできてきます。その間の狭間の中で、私がガバナーの時に、これでは間に合わないじゃないかと何度も抗議を受けたことがあります。定款が変わる一番大事なところで矛盾してくる可能性がある。細則だと多少の幅があるのですが、一番大事な3分の2の多数の定款の変更があるといったときには、根本的に違うじゃないかという指摘がありましたね。3年ごとの悩みでありまして、おいおいと直してゆく。昔、新世代が青少年に変わった時に、わかっているのだからどうして直さないのだと、しかし詳細が出てくるとまた変わるのですよね。ちょっとした表現の差や日本語訳の違いもあったりしてね、それで私どもは、よその地区もそうですけれどもだいたい12月から1月に手続要覧ができてくるのを待って、改めさせてもらっています。

(漆原ガバナーミニ)

私が所属します勝浦ロータリークラブは毎年発行する活動計画書とは別に別冊子で定款細則を作っています。活動計画は早くできるので新年度から使用し、定款細則は公式訳が出た時点で少し多めに部数を作っておいて3年持たせる。途中、理事会を経て細則が変わる部分もあるんですけれども、それは折り込みで処理しているという手を使っています。ご参考になればと思います。失礼しました。

他はよろしいでしょうか。それではここで休憩に入らせてもらいます。次の開始は2時20分からとなります。ここからは会長さんにどんどん語っていただきます。ではここで休憩に入ります。

—休憩—

(漆原ガバナーミニ)

それでは時間になりましたので後半戦を開始したいと思います。まず第1グループのクラブの方から方針とかあるいは自分のクラブの問題はこうなのだけれど、何かいいアイデアはないかという意見の交換でも構いません。積極的な発言をお願いします。

(第1グループ 市川南RC 小山 勝会長)

第1グループ市川南クラブでございます。私たちのクラブは創立以来40数年経ったというとても長い間先輩たちが楽にいただいた所に入会させて頂きました。入会してまだ3年なのですが、こんな大変な役はできるのだろうか、ずっと悩まばなしで今日まで来てまいりました。現在会員数は23名でございます。毎年新会員が

入っておりまして、結構活発に活動しているような気が致します。分からない点がほとんどですので、たまたまガバナー補佐の麻谷様がおいでですので、年中相談申し上げている状況でございます。目標といたしまして今まで先輩たちが築かれてまいりました親睦と奉仕活動を続けてまいりたいと思っております。さらにこれからどんな活動ができるかということで皆様にお話をお伺いして、新しい親睦活動ができたならと考えております。それから会員がまだ20数名ですので、少なくとも30名、35名と増えていったらいいかなと思っております。たまたま2名の女性会員がおりますが、もう少し女性会員を増やしたい、増えていったらいい。さらには若い会員にも合わせて入会していただく。そういう気持ちでおります。第3に先程来、地域のことをよく知ろうということでございますが、私も地域を深く知って、地域活動を実践したい。これによって、公共イメージのアップを図りたいと思っています。新会員の中には各種奉仕活動をしている方がいらっしゃいます。職業奉仕、或いは社会奉仕ということで、活発に活動しておりますが、今度はその方々にロータリーの中で活動していただくように持っていけたらなと今考えているところでございます。

もう一つ、各種研修活動の充実を図りたいと思っております。この四点を中心に一年間頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(漆原ガバナーミニ)

ありがとうございました。第1グループからもうお一人くらいいかがでしょうか。

(市川RC 和泉太郎会長)

市川クラブの和泉でございます。ちょうど会長方針を書き終わって、抜き打ちテストを食らったような気分でございますが、今日発表するということは全然知りませんでした。市川クラブとしましてマローニー会長の「ロータリーは世界をつなぐ」という言葉をテーマに、会長方針を書かせていただきました。そして諸岡ガバナーエレクトの地区のスローガン「ロータリーから千葉を元気に」、こんな言葉をいただきましたので、これは諸岡ガバナーが我々のクラブに逆に返せよと言っているんだなと私は受けとめて、なるべく地区の方に少しでもバックしていくように事業をしてまいりたいと思います。市川クラブが毎年事業しておりますのは、夏休み読書感想文です。小学生を対象に読書感想文の教室を開いて、結構優秀な子が毎年集まっていたいています。市川クラブはベテランの方が多くて、なかなかそこに参加していただけないので、なるべく多くの会員にそこに参加してもらいたいと思っていますところでございます。ガバナーエレクトが先ほどお話になりましたSNSのことをおっしゃっていましたが、私もそのことを、ベテランの会員に少し抵抗があうかもしれませんが、グループラインであったり、グループメールであったり、そんなことも抵抗に遭いながら挑戦していきたいと思っています。一つガバナーに質問ですが、当クラブのホームページは、諸岡ガバナーエレクトがおっしゃっている通り少し陳腐なものになってしまっているのですね。当クラブではホームページを簡単にいじってくれる方がいないものですから、そこで地区の方

でこちらの方でこう直してくださいよと言った時に直してくれるサポートみたいなものがあればいろんなクラブが助かるのではないのかなあと私は思っております。これは要望となってしまいますが、是非ともそんな点をよろしく願いたします。

(諸岡靖彦ガバナーエレクト)

SNS でクラブ内のコミュニケーションを活用しようということは大いにお奨めしたいこととすし、ホームページでお知らせしたいことについても陳腐化してしまうと、かえって逆効果になってしまいます。ホームページのいろんな更新の仕方とか思い切ってリニューアルしようという場合にはですね、これは地区の広報公共イメージ向上委員会、委員長が浦安ロータリークラブの大塚義仁さんです。同じグループですからお気軽にお声かけていただければ、十分になうことです。

(漆原ガバナーノミニ一)

ありがとうございました。それでは第1グループのガバナー補佐の麻谷様からご講評、もしくは、ガバナー補佐としての思いでも結構ございます。よろしく願いたします。

(第1グループ 麻谷和也ガバナー補佐)

第1グループガバナー補佐の麻谷と申します。よろしく願いたします。私ども、第1回の会長・幹事会は5月28日に設定しておりますけれども、ちょっと遅かったかなあと感じております。なぜかと言いますと、もう7月から公式訪問とか9月に情報研修会が始まりますのでそのような打ち合わせを早く始めなければいけないということです。まずはコミュニケーション良く、6クラブの会長・幹事とコミュニケーションをとって、情報をスムーズに伝達に伝えるようにしたいと思います。9月8日の情報研修会につきましてはガバナー補佐の設定ということでございますので、ガバナーがおっしゃるように、テーマを女性会員を増やすということで、どうしたら女性会員を増やしていけるのかということをテーマに研修会を行ってまいりたいと今思っております。よろしく願いたします。

(漆原ガバナーノミニ一)

ありがとうございました。では第2グループのクラブの皆様いかがでしょうか。

(船橋西 RC 武本浩基会長)

第2グループ船橋西ロータリークラブの武本と申します。第2グループの中では40名と私たちが一番会員数の多いクラブということで代表させていただきます。会員は40名で女性会員数が7名、約2割弱という女性会員を抱えています。一昨年度50周年が終わりまして、区切り感があったのか、バタバタと会員数が減ってしまったことがございまして、今40名です。もう少し会員増強に力を入れて増やしていければなあと思っております。又単純に会員数を増やすだけでなく、魅力ある例会づくりを心がけて親睦活動や奉仕活動に積極的に参加していただけるように声がけをしていければと思っております。

ります。今私は50歳ですが、クラブ内は30代から80代まで幅広く会員が揃っていますので一生懸命クラブを盛り上げていければと思っております。以上でございます。

(第2グループ 青木忠茂ガバナー補佐)

第2グループのガバナー補佐を務めます青木でございます。船橋ロータリークラブでございます。第2グループは大変シャイな会長が集まっております、ただ大変連帯感があります。事前に一度お集まりいただきまして、いろいろお話をしました。その結果、皆さんついてきてくださる、一丸となってやったださると思えます。考えておりますのは、家族を参加させることで、第4グループの時田ガバナー補佐とも相談しまして、9月には船橋で家族会を計画します。第4グループの会長・幹事さん、そして第2グループの会長・幹事は、ご家族の方々と一緒に開きたいと考えております。クラブというのは井の中の蛙と申しますか、他のところを見てないとわからない、他のクラブではこうしたことをやっている、ああいうことをやっているという情報を交換して、ご家族の方々にもロータリーというのは何をやっているのかを理解していただく。そういう方向で進めて行きたいと思っております。普段皆さんはロータリーに行って家族から嫌われている傾向があるかもしれません。「お父さんは今日も部活で…」という言い方をされる面があると思いますので、そこらへんを徐々に和らげていって、次の世代にはロータリーを知ってもらいたいと考えております。以上です。

(漆原ガバナーノミニ一)

ありがとうございました。では第3グループのクラブから願いただけますでしょうか。

(千葉 RC 清田浩義会長)

千葉ロータリークラブの清田と申します。第3グループはここに7名の会長さんがいらっしゃいますが、急に談合が成立しまして、私になってしまいました。よろしく願いたします。千葉ロータリークラブはおかげさまで、再来年が70周年ということで、まさに当地の歴史ということになると思いますけれども、千葉ロータリークラブも元気なクラブになるということのために、2015-16年度の当時の三浦会長が戦略計画を作り始めたということが、次年度私が会長をするにあたって指針を決めていく大きな材料になっています。今日、ガバナー表彰もいただきましたけれども、会員増強ということでほぼ100人クラブになっています。今お話ししたように2015年に戦略計画を作って、その戦略計画に「元気を与える千葉ロータリークラブになろう、地域社会に感謝される奉仕活動を継続しよう、世界につながる千葉ロータリークラブになろう」というビジョンのもとに、2020年までに100人クラブを目指す。まさにこういう計画が2015年にスタートしたというところが、今に至る入り口と言っても過言ではないと思えます。逆に言いますと戦略計画を建てる前の状況については、まさにビフォーアフターというそんな感があります。そして今の戦略計画を受けて、私の年度でこんな風にしようということで少し考えていることをお話したいと思えます。今お話しした戦略計画は

2015 年から 2020 年までですので、改めてこれから 5 年後を目指す戦略計画をもう 1 回会員の皆さんと、将来の方向を一回リセットしよう。そのように課題として掲げています。

それから先ほどお話をしたように、再来年の 5 月がちょうど 70 周年ということになるので、私の年度はその 70 周年に向けてのアプローチ年度ということであり、70 周年をどういう風に迎えるかということを前提に次年度を考えていきたいと思ひます。それから今お話ししたように 100 人クラブとなりますと恥ずかしながら、顔と名前の方からない方が結構たくさんいらっしゃる、やはり考えさせられるんです。今諸岡ガバナーエレクトもお話しされていましたが、ロータリーを知り、そして好きになり、楽しむという境地に至るには、やはり名前と顔が分からなくて楽しいクラブ活動ができるかと思ひます。そういう中で私としては 100 人の会員が本当にクラブライフを楽しんでもらえるような活動にどうしたらできるかということを日々悩みながら、今日のこの場を迎えております。

是非皆さんのお知恵も拝借しながら、楽しいクラブにしていきたいと思っております。以上でございます。ありがとうございました。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。もう一クラブいかがでしょうか。

(千葉西 RC 野口アキ子会長)

千葉西ロータリークラブの野口でございます。私の方のクラブは、私が 45 代目の会長を務めさせていただくことになりました。RI 会長の方針、2790 地区の諸岡ガバナーの「ロータリーから千葉を元気に」という行動指針です、これも含めて考えておまして、私は福祉関係の仕事をしておりますので、地域の人々の生活のお役に立つ仕事ってことは変わらないのです。ですからロータリーの基礎的なものと合致するところがありますので、そこも含めながら今年度のクラブ方針は、「温かいクラブ、活気のあるクラブ、調和の取れたクラブ」というテーマを会長方針にさせていただきました。調和のとれたというのは、バランスの調和ではございません。自分だけでなく周りの人々が常に皆とともに幸せに生きると願う心でございます。これは私の法人の理念にもなっておりますので、これを使わせていただきました。それで私は、今年度 2017-18 年度と大森年度に幹事をやらせていただきましたので、その時に一応戦略計画 3 年継続の歳になりまして、それをやらせていただきまして、私でちょうど 3 年目にあたります。その中でずっとやってきて、一人一人のクラブ会員が元気じゃないとクラブは活性化してないです。それが基になりまして、毎回会長・幹事とかその主だった方たちが、クラブで発表するのではなくて会員全員が参加できるようなクラブにしたいということで、やっぱり温かいクラブって事で、会員同士の交流を一層深めたい。例会で席を毎週違う会員としてもらう、あとは RI 会長とか諸岡ガバナーの方針の会員、家族、友人、インターアクトを誘って奉仕活動する。これは私のクラブでは、「ふれあい花壇」というのをやっています。そこに今のインターアクトの高校

生の皆さんも参加していただきますし、その中でやっていますので今度は家族の方にも参加してもらおうという形で、そうすれば地域的に今度は色々な形で広報活動も広がるのではないかなという考えもあります。2 番目に活気のあるクラブ。これは会員増強しないといけませんので、上期の目標といたしましては 1 名、下期は 2 名の純増という形で決めさせていただきました。今 51 名いますのでその形で予算は作らせていただきました。クラブを元気にするには本当に増強が一番大事だと思います。増強しても若い会員が結構やめるケースが多かったですね。その中で自分の存在感がある例会が一番良いじゃないかなということを感じておりますので、そこをしっかりと重点的にやって行こうかなと思ひます。また調和のとれたクラブにしてゆくには、会員の満足度調査を大体一年に一回やっておりますので、会員の満足度調査をやりまして課題をチェックして、クラブフォーラムを通じて会員の意見をどんどん作り上げていくという形をとっております。これから時代のニーズに沿った奉仕活動については、どうやっていったらいいか。うちはかなり目一杯の事業をやっています。もうこれ以上できないくらいの事業をやらせて頂いておりますので、本当にこの辺をもう 1 回洗い直していただくことを委員長さんをお願いしたところでございます。もう一点は、2019 年度ちょうど私の年度になりますけども、うちのクラブが提唱します千葉商業高等学校インターアクトクラブですけども、これが第 53 回年次大会のホストクラブを務めます。私もスポンサークラブとして支援して参りたいと思ひます。その中で目標と致しましては、世界に友達を広げながらボランティア精神と国際感覚を身につけるというタイトルつけて、学校との調整という形で今活動を始めております。以上でございます。

(漆原ガバナーノミニ)

どうも大変立派な発表をありがとうございました。諸岡ガバナーエレクトから千葉若潮の内藤会長に今年度ローターアクトを立ち上げられたので是非コメントお話を伺いたいということでございます。お願いできますか。

(千葉若潮 RC 内藤定雄会長)

今年度、千葉若潮 RC でローターアクトクラブを立ち上げます。ここに載っているのですが、正式名称は千葉マリンローターアクトクラブという名称になります。今、鶴沢ガバナー補佐の協力で大体 15 名くらいの会員が揃っております。この先もう少し会員を増やして元気で明るいクラブにしていきたいと思っております。以上でございます。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。では第 3 グループガバナー補佐 鶴沢さんお願いします。

(第 3 グループ 鶴沢和宏ガバナー補佐)

第 3 グループの鶴沢です。千葉クラブの清田会長、そして千葉西 RC の野口会長、お二人にお話をお聞きましたけれど、まさしく清田さんがおっしゃる通りで、以前の千葉クラブは何もやらないクラブだったのです。

他のクラブとの交流もしませんでしたし、奉仕活動もほとんどしない。それがここ数年、戦略計画を立てられて、クラブがガラッと変わった。非常に積極的で今や第3グループをリードしてくださっているクラブです。会員も増えて、いろんな事業に参加されています。地区にも若い会員の方をどんどん出している。素晴らしい活躍をされていらっしゃるのとお続けいただきたいと思います。千葉西クラブは奉仕活動を積極的にされているクラブで、姉妹クラブとの交流も非常に盛んにやられていますし、委員会活動も相当積極的にされています。よくこんなにしょっちゅう集まっていると思うくらい、いつも集まっているクラブです。非常に和気あいあいとされていて、やはり第3グループをリードしてくださっているクラブだと思います。それ以外のクラブの皆さんも非常に活発にやられているので、ガバナー補佐としては非常に安心して見ていられると思います。少しグループの宣伝をさせていただきますと、グループ内で親睦はゴルフ、ボーリング等やっているんですけども、それ以外に地域への積極的な参加ということで、親子三代夏祭りにみんなで神輿を担ぐ。それに青少年、米山学友会とかですね、いろいろ参加させたりして交流をして、そして、ブースを活用してロータリーの広報公共イメージのアップもしています。グループ内7クラブが積極的に交流する機会を設けておりますので、今年も各クラブの会長さん、積極的に参加するようにお願いしたいと思っています。以上でございます。

(漆原ガバナーミニ)

ありがとうございました。では第4グループのクラブの方お願い致します。

(千葉港 RC 藤本俊男会長)

千葉港ロータリークラブの藤本でございます。当クラブは千葉西ロータリークラブを親クラブとしておりまして、野口会長さんとともに一生懸命頑張っていきたいと考えております。当クラブは本年、35周年を迎えるということで、千葉ロータリークラブの半分ということです。色々ご指導いただきながら、考えていかなければいけないと思っております。諸岡ガバナーの「ロータリーから千葉を元気に」という言葉は私にとって、とても心に染み入る言葉でございます。やはり会員が楽しければ笑顔が生まれますので、うちのテーマは笑顔あふれる元気な仲間になろうというテーマで考えております。それから関口研修リーダーから言われております戦略計画というお話、当クラブでは今までこういう委員会がございませんでしたけれども、まずは今年度初年度としまして、3年ないし5年計画を踏まえて戦略計画委員会というものを立ち上げてまいりたいと考えております。今、会員数が30名を切っておりますので、まずは会員を30名というところですね。1名ないし2名の純増ということを目安に考えております。そのためには例会が楽しい例会、時流に沿った旬な例会をテーマにした卓話を念頭に、奉仕活動におきましては継続事業をやりながら、また新たな見直しをしながら考えております。それから本日参加させていただいた中で、家族の参加という、これもいい目論見だろうと思っております。やはり基本は家族というの

が一番基本の要素だと思いますので家族とともに、又この第4グループは6クラブなんですけれども和気あいあいとして本日も楽しく参加させていただいております。第4グループぜひよろしくお願い致します。ありがとうございます。

(漆原ガバナーミニ)

ありがとうございました。第4グループ、他はよろしゅうございますか。

(市原中央 RC 宮寺 仁会長)

市原中央ロータリークラブの宮寺でございます。こんにちは。当クラブは、日本も最高バブルの1986年から51ヶ月のバブル期がございましたけれども、1988年6月に、バブルの真ん中に25名のメンバーで創立されたクラブです。現在会員数は49名ということになっております。今年のテーマは全員参加、全員参画ということで、非常にノーマルと言いましょか、基本に則ったテーマを立てております。そして本年度の活動目標、方針運営ですが、例会については穏やかで楽しく元気な例会運営をしたいということを考えております。二つ目は多彩で多くの人が参加しやすい親睦活動にも力を入れてまいりたいと思っております。三つめは卓話の充実。これはプログラムの方とたくさんの外部の人を呼んで充実させていきたいと考えております。四つ目が、これまで炉辺会議というものはあまり導入しておりませんでしたけれども、新入会員になってもらえそうな方を含め、プラス・ロータリー知識の向上として、炉辺会議を努めて回数を増やしていきたいと考えております。五つ目は職業を通じた研修、奉仕活動を進めます。六つ目がこれは毎年私ども海外に出てやっている奉仕がございしますが、フィリピンの奉仕プロジェクト、歯科医療を今年も継続してまいります。ただこのフィリピン奉仕プロジェクト歯科医療につきましては、今ここで話すようなことでもございませんが、地区補助金を以前いただいておりますが、二度三度といただけるものではないのですが、フィリピンの患者数が400-500と2日間で600名近い患者さんの治療しなければならない都合上、寄付を集めて日本の医師を10名ほど、又向こうのフィリピンのロータリークラブ2クラブもこの合同奉仕プロジェクトをやっておりますが、どうしても医療面で、注射、薬剤などで資金が足りない部分がありますので、将来的には地区補助金が一回で終わりということの中にも何か一考いただければ有り難いとも考えております。7つ目が、グローバル補助金事業、国際奉仕の方ですね。2年前に新竹西北クラブと、台湾の心身障害者のためのサポート事業を行っております。これも継続していきます。8つめは今年のテーマにもございますが、会員数5%純増。特に女性会員と45歳未満の会員を募っていこうではないかということを考えております。9つ目と10がローターアクト、インターアクトの支援を行いたいと思います。そしてロータリー財団、米山などロータリー学友への支援も継続します。最後に私どもの1500回記念例会がこの8月でございますので、これを無事に務めます。このように活動計画を練っております。以上でございます。ありがとうございました。

(漆原ガバナーノミニー)

ありがとうございました。では担当ガバナー補佐の時田様お願い致します。

(第4グループ 時田清次ガバナー補佐)

第4グループガバナー補佐 時田でございます。市原中央ロータリークラブでございます。

まずは第4グループのクラブがどういうクラブかと言いますと、今日表彰された中に4クラブありまして、会員増強で2クラブと、あと奉仕について2クラブが表彰されているわけです。あとは規定審議会の変更によって例会の数を月2回にしたクラブが3つあるということで、クラブ自体は非常に柔軟に、又今年の会長はリーダーシップのある方になっているので、クラブにこうしたほうがいいという注文は私には特にありません。私のやらなければならないことは、ガバナーの方針を伝えることと、あとは4グループの中の6クラブが横通しで仲のいい関係になることだと思っています。先ほど2グループの青木さんが言われたように、2グループと一緒に会長・幹事会をやるというのと、3グループと一緒にIMをやるのが大きな行事になります。あと来年の6月には4グループの中でハワイの国際大会に行こうとか色々横通しが良くて、この機会にみんなが仲良くなって各クラブの活性化につながればいいなと思っています。以上です。

(漆原ガバナーノミニー)

第5グループのクラブの皆様、お願いします。

(木更津東 RC 加藤智生会長)

木更津東ロータリークラブの加藤です。テーマを結ぶ、「結(ゆい)」にしてみました。サブテーマに結び合い、繋がりあい、絆が生まれるということで、運営方針の前段はマローニー会長の更ロータリーは世界をつなぐということで、結びつきの大切さ、中段に諸岡ガバナーの「ロータリーから千葉を元気に」するということで「木更津を元気にしよう」という、そして最後に戦略計画、昨年50周年を行いましたので60周年に向けて中長期ビジョンを策定しようということで、今回ちょっと組織が間に合わなかったのも、特別委員会ってということで戦略計画特別委員会というものを作らせていただきました。何せこの木更津東ロータリークラブはですね、アメリカ帰りの山田さんがいるクラブですので、だいぶ付度させていただきました。以上です。

(漆原ガバナーノミニー)

ありがとうございます。他、どなたか。

(富津シティ RC 高木一彦会長)

第5グループ富津シティロータリークラブの高木と申します。当クラブはですね、会員数が15名ということでありまして、会員拡大が第一の目標でございます。その中で当クラブの例会場となっております日本製鉄の技術開発本部ですけれども、そこを中心とした新富の工業地帯があるんですが、そこに来ている企業の方々全員にまだ全部アプローチができてないというところがありまして、今回その新富の工業地帯にある企業の方々と

交流と意見交換の場を持ちまして、なんとか会員拡大につなげることができないかというところを模索していきたいと考えております。それと併せまして、今まで地域の子供たちのために何かできないかっていうことで、今までは少年野球の支援ぐらいしかやってなかったんですが、昨年から出来ました子ども食堂の支援と、あと企業の方々と協力して子供たちの職場体験とかをやっていったらどうかという形で今協議しているところでございます。

(漆原ガバナーノミニー)

ありがとうございます。では小川ガバナー補佐、コメントをお願いします。

(第5グループガバナー補佐 小川義則)

第5グループの袖ヶ浦から参りました小川と申します。第5グループは譲り合いで誰も喋らないんじゃないかなと今心配していたのですけれども、加藤会長、高木会長ありがとうございます。ガバナー補佐からは言うことはありませんが、クラブから初めて女性会長が二人出ておりますので何か言ってくれるのかと期待していたんですけれども…。今年は会員増強も大事ですけれどもこのように地区でやる行事、地区でやる行事、グループでやる行事、そうしたところどうか会長の力で参加いただけるようにお願いします。こうやって長くロータリーを見ているとそうしたところに参加しない人は意外と退会していくのです。そう言うことですので会長の力で行事には参加するよう、会員の皆さんを指導してください。よろしくお願いします。以上です。

(漆原ガバナーノミニー)

どうもありがとうございました。第6グループは、このクラブに話してもらいなさいと川名ガバナー補佐よりご指示をいただいておりますので、まず館山クラブお願いします。

(館山 RC 平田英雄会長)

館山ロータリークラブの平田と申します。私で64代目の会長になりまして、私がロータリー在籍18年になります。クラブ内を見ても比較的在籍の長い方、中間の方、浅い方、年齢を見てもそれなりに年配の方、中年の方、若い方ということでクラブ的にはバランスの取れているクラブかなと思っています。考え方が年寄りすぎず、若すぎずっていうところで、まあバランスが取れているのかなという感じがします。ただですね、どうしてもちょっと一体感が少ないかなという感じがします。リーダーの関口リーダーお話ししていましたが、各奉仕委員会が行う事業につきましては委員会のメンバープラス毎回出てくる方々でやっていて、その辺りにつきましては、私の方でアナウンスさせて頂きながら、なるべくみんなでやっていこうという感じを作っていきたいと思っています。この一体感、連帯感がやはりクラブの活力に影響しますので、そのようにやっていきたいと思っています。第6グループの会長同士は会う度に連帯感が生まれていきますので、これに負けないようにクラブ内もそのようにやってきたいと思っています。それからの会員数もやはり

クラブの活力に影響しますので、毎年徐々に減ってきておりまして、そろそろ底打ちをさせたいと思っております。現在が47名だったでしょうか。なるべく早い段階で50名以上は確保して、昨年は、炉辺会合で各会員からアンケートをとったのですけれども、ふさわしい人数はどのくらいかってところで60名ぐらいという答えが多かったので将来的にはそれを目指していきたいと思っております。以上でございます。

(漆原ガバナーノミニー)

どうもありがとうございました。もう一クラブ鋸南さんをお願いしたいのですが。

(鋸南 RC 清水一成会長)

鋸南クラブの清水でございます。第6グループでは新人で、会長・幹事会でもご迷惑をかけて失態ばかりしているのですが、今年4年目で会長が回ってきましたが、私のクラブは15名ほどいて、南房総の入り口の鋸南町で活動していますが、とても気候も良く、気持ちいいのか、本当にのんびりした感じの例会を毎度毎度やらして頂いています。ここで一つ、私以下、みんな新人は結構若手になってきましたので、何か新しいことをやってみたいということで今度から基本的なことも、もうちょっと導入して、諸先輩方にも協力していただきたいと思ひまして過去にやっていた海外支援でネパールにやっていたということもあったので、ネパール支援をもう1回掘り起こしてみたい。あとは職業として福祉をやっている会員がおりますので、その方を中心にして本当に過疎化の進んでいる南房総ですので認知症の方の講習をやっていただくとか、私は撮影の仕事をやっていますので、まあ映画を見る機会がないということで映画を誘致してみようとか色々考えています。最近はそういう活動も実ってきたのか、ロータリーとはどういうものなんですかっていうお問い合わせを頂くようになってきました。これを機にうまくメンバーを増やしてどんどん大きくしてですね、館山さんの50名までは行かないとしても20-30人ぐらいまでなるような大きいクラブを夢見て、これからどんどん頑張っていきたいなと思っております。この1年を頑張ってみて、清水年度は良かったと言われるようにしてみたいと思っております。よろしく願いいたします。

(漆原ガバナーノミニー)

ありがとうございました。では川名ガバナー補佐お願いします。

(第6グループガバナー補佐 川名光俊)

第6グループの川名でございます。今、館山さん、鋸南さんからお話をいただきましたが、若い会長・幹事が今年は多くなっております。ガバナー補佐会議にも出席させていただきまして、諸岡ガバナーのお話をお聞きしますと少し形を変えていったらどうかあという雰囲気ガバナー補佐会議の中では流れております。そういう時に若い方たちが4名も会長になられたということで、私としては大変喜ばしく思っている次第でございます。

先だっては次年度地区会議に参加させていただいた時に、まずガバナーエレクトから言われておりますが活

性化につきましては、どういう形でもいいからこの一年間に新しい奉仕プログラムをやっていただきたいということをお願いさせていただきました。新しいことをやることは皆さんもご承知の通り大変かもしれませんが、一つのクラブのまとまりというものができると私は思いますのでそれを皆さんにお願いさせていただきました。あと南房総の場合については各クラブが離れておりますので、お客様の卓話或いは聞きたいお話があった時に連絡をしまして一緒にそういう会合を開いていきたいと思いますという話もさせていただいております。基本的にはクラブはもちろん自治がありますが、お互いの共有部分を一つ一つ加えていって、第6グループという塊を強く出せるような1年間にしたいなと思っております。又、館山の平田会長から言われた若い方との一体感ということについては、私どもの先輩も非常に気にしておるところでございます。それについては考え方が変わってくるのではなくて、時代と共に流れてきているという、お互いに了解しながら一緒に進めていくべきだなという思いでいっぱいでございます。そしてもう一つは諸岡年度の後、第6グループから漆原ガバナーが輩出されていくわけですが、これについてやはり6つのクラブが力を合わせてバックアップをしていきたい。そういう形の一年にしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。以上です。

(漆原ガバナーノミニー)

ありがとうございました。では第7グループのクラブの方々お願いいたします。

(茂原 RC 酒井秀光会長)

茂原ロータリークラブの酒井と申します。会員は62名でこの10年間こんな感じで動いております。構成的には62-63歳くらいが平均で、これも10年くらい前も同じくらいの推移で動いておりますので老朽化しないで、新しい人が入ってきているつもりですが、なかなか若手が、茂原中央さんに流れてしまっているのが現実です。諸岡ガバナーエレクトが「千葉を元気に」ということなのでそれをパクリまして、「敬愛と学びで茂原ロータリーを元気に」と、元気だけしかあっていないのですけど、そんな感じで気持ちよくやっていきたいと思っています。私が入った頃は親睦と奉仕だよ、親睦と奉仕を一生懸命やらないとロータリアンにならないよと言われた気がします。ですから今、野球を一生懸命やっています。茂原中央さんともやりながらですね、開幕しましてなんと2年ぶりの勝利を得られまして、大体、茂原が出てくると相手はもう勝ったなという気持ちでくるのですけれども、関口さんにはちょっと言いにくいですが、この前勝たせていただきました。若い人も野球を通して親睦を深めていくというのも新しい切り口かなと思っています。奉仕の方について茂原ロータリークラブは出前教室を充実させてやっています。茂原市内のみに限定していたのですけれども、私の年度から長生郡市に広げようということで声をかけてやっていきたいと思っています。敬愛というのはそういう感じなのですが、学びというのはクラブのプログラムを良くしないと学びにならないのではないかと思います。ガバナーエレクトをお願いしたいのは83

クラブの中はかなり卓話をやってらっしゃる方がいると思うので、そういう情報があると私らもチョイスできるのかと思っています。古いクラブですと外に出ないのでマンネリ化しているところがありますので、そういう方がいらっしゃるとプログラム委員もすぐ動きやすいのではないかと思いますし、色々な方とも交流ができるのではないかと思いますので、ぜひその辺のことをお考えいただければと思います。以上です。

(諸岡靖彦ガバナーエレクト)

地区の中には本当にロータリーに長けている方、卓見を持ってらっしゃる方がいますので、卓話の出来る賢人についてはピックアップして、またホームページにご紹介させていただきたいと思っております。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。では他に。

(大網 RC 矢部慎一会長)

大網ロータリークラブの矢部慎一と申します。大網ロータリークラブは来年度 20 周年記念式典があります。日も決まりましたので発表させていただきます。2020 年 3 月 15 日(日) 九十九里浜に面しましたサンライズ九十九里というところで、準備委員会も立ち上げ、講師も酔い方を呼ぶように交渉中であります。ガバナーエレクト、ノミニ始め近隣のクラブの皆さま、そろそろお祝い金の準備をいただくと助かります。それと私が会長エレクト研修に 1 日半出でずっと考えて今日を迎えたわけですが、一つだけ思ったことは、やはりクラブの活性化。奉仕のこととか財団のことも含めて何が一番いいかなと思った時に 100%のことはないのしょうけれど、やっぱり会員を増やしたい。仲間作りが一番近道というか効果があるのかなと思いました。当クラブは今 30 名ですけれど、女性会員は一人ですので最低でも複数以上、3 名、5 名になればもっとよいかなと思います。私も欲張りな方ですから、できれば私の年度で 40 名くらいにしたいと幹事以下みんなで頑張ろうと、そんな覚悟をしたところでございます。以上です。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。では第 7 グループのガバナー補佐をお願いします。

(第 7 グループ 堤 正広ガバナー補佐)

第 7 グループガバナー補佐 堤と言います。東金ビューから出ております。酒井会長、矢部会長ありがとうございます。第 7 グループは茂原ロータリークラブが 60 数名で一番大きなクラブです。その下 30 名のクラブが 2 つあります。あと 20 名のクラブが 3 つ。あと 10 名代、10 名を切っているところもありますが、それが 2 つ。茂原さんが一番元気あります。その中でも懇親会をグループでやるとみなさん和気あいあいと親しく親睦を図っております。諸岡ガバナーになりまして考えているのは、研修リーダーも言っているように戦略計画について考えてもらってグループ内で統一した何かを考えればいいかなと思ひながら IM で何かやればなあと思ひながら今考えているとこ

ろでございます。あと大網さんが 20 周年、東金ビューも 20 周年でまだ日にちは決まっておりますがよろしく願ひいたします。以上です。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。では第 8 グループのクラブの方願ひいたします。

(旭 RC 井田 孝会長)

旭ロータリークラブの井田と申します。運営方針は今考え中ですが、昨年スタート時 46 名メンバーがいましたが、この 1 月 2 月で 2 名減りまして現在 44 名ということで、来年度は 2 名純増を目指していきたいと思ひます。又、次々年度は 60 周年を迎えますので 48 名を目標にしながら限りなく 50 に近づけていきたいと思ひます。以上でございます。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。もうひとクラブ願ひします。

(銚子 RC 宮内秀章会長)

銚子クラブの宮内と申します。銚子クラブは今会員数 40 名の内、女性会員 3 名ということで、特別多いわけではございませんが、活発に活動しております。次年度の方針であります。先日行われました PETS で関口次期研修リーダーのお話にありました奉仕と親睦、この二つに重点を置いてまいりたいと思ひます。この二つを重点的に進める、特に親睦の方ですが、経験豊富な長老の大先輩又は新入会員と今までにない親睦の図り方を考えている次第でございます。その中で、クラブ内に活気をつけ、魅力を外部に PR しまして、会員増強に相乗りして繋げられたらと考えております。戦略計画についてはクラブ内の研修委員長、地域に対する奉仕につきましては担当の委員長と具体的な話を進めているところでございます。以上です。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。ではガバナー補佐願ひします。

(第 8 グループ 石井哲也ガバナー補佐)

第 8 グループガバナー補佐予定の銚子東ロータリーの石井と申します。第 8 グループは 4 つのクラブで、とてもまとまりのあるグループですので、私から申し上げることは特にありません。私はガバナー方針を各クラブに忘れずに伝えることをしていきたいと思ひます。あとは各クラブの会長・幹事さんにガバナー同様、私も盛り立てていただければと思ひますのでどうぞよろしく願ひします。以上です。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。では第 9 グループ願ひします。

(佐原 RC 吉塚義雄会長)

第 9 グループ佐原ロータリークラブの吉塚でございま

す。時間も押していますので簡単に説明させていただきたいと思います。当クラブは、前年度 60 周年を迎えまして、歴史と文化のあるクラブでございます。次年度の目標といたしましては、佐原は観光を目標にしている町でございます、もっと街のにぎわいを佐原ロータリークラブとして手を貸していけるかがテーマだと私は思っております、皆さんの協力を得ながら、又第 9 グループの皆様力を借りながら頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご指導をよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございました。他はいかがでしょうか。

(小見川 RC 丸山晴康会長)

小見川ロータリークラブの丸山でございます。小見川ロータリークラブは佐原ロータリークラブをホストクラブとしまして、昨年 50 周年を迎えました。当クラブは 5 年前から比べますと多少会員数がだんだん増えてきておりまして、今 7 人増えて 27 名。しかし純増で 7 名でございますので 3 分の 1 が増えた形でございます。そのため新旧の間で温度差といいますか、多少溝がありますので今後の方針といたしましては、その辺りの溝をできるだけ解消すべく、親睦もしくは委員会活動に力を入れたい。又新しく増えた会員、来年度も 1-2 名増える予定ですが、それらの会員を大事に逃さないように例会の充実を図りたい。そのためには例会の中でも半分近くの時間を取ります、先ほど茂原さんから出ました卓話を充実させていきたい。かつて小見川では 2 回も卓話の順番が回って、みんなが逃げ回っていたんですが、今はできるだけ 1 回にして、できれば地区の方からも楽しくするためになるような方をご紹介いただければと考えております。又小見川としましては社会奉仕もしくは新世代のビジョンが切れておりまして今までしていたものが多少マンネリ化して、今年変える事は決まったんですが、まだはっきりやっていない状態ですので、この辺のビジョンを毎年続くよう戦略計画委員会という考え方を取り入れて続けていきたいと考えております。以上です。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございました。ではガバナー補佐 保津様、お願い致します。

(第 9 グループ 保津豊徳ガバナー補佐)

第 9 グループのガバナー補佐 保津と申します。特別な事はないので、第 9 グループのクラブの紹介をしたいと思えます。佐原クラブはガバナーを 3 名輩出している名門クラブでありまして、会員数 50 名。そして多古ロータリークラブ、ロータリー教室が非常に盛んで一時多古中学、多古高校が非常に荒れている時期があったのですけれど、これをロータリークラブの人たちが色々声かけをして、まともになったという素晴らしい業績があります。そのほかに蛍の育成をしてこれをみなさんに披露したという事で、会員数は 17 名しかおりませんけれどもガバナー補佐をやった後に幹事をやらなければいけないとか、ほとんどの人が幹事・会長を二回ずつやって次誰

がやろうというようなクラブでありますけれども、それでも生き生きと頑張っている素晴らしいクラブです。そして小見川ロータリークラブは先ほど発表されましたけれども、小見川も古いクラブなので新しい会員と古い会員との熱量の違いがあるという事ですけれども、ここの佐原香取ロータリークラブと同じような会員数で推移しております、どちらかが一人か二人増えてしまうという感じで 26 名ですか、佐原香取ロータリークラブは私が所属していますけれども 24 名。会長経験者が大分天に召されまして、その後若い方が入ってくるのですけれども、いつの間にかいなくなってしまうという、そういうことを佐原クラブや小見川クラブからお前のところはこういうことをやっているからいけないんじゃないのという指摘をしてくれるという、総勢 107 名なんですけれど、このように他のクラブに対しても色々意見が言えるというような仲の良い、充実したグループだと思っております。少ない人数ですけれども今後とも皆さんよろしくお願いします。

(漆原ガバナーミニー)

どうもありがとうございました。では次に第 10 グループのクラブの方お願い致します。

(成田 RC 小泉英夫会長)

成田ロータリークラブの小泉と申します。本年度は諸岡ガバナーを輩出するクラブとして、それを完璧にバックアップするために多くの出向者を送り出しておりますが、クラブの通年の親睦や奉仕の活動はそれを絶やすことなく果たすことが私の大事な使命であると思っております。皆様ご存知のように成田は空港という大きな地元雇用の創出の場所と、成田山という観光地の二つの核を持った地域であります、この両方が発展することに、ロータリーとして大いに関わっていききたい、ロータリーが地域に認知される大きな要素と考えております。さらに地域に医療福祉大学が創設されたため、今後ロータリーアクトを立ち上げて青少年との接点を強くしていくつもりであります。各委員会には一部の方に活動が偏っていないかもう一度見直しをして、特に根幹であります職業奉仕はしっかりと話し合っていきたいと思っております。最後に親睦は大いにやりたい。それは互いにロータリーを自己の職業について語り合い、そして深みがある人間関係を作る、その楽しさを見出して頂きたい。そういうクラブを作りたいと思っているからです。戦略計画につきましては寒郡ガバナー補佐にご指導いただきたいと思っております。以上でございます。ありがとうございました。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございました。他のクラブはいかがでしょうか。

(富里 RC 松永達人会長)

富里クラブの松永です。当クラブは 32 名の会員数で、若手といわれる 50 歳以下が 14 名とおおよ半数近くが若手という非常に恵まれたクラブですけれども、若手が増えてきたのがここ数年でして、それによってクラブ内のベテランと若手の壁といいますか、そういうものがあ

るような気がするのが現状でございます。私の年度でそれを調和するのが、先ほどもお話ししました夜例会を行い、もう少し交流を持ってもらい、若手も出る機会が少しでも与えられるような例会を作っていくということを目的にやっていきたいと思います。それと SNS の活用ということも先ほどもお伺いしましたが、当クラブではグループ LINE、LINE でグループを作っておりましてそれが現在まだスマートフォンを持ってない会員が 2 名ということで 30 名は皆 LINE に参加して頂いています。あと 1 名の会員もスマホを持っていたらということで確約済みですので、もうお一方は 85 歳を超えている方なのでちょっと難しいのかもしれないですけども、それで頻繁に若手とベテランの交流を図りたいと思います。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございました。では寒郡ガバナー補佐お願い致します。

(第 10 グループ 寒郡茂樹ガバナー補佐)

第 10 グループ寒郡でございます。私どもは諸岡ガバナーを輩出するグループでございますので諸岡ガバナーを支えるまでの実力はなかなかございませんけれども、頑張りたいと思います。私自身の考えとしては、グループの中でさらなるクラブを超えた交流ができるようなことを行いたいと思っておりますが、先ほど小泉会長から戦略計画を是非ご指導ということをおっしゃいましたが、私もご指導していただきたいくらいですのでぜひ一緒にガバナーにもご指導いただきながら頑張っていきたいと思っております。以上でございます。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございました。続きまして第 11 グループのクラブの方お願い致します。

(我孫子 RC 木村隆一会長)

我孫子クラブの木村と申します。私は諸岡ガバナーが最初におっしゃっていた会長としてのコミュニケーションを私の年度のテーマにしようかと思って、そのための三つの柱というか、色々な会長エレクトの方の話にも既にもう出てしまっているのですが、三つの柱、これは中期的な戦略計画委員会を作って、今大体継続してやっているのですけれども、単年度計画という形になっていたもので、3 年から 5 年の中期的な計画を持ってクラブ活動ができるようにしたいなと思っています。あとは今日この研修協議会に出席している各委員会の委員長の方と定期的に会議を持って、クラブの運営をどういう風にしていこうかということも綿密に定期的に議論したいと思っています。それとあとですね、私が 7 年前に入会致しまして、その時は会員数が 22 名でしたが、この 7 年間で今現在 31 名です。約 3 分の 1 が若手の会員ということなので、ロータリーの基本的な部分をよく理解するというので、これは研修ですよ、ロータリーについて知ることをもうちょっと基本的にやっていきたいなと思っています。その三つの柱で 1 年間やっていきたいと思っています。我孫子ロータリーの場合は親睦とか社会奉仕はきちんとできていますので、それも継続しな

がらクラブを運営してゆけばいいかなと考えております。以上です。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございました。他のクラブの方。

(柏西 RC 岡島昭信会長)

柏西クラブの岡島でございます。

当クラブはですね、割と皆さん積極的に活動しようという考え方が行き渡っているといえます。ですからいろいろなお役を受けるにしても言われたら断らない。そして受けるという姿勢でありますね。ちょっと私も早すぎたのですが、我孫子さんのエレクトは 7 年目、私も 7 年目で、今現会長は 20 年以上の経験者でございますね。そのような考えが流れておりますので、私も「断っちゃだめだよ」なんて言われましたのでお受けをした次第です。何でも積極的に、とにかく前向きに取り組んでいくことが大事でありますけれども、それにはやっぱり奉仕活動の何たるかって言う、この奉仕活動を内面から理解してやっていうという、そういう精神的な部分ですかね、ロータリーの理念、これを理解していかないとなかなか本格的に取り組めないということがあるのではないかとこのように思うのです。従って 3 年以内の会員の方には、特に楽しい研修会を何回かやろうと思っています。堅い話だとも研修会面白くないということになりますから、それもよくわかる研修、終わってから親睦の懇親会を十分にやるということで、そういうことをしてロータリーの理念を解かってゆかないと取り組めないと思うんですよ。ですからそれが解かってこそ奉仕活動が本格的に出来るのだと、こんなように思いますので、その点はみんな柏西クラブの方々は前向きであると思っております。そういう積極的な気持ちを活動に表しているということでありましてね、柏西クラブの活動を三つばかり挙げてみますが、最近 GDP で世界第 3 位の日本がこんなにも貧困家庭があるのかという現実、その子供たちの支援、これは多くのロータリークラブの方が支援をいただければ大変助かるのですが、非常に多い。柏あたりにおいてもそういうわけです。その子供たちを支援していこうということ、そしてもう一つ目を外に向けて、縁があつてですけれども、海外のこと、タイの国にアカ族がいます。5 万から 6 万人いると言われていますが、非常に気の毒な境遇で、明日をも知れぬ大変な生活をしている民族がいます。この民族の方々に対して支援をしていこうということをやります。タイまで出かけて行って、まず水をきれいにするという装置をつける、そんなようなこともすでにタイの方に行って視察をしてきております。私の年度でそれを完成し、向こうに行って式典をしようということも考えております。それから私の年度で柏西クラブが 45 周年に当たるのです。これもしっかり取り組んでいこうと思っております。台湾の姉妹クラブがあるのですが、ここの方々も招待し、11 月に周年行事があるのですが、できる範囲で立派にやり遂げたいと、このように三つ大きな柱がございまして、我々の力は微々たるものでありますが、その中で奉仕活動をしっかりやっていきたいと思っているところでございます。

(漆原ガバナーミニー)

では担当ガバナー補佐、お願い致します。

(第 11 グループ 上村文明ガバナー補佐)

第 11 グループ我孫子クラブ所属の上村でございます。岡島会長さんありがとうございました。色々とお話をいただきました。5クラブあるのですけれども、すでに会長さんお二人女性でいらっしゃいます。女性がすごく活躍する、活発なグループです。先日、今年度の合同例会をやったのですけれども、まあ盛り上がったこと盛り上がったこと。柏東にダンスの先生がいらして、その方の指導で今年度の会長・幹事がダンスをやったのです。非常にそのあと盛り上がりまして、女性会員を増やすというのは大事なことだなと思いました。それから我孫子クラブでは先ほど会長がお話ししましたけれども、22 名が 31 名になった。これは若い青年会議所の OB の方が最近入ってみて、年代も非常に若くなってまいりましたですね。私がもう上から 4 番目という年寄りになってしまいました。そんな感じで、今柏西クラブは前に CLP をやった中村パストガバナー、そして柏クラブが寺嶋ガバナーを輩出したクラブでございます。しかし柏東クラブは何名かの地区委員を出しています。そして柏西クラブがかなりたくさん地区委員を出していますので、これもやはり RLI をこなした方々がその後出ているという事が私にはよくわかりましたので、第 11 グループで RLI をこなしていないのは当我孫子クラブだけなので、是非 RLI に皆さん積極的に出していだくよう今年度ガバナー補佐として頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございます。だいたい時間が押してまいりましたので、2-3 分でおまとめいただいております。では第 12 グループお願い致します。

(八千代 RC 杉山智基会長)

八千代ロータリークラブの会長エレクトの杉山と申します。八千代ロータリークラブは創立 53 年目にあたりまして、現在 51 名の会員数ということでちょうど良い会員数かなと思います。来年度は広めようロータリーの心、つなげよう地域との絆ということで、ロータリーの心を広めるために地域の関係団体の皆様とつながりをさらに深く持っていこうかなと考えています。そして夢先生という事業を計画しています。これは地区補助金の申請をさせていただいていますが、下りるかどうかかわからないということでその辺は不安定なところでございます。最後に戦略計画委員会を設置したいと思っておりますが、細則を変えなければいけないとか、そういう悩みを持っています。その辺ご指導いただければ大変助かります。以上でございます。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございます。その他のクラブの方お願いします。

(八千代中央 RC 高山公子会長)

八千代中央ロータリークラブの高山です。よろしくお願いします。

します。うちのクラブからガバナー補佐が出ているクラブです。うち第 12 グループでは人数が一番少ないクラブの一つとして、女性会員は私一人です。今まで全てが積極的なクラブではないので、今、杉山会長からありましたが、親クラブなものですから全てがおんぶに抱っこという状態で、夢先生のところに乗っかったりしていたのですが、今年は地区補助金の申請をさせていただきまして、八千代に医療センターがあり、その中に小児科病棟があるのですが、小児科病棟というのは本当に何もありません。子どもたちが遊ぶ物というのはほんの少ししか置いてなくて、ロータリー文庫というのを作ろうかなと思ったのですが、本は消毒が出来ないということで、本じゃないものにしてほしいという希望がありました。子供達が見るテレビ、DVD ですね、テレビと DVD プレーヤー、あとは動けない子たちのためにネットで見られるポータブルな機材。DVD はあるんですがプレイルームが東病棟と西病棟とありまして、そこにテレビがないので皆で見る事ができないということがあります。その部分の申請をさせていただきました。地域活動とか奉仕をさせていただきまして、そこで八千代中央ロータリーがそういう活動もしているということを知って頂きながら会員増強に繋がっていけばなというのをひとつの目的としております。人数も本当に少なくて会員増強はなかなかできておりません。その中でずっとロータリーって何をやっているのかという声が多く聞かれますので、全部シールを貼りまして病院に持って行く時には、なるべく多くの会員を連れて、またメディア関係もある程度呼んで、ある程度のコマーシャルをしつつ八千代中央ロータリーこういうこともしていますよ。ですからどうぞ入ってくださいというようなことに持っていけたらいいなという形でもって今年は大きな目標の一つとしております。何か良い意見があれば伺いたいと思います。以上です。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございます。それでは担当ガバナー補佐お願いします。

(第 12 グループ 猪飼清文ガバナー補佐)

しっかりと会長エレクトとご一緒に、第 12 グループのガバナー補佐をやらさせていただきます猪飼と申します。第 12 グループは 7 クラブで構成されておまして、会員数は 50 数名のところから 23 名、うちのクラブ、八千代中央ロータリークラブですね、それぞれ各クラブとしての問題点がいっぱいあります。その問題点は各会長・幹事さんに任せるしかありません。私の役目は、各クラブと諸岡ガバナーの細い糸を少しでも太くする役割だと思っております。来々、うちのクラブ自体が大変なんですけれども、12 グループをまとめていきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願い致します。

(漆原ガバナーミニー)

ありがとうございました。では第 13 グループお願い致します。

(松戸 RC 中澤雅彦会長)

松戸ロータリークラブの中澤と申します。よろしくお願い致します。第 13 グループは 5 クラブございまして、クラブ名には全て松戸がついています。松戸クラブは創立 63 年、会員数が今 63 名。その中には女性会員はいりません。年齢層は 43 歳から 86 歳で、年齢層にはほぼ隔たりがない構成になっております。毎年数名微増ですけれどもここ数年推移しておりまして、私が 15 年前に入会した時には 50 周年に向けて 50 人の会員と増強が進んだのですが、それには至らず、今現在は微増ながら 63 名の会員となっております。私が主に重点を置きたいのは、シンプルに例会の充実とクラブ研修、この 2 点が大事だと思っております。他のクラブさんとちょっと考え方は少し違います。外部卓話では松戸市長、警察署長、税務署長を毎年呼び出すのですが、基本的には会員の人たちに卓話をお願いして、会員の方々の魅力ある部分を少しでも引き出したいという気持ちがあります。毎回例会に行くとなんだか新しい感じがするというのが私以外の他のメンバーもおそらくあると思っておりますので、そういった形で会員の方々に輝いてもらいたいという思いで会員に卓話をお願いしていこうという方針で進んでおります。おかげさまで出席率も、何の強制もなく 90% 以上ですと続いておりまして、例会が充実している証拠だと思っておりますので、私はそれを崩さずないという思いで、先ほどのようなお話になっております。それともう一つはクラブ研修ですね。前回の PETS の時に手を挙げて発言させて頂いたのですが、クラブ研修にかなり力を入れております。新入会員は当然ですけども、もう本当にキャリアのある方にも参加していただいて、会員の学び、育成、親睦など会員の育成と強化につながるような研修をしていると思っております。おかげさまで新入会員はここ 5-6 年振り返ってみても新入会員が退会はしてないですね。このクラブ研修っていうのが充実しているって思っておりますので、この 2 点、とにかく例会の充実とクラブ研修に力を入れていこうと考えております。そういった中で継続的な活動としては、創立 30 周年の時に松戸ロータリークラブ奨学基金を設立しまして、当初は経済的理由で就学することのできない困難な学生に奨学金を支給するという事業から始まったのですが、ご存知の通り、平成 22 年からは授業料無償化というのもありまして、形はちょっと変化しているのですが、今後は松戸としては「青少年育成を続けているロータリークラブ」を掲げております。時代に即した新たな助成金事業を創立 60 周年の時に開始して、私の代で 4 回目を迎えることになります。それともう一つは台湾と姉妹クラブを締結しています。天輪ロータリークラブと先月 3 月には定期的に協定を見直すことがあるので、20 数名で現地に行ってそういった活動もしております。今月の理事会で戦略計画委員会を立ち上げました。これは本年度の会長の意向で立ち上げました。今までそういった動きはなかったのですが、松戸も今こういった形をとっております。最後にこれは松戸ロータリークラブ内で動きとしてお話とさせていただくのですが、年明けに 2 人目のガバナーを輩出しようという意見がクラブ内で一致しました。これも大事にして 2 人目のガバナーが輩出できるような活動をしていきたいと思っております。

ます。以上です。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。では講評をお願いします。

(第 13 グループ 森谷 博ガバナー補佐)

第 13 グループのガバナー補佐の森谷です。所属は松戸中央ロータリークラブです。よろしくお願いします。先ほど松戸クラブの中澤会長さんもおっしゃった通り、市内で 5 クラブということでクラブの会員は皆さん商工会議所の会員や法人会の会員や役員をやったりして、皆さんお互い顔見知りですので、5 クラブで合同の行事をするにも楽に意思疎通出来るということですので。女性会員については松戸中央クラブが 7 名、後の他のクラブはまだいらっしゃらないのですが、入会を話し合っているクラブとか、時期尚早というクラブもあります。先ほどおっしゃいましたように各クラブとも海外のロータリークラブとの交流も活発にしておりますので、結構活発にやっているグループではないかということでございます。以上でございます。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございました。では最後、14 グループのクラブの方、お願い致します。

(野田 RC 富山好夫会長)

親クラブということで野田クラブの富山が発表させていただきます。

午前中、ガバナーエレクトのお話の中にありましたことを本年度のテーマとさせていただきます。本年度のテーマはロータリーを楽しもうということにしました。午前中のエレクトのお話だと、知ることと好きになること、飛んでいますけれど直接そっちにいつてしまいました。現状の例会雰囲気は良いと思っております。さらにみんなをあたたく受け入れる雰囲気を大切にして、出席が楽しみになるような例会にすること、さらに地域社会に貢献するクラブ活動をみんなで考え、行っていこうということを目標に一年間やっていこうと思います。以上で時間が押しておりますので終わりにします。

(漆原ガバナーノミニ)

ありがとうございます。

(野田東 RC 田中由夫会長)

14 グループ、いよいよ最後です。最後ですので夢のある発表をしたかったのですけれども残念ながらそんな発表ができません。私は野田東の田中由夫と申します。去年 30 年ぐらいたった人がやめたのです。今年なんとなくやっぱり 30 年ぐらいたった人がやめるのだという話です。30 年ぐらいたった人は 70 人ぐらいたったのです。今 20 人を割る、そんな危機的な状況です。調べてみるといわゆる 20 人のメンバーで子息さんは誰もいない。これが問題ですね。お父さんたちがやっていたロータリーをその子供たちがロータリーに入らないというのが一番辛いところです。ただいつまでもぐずぐずいっても仕方がないので、先ほど茂原の方からも話

がありましたけれども、卓話のやり方を変えとか、或いは一時間の時間の割り振りを考えてみるとか、何か少し変えてみたい。そういうユニークなクラブがあったら是非とも教えてもらいたいなと、そんな風に思いました。何れにしても、もうこれ以上落ちると本当になくなっちゃうので、せっかく与えられた機会ですので少しでもいいクラブにできるよう頑張っていきたいと思います。以上です。

(漆原ガバナーノミニー)

ありがとうございました。それではここで次期研修リーダー関口パストガバナーから総評をいただきたいと思います。

(次期研修リーダー 関口徳雄パストガバナー)

総評をさせていただきます。結論的には皆さん、全てのクラブではないにしてもほとんどのクラブが、ガバナーエレクトが願う戦略計画について、その方に意識がいておりました。まさにガバナーエレクトの思いが伝わっているなと思いました。大変ありがたいことです。具体的な形なのですが、先ほど千葉クラブの話が出ましたものですから、そこで戦略計画との関係で気がついたのですが、2014-15年、私がガバナーの時に千葉クラブに行きました。櫻木さんが一生懸命会長さんに千葉クラブをなんとかしようとしていました。私がおの時思ったのが、あなたのところのクラブは千葉で一番有名なクラブですが何もやってないですねと、本当にそうなのです。奉仕活動をしていないクラブは他にもありましたけれどもこんなに人数が多くて、何もしてないクラブも珍しいなという話を、それで先ほど伺ったら、2015年に戦略計画を立てた。それが奏功して、今では100名近い会員が集まった。いろんな面で奉仕活動もしている。規定審議会にもどんどん提案しておられて、なかなか素晴らしいクラブになった。まさに戦略計画とはこれなのですよということを私は申し上げたかったのです。それから家族のことが出ておりましたけれども、確かにロータリーで時間を取られる、仕事の他にロータリーもやっているわけですが、会員家族、特にかみさんのですね、ロータリーに関する理解がないとなかなかロータリーもやりにくいですよ。私もガバナーで1-2年間奉仕を終わったら楽になるのかと思ったら、今度は土日にか何かリーダーだとか言いましてですね、カミさんじゃないけれど「今日もロータリー株式会社にお出かけですか」なんて言われちゃって嫌な感じだなあと思うのですけれども、そうなのですね。やはり家族の理解がないとできないから、そういう意味では機会があったら会員家族を巻き込む、親睦の中でゴルフだってボーリングだって、そんなところから理解を得るというのも一つの方法じゃないでしょうか。それから茂原の酒井さんの話を聞いていて、そうかなあ、やっぱり古いクラブは外に出ない。学びの機会もないという話があったのですが、確かにガバナーを二人も出しているクラブですから重みがある。重みがある分だけどこかに重い人がいるだけにね、発言がしにくいところが出ているのかなあと思います。ただ茂原は出前教室を千葉県で始めたところだし、グローバル補助金を使って何かやったじゃないですか。奉仕活動もちゃ

んとやっていますよね。からそういう意味ではよそのクラブの模範になっているのかなという気がします。富里クラブが若手と古い会員との壁を乗り越えるという、これはいいお話ですね。多分このクラブでもそうじゃないかと思うのですよ。若い人が入っても古い人と話が合わなくてやめていってしまう。だから古い人が若い会員を受け入れて、好きなようにやれ、責任は俺ら古いのがとるからという感じのクラブが最高にいいのですけれどもね。一つ一つ壁を打ち破って若い人がどんどん跡を取るようになっていっていただきたい。だいたい富里は昔野球が強かった。ものすごかったですよ、野球で。甲子園も何度も行ったでしょう。でも今野球部ないでしょう。茂原も新しく入ってきたことですし、どうかまたやってくださいな、そういう親睦の方も。そんな訳でみなさん一生懸命頑張っている。ガバナーエレクトが願っている戦略計画もちゃんとしてくれるようですので一安心でございます。これで総評を終わります。どうもありがとうございました。

(漆原ガバナーノミニー)

皆さんの多大なるご協力と忍耐力のおかげで、4時までびっしりと諸岡エレクトご希望の通りやることができました。発表していただいた会長の皆様、コメントいただきましたガバナー補佐の皆様、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げ終了させていただきます。お疲れ様でございました。



幹事部会



■ 幹事部会

リーダー	次期・地区幹事長	堀口	路加
アドバイザー	パストガバナー	土屋	亮平
アドバイザー	パストガバナー	得居	仁
アドバイザー	ガバナーノミニーデジグネート	梶原	等
サブアドバイザー	地区幹事長	野池	尚美
サブアドバイザー	次々期・地区幹事長	吉田	理愛

司会・進行、リーダー
2019-20 年度地区幹事長 堀口路加（成田 RC）

午前中に引き続き、午後の部会別協議会幹事部会にご出席をいただきありがとうございます。まずお配りしている資料の確認をさせていただきます。レジュメがあるホチキス留めの資料、それから各クラブにおける情報伝達に関するアンケートのお願い、そして幹事部会のグループ分けが書かれているホチキス止めの資料、そしてクラブを成功に導くリーダーシップ幹事編。これはマイロータリーからダウンロードできますが、今日お手元に白黒でコピーをさせていただきました。以上が配布資料です。漏れのある方はいらっしやいませんか。今皆さんがお座りになられている座席はグループ別討議セッション1の席ですので、セッション2の時にはテーブル上にあるご自分の名札を持って第2セッションのテーブルに移っていただくことになります。

【開会の辞】

それでは開会の辞を 2020-21 幹事長予定者、勝浦ロータリークラブの吉田理愛さんをお願いいたします。

（吉田理愛）

こんにちは只今より 2019 年度地区研修協議会第二部会協議会幹事会を開会いたします。

【挨拶】

次にご挨拶を申し上げます。私は部会別協議会リーダーを仰せつかった 2019-20 年度地区幹事長予定者の堀口路加と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

次にサブリーダーとしての梶原 等様からご挨拶をいただきます。

（サブリーダー 梶原 等）

今日はこの幹事部会、寺嶋研修リーダーからのサブリーダーを担当しろということでお役目を頂きました千葉クラブ所属ガバナーノミニーデジグネートの梶原でございます。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。隣の部屋では会長部会が行われておりますけれども、何たつてこの幹事さんがクラブの活動の要となります。これから約 3 時間になりますけれども、有意義な時間にしていただいて、いろいろなものを持って帰っていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

次に 2019 年度地区幹事長の野池直美様からご挨拶いただきます。

（サブアドバイザー 野池尚美）

今日は今年度の地区幹事長の野池でございます。幹事さんの役目は大変だとは思いますが、皆さん共通の悩み目標があると思いますので今日のこの時間元気に過ごして、クラブに持ち帰ってみなさんのクラブ活動に励んでいただければと思います。今日はよろしくお願いいたします。

【地区予算について】

まず予算ですが、これは現在お隣の会長部会において審議をしておりますので、承認されるまで簡単にご説明申し上げます。地区予算は本日のプログラム冊子 25 ページに掲載されております。

- ①まず表の一番上の欄に地区予算積算根拠の会員数が表示されています。過去5年間の7月1日の会員数、12月の会員数、6月末の会員数を参考にしつつ、橋岡ガバナー年度の2018年の10月末の会員数が2900人であることと、毎年6月末に若干減少することも考慮して、前期2840人、後期2860人としております。
 - ②地区運営資金勘定、地区活動補助勘定、地区奉仕活動資金勘定、全国組織分担勘定の算定にあたっての会員一人当たりの単価は変更せず、前期は一人当たり12,625円、後期は12,640円で積算。地区関係負担金の合計は繰越金28,321,716円と合わせて100,827,116円を計上されています。
 - ③クラブ分担金は2016年4月規定審議会の決定により2019-20年度まで毎年4ドル増額することになっているので、RI人頭分担金は64ドルから68ドルに変更となっています。
 - ④地区予算については前年度繰越金28,321,716円（橋岡G年度見込み額）を原則取り崩すことなく支出予算を編成することに留意。地区運営費用14,321,400円には新たな予算項目として、ガバナー補佐活動費420,000円（1グループ30,000円）を計上した他、三大セミナー予算は寺嶋G年度の実績額に近づけるよう予算化しております。
 - ⑤ガバナー事務所費用、ガバナーエレクト事務所費用は、事務体制を4人から3人体制変更したことで人件費、事務機器等の経費が減額となる見込みです。
 - ⑥地区大会費用は7,600円×会員数により算出しています。
 - ⑦委員会費用は、管理運営統括委員会予算から研修関係予算を抜き出し、若干の増額をした他は前年並みの予算としています。
- ただいま、お隣の会長部会で予算が承認可決されたとの知らせがありましたので、予算案の案を削除してください。それでは予算のことはこれくらいにさせていただきます、このあと、クラブ幹事についての説明を推して参ります。

【クラブ幹事について】

クラブ幹事についてはクラブの事務局があるクラブとクラブ事務局がないクラブとがあるわけですが、クラブ事務局の有無にかかわらず、本来クラブ幹事がやるべき仕事って何なのかというところから今日は説明をさせていただくことになります。説明は梶原等ガバナーノミニデジグネート、千葉ロータリークラブ佐々木高治様、漆原年度の地区幹事長予定者吉田理愛さんをお願いいたします。はじめに梶原等ガバナーノミニデジグネートからお願いいたします。

（梶原 等ガバナーノミニデジグネート）

吉田さんと佐々木さんに説明していただく前に概略お話しさせていただきます。ロータリー情報ハンドブックという本がありまして、この中にクラブの幹事の役目ということでこんな記述があります。「クラブ幹事は各クラブの細則の定めによるところに従って選定され、会員の記録を整理保管し、会合における出席を記録し、クラブ理

事会および委員会等諸会合の通知を発送し、これらの会合の議事録を作って保管し、RIへ報告義務などに責任を持つ等々が書かれております。まあ、当たり前のことです。この中には、「会長を補佐し」とか「会長の指導に従い」ということは一言も書いていないのです。一週間半ほど前に皆さんにアンケートをお願いしました。ほとんどの幹事の方からアンケートを提出いただきまして、ざっと中身を見せていただきましたところ、結構、会長を補佐し幹事職を頑張りますという風にコメントを書かれている方が多く見受けられました。それはそれで決して間違っているのではないのですが、クラブの運営そのものというのは、幹事が仕切っていく、これがクラブの運営でございます。中には古いロータリアンの方というと非常に語弊があるかもしれませんが、幹事は secretary なんだからあくまでも secretary に徹してですね、会長の指示のもとに動けというような指導をされるクラブもあろうかとは思いますが、それはそれでクラブの色として、また先輩の指導としてそれに何も歯向かう必要はありませんのでその通り従ってやっていただければいいと思うのですけれども、いわゆる指示待ちであってはいけない。私は実は2015-16年度、当クラブから櫻木英一郎がガバナーで出ました時に地区の幹事長を務めさせていただきました。その時はですね、当時の櫻木ガバナーからは、とにかくガバナーと幹事長と共同体だからということを言われました。もちろん出すぎることなく、共同体のいわゆる仕切り役として地区全体を仕切らせていただきました。時のガバナー補佐の皆さん、そして時の各委員会委員長の皆さんを私の指示のもとですね仕切らせていただきました。ただ物の考え方とか、方針だとか、そういうことはもちろんガバナーと相談を仕切っていったわけです。それを今度はクラブ版に置き換えますと、皆さんが7月から幹事に就任されるわけですが、新年度運営していくにあたっては、会長と密な連携をとっていただいて、会長が不在でもクラブが回る、会長が不在でもクラブを回していけるような幹事になっていただきたい。

クラブを成功に導くリーダーシップ幹事編という資料の16ページ17ページを開けていただきたいんですけども、ここに「会長と協力する」、それから「委員会と協力する」と書いてあります。あくまでもこれは協力するということであって、会長から指示をもらうとか委員会から指示をもらうことではなく、あくまでも会長あるいは委員会と協力してクラブを運営していくということが大原則にありますのでその辺りは間違えないで解釈しておいていただきたいと思います。

それから就任するまでは、あと2ヶ月と1週間くらいですが、ゴールデンウィークが明けますと実質2ヶ月ないですね。1ヶ月半くらいの中で新年度をスタートさせなければなりません。この1ヶ月半が勝負の時となると思いますので、ぜひこれからお話しいただく吉田さん、佐々木さんのお話を聞いていただいて、しっかりしたクラブ運営をして頂ければと思います。以上、はじめに私から簡単にお話しということでお話しさせていただきました。ありがとうございます。

ありがとうございました。それでは次に勝浦ロータリー

クラブの吉田理愛さんからお願いします。

(2020-21 地区幹事長予定者 吉田理愛)

改めまして皆様、はじめまして。

私は 2020-21 年度地区幹事長予定者の吉田理愛と申します。第 6 グループの勝浦ロータリークラブに所属しております。私の持ち時間は 15 分です。その間にたくさん伝えたいこと、覚えてもらいたいことがたくさんあるので進めさせていただきます。

まず質問ですが、皆様のクラブで事務局がないところ、挙手していただけますか？想像以上に少ないですね。4 クラブだけ事務局がないということですね。その 4 クラブさんは幹事の方はこれから色々覚えていただくことになります。他のクラブの方は事務局があるということなのでベテランの事務局がいらっしゃるということで本来幹事がやるべきことという私の方からは事務的なことをまず説明させていただきます。それは事務局が実際はやってくださっているかもしれないんですが、事務局に万が一のことがあった場合は皆様がいつでもすぐできるように今日はよろしく願いいたします。

それではまずあのマイロータリーに登録されている方、手を挙げてください。2/3 ぐらいですかね。はい、ありがとうございます。それでは今日帰りまして、幹事は実際 7 月 1 日からですが、まだマイロータリーに登録されていない方はすぐに登録をしていただきたいと思います。実際にクラブの会長、幹事、会計、増強委員長、財団委員長の 5 名と事務局は必ずマイロータリーに登録していただきたいと思います。

今回のこの地区協議会の出席者を登録するにあたっては、ガバナー事務局の方からもうすでに 2019-20 年度の登録ページというものが知られていると思いますが、皆さん把握しておりますでしょうか。そのページにアクセスすることができない人いらっしゃいますか？そのページには皆さんアクセスできますね。はい、あのページは今、地区協議会の出欠のところまでしかボタンがないんですが、今後さらに追加されていきますのでそこはこまめに、月に一度二度は必ず開いていただくことになってきます。

それでは追って説明させていただくんですが、今日の地区研修・協議会の冊子は、この 1 年間本当に何度も何度も見返すことになるバイブルみたいな冊子となります。特に注意していつも気にかけていただきたいのは、45 ページから 48 ページまでです。ここまでのページはちょくちょくご覧になっていただいて、いろいろな期日、締め切りが載っていますのでチェックしてください。

まず最初にマイロータリーに登録した後にすぐに 6 月 1 日締め切りというものがああります。

これはマイロータリーの中のクラブセントラルというところから入って行きまして、財団の寄付の設定ですとか、7 月 1 日の会員数を入れていただくことになります。6 月末までにもし退会される方が予定でありましたらその数を減らして 7 月 1 日にクラブの会員数を必ず登録してください。RI から人頭分担金の請求書が届きますが、これは 7 月 1 日と 1 月 1 日、その時点の会員数で人頭分担金の請求書が届きます。その請求書が届いてしまっ

たら変更はできません。もし人数が多かったらもうその分でお支払いするということになりますので、必ずこの人数は 6 月 1 日までにに入れてください。

その後、会長と相談をしながら 7 月 1 日までにマイロータリーの中のクラブセントラルからクラブの目標、これは項目がたくさんあってすごく大変なんですけども、このクラブの目標を必ず入力してください。これを入力することによって会長賞にエントリーすることになります。これに登録していないと会長賞を狙っていくことが難しくなっていくと思います。今年度 2019-20 年度の会長賞がちょっと頑張れば狙っていただけると思いますので、皆様に狙っていただけるよう是非お願いしたいと思います。

続きまして冊子のですね 46-47 ページに送金一覧が載っています。ここで 46 ページの一番上で訂正があります。上期 33.5 ドルとありますが、これが 35.5 ドルになります。そして下期 32 ドルとありますが 34 ドルとなっております。先ほど堀口さんから説明のありました予算の数字が正しいものとなっております。35.5 ドルと 34 ドルに訂正をお願いします。こちらの人頭分担金は RI の方から直接幹事宛にメールで請求書が届きます。その請求書からお支払いすることも出来ますし、マイロータリーの中で幹事の皆様はマイロータリーを開くと「運営する」というところがあるので「運営する」の中の「クラブの運営」というページを開いていただきますと請求書というページがありますので、そこからですとカードでお支払いすることができます。このカードというのはできれば先ほど櫻木バスターから説明がありましたが、ロータリーカードをお持ちの方はぜひそのロータリーカードを使用いただくとさポリオの方に少しくようになっております。まだロータリーカード登録していない方は是非登録してください。今 3 位まで来ていますので、これが 2 位、1 位になる可能性が非常に高いです。

続きまして、今度請求書が届いてきて、7 月 15 日までに地区関係の送金のお願いがきます。上期が 7 月 15 日、下期が 1 月 15 日です。これが 45 ページにあります。この 45 ページはぜひコピーをしてデスクに貼り付けていただくと漏れないかと思います。

支払い関係ですが、ロータリー財団の寄付というのがその次あります。これは随時です。目標は今のレートは 1 ドル 110 円くらいだと思いますが、一人当たり 150 ドルです。大体、会費が上期・下期だと思うので、随時というとなれば延ばし延ばしになってしまうんですが、この財団の寄付はできれば 12 月末までに半分でもいいので是非入金をお願いしたいのです。これを振り込む際、年次シェア、恒久基金、ポリオというように選んで寄付する形になっているのですが、恒久基金とポリオはこの年次シェアの対象になっていないので、そこに全部、例えばポリオに全額という形で振り込んでしまうと、寄付をしているのに 寄付ゼロクラブになってしまいます。ポリオの目標額は一人当たり 30 ドルとなっていますので、もちろん 30 ドル以上寄付していただければとてもよろしいのですが、全部ポリオとか恒久基金というようにするのはなく、必ず年次シェアというものを選んで寄付してください。全国 2260 クラブあるのですが、この寄付ゼロクラブというのが今 2 年連続寄付ゼロを達成しています。2790 地区でも 3 月ぐらいまでまだ 2 ～ 3 クラブ寄

付をいただいていないというので財団委員会でヤキモキしているのですが、もし 2790 地区から寄付ゼロクラブを出してしまうと 2 年連続全国 2260 クラブで達成している寄付ゼロクラブをこの地区から出してしまうことになるので、くれぐれも会計さんと連携してまず必ず上期 12 月末までに 1 回年次シアで送金をお願い致します。そしてこれがお手数になるかもしれないのですが、この送金した後にマイロータリーの中で寄付送金明細書と検索していただくとエクセルで寄付送金明細書がダウンロードできます。会員数が多いクラブは大変かと思うのですが、一人一人、どなたがいくらと入れていただくとちゃんと明細で誰々がいくらと振り分けられます。ポールハリスフェローなどにも影響してきますのでそちらも忘れずをお願いいたします。同じく米山記念奨学会の方の寄付も上期・下期が 4000 円ずつ、目標額は一人当たり年間 15,000 円です。こちらはですねロータリー米山記念奨学会とヤフーやグーグルで検索していただきますとホームページが出てきます。その中で個人個人いくらと登録するページがございますので会員一人当たりいくら寄付をしたかの明細を入れていただきたいと思います。

続きまして、人のところですね。7 月以降新会員がどんどん入会されてくると思うのですが、まず新会員が入会されましたら今いただいている地区の登録ページ、あそこに月信というページができてきますので、そこを開いていただくと新会員とか様々なボタンが出てきますので、新しい会員が入りましたらお名前を登録して地区の事務所に報告してください。そして同時にスマホもしくは携帯で背景が白もしくは無地の新会員の写真を撮っていただきます。その写真を別にガバナー事務所宛にメールに添付して送ってください。そうしますと毎月の月信の新会員の紹介ページに掲載されます。この顔写真がないと新会員が入っても月信には載りません。ですから新会員が入った時は必ず写真を撮って地区の事務所に名前とクラブ名を付して顔写真を送る、月信の方に登録ページから登録するということを忘れずをお願いいたします。そしてこの地区に登録すると同時にマイロータリーですね、マイロータリーが度々出てくるのですけれども、マイロータリーの「運営する」というところから会員情報ページがありますのでそこに登録することによって RI に登録されます。そして初めてロータリーの ID が RI から発行されますので、その ID を持って幹事の皆さんはこれからの会員カードもお作りになるかと思うのですが、その会員カードに ID を入れなくては行けませんので、必ずマイロータリーからそちらを報告する事も忘れずをお願いします。これはまた同時に会員の退会、又物故会員という時も同じです。月信とマイロータリーと両方必ず報告してください。物故会員につきましてはやはりお写真をガバナー事務所の方に逐次送っていただきますと月信に掲載することになりますのでよろしくお願い申し上げます。あとは地区の登録ページですね。毎月必ず例会の出席率、あと会員の増減を毎月必ず 1 回報告する事になっております。期日があります。会員の状況は翌月の 5 日までに必ず登録ページから報告下さい。例会の出席率は翌月 15 日までにお願いいたします。またそちらの地区の登録ページから記念事業ですと

か色々クラブでこんな活動するよといったことも登録するページがございますので、そうした活動予定とか報告していただきますと 2790 地区のホームページの活動予定のところに掲載していただくことになりますのでよろしくお願い申し上げます。また会員さんで叙勲とか表彰とか色々おめでたいことがあった時も月信登録ページからお願いします。

あとはロータリー財団に寄付をして寄付明細を報告して頂きますと、自動的にあの財団の方からこの方がポールハリス 1 回目だよ、2 回目だよというバッジが送られてきます。その時々のポールハリス何回目ですと月信登録ページから送っていただきまして、同時にその方のお写真をガバナー事務所に送っていただきますと月信のページに載せることができますのでぜひそちらも忘れずによりしくお願いいたします。私の方から事務的な説明は以上でございます。何か分からないことがありましたらいつでもご質問ください。

(梶原 等ガバナーノミニデジグネート)

はい、吉田幹事長予定者ありがとうございます。勝浦ロータリークラブの吉田理愛さんは、昨年度幹事を経験されてまだ幹事ホヤホヤですから細かいことはすべてわかっています。記憶が一番新しいのでありがとうございます。

それではその他の部分を千葉ロータリークラブの佐々木高治前々年度幹事をお願いします。ちょうど今年規定審議会があり若干変更がありますけれど、2016 年の規定審議会、大々的に変わった規定審議会の時のクラブ幹事です。では佐々木さんよろしくをお願いします。

(千葉ロータリークラブ前々年度幹事 佐々木高治)

皆さん、こんにちは。千葉クラブの佐々木と申します。ちょうど私も 3 年前にこの席に座っておりまして、その時のことを思い出します。幹事の仕事は、クラブによって違うと思いますが、かなり負担があるのではないのでしょうか。梶原さんからお話ががあったように、クラブによってその立場、立ち位置が違うのではないかと思います。社長と秘書のようなところもあれば、安倍総理と菅官房長官のような関係もあるのではないのでしょうか。又会長によっても変わると思います。最初に千葉クラブはどういうクラブだったかというお話をします。千葉クラブができたのが昭和 26 年です。太平洋戦争が終わって 6 年後、サンフランシスコ講和条約が締結された時に誕生しています。今となっては想像もつきませんがまだ進駐軍がいた時期です。チャーターメンバーを見ると、千葉銀行の方であったり、東京ガスの方であったり、錚々たる経済界のメンバーがいっぱいいます。千葉クラブが歴史と伝統を重んじるのは将にこのことです。私が幹事になったのは入会から 11 年目です。上層部と次期会長から来年の幹事を頼むということで決まりました。皆さんからのアンケートを拝見いたしますと、入会から 5 年目までの方が 25 名いらっしゃいます。5 年から 10 年の方が 17 名、この 2 つを足すと 10 年以内で幹事になった方が 42 名、半分以上の方が 10 年以内の方です。10 年から 15 年が 10 名、15 年から 20 年が 3 名、20 年から 25 年が 4 名、25 年から 30 年が 1 名、

30年以上の方が2名いらっしゃいます。残念ながらアンケートが間に合わなかった方が21名いらっしゃいます。30年以上の方だけお名前を紹介させていただきます。佐原香取ロータリークラブ羽生さん、32年が東金の小林さん、どうもありがとうございます。この方々はもう会長も務められた方たちです。経験も豊富です。心配はないかと思います。でも半数以上が10年以内の方ですから、幹事になってさあ何をしようかと心配になられるかと思います。先ほど話した通り、千葉クラブは私が幹事になった時、クラブ創設より63年を迎えた時でした。その時に櫻木（千葉RC）さんがガバナーになりました。それまでの千葉クラブは、過去にガバナーを2回輩出していますが、それ以外、地区のことに関してかわりが少なかったようです。どちらかというとクラブ内を優先した活動に終始していました。ここに91-92年のクラブ活動計画書を持ってきています。それから2002-03のクラブ活動計画書。この時、クラブ活動計画書がB5からA4になりました。ただ、内容は変わっていません。ずーと同じ様式です。用紙が変わることが画期的である。それほど過去変化がなかったということです。変化をきらっていたということになります。それくらい千葉クラブは内容が同じ活動計画書を使っています。だから我々が入った頃は、変えなくていいという時期を経て、何もしなくていいということになり、何もするなということに解釈されるようになっていました。クラブの幹事の仕事の大部分は、例会と理事会の司会進行役ということのようでした。毎年同じ事業をしているので、例会、理事会の報告事項、審議事項も滞りなくスムーズに運び差ほど手間を要するといった感はありませんでした。毎年同じような流れですからそれもそのはずです。それが3年前ガバナーを輩出しました。それと同時に規定審議会の決議が大きな変化をもたらしました。皆さんのクラブでも変化があったと思います。3年前のこの研修会の幹事部会では定款変更の話題が中心でした。内容がしっかり伝わらないまま、定款が変わるからそれに即した行動をお願いしたい詳細は追って連絡するとのと発表でした。そして何が大変だったかというと、定款の変更に伴い細則を変更しなければならないということです。大まかにいうと例会日数、入会金の有無、職業分類をなくすということでした。その変更はクラブの裁量で決めてくださいとのことでした。クラブの細則を変更しなければなりません。数十年間、変化をさせてこなかったクラブが細則を変えなければいけないということに直面したわけです。従来の保守的に考える方と革新的にRIに即し新しい方向性を取り入れようとする方と意見の相違がありました。変更箇所は最小限に留めるべきという意見と、これを機にRIに順じ尚且つ旧態依然のものを刷新しようという意見です。実際に定款と細則が出来上がったのは、年が明けた3月くらい、それまで喧々諤々やっていました。最終的には細則が大きく変更になりました。お互いがコミュニケーションを取ることで時間をかけて話し合いを重ねたことにより一つの成果が出来上がりました。新細則には幹事の役割が追加されました。「会長と幹事はクラブの共同代表である。」という一文が入りました。これにより、幹事の立場がはっきりしたと思います。

今振り返るとクラブ細則の見直しがクラブの未来を見据えたいいい機会であったと思います。

また前年のクラブ会長が5か年計画と戦略計画室を立ち上げました。前年度、当年度、次年度の会長・幹事がこの会議に加わります。そのことにより単年度制のデメリットを克服し数年先を見越した計画が出来上がりました。会長が変われば目標設定が変わりますが、この5か年計画に沿って我々は計画を立てることができるようになりました。ここによい一例があります。地区の補助金を活用したプログラムの申請が年明けて3月に提出ですが、かなりこの時期、次年度の会長・幹事は苦労されているのではないかと思います。千葉クラブでは4年連続して補助金を活用した新規プログラムを打ち出しています。新規のプログラムが動くことは昔では考えられませんでした。5か年計画を立てていただいたおかげで次々年度の会長まで決定しています。当然引き継ぎがスムーズになり、次年度会長・幹事は行動が早く起こせるその効果だと思います。2年後の70周年事業も視野に入れて活動が本格化しようとしています。前倒しが早くなればなるほど、次年度、次々年度会長・幹事は自分達の代でやりたいことが描けるようになるのではないかと思います。変化を好まなかった千葉クラブが2016年、細則の見直しをし、5か年計画を打ち出しました。それに沿って会長・幹事は手直しをしながら、早い時期から動けるので活動自体もアクティブになったと実感しています。

最後にクラブ運営で幹事の私が注意を払った点です。当時千葉クラブは80名の会員がいました。その3分の1の方は企業の支店長さん、支社長さんです。彼らにとって1時間という時間は非常に大事です。1時間で全ての例会を無事に終わらせことを大命題にしました。そのために何をしなければだめかというシミュレーションを毎月曜日の例会の前日に仕上げていました。誰が何分、何の話をするのか、全部スケジュールに入れました。30分以内に会長、幹事、委員長の話を全部終わらせる、そのためのタイムスケジュールです。そして当日はそのスケジュールに基づいて発表者に例会前に伝えます。そうすることで卓話予定者に30分きっちり時間を渡せることになり、卓話予定者には30分でお願いしますと言ってありますから、例会は常に1時間で終了します。

それと理事会です。千葉クラブの場合は、その月の第一例会のある11時からが理事会です。毎月始まるのは決まっていますから、理事会のシミュレーションを3日目ぐらいにしておきます。時に委員長が発表するのを忘れて、来なかったりということも起こりますが、日曜日に連絡さえ取っていれば、来なければ代理を立てることも確認できますし、プレゼン資料も揃います。理事会では報告審議があります。これは年間のタイムスケジュールを作成することで委員長と共有しました。4月の理事会に上程したければその1か月か2か月前に委員会を開いてもらう。委員会メンバーは皆さんかなり多忙なので委員会の開催を委員長にはしっかりお願いしました。例えば千葉クラブの場合、親睦委員会は事業の多い委員会です。親睦ゴルフ、旅行、Xmas例会、花見例会、等を企画します。会員全員に告知しなければなら

ないので最低2ヶ月前の理事会で発表して頂きます。そうすると委員会を開くのはその1ヶ月前と決まてきます。そういうタイムスケジュールをまず作っていただいてそれから内容を委員長と打ち合わせます。タイムスケジュールを共有することが事業の成功には不可欠です。事業が増えれば増えた分、参加するメンバーを集わなければならない、それには事前の依頼が重要です。

当然のことですが、大所帯になればなるだけ、報告事項を徹底し、時間通りに始まり時間通りに終わる時間厳守と期日厳守を大事に運営しました。反省点多々ありますが、クラブ運営をスムーズにするにはやはり幹事の手腕が問われるのではないのでしょうか。

(梶原ガバナーミニーデジグネート)

佐々木さん、ありがとうございます。

佐々木さんの報告の中で、一点だけ間違っているところがありまして、何もするなということではなくて、余計なことはするなと言われたのです。余計なことはするが伝言ゲームになりますと三代続くとお前たちは何もするなと私たちは入会をした時に先輩から指導されたのですが、実は余計なことはするなというだけだったので、やることは本当はやらなければいけないということでございます。以上が、吉田さんと佐々木さんのクラブ幹事としての役目というお話でございました。それではこの後セッションになりますので、一度堀口幹事長にマイクをお返しいたします。

(堀口次期幹事長)

それでは少し話題を変えます。

お手元にクラブにおける情報伝達に関するアンケートがあるかと思います。何を調べたいのかということ、今ガバナー事務所からクラブオールで電子メールが流れることになっています。ガバナー事務所からクラブオールで各クラブまでは行っていますが、送信された情報がその後あとクラブの各会員の皆さんにどのように届いているのかということをお教えいただきたいという趣旨です。おそらくそこから電子メールで全会員に流れているところと、ファックスだけしか使っていないところ、電子メールとファックスを併用しているところ、その他の方法を取っているところと色々あるかと思います。アンケートの前文にありますように、日本の古紙利用率は約64%・回収率は約81%と世界でもトップクラスにあり、リサイクル先進国と言われるレベルにあります。しかし世界には、今も紙を生産するための破壊的な林業で、自然の森がなくなっている地域がある。紙の原料は元をたどればすべて木材(パルプ用材)で、様々な紙ベースの資料を減らしていくことは今後も持続可能な社会を作っていく上で必要なことです。SDGsも含めて持続可能な社会、環境問題を考えていく、こういったところから私たちにできることがあるだろうということです。また、ICTが進歩したことで、ホームページや電子メールなどの利用により紙ベースの資料を印刷しなくても、必要な情報を届け、取得することが可能なインフラが年々身近なものになっているのも事実です。なかなかそういうところに踏み出せないという人もいますが、これから先には年々身近なものになっていくことも想定で

きるはずで。紙ベースの資料を減らすことは予算の削減にもつながります。こうしたことから国際ロータリー第2790地区においてもRI、ロータリー財団、米山記念奨学会、そしてガバナーや地区からの情報についても必要に応じ、あるいは段階的に、準備が整ったクラブからでもメールによる情報伝達を試行したいと考えています。具体的にはガバナー月信一つとっても地区の全会員に印刷物を配布していますが、年間で400万円ほどの予算を使っています。又、本日の地区研修協議会のプログラム冊子を地区内の全会員に配布すると良いのではないかとこの声も聞きます。もし、うちのクラブは何部だけほしい、あとはメールでいい、ホームページからダウンロードできればそれでいいということになれば、もしかしたら印刷する量は今の半分近くあるいは3分の1に減らせるかもしれない。残りはPDFにしてメールを使ってクラブオールで配信し、そこからは各クラブがメールで会員一人一人に配信する流れができれば、あとはそれをタブレットやパソコンで見るにとどめ、印刷をしなければ紙の削減、予算の削減も可能になってくるということです。お手元ですぐに答えられるということであれば、今日ご提出いただいても構いません。よろしくお願いいたします。私からは以上です。

それでは5分程度休憩の後、現在のテーブルのメンバーで2時からセッションを行っていただきます。それからガバナー事務所から白色な情報が発信されていても、クラブ事務局で止まっていて、クラブ幹事に行っていないというクラブもあるかもしれませんので、このあたりはディスカッションの中でもお話していただいて、必ずガバナー事務所の通知が最低でも幹事のところには届くようにそれぞれ工夫をしていただきたいと思います。それでは休憩よろしくお祈いします。

(第1セッション、第2セッション終了後)

40分×2回のセッション、大変お疲れ様でした。

それぞれに意義のある討論ができたのではないかと思います。質疑応答の時間なんです、その前に3人ほどからどんな印象を持ったか、どんな感想を持ったかをランダムにお聞きしたいと思います。第3グループから時田さん。いきなりですみません。感想でも、どんな話をされたかでも構いません。

(袖ヶ浦 RC 鵜田政明幹事)

自分はクラブ幹事2回目ですけども、自分のクラブしか結局は分からなかったのですが、こうやってですね、幹事をやる方にいろいろ話をお聞きしますと、まあいろんなクラブでやることも違うし、雰囲気も違うし、出席率から何からもういろんなことを聞きましてかなり刺激を受けました。私も1回目の幹事時は無難にやり過ごせばいいやという感じでやっていましたけれども、2回目ですので今日いろんな奉仕のことを聞いても刺激を受けたので、2回目は少し1回目の時よりも変わったことを、又進歩したことをやってみたいと思っております。以上です。

5番のテーブルの鎌ヶ谷の高田さんいらっしゃいますか。

(鎌ヶ谷 RC 高田洋志幹事)

皆さんこんにちは。第2グループ鎌ヶ谷クラブの高田でございます。梶原さんご指名いただきましてありがとうございます。セッション2の方でチャレンジしたいことというテーマでしたけれども、やはり会長を支えるという幹事の立場でありながら、こちらからチャレンジしたいことを言うことも難しいところもあり、又逆に会長の言うことをそのまま聴くと言うことも難しいことであって、組織運営については非常に難しい課題かな。やはり組織は単年度制ということで、一年で全てを変えていくのは難しい。そんな意見でございました。最終的にはどのようにしていくかは、それぞれの意見を聞きながら各クラブに持ち帰って、参考にしながら考えていきたいと言う形でまとまりました。以上でございます。ありがとうございます。

どうもありがとうございました。それでは9番テーブルで船橋西ロータリーの高宮さんいらっしゃいますか。お願いします。

(船橋西 RC 高宮幸子幹事)

私のテーブルでは、クラブで抱えている問題、親睦のあり方を討議させていただきました。どうしても親睦委員会が仲良しごっこになってしまい、委員長が自分の仲間だけを集める委員会組織、そして偏ったプログラムを組んでしまうという傾向で、派閥的なものが最近問題になっておりまして、それを皆さんのクラブではありませんでしょうかということで意見を述べていただきました。柏南 RC の關口さんのところでは会員増強に関して無理に入ってもらわなくてもいい、ロータリアンとしてふさわしい人を1年に一人、2年に一人という増強でこれまでもうまくやってきているということで刺激的でしたし、皆さんからも出たのは会員増強が一番の問題でございまして、若い人がいない、それから若い人と古い人の真ん中がいないということでやっぱり会員として30名はほしいねということで、それがいちばんの問題で増強がこれからどれだけうまくいくだろうかという不安を抱えているようでした。以上です。

ありがとうございました。鴛田さん、高田さん、高宮さん、突然の振りでしたがご協力いただき感謝申し上げます。

それでは質疑応答に入らせていただきます。どなたでも、どんなことでも結構です。答えられることはお答えします、答えられないことに関しては後ほどお答えいたします。挙手を持って質問のある方はお願いします。

(茂原 RC 市橋拓道幹事)

茂原ロータリークラブの市橋と申します。よろしく願いいたします。

第8グループで話題になったのは女性会員を増やしたい、ただ女性会員を増やすには色々なしながらみや意見があるので増やしづらいのですけれども、手っ取り早いのは女性会員が増えたと会の活性化に繋がるよねという話だったんですね。今までの事例で女性会員を増やす方法とか、女性会員が増えたらこう変わっていったという何か意見、アドバイスがあればお願いします。

市橋さん、ありがとうございます。女性会員が今までいなかったけれども、最近女性会員が入ったとか、うちのクラブは女性会員が多いですよとどなたか参考に回答いただける方いらっしゃいますか。千葉ロータリークラブの大野幹事、我がクラブも女性も過去にはいませんでしたけれども女性が入ってどういう風に変ったか、またどのようにアプローチされたか、その辺を参考にお聞かせ願えればと思います。あともうお一方、成田クラブお願いします。

(千葉 RC 大野雅章幹事)

我が千葉ロータリークラブは、歴史と伝統あるという言葉でくられまして、先輩方が女性会員はだめだというお話が長年続いておりました。しかし残念ながらNHKの支局長が女性の方がいらっしゃいましてこれは入れざるを得ないだろうということを突破口として、女性が入会しましてお知り合いの方の中から女性会員もということでご紹介いただいたということが経緯でございます。詳しくは梶原ノミニージェグネートから補足があるかと思います。

(梶原 等ガバナーノミニージェグネート)

振られてしまいましたので、今大野幹事が仰った通りですけれども、支局長から入ってきて、他のクラブから転籍で入られてこられた比較的年齢が高い女性会員がいらっしゃったので、もうそれであれば増やしてしまうと、いわゆる女性をうちは入れないんだよという暗黙の了解がそこでなくなったものですから、それであれば入れようということで誰かいない、誰かいないということで探したら何人か出てきたんですね。かといって何人か出てきてすぐ声をかけて入ってくれるわけではありません。やはりそれなりのアプローチはしていきました。そうしますと私の知っている女性のこういう人がいるから紹介しようということで少しずつ増え、現在は4名がおります。というような流れです。

成田ロータリークラブさんもこれまで女性がいなかったということで、甲田次期幹事お願いします。

(成田 RC 甲田直弘幹事)

成田の甲田と申します。私が入会した時はやはり一人も女性会員はいなかったのですが、ここ数年、今現在4名ということです。なぜ入ったかということは私も詳しくは事情がわからないのですが、現状の成田クラブとしてはかなり強力な女性会員が入っておりまして、そのメンバーを中心として女性会というのを定期的に開いて結束を高めている感じです。それだけ女性が表に立つことによってアピールにもなるということで次年度委員長とリーダーなるべく女性にということに注意して組織を作りました。以上です。

(梶原 等ガバナーノミニージェグネート)

市橋さん、どうですか。参考になりましたでしょうか。

(茂原 RC 市橋拓道幹事)

ロータリーライフを送る中で、女性から見た関わりやすい環境とはどんなものなのでしょうか。女性の意見をお願いします。

(梶原 等ガバナー・ミニデジグネート)

今、市橋さんの目の前に女性の武田さんですか？すみません。

(茂原 RC 市橋拓道幹事)

会の中で女性がこうしたら面白いよねというアドバイスがあればお願いします。

茂原も5人いるのです。茂原の場合には保険会社の支店長さんが変わった時にたまたま男性から女性になったというのと、茂原で経営されている飲食店に出入りしている酒屋さんが女性だったという繋がりがあって今5人になったのですけれども、でも男とするとこの女性のおつきあいの仕方というか環境の提供の仕方というか不慣れなもので、幹事としてはですね来年どうしたら女性が過ごしやすくなるのかなあとアドバイスいただければと思います。お願いいたします。

(君津 RC 武田富士子幹事)

君津ロータリーの武田と申します。聞く相手を間違えたのではないかと思います。私、君津ロータリーの中でも女性と認めてもらっていない会員でございます。いじられ役というか、実は私、父がロータリアンでした。けれど私自身はロータリーに入るのはあんまり抵抗があるわけではないのですけれども、やっぱり男性の世界の中に女性が入っていく、女性が起業して会社をやっている、支店長のように長として上に立っていた人が入るのでなければロータリーというところは敷居が高いです。かといって中に入ったら女性としての扱いをされるというのもあんまりいい心地ではないです。仲間として扱っていただくのが一番かなと思います。ロータリアンというのは仲間して一線になっているのですから、女性ですから確かに触っちゃいけないところはいっぱいありますよ。ただですね、体重は何キロだとか歳は幾つだとかは聞かないとかね、胸は触らないとかいう中で、普通にお食事をさせていただいて、普通にみなさんとトークさせていただくのであれば女性・男性というラインを引くということがあんまり好ましくないかなと思います。でも君津は女性を女性として扱っていないところがあるところなので、私もハマっ子でべらんめえ口調なので、私が入る時の経緯を教えますと、私は君津の商工会に入っていました。ロータリーに入ってほしいという時に、もうこれ以上役をやりたくないので入りませんと言ったら、商工会議所の仲間が村八分にされたくなければ入れよと周りを囲まれまして、飲まされて、一気でうんと言わされたというようなところが実はあるのですけれども、実際入ってよかったということを私自身もアピールさせていただいて、自分のクラブだけではなくて、木更津東に金見さんが入っていると思うのですけれども、こんなの誘われているのだけれども富士子ちゃんどう思う？て聞かれた時に、絶対入ったほうがいいよと、私は自分の体験から女だから男だからという壁を超えて、一つのラインの線

上でみんなが対等に話してくれる、そこを自分が心地いいと思ったら仲間を紹介してくれるのだから入ったほうがいいよと。多分木更津さんは仲間増えましたよね。そういう形の中で、一人入れることで、仲間を増やせるということは茂原さんもそうだと思うのですけれども、女性を入れないことが古風だなんて思わないでください。私トークに行ってもいいですよと今ここで八千代さんにも言ったのですけれど、男性の世界の中に女性が入ってくると一風変わってしまうと思うことがあるかもしれないのですけれどもロータリーに入る女性というのは女を売ってません。人間を売ってます。人間を売っているわけですからそういう形の中であれば、女を買わないでください。人間を買ってください。どうぞよろしくお願いいたします。

(梶原 等ガバナー・ミニデジグネート)

武田さん、ありがとうございました。

そのほか質問ありますでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。本当はまだまだディスカッションも足りないところかと思えますけれども、そろそろ時間になりましたのでこの辺で幹事部会は締めたいと思います。最後に次年度幹事長の堀口さんから一言お願いします。

(2019-20 幹事長予定者 堀口路加)

皆さん、早朝からこの時間まで大変お疲れ様でした。今のお話は痛快で聞いていて大変面白かったです。今日の幹事部会は記録に残させていただいて、地区研修協議会の報告書として各クラブに配布されるようになると思います。みなさんがテーブルディスカッションをされている間、他の部会別協議会を回ってまいりましたが、この熱気とみなさんの盛り上がり方は他の部会よりもよかったなあという印象を持ちました。みなさんがどのようなものをお持ち帰りになり、どのような印象を持って幹事のスタートを切っていただけるかとても楽しみに幹事部会になったのではないかと思います。最後まで皆さん熱心にご討議いただきましたことに感謝を申し上げたいと思います。以上で2019-20年度地区研修協議会幹事部会を終了いたします。ありがとうございました。



研修部会



■ロータリー財団部会

リーダー 地区研修サブリーダー・ロータリー研修委員長
 サブリーダー ロータリー研修副委員長
 サブリーダー RLI 推進委員長
 サブリーダー 理念研究委員長
 アドバイザー パストガバナー

寺嶋 哲生
 中村 俊人
 山下 清俊
 海寶 勘一
 大矢 惣一郎

ロータリー研修委員会

委 員 小寺 眞澄

委 員 今野 文明

RLI 推進委員会

委 員 藤原 和子

委 員 周藤 行則

委 員 山本 衛

委 員 清田 浩義

理念研究委員会

委 員 石橋 菊太郎

委 員 笠原 智

委 員 森田 雅久

司会・進行 2019-20 年度研修委員 今野 文明

開 会

寺嶋 哲生 次期研修サブリーダー 研修委員長 挨拶

各クラブの皆様こんにちは。 次年度諸岡ガバナーにご指導を頂く 2019-20 年度、第 2790 地区の研修サブリーダーとロータリー研修委員会委員長を仰せ付けました柏 RC の寺嶋でございます。 本日この会場にお集まりの皆様は、既にホームクラブでの会長を経験され、夫々のクラブにおいて厚く信頼されているロータリアンの皆様であらうかと思います。

皆様には来る諸岡ガバナー年度において、夫々クラブの会員に対しロータリーの理念と実践の研修を担われる重要な使命がございます。

是非その使命を充分に果たされ、皆様のホームクラ

ブの更なる活力を引き出して頂きたく、強くご期待申し上げます次第です。

私がガバナーを務めさせて頂きました年度には、公式訪問を通じて地区内の全クラブを訪問させて頂きました。 公式訪問を通じて感じましたのは、非常に熱心に奉仕活動が続けられているクラブが数多くあるという事でした。 どのクラブも会員同士が信頼しあい、円満な人間関係を構築して充実したロータリーライフを過ごされておりました。 そんな中にあっても、老若男女を問わず取り分け和気藹々とした雰囲気の中に、真摯な奉仕活動が続けているクラブは、押しなべてロータリーに関する研修に力を入れているクラブが多いと感じました。 ロータリーの創世記のエピソードに始まり、ロータリーの理念や奉仕プロジェクトの変遷、現在の RI の目指す方向性など、多くのロータリー情報が会員間で共有されておりました。 クラブがロータリーについて研修を行うという事は、会員に如何なる効果をもたらすのか？ その効

果の第一は、会員が夫々のロータリー観を培う契機となる事だと思えます。

他の団体とロータリーの存在意義は異なるが故に、ロータリアンは何をなすべき存在であるのか。

その自覚が生まれる契機となるのが、研修であろうかと思えます。そして夫々に確立されたロータリー観は、ロータリアンとしての誇りを涵養することとなり、その誇りが更に高潔なクラブのカラーを生み出す事につながるのだと思えます。

研修とは、然程に重要なファクターであると感じます。来る 2019-20 諸岡ガバナー年度、皆様は夫々のホームクラブにおいて、斯様に重要な使命を担われる事となります。どうかその機会を無にすることなく、効果的な研修を立案されて夫々のクラブのポテンシャルを更に高める、そんな責務を果たされます事をご期待申し上げます。各クラブの皆様が充実した一年間を過ごされます事を心よりご祈念申し上げ、地区研修協議会の部会別協議会に当たってのご挨拶と致します。

2019-20 年度地区ロータリー研修委員会 活動方針

中村 俊人 次期研修副委員長

ロータリー研修委員会は、関口徳雄地区研修リーダーの統括の下、寺嶋地区研修委員長及び中村副委員長と山下清俊委員長を中心とする RLI 推進委員会と海寶勘一委員長を中心とする理念研究委員会の三委員会が共になって、常に連携を図りながら事業活動に取り組んで参ります。

研修系三委員会が協働する事業として、諸岡年度に臨む三大セミナーの企画運営に当たりました。三大セミナーの一つと致しまして、すでに会長エレクトの皆様がご参加頂いた PETS に付きましては、諸岡ガバナーエレクトの方針により、1 日半の研修といたしました。第一回 PETS に先立ち、参加する会長エレクトに対するアンケート調査を行い、当日は「元気なクラブを創るために～クラブ戦略計画の勧め～」と題するパネルディスカッションを実施しました。また第二回 PETS においては、「元気なクラブを創るための私の方針」をテーマに、会長エレクトを対象とするグループディスカッションを実施いたしました。

このグループディスカッションでは、地区内 14 グループの次年度ガバナー補佐の皆様にもご参加頂き、各グループのディスカッションに於けるリーダーを担って頂きました。この 1 日半における PETS 研修会参加に於いて、次年度に各クラブの会長として、クラブリーダーとなって頂くうえで、今後のクラブ戦略計画をどのように考え、計画を立てるのかを、十分に語りあひできることを主眼にしました。会長エレクトの皆さまには、グループメンバー毎に組まれた方々と様々な意見交換をして頂くことができました。今後のクラブの活性化に生かされる事に大変期待を持っております。2019 年秋頃には、各グループガバナー補佐が主体的に実施する情報研修会に対し、地区委員会としては助言と協力を行います。事業の詳細については検討中ですが、諸岡ガバナーの意向を受け、今後第 2790 地区内の各クラブが、戦

略計画を立案するに当たりヒントとなるような命題を想定し、グループディスカッションによる討議を促す内容を想定致しております。

情報研修会やインターシティミーティングに付きましては、各グループのガバナー補佐の皆様が中心となり企画や運営等を行います。特に各グループ主催の情報研修会に付きましては、地区研修委員会へのサポート依頼がございました場合には、地区委員会として打ち合わせをさせて頂きサポートしたいと考えています。基本的にはガバナー補佐の皆様が中心となって開催します。

地区研修セミナーにつきましては、理念研究委員会と協働の上、当地区内でロータリー経験が豊富であり、造詣深いロータリアンの方々の卓話を拝聴する機会を設けたいと考えております。

また、RLI 推進委員会に於きましては下半期を中心にパート I コースから卒業コース・DL 養成コースと開催されますが、この RLI の研修に付きましては、各クラブの次期リーダーとなられる会員の皆様には、ぜひご参加をおすすめ頂きまして、今後のクラブの活性化へ繋げて頂きたいと考えております。

細部に付きましては各委員会よりお伝え頂きます。本日まで参加頂きました、各クラブの中心になる研修委員会として、重要な役割を担っている皆様には、是非共にご協力頂けましたらとても心強く思います。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

研修委員会 質疑応答 市川 RC 山崎 敬生 会員

市川 RC の山崎と申します。クラブ研修リーダーという役職は、私も前に一度やったことがあります。クラブ研修リーダーと言うのは、地区研修リーダーと同じような立場になって、私たちはクラブの中で委員会構成されています。実際に私もびっくりしたのですが、研修リーダーは会長が一番のパートナーの立ち位置なのです。理事会という執行機関がありますけれども、会長にとってその年度の戦略とか、その年度の方針、そういうことを研修リーダーと相談しながら、研修リーダーが会長をサポートすることが理想だと思います。しかし、クラブの中でも会長がそこをよく理解していないのです。私のクラブの中でも、自分たちが研修リーダーだと言ったときに、その認識度の落差が大きすぎるのです。ここを埋めるにはどうしたらいいのか？という相談が 1 点です。長年、DLP だとか CLP という組織改定の間答があったのですが、古くいるクラブの中の慣習だとか、やり方だとかの意見相違の感情がずっと尾を引いています。クラブ内を見ていると、なかなかロータリーを語りあう環境がなくて、いつの時代も情報交流できないことが残念であり疑問に思います。それと、例えば、新会員が入ってきたときに、新会員のレクチャーをしますね。それは従来、私どものクラブではロータリー情報委員長が担当していたのですが、CLP でいうと、それは、研修リーダーのなかの責務に入るのです。そのへんをどういう風にするのか？ そのところが、過去に上手く地区委員会としてもサポートが足りなかったのではないかと思うのですね。例えば、研修リーダーは何をするのか？ 例えば、一年間これからこうしますとか、こういう事をしていますと

の実例を、年度の前からとか、年度に入ってからでもひとつの小間割り見本を、地区研修委員会のほうで作っていただければ、大変にわかりやすいと思うのですが、いかがでございますか？

中村 俊人 次期研修副委員長

ありがとうございます。大先輩の山崎さんから質問と提案がございましたが、本日ここに出席をして頂いている、第 2790 地区 83 クラブのなかに、研修委員会として設けているクラブが、全部にあるわけではございません。その中でも、いま言われたように情報委員会、という形で入会間もない方々に研修していただきながら、ロータリーの楽しさや、色んな情報を伝えてくれているクラブもございます。一方 CLP として、いままでの五大奉仕を継承しつつ修正変更しながら組織運営しているクラブもございます。先程も申し上げたように、会員の多いクラブであれば各委員会でいろんな形で研修委員を配置できるのだと思いますが、10 人前後くらいだとすると委員会が沢山ある場合には、会員が委員会を重複するクラブもあります。その中で、入会をされてくる会員の人たちが、毎年毎年、多ければいいのですが、そうでなくて、一人二人と少人数で増えていくようなクラブもございます。その新会員の人たちを始めクラブの人たちに、私たち地区委員会として、どういったサポートができるのか？というの、いま山崎さんが発言して頂いた内容の通りでございます。私たちが普段から、いろんな話題がでているなかで、本日も規定審議会の話が出ましたが、内容についてはこれから私たちもしっかりと目を通していきたくと思います。私達が 20 年 30 年前に教えられたように、ロータリアンとして、またロータリーとはどういう事なのか？ロータリアンとしてはこうあるべきだというような内容を私達は学び伝えられて今日まで来ております。ここ 2 年 3 年のうちに、入会された方も沢山いらっしゃるわけですから、ロータリーを慕う考え方をしっかり伝える必要があると思います。基本的なロータリーの理念も歴史も繰り返して勉強して頂くために、ロータリー情報をしっかりと伝えてあげることが大切です。基本が良く分からないと、そこからの先の話を伝えても、「それは何ですか？」という理不尽な話になってしまう場合もあります。クラブ研修委員会の立ち位置というのは、山崎さんが言われた地区研修委員会同様の重責で、クラブの研修委員会の場合は、その役目というのは非常に重く大切であると考えております。そして一番重要で難しいところは、ロータリーの良さとその楽しさを知ってもらいことです。価値あるクラブ例会に参加することが、尊敬できる仲間を作っていくことであると理解して頂き、ある程度「こういうものなのか」という納得をしてもらうには、やはり、時間が必要だと思います。その勉強の時間が稼働する前に辞めてしまう方々もいらっしゃいます。その大切な研修と信頼できる仲間づくりの大切さを、クラブの皆さんには是非お伝えしたいというのが、現在が一番大事なポイントですね。

各クラブによっていろんな特色がございますから、全部が全部、「一概にこうあるべきだ」と決めつけるものではないと私は思います。そういう面では、参加委員会の皆様から各クラブの会員の皆様に、「伝達をして頂

くその内容」というのが非常に大事なことだと考えております。そういったものも含めて、先日終了いたしました PETS 会長エレクト研修のなかでは、参加した会長エレクトの皆様方には、そういう事を頭に置きながらディスカッションして頂きました。クラブ会長もまた、ガバナーも単年度で終わるかもしれませんが、単年度で済まないクラブ事情もある訳だと思います。大事なものを長期計画としてしっかり伝えていくという事、引き継いでいくということ、そういったものを併せながら、会長エレクトの皆さんにはディスカッションして頂きました。

本日の最後に、クラブ参加者皆様の役割として、大事な意見発表の場を担って頂く事を企画しました。クラブの皆様には、次年度の自クラブの為に「自分だったらこうしたい。」「是非、こういう風にしてほしい。」などというものを頭のなかで構想を練られていると思います。その考えをこの後の研修の場で、いろんな方から様々なケースの発表をして頂きます。その中で、「あ、なるほど」と納得できるものを、一つでも二つでも、皆さんの意見交流の中で見つけ出してください。参加された皆さんは沢山良いものを持っていらっしゃると思いますので、貴重な意見を発表して頂き、参加の皆さんがご自分の中に取り入れて頂いたらと考えています。ロータリークラブは善き仲間との切磋琢磨を通して奉仕の心を学ぶ場であり、ただの親睦クラブや親睦奉仕団体ではありませんので、そこをしっかりと会員に伝えて頂けたらうれしく思います。本質的な「ロータリーの親睦とはどういうものなのか？」というものを、是非共噛み砕いて話して頂けたらうれしいです。私達地区委員会も色んな形で一層勉強させて頂いたうえで、クラブの皆様には解りやすく伝えられる様に工夫してみたいと思います。

柏西 RC 高田 住男 会員

柏西の高田です。基礎的なことを教えて頂きたいですが、地区で研修委員会と、理念研究委員会があると、考え方を研究する委員会と、研修を実行する委員会があり、なんで二つに割ったのでしょうか？それと、我々のクラブには、研修委員会が一つしかないのです。どういう風に地区研修委員会と、理念研究委員会とに分けて、クラブとして付き合ったらいいのか？どういう振り分けをして私たちクラブの方に、関係を持っていただけるのか？その関連を知りたい。RLI は多分、次期のリーダーを研修に勧奨する委員会と理解すれば、会員に参加を勧めればいいのかと思うのです。この研修委員会と理念研究委員会の地区の位置づけと、実際のクラブの関係を教えて頂ければと思います。お願いします。

中村 俊人 次期研修副委員長

私どもにとっては難しいご質問ですが、この理念研究委員会というのは、以前からあった委員会ではなく、一昨年あたりからありましたけれども、ロータリーの理念というものを、しっかりとクラブの皆様に伝えたいというのが一番大事なところです。各クラブにも在籍する尊敬できるロータリアンや豊かな経験を積まれた地区の先人から、私たちがしっかりとロータリーの神髄を聞いておきたい方々、しっかりと経験を積まれた方々の、「ロータリアンとしてはこうあるべき」だと、「こういう風にするのが

望ましい。」という姿勢を伝えるのが、理念研究委員会の役割ではないかと思います。この地区研修委員会として活動していくなかでは、三大セミナーのなかの役割がありました。諸岡ガバナーエレクトからは「元気なクラブをつくる」ためにはどうしたらいいのか、というものを、クラブの皆さんにサポートして欲しい要望があります。その為に、単年ではなく長期のクラブ戦略計画というものをしっかり練って頂いて、元気なクラブに結びつけられるようなサポートを心がけ、クラブの皆さんに伝えていくことが、私たち次年度の役割と考えています。特に詳しい決め事がなく理念研究委員会と、研修委員会の違いは、しっかりと、色分けをしているわけではございませんが、両委員会を結びつける価値を相乗効果させて、活動の意味合いを深めます。私たち研修委員会としては、ロータリアンとしての大事な心構えはこういうものだよという学びの場を理念研究委員会のほうから伝えてもらおうと考えて、現況は大枠のところを仕訳けている形でございます。

寺嶋 哲生 次期研修サブリーダー・研修委員長

ロータリーは多様性をもっていますので、いろいろな捉え方があると思います。ロータリーの理念という言葉ひとつとってみても同様です。今日の全体協議会でも関口研修リーダーが、多様性を理解することが大切と仰っていました。各自なりに価値観が違いますので、ロータリーの目指している方向性なり、理念なりというものが、こういうものであるという、そのこと自体が全員一致で確立されているものではないという風に思っております。私のガバナー年度に理念研究委員会というものを作らせて頂きましたけれども、それはこれまでロータリーにあるいくつかの考え方を提示するのが理念研究委員会の役目だという風に思っております。その提示されたものをどう咀嚼し取捨選択するかというのが、それは各クラブなり会員なりに委ねられるものだと思っております。それから、グループ単位で開催するロータリー情報研修会ですが、私が今イメージしているのは、各クラブなり、各グループが、こういう研修をしたいというイメージがあれば、実施できるためのお手伝いをしていきます。取捨選択した結果、どういう研修を行うべきかその研修の実施に対するお手伝いをするのが、研修委員会の役目だという風に思っております。

各クラブの会長さんたちは、会員にたいして、ある種、ロータリーとはいかなるものか、というものを提示されていると思います。そのときに色んな考え方があるロータリーの多様性として、様々な考え方を尊重し提示してみたい。その可能性の枠を広げるのが理念研究委員会の役目かなと、思っています。

市川 RC 山崎 敬生 会員

今日、研修三委員会資料を頂戴して、今拝見しているのですが、クラブ研修リーダーサイドの、あなた方はこうしてくださいとか、これがやる事ですよ、という風な具体的な資料が、入っていません。一方 RI もクラブ研修リーダーに対して、あなた方は、こうやって活動して下さいという指針や、公式的なマニュアルがないのですね。どこに書いてあるのか？ちょっと探してみたら、会長マ

ニュアルのなかに、研修リーダーはこうしなさいとか、この委員会とこうしなさいとかの説明があります。次に何の活動をやったらいいのか？ということですが、以前に資料を取ったその中に、9つのクラブ研修リーダーの役割が書かれていました。1.クラブ長期計画の立案。2.年次目標の設定。3.クラブ協議会で、情報提供。4.クラブ内および、地区とクラブ間の意思の疎通を図る。5.クラブ内において、指導者の育成。6.委員会構成と、クラブ細則の変更。7.親睦の機会設営。8.奉仕プロジェクト委員会活動への積極的参加。9.包括的な研修を行う。この包括的な研修でも具体的にどう研修したらいいものなのか？本当は、そういうアドバイスを、地区委員会サイドから御指導を頂戴できれば、クラブの皆さんもわかりやすいし、私にとってもわかりやすいです。要は、私たちクラブの立場になってどうしたらいいのか？そこら辺を具体的に示して下さい、クラブ委員会の活動はこうされたいというお話を頂戴できたらと思います。

中村 俊人 次期研修副委員長

今一番大事なことを、山崎さんに伝えて頂きましたけれども、私たちこの研修委員会のなかで、三委員会合同のセミナーとか研修を開催します。その具体的な細部に関しましては、今伺った要望や希望を纏めたうえで、クラブの皆さんに伝えようと考えております。その肝心な所をお伝えできるように、この一年間を通しての活動と考えています。この後でも RLI の活動として、クラブリーダーを育てるためには、こんな形で RLI 活動しておりますから、是非皆さん参加してくださいと RLI 推進委員会がご紹介をする考えです。クラブ支援要請の細部に関しては、研修委員会のなかで、改めて、皆さんにご参集して頂くか、もしくは、研修セミナーのなかで、今言われた内容を伝えていくことを考えたい。ただ、活動に関しては、各クラブのなかの事情がそれぞれ違いますから、マニュアル通りの話をする訳ではなくて、クラブのなかで、会長幹事さんと、また各委員長さんと、確認を取り合い、クラブ研修が活発になってクラブが元気になってくれることを第一のねらいにしています。全てが良い方向にもっていければいいというのが私達研修三委員会の考えている事です。

今日この後に、御参加頂いているクラブの方々から、一年間の活動抱負を聞かせてくださる時間を非常に大事に有効な時間したいと思っています。

大枠だけを掴んで頂き、細部に関しては三委員会で纏めたうえで、研修委員会の皆さん宛にご案内するなり、お話するなり、また参考資料として、ご提示したいと考えております。

2019-20 年度地区 RLI 推進委員会

活動方針 RLI でクラブを元気にしよう！

山下 清俊 次期 RLI 推進委員長

皆様、こんにちは。次期 RLI 推進委員会委員長を仰せつかりました、市川東ロータリークラブの山下です。

諸岡ガバナーエレクトは「クラブを元気にして、ロータリーから千葉を元気にすることを目指す。」と仰いました。それを受けて、RLI 推進委員会としては「RLI でクラブを元気にしよう！」とのスローガンを掲げ、一人でも多く

のロータリアンが RLI に参加し、クラブを元気にするためのお手伝いをして参ります。

本日のこの地区研修協議会でのゴールイメージは「ご参加された皆様に、『RLI』について、何か一つでもクラブに持ち帰っていただき、クラブに役立てていただくこと」を考えております。

まず、「RLI」とは何でしょうか？これは「Rotary Leadership Institute」の頭文字をとった略称です。日本語ではロータリーリーダーシップ研究会と訳されております。この歴史を簡単に申し上げますと、1992 年にアメリカで提唱され、現在では RI の推奨プログラムとなっており、全世界の多くの地区で実施されているプログラムです。日本でも 34 地区中 24 地区で実施されております。

では、「RLI」とはロータリーについて、全 18 テーマに参加し、各メンバーが「お互いに自由闊達に語り合う」ことで刺激をうけて、参加者それぞれが自分なりのロータリー観を育てていくプログラムとなっております。その「語り合う」やり方ですが、1 グループが数名～10 名弱で、テーブルに着座し各テーマについて、自由にディスカッションに参加します。

1 テーマ 50 分で、一日 6 テーマをグループのメンバー構成を変えて行います。

従いまして一日で数十人の方と「語り合う」ことができることになります。そして、全 18 テーマを修了するには 3 日間を要することになります。

このディスカッションの進行役をディスカッションリーダー(DL)と称しておりますが、DL は自身がそれぞれの参加者と「語り合う」のでなく参加者同士が和やかに「語り合いできる」場作りと進行を心がけます。こうすることで、愉しく自由に「語らいの場」が醸し出されるのです。次に、「RLI」の全 18 テーマの構成ですが、これにはまず 3 本の柱があり、それぞれが、パート I コース～パート III コースへとスパイラルアップしていく構成となっております。

3 本の柱は「リーダーシップ」、「奉仕」、「会員組織の強化」です。そして、パート I コースの位置づけは「ロータリアンとしての私」で、私たちロータリアン一人一人が学ぶべきテーマとなっています。パート II コースは「私たちのクラブ」で、私たちの所属するロータリークラブが、より効果的クラブに成長するための課題がテーマとなっています。そして、パート III コースでは、「私のロータリーの旅」とのタイトルが付き、パート I 及びパート II コースでの語り合いを基に、より幅広く奥深いロータリーの世界を体験できる「ロータリーの旅」となっています。そして、そのゴールは、「私たち一人一人の、ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立」が目標とされています。RLI での学びですが、グループのメンバー同士が自由に語り合うスタイルですので、座学での一方的な講義とは全然違いますので、ロータリアン同士がお互いを尊重し信頼し合えるという喜びが生まれてくるのではないのでしょうか。

さて、ここで「RLI」でのディスカッションの基本ルールを紹介します。

以下の 7 つが各地区での基本的なローカルなルールになっています。

1. 自由にディスカッションに参加してください。
2. 自分に謙虚になりましょう。
3. 注意深く聴きましょう。
4. 経験を自由に語り合いましょう。
5. 本題から離れないように注意しましょう。
6. 他人の発言に対して寛容になりましょう。
7. 自分と違った視点に対し感謝しましょう。

このルールがまさに、ロータリアン同士がお互いを高めあうという意識高揚の良き機会を与えてくれているのかと思います。また、このルールは私もそうですが、皆様のお仕事でも活用できるのではないのでしょうか？

ディスカッションテーマのスパイラルアップの仕組みとディスカッションルール、この二つが相まって、RLI を愉しい語り合いの場にしていると実感できている気がします。

RLI のコースはパート I コースからパート III コースまでということを紹介させていただきましたが、パート III コースまで修了しますと、いわゆる「卒業」となります。しかし、その「卒業」はいわゆる「Graduation」の語源が「階段を一步一步上る」ことにあるように、その後のスタート地点に立ったということです。

パート III コース後のゴールであった「私たち一人一人の、ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立」ですが、パート III コース修了後も、ロータリアンとしての旅を更に続けることができます。まずは「卒後コース」があります。更に「DL 養成コース」があります。特に「DL 養成コース」を修了すると、いわゆる「DL」の修得ができますので、「DL」として RLI に参加することができるようになります。「DL」は先にお話ししましたように、RLI に参加された皆さん同士のディスカッションが、価値ある語り合いに導く役目があるわけですが、これこそが「DL」の喜びです。愉しみ(充実感)が膨らみ、「また次回もやりたい」と思うようになります。当初は「DL」って難しいのでは？と感じるのではないかと思います。むしろ「やり甲斐」が強くなって参ります。この「難しさ」から「やり甲斐」へとステップアップするために、DL のブラッシュアップコースというコースがあります。これは、DL 修得をした方を対象に行いますが、諸岡年度では、2019 年 9～11 月に I ～ III コースまで 3 回実施する予定でおります。DL 同士が互いに謙虚になって学び合う良い機会です。これまでも、新たに DL になられた方だけでなく、過去になられた方も参加していらっしゃる。是非、皆様のクラブで DL を取得された方にお勧めすることをお願いいたします。

さて、RLI の実行に当たっては、これまでも多くの方々のご協力を賜っております。毎年度「RLI 実行委員会」と言う実務活動組織を立ち上げ、パート I ～ III コース及びその後のコースを含め、実際の運営全体を担当しております。RLI 活動に関わりたく方は DL に限らずどなたでも門戸を開放し実行委員会に参画できます。実行委員として手を挙げていただきますと、RLI をいろいろな形で経験できると思います。是非、クラブに RLI の情報を持ち帰っていただき、会員の皆様にお伝えいただければと思います。

そして、私たち「RLI 推進委員会」ですが、こちらは、まさに「RLI への参加」のお誘いを地区内のロー

タリオンに対して行ってまいります。具体的には、クラブから RLI にお一人も参加されていないクラブへの呼びかけや、既に参加されている方がおられるクラブに対してはもっと多くの方へ拡がる様にお誘いをしてまいります。更には、卒業された方には DL 修得のお誘いを、また実行委員会への参画のお誘いをしてまいります。当地区の RLI への参加状況ですが、これまで 70 クラブの方が参加されておりますが、まだ 13 クラブからは参加がありません。人数的には約 400 名の方が参加されており、DL の方が 99 名いらっしゃいます。また、今年度の実行委員会構成ですが DL の方と参加者を含めて、100 名近い方が参画していただいております。

従いまして、目標といたしましては、全 83 クラブからの RLI 参加と、一人でも多くの方の RLI 参加をお誘いして参ります。また、卒後 DL を修得していない方約 300 名の方への DL 修得のお誘い、更には卒業されたすべての方への実行委員登録のお誘いをして参ります。最後に今後のスケジュールをご紹介させていただきます。まずは今年度（橋岡年度）ですが、

☆卒後コース 2019 年 5 月 27 日（月）

☆DL 養成コース 2019 年 6 月 8 日（土）

これまで、既に卒業されて、DL 養成コースに参加していない方へもご案内して参ります。ここにいらっしゃる皆様からもお伝えください

次に次年度諸岡ガバナー年度の開催予定です。

☆DL ブラッシュアップコース I

2019 年 9 月 21 日（土）

☆DL ブラッシュアップコース II

2019 年 10 月 26 日（土）

☆DL ブラッシュアップコース III

2019 年 12 月 1 日（日）

（発表時と変更しています）

☆RLI パート I コース 2020 年 2 月 1 日（土）

☆RLI パート II コース 2020 年 3 月 15 日（日）

☆RLI パート III コース 2020 年 4 月 4 日（土）

（発表時と変更しています）

☆卒後コース 2020 年 5 月 30 日（土）

DL 養成コースは 6 月ですが、日程は未定です。会場はいずれも、千葉市民会館です。1 人でも多くのロータリオンの皆様のご参加をお待ちしております。以上、RLI の語り合いの楽しみという視点から、お話をさせていただきました。RLI に関心を持っていただけましたでしょうか？各クラブへ持ち帰って、ご自身が RLI に参加されるあるいはクラブ会員の方に RLI への参加をお勧めすることをしていただくきっかけとなりましたでしょうか？

是非とも皆様のご参加、そして、クラブ会員へのご参加のお誘い、よろしくお願いいたします。必ずや元氣なクラブに繋がっていくことと確信いたしております。

RLI 推進委員会発表中の指名

成田 RC 佐瀬 和利会員

成田 RC の佐瀬和利と申します。今、山下さんが仰っていたように、DL をさせていただいている身ですが、山下さんご自身も私も、どんどん DL をやっているハマっていきます。山下さんは、素晴らしい活動をされて

いて、先程から他のクラブとの比較という話がありましたが、普段から自分たちの認識のなかに持つべきです。他クラブの方との交流は、今、自分のクラブがどんな立ち位置にあるのか？このクラブのやり方というのが、良いのか？それとも、そうでないのか？ということの判断基準を与えます。私の成田 RC では、クラブとして恵まれていることが、クラブ会員が比較的多いことであり、色んな活動ができる。RLI のなかでディスカッションしていると、10 人以下のクラブからメンバーがおみえになって、そこでお話をされている。その話を聞いていると、そのクラブに私たちが行ってメークアップしている様な感覚になるのです。そのクラブメンバーになったイメージで「ああ、こういうことか。」「こういう事をしているのだ。」と、「こういうクラブは、こういう事をすると、もっと良くなるのに。」ということが、語り合いの場で浮かんでいきます。自分自身の思考がどんどん高揚していくことがわかります。ですから、山下さんがハマると言ったことも、おそらくそんなことかなと思います。必ず山下さんは RLI にハマっちゃって抜けられなくなっていますね。おそらく皆さんも参加されれば、必ず、他所様のクラブにメークアップしたときと同じような、効用があると思います。自分のクラブの立ち位置がどうかという事、そして、この先、どんなことをすれば良いのか？という事が明確にわかるでしょう。それと、一番重要な事は、自分自身がどんな印象、イメージで、理想的なロータリオン像を明確に持っていないと、自分自身が揺らぎはじめて収集がつかなくなってしまう。その辺だけご注意頂いて、是非とも、RLI にトライして頂きたいです。以上でございます。

RLI 推進委員会質疑応答

鋸南 RC 手塚 節 会員

鋸南 RC の手塚と申します。我々のクラブでも、今年度の会長と幹事が参加をさせて頂いております。次年度のスケジュールを見ますと、卒業まで、約 6 ヶ月、7 か月くらいかかるのかな？

開催日が決定されているわけですが、急遽予定ができて、行けなかったときの、代替えとかないのでしょうか？あと、私も含めて他地区で RLI の参加してきた実績は、反映されますか？

山下 清俊 次期 RLI 推進委員長

RLI のパート I ～ III の、例えばパート II のみ出られなかったときの場合でよろしいでしょうか？当地区内で、パート II を年 2 回やるということは、今は行っていませんが、国内 24 地区で開催しておりますので、他地区でパート II に参加頂くということは可能です。その様な日程等につきましては、ご相談に乘りますので、よろしくお願い致します。併せてその年だけでなく、次年度、次々年度にわたって修得するということで、大丈夫です。参加場所もそうですし、時期もこだわらずに、参加頂けると思います。

司会次期研修委員今野文明

今年度日程が合わず、広島 RLI に参加されて卒業された方もいます。

中村俊人次期研修副委員長

今、RLI の話を活発にして頂いておりますが、この第 2790 地区に、RLI を導入させて、第 1 期生として登録されている方で 1 番目の白鳥パストガバナーがいっぱいありますが、2 番目として登録されている方で、千葉北 RC の石井さんが、クラブ研修委員会として参加して頂いております。RLI を東京で参加して修得し、千葉に最初に取り入れた方々のお一人なのです。その方の話をちょっと聞いてみたいと思います。石井さんお願いします。

千葉北 RC 石井 七郎 会員

ご指名ですので、お話ししたいと思います。この RLI との出会い、私が覚えているのは 2008 年、ロータリーの友 12 月号だったと思います。RLI について 4 頁にわたって紹介記事があったのです。それを見て、この RLI というのは素晴らしいと思ひ、時の白鳥政孝直前パストガバナーにお話をし、是非、第 2790 地区に持ち込めないかと、いうお話しをしたところ、当時の白鳥パストガバナーも是非、やりたいと言ってきて、第 2750 地区のパート I コースに参加申し込みを入れて、第一陣として 8 名が参加したのです。当然皆さんが自腹で行きました。代々木の青少年会館でしたので、8 時半の開始ですから、5 時起きで参加したのです。それは当然苦勞するのは当然前の事です。その後 2010 年に、第 2790 地区が RLI 日本支部に加盟したのです。加盟した後、実際に動き始めたのが、2013 年か 14 年ごろだったと思います。山田修平ガバナーのときに千葉市商工会議所で第 1 回の RLI をやったのを覚えています。それをスタートにして今日、先程話が出たように 99 人の DL が誕生したということで、非常にうれしく思います。問題は 99 人の DL の方が誕生して、どういう風に活用しているか。クラブに帰ってそれを無駄にしてほしくないということを、僕は声を高らかに言いたいと思います。

中村 俊人 次期研修副委員長

ありがとうございます。先程、研修委員会の意見を伝えてくれた山崎さんも大先輩なのです。RLI として活動しはじめてから 10 年で 99 人 DL の方々が生まれていますが、現在は委員会の皆さんがバトンを渡しながら、盛り上げています。

是非、みなさんのクラブにも、リーダーになって頂く方がいますので、その方々に是非、この RLI というプログラムに参加して頂きたい。というのは、先程申し上げたように、この中で得たものというものが、本当にご自身のためになりますし、これをクラブに持ち帰って頂いて、クラブのなかで色々な形で伝えることが沢山あるはずです。それを是非、皆さんに習得していただいて、活発な活動ができるように、お願いしたいなと思います。最初は東京の RLI に参加して千葉に取り入れてくれた石井さんのお話を伺いましたが、そういった面では、紆余曲折いろんな段階を踏んで今現在ここまで成熟できております。ですから、ここにいらっしゃる方々は、是非、一度参加してみて頂けたらうれしく思います。

柏西 RC 高田 住男 会員

柏西の高田です。常に千葉で開催されているのですが、少し都市移動するとか、現在では SKYPE を使ってテレビ会合ができる時代ですので、討論もできると思うのです。そういうことも検討して頂くと、先程、参加してないクラブが遠いところが多いという事もあり、解決方法をお考えになったらという事での提言でございます。回答は、要りません。

山下 清俊 次期 RLI 推進委員長

ありがとうございます。ご意見を参考にさせていただきます。時代はどんどん変わっていきますので、合わせていかなければいけないところも、あると思います。ありがとうございました。

司会 2019-20 年度研修委員会 今野 文明

石井先輩から当地区 RLI の草創期のお話を聞いて私も、感動しました。当地区も数年前から他地区から大勢の方の参加が続いております。RLI も多くの皆さんの頑張りで成長しているのかなと、いう風に感じております。色々とうございました。

2019-20 年度地区理念研究委員会

活動方針

海寶 勘一 次期理念研究委員長

活動趣旨

- ①ロータリー精神の基本である、理念をより親しみ理解を一層深める為に、体験的なプログラムを構築させることにより、ロータリアンとしての資質を高めるための良き機会とする。
- ②地区活動からクラブの活性に結びつく方策として、「クラブのビジョンの声明」と「クラブの戦略計画」が、親しみを深く実践しやすい環境構築に助力する。

活動計画

- ①地区内の賢人ロータリアンの方とご一緒に学べる、「セミナーや講演会」を企画運営し、気楽な座学とする「ロータリー談義の集い」を開催（上期下期に、年度 2 回程度開催予定）
- ②「クラブのビジョン声明」と「クラブの戦略計画」がクラブ内で構築できやすい環境をサポートするための、不定期的な「ロータリー談義の集い」を開催し、あるいは、可能な限り「クラブ卓話」の要請があるクラブへの訪問（不定期な情報交流の研鑽会とクラブ訪問）
- ③地区研修委員会と地区 RLI 推進委員会開催事業への全面協力

活動概念

私たち理念研究委員会の活動概念は、理念修学と奉仕活動の実践とのバランスを基本と考えて、ロータリアンの意識向上と、クラブを元気にする活性のサポートを心得ます。

常にロータリー精神の涵養の大切さを共有する心がけとして、クラブメンバーお一人お一人が「奉仕の理念やロータリーの目的、四つのテストや中核的価値観、行動規範」等を、クラブ内でもごく自然に思慮深く自己研鑽に反映できるよう、様々な機会や場面を利用して

情報発信を考え、クラブが元気になる活動のお手伝いを目指します。

例会や奉仕活動に参加することで、ロータリアンの心の中にロータリー精神の感動を覚えることができるよう、併せてその感激を世のため人のために役立たせるロータリー活動に結びつくことへの啓発や、実践行動がしやすい環境構築に何らかのお手伝いを目指します。

ロータリーの先人が修得した、「ロータリーは人生道場、例会は修行の場、ロータリーは人づくり、……」と熱く語ってくれた感動を、改めて読み解き開示することから、ロータリー精神の根幹を学び修学できる機会を設営します。

まずは先人が説いてくれる言葉や文字に直に触れ直に感じ入ることが最も肝心な心構えです。

その為には、ロータリアンが自分自身の為になる、修得の受け入れ姿勢が大切になります。

理念研究委員会として、地区内の秀でたロータリー賢人の方から、気軽なロータリー談議を拝聴する機会の場を企画運営します。

賢人の秀でた知識や情報に触れることから、感動し感服し、お人柄に惚れ込み琴線にふれることの大切さを実感して、真のロータリアンの姿を構築させます。加えて、様々な機会を捉えてクラブが元気になる「クラブビジョン」を発信できる様に、また「クラブの戦略計画」に結び付くサポートができることを心得ます。

「クラブ卓話」や「ロータリー談義の集い」を通して、真のロータリー精神の価値を知り、ロータリアン各自の向上に活かすためにも、お一人お一人のロータリアンが信用と誇りを大切に受け止める必要性を説きます。

会員一人一人が「ロータリアンたれ」と鼓舞することのお手伝いと、様々な奉仕プロジェクトに積極的に参加する意識を共有し、参加意欲に結び付くビジョンある行動を奨励します。

地区理念研究委員会は、地区戦略計画委員会が策定する地区ビジョンを尊重します。すべては研修三委員会と協力をしあって、幅広い奉仕活動の実践の為、確固たる精神的な充実を本質とさせて、ロータリー理念を切磋琢磨できる機会を構築します。

理念研究委員会質疑応答

船橋西 RC 鈴木 喜重 会員

船橋西の鈴木です。うちのクラブは、研修委員会ではなくて、研修リーダーという役職があります。

私が現状で憂いていることがあります。

私も 50 年以上ロータリーにいますけれども、かつては 4 回欠席したら退会だと、50 数年前はそう言われておりました。できるだけ出席しろということで、4 回続けて欠席ができなかったし、4 度続けて欠席すると直ちに除名ということでした。当時はクラブの所在区域限界もきちんと分かれておまして、この区域限界はどこのクラブ、この区域限界はこのクラブということで、船橋のなかでも、クラブ所在区域が分かれておりました。今ではそれがなくなりまして、近隣のところでも、どこでも関係なく、クラブに入ってくるようになっていきます。あるいは欠席も割合自由になったということで、だんだん、ロータリーの実態が変わってきました。それは RI の方から

変えるわけですから、やむをえないことです。けれども、その中で、会員増強をしろという指示もあります。長い年月にはいろいろ変化もありましたけれども、区域限界を変えてみたりして、職業分類も、1 業種 1 名であったものを、同じ業種でも数名可能になるということで、どんどん変化して参りました。それを 50 年前からずっと行ってきましたと、ロータリーはかなり変わったなと思います。出席の義務も、今ではインターネットで出席したことになるということで、インターネット環境で出席資格を取っている方もいます。そうなりますと、クラブ例会の存在が極めて薄くなって参りました。私の考え方は、ロータリーは親睦にあると思います。最初の 4 名で始まったロータリーも、基本的な姿勢に戻りますと、やはり出席して顔を合わせて、切磋琢磨するというのが、非常に大事な要素です。今は、欠席も自由ですから、新人の方が入ってきて、しばらくすると直ぐ休んでしまいます。欠席が多くなれば、本当の意味でのロータリー精神が養われないと思います。地区委員会が理念、理念と申し上げて例会に出なければ意味が分かりません。クラブの皆さんとの切磋琢磨のなかで、あるいはロータリアンとしての活動の中や接触の中から生まれるその理念というものを、どう考えたらよいのか。例会にも出ずロータリアンの資質が伴わないで、理念だけ押し付けても、実際には身につきません。地区委員会の皆さんは、一体どういう風に考えてられるのか、お聞かせいただきたい。さらに、地区委員会でその辺を整えて、新しい考え、やり方を、提示されるかどうか、その辺をお知らせいただきたい。

海寶 勘一 次期理念研究委員長

今、鈴木さんがご発言されて、ご心配されていることは、この参加していらっしゃる、ほとんどの方も、同じ意見ではないかと思っています。私も、鈴木さんのおっしゃられたことに共鳴し大きな心配をしています。ただ組織規定は、国際ロータリーが決めることでありますし、私たちがそれに対して意見を述べる機会とすることは制限があります。一人一人の意見をクラブの総意に大事に吸い上げて、それを、地区を通して、国際ロータリーに申請しようと、クラブ内での意見統一を提案するしかないと思います。ですから、自分達が望むような、理想的なロータリークラブの活動に結びつけるということは、とっても大事なことであり、徐々にでも自クラブのなかの仲間を多くして、意識を高める同志を増やすことが大切になります。地区を通して国際ロータリーの組織規定を改正できるように、ある面、国際ロータリーの流れを上手く利用してみることも一策です。クラブの改善をもっとこのように変化させようというものを、話し合う機会をクラブ内で提言できることが大切になる時代代だと思います。研修だけのために本を読み、情報を知って喜ぶということではなくて、クラブ研修委員会こそが先頭に立って、会員皆様の意見を吸い上げて、どういう風に変化をしたら皆さんが満足したロータリーライフを過ごすことができるのか？クラブが元気になるためにも、大きな委員会の役目があるのかなと思います、また、そのためのクラブ研修リーダーになる必要があるのだと思います。

君津 RC 小幡 倅会員

君津の木幡と申します。参加の皆さんにお伺いしたいのですが、研修委員会というのは各クラブにあるのでしょうか？

司会 2019-20 年度研修委員会 今野 文明

研修委員会があるクラブは、ございますか？

挙手してください。

研修委員会は3分の1くらいありますかね。

君津 RC 小幡 倅会員

実はですね、私、研修リーダーという立場で、ここに参加しているのですが、自分の立ち位置がよくわからないのです。研修リーダーのシステムがスタートしたのは最近で、昔はなかったと思うのですけど。それと、地区委員会は親睦や会員増強、広報だとか、それぞれ輪切りにされていました。今は管理運営委員会、奉仕プロジェクト、公共イメージ、ロータリー財団と米山だけは、単独で委員会があります。

それで、君津クラブの場合は、会長が理事会と協議して物事を決めていきますが、特に研修リーダー選任は、今もってありません。けれども、新会員には、ロータリー情報委員会がきちんと教育をしています。ですから、先ほど海寶さんがおっしゃられたように、会員が例会に出席して各奉仕事業に参画することが大事なことだと思います。クラブメンバーと交流を深めるなかで、ロータリーのことをロータリー情報委員会から教わったものは、こういう意味なのだと覚えていければ、それはベストだと思うのです。ですから、研修リーダーの立ち位置というのは、相談されれば、キャリアを生かして色々時代が変わっても、変えてはいけない部分は伝えることはできます。けれども、クラブ運営委員会も公共イメージも奉仕プロジェクトもそれぞれに委員長がいるわけですので、特に、研修リーダーがどうこうする部分が、私はないかと思っているのです。その辺は、地区の研修委員会としては、クラブ研修委員会の私たちがどのような立ち位置でいったらいいのか、ご教授頂けたら幸いです。

海寶 勘一 次期理念研究委員長

正確な回答になるかどうか、わかりませんが、私の考え方として、お聞きください。ロータリークラブの組織というものは、地区からクラブへという、トップダウンという情報伝達はないと思います。情報提供というのはあっても、あくまでも、サンプルでありますので、クラブとして良いところをとって、そのクラブの良さを発揮してもらうことが、最善の方策だと思います。研修委員会が全てのクラブにはありませんし、研修リーダーが必ずいるということでもありません。しかし、一人一人の方が、研修リーダーという心構えを持つことが、誰でもできることだと思います。私たち3つの研修部門の委員会が、クラブに対して、こうしなさいと、いうことではなくて、あくまでも、情報をお伝えする、また、こういう形の催し物を企画したらどうだろうかと、試験的なセミナー、講演会を開催するなかで、多くの仲間が真のロータリー精神を身に着け、また、自身の喜びに結びつけることが大事なことでないかと思っています。そういう善行の地区事業のお手

伝いを私たちは考えておりますので、是非、地区にまかせればいいということ、また、地区からの情報を待つということではなく、積極的に地区委員会との関わり合いを持つ中で、自主的なクラブ運営を期待しています。君津クラブの小幡さんのお考えに沿った活動が、クラブの皆さんに少しでも反映できるように願いたいものです。それこそ、涵養という言葉がございましたけれども、静かに、無理なく、皆さんの心のなかで同化してもらう形を作ることが、ロータリー活動の真髄だと思います。私、個人的なことをお伝えさせて頂きますと、千葉西 RC で昨年度、今年度、ロータリー研修リーダーのお役を頂いていますが、あまり無理なく、情報提供とか、カウンセラーに対するアドバイスだとか、そういうものを少しずつ、個人的な形で、サポートすることをしていきます。クラブ全体に無理な一方的な形で、事を押し付け実施してくれということは、極力避けるようにしております。これが正しいか、間違いかは、わかりませんが、私は、そういう風な考えを持ってクラブ運営に携わっていることを、お伝えします。

千葉北 RC 石井 七郎会員

千葉北の石井でございます。参考になるかどうかわかりませんが、当クラブで実際にやっている研修についてお話してみたいと思います。これは、16 年度から、始まりまして、まず自分が研修リーダーになって、実際にロータリーの研修とは、何であるかというところから考えました。研修リーダーのマニュアルなんてものはありませんから、私は、目的としては会員のスキルアップと、退会防止に結びつけることから始めました。例会の後に、約 40 分間、例会とは全く別の部屋に行って、スクール方式で行いました。注意しなければいけなかったのは、例会の延長であってはいけないということで、全く違う事をやらなくちゃいけない。特に若い会員には、あきらめなく楽しむようにしてやってほしいということです。参考のためにちょっと申し上げますと、第 1 回目がロータリーの発生史、第 2 回目が日本ロータリー史、第 3 回目がロータリーの目的、第 4 回目が例会を楽しもう、第 5 回目がわかりやすい五大奉仕、第 6 回目が知っておきたい人物像、第 7 回目が知っておきたい組織略図と徽章、第 8 回目が知っておきたい名言集、第 9 回目が奉仕の世界、第 10 回目が三大セミナー案内、これを自クラブの会長経験者に、講師をやってもらったのです。自分が講師になると皆さんが勉強しますから、結構若い人と、パスト会長と、非常に良い風土が出てきました。研修タイトルについては、研修リーダーである私が決めたのです。そんな風に一年間やってきましたところ、非常に若い会員に評判がよくって、例会欠席しても、後から研修会には出る人がでるくらい、効果があったと思います。

市川 RC 山崎 敬生会員

ちょっと、お伺いしたいことがあります。

理念研究委員会に書いてあることなのですが、例えば、ロータリーは人生道場という米山さんがおっしゃられた言葉ですね。私も先ほどの船橋西 RC の鈴木さんと同じように、古典的ロータリアンかと思っています。職

業奉仕とか、言葉の大切さとか、それぞれが持っている倫理観だとかを学び、自分をそこから高めた結果を自分の仕事にも活かしていくと考えます。それと、最近の RI 自体が様変わってきている関係で、古典的な思いの大事さということに身染みて感じています。最近入ってきた方々は、そういう事がなかなか、触れる場がないといいます。そこで、理念研究委員会に一つ質問があります。時のガバナーの考えによって、去年までやってきたことと、まったく別のことをやる。そういうときに理念研究委員会としては、どうするのですか？という事があります。ガバナーになる方も国際協議会に行く前と、帰ってきてからは、ガラッと変わる方がおります。

RI としての公式見解を言っているのだけれど、ロータリーの本質は、こうあるべきだと一生懸命に説くガバナーもおおいでになります。理念研究委員会は、そういう事に対して、どういう風に考えられているのでしょうか？理念研究委員会は、クラブに良い事をお教えくださる立場ですから、日本の古典的ロータリーを大切に考えます。僕なんか大事にしている方で、亡くなった佐藤千壽さんとか、御存命で、頑張っています伊丹 RC の深川純一さんとかを尊敬しています。

海寶 勘一 次期理念研究委員長

深川さんはお亡くなりになりました。

市川 RC 山崎 敬生会員

亡くなったのですか？

いつですか？

海寶 勘一 次期理念研究委員長

半年ぐらい前です。(1月6日ご逝去)

市川 RC 山崎 敬生会員

そうですね。いやいや、それだったら尚更先人たちの考え方を大事にする必要がありますので、今後ロータリー観の伝承をどうするのが課題になってきました。

海寶 勘一 次期理念研究委員長

山崎さんから貴重なお話を頂きました。だからこそという訳でもないのですが、寺嶋委員長のリーダーのもと、今考えていることは、地区内にいらっしゃる尊敬する先人ロータリアンの方に、そういう良き時代のロータリーを振り返り、また、これからの新しいロータリーを、どういう風にして身に着け、楽しみ、役に立たせるか、そういう有益なセミナーなり講演会というものを、今、考えておりますのでお待ちください。

ガバナーが変わったときの対応を問われましたが、それぞれの会員が一人一人、自分の考えをしっかりとつことが一番大切だと思っております。そういう意味で、参加者が自主的に修学できるような地区委員会の企画をお勧め致します。理念研究委員会のプログラムに参加して良かった。また、先人ロータリアンの方々を目指し自己研鑽の学びをしたい等、会員皆さんが切磋琢磨できる環境作りを、委員会の私たちが少しでも、お手伝いできればと願っています。修学とは参加者の皆さんがご自身で判断されて、このガバナーの後について学び自

己研鑽をしたいとか、それぞれの判断が出てくるのだと思います。ロータリーの考え方は百人百様、様々な考え方があって当然だそうですから、お互いの考え方を尊重することが大事なことです。私個人の意見として、お聞きください。

寺嶋 哲生 研修サプリーダー・研修委員長

ご指摘の地区理念研究委員会の意味合いですが、非常に難しい問題だと思ってございます。櫻木ガバナー年度に委員会があり、青木ガバナー年度でなくなって、また、私の年度で理念研究委員会を作ってみました。何故それを作ったのかといいますと、日本のロータリアンが、こよなく愛している職業倫理の概念を再考してほしいという意味があったからでございます。それは地区の組織図を作るときに、もう一度五大奉仕にもどしなさいと、ご助言を頂きました。けれども、それはあまりにも混乱が大きすぎますので、かつての職業奉仕委員会という様なイメージを持って、理念研究委員会を作ったのです。それを代替するものとして作ったのが、私個人の考え方でございます。しかしながら、パストガバナーのなかには、DLP を非常に熱心に推奨されるガバナーもいらっしゃいますし、五大奉仕にノスタルジアを持ってらっしゃる方もいらっしゃいますので、色々難しいと思います。それで、私の年度の三大セミナーの PETS のときに、お二方のパストガバナーに御講演を頂きました。一人は土屋亮平パストガバナー、一人は中村博亘パストガバナーです。私の知る限り、パストガバナーのなかには、全く違う考え方をされるお二人です。しかしそのお二人が同時に存在することがロータリーの多様性であると思いますので、どちらの考え方をお選びになるのか、それはロータリアン個人の価値観によりお選びください。しかしロータリーには、こういう幅があります。こういう考え方も、たしかに一理ある。こういう考え方も素晴らしい。それを提示するのが、研修委員会や理念研究委員会の役目ではないのかなと、私は考えております。それを選択されるのは、それぞれのロータリアンが自分の美学、価値観に従ってお選びいただければよろしいのかなという風に私は、考えております。

市川 RC 山崎 敬生会員

情報の流れとして、こういう古くからのロータリーの考え方、価値観は貴重です。同時に今、RI を始めとして、DLP 制度とか、どちらかというお金を集めて奉仕する世界や 6 つの重点分野とか、拡大路線があります。これもひとつの価値ですよ。そういう様々な幅広い情報開示を、研修リーダーを通して行うとか、何か具体的な活動を、この理念研究委員会が行うことが良いと思います。

寺嶋 哲生 次期研修サプリーダー・研修委員長

実を申しますと、この委員会が初めて顔を合わせましたのが、チーム研修セミナーのときですから、今年の 3 月でございます。

その間に、諸岡ガバナーエレクトのご方針で三大セミナーの企画立案をし、PETS の 1 回目と 2 回目のパネルディスカッションとテーブルディスカッションの準備をして

おりました。新年度の事業計画というものについては、概ねの概要だけを今把握し、これから詰めていくところでございます。私たちは、例えば理念研究委員会で、賢人セミナーというものを企画しています海寶委員長の意味といいますのは、例えばパストガバナーであって、職業奉仕という職業倫理に対する造詣の深い方に御講演をいただく機会を設ける。あるいは、その全く対極にある DLP を推奨されているパストガバナーに御講演頂くこともあるのかもしれませんが。研修委員会としては、ガバナー補佐が主体的に計画をする情報研修会において、こちらの持っている知識やノウハウ、人脈を使って、お手伝いをする事が可能でという御提示をすることが、これから、一年かけて行われていく事業だと思っております。

各クラブの次年度活動抱負の発表

千葉北 RC 石井 七郎会員

次年度は今年度とガラッと変えまして、若い会員をできるだけクラブ外のプログラムに参加できる事を考えています。例えば東京 RC 例会へ帝国ホテルに行くとか、普段接触のないパストガバナーの卓話等を企画しています。若い会員にもたくさん話をしてもらいたいのですが、クラブ協議会のところで、RLI を兼ねた研修を一年間通していきたいと考えております。一応、先日の理事会ではそういう旨で次の会長の了解を得ています。

司会 2019-20 年度研修委員会 今野 文明

年間テーマというものを決めているのですか？

千葉北 RC 石井 七郎会員

テーマを決めてはいないのですが、「入りて学び出でて奉仕せよ」の演題をパストガバナーの卓話者にお願いしたい。あとは、クラブの発展ということで、若い会員にテーマ別に決めていこうと思います。

千葉 RC 藤澤 武彦会員

千葉クラブは、会長を終わると研修リーダーをやるという事で、梶原会長は次年度研修リーダーになるのです。こういう連続制をもっている千葉ロータリークラブの流れからいって、こういうことをやるだろうという事で発表させていただきます。研修で一番のポイントは、若い人たちをどうやって、上手くロータリーに馴染んで、育てていくかという事が一番重要なポイントだと思います。勿論、現会員の方も重要です。千葉 RC の場合は、入会のオリエンテーションをやりますけれども、インストラクター制度というものをやって、入会した人に、マンツーマンについて半年間、ずっと研修していく。比較的早く馴染んで、活動できるようになった風に思います。あとは、フォーラムを研修リーダーを中心に考えていく。他のものも色々あるんですが、そういう様な事をやっていく予定です。

東金 RC 小林 信雄会員

本日は大変意義深いお話を伺って大変勉強になりました。私はロータリークラブに入りまして、16 年くらいなのですが、クラブ研修会というところに出たことがない。

研修会というのは、どういう風に考えたらいいか？そしてまた、これをクラブに、定着させるにはどうしたらいいのかを考えておりました。まずは伺っておりまして、言葉の説明とする語彙を明確に頭のなかで理解する必要があります。それから各それぞれの研修会と研究会の体系なのですが、私にはまだきちんと理解できないところがございます。そして物の進化という判断なのですが、感じなければ、これは知ったことにならないと言うのですね。だから実際に、研修会をやってですね、クラブのなかで感じあえるかどうか検討してみたいなと思っております。これからたくさん勉強させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

大原 RC 平野 一隆会員

地区委員の皆様、今日を迎えるにあたって、活動内容が具体的にまだ決まってないという発言を、寺嶋委員長からお話がありました。私自身はですね、今日をもって、諸岡ガバナーエレクトの方針を確認し、この研修三部会で皆様から色々ご教授を頂きました。クラブに帰って会長エレクトとの協議相談のうえで、次年度の方針を固めたいという風に思っておりますので、この場で発言するなにもものもございません。ごめんなさい。

浦安 RC 白戸 俊祐会員

浦安の白戸と申します。今日は大変勉強になりました。充実した委員会だったと思います。各クラブの人たちの話を聞きましたので、沢山メモを取らせていただきました。今後精査させて頂いて、クラブ会長と事務局に言って、準備していきたいと思います。今日、びっくりしたことがあるのですが、ロータリー研修委員会というのが、83 クラブ中、3 分の 1 くらいしかないという実態を知ったということでした。研修部門があまり浸透していないイメージがひとつありました。クラブ内には地区研修リーダーの関口理事がおりますから、随分と前から、こういった話があったのですが、やっぱり 83 クラブ全てに浸透していないのかなと思いました。今、簡単に考えていることは、うちのクラブも若い会員が沢山いるものですから、上期、下期にわけて是非、地区研修委員会からの講師をお願いして、卓話をお願いできればという風に思っております。

船橋西 RC 鈴木 喜重会員

来期は、会長を燗て前に出させて、炉辺会合を各委員会担当で、やらせてみたいと思っている次第です。炉辺会合を通じてロータリー理念を学んでいきたいと思っておりますので、炉辺会合を中心をお願いしたいと思っております。

銚子 RC 金島 弘会員

私、銚子クラブ会長の金島と申します。

今日銚子を朝 7 時に出てきました。何故、距離的に近い人が皆途中で帰るのかなと不思議に思います。研修協議会での学びを無視するクラブ委員は、最大の弊害だと思います。私は次年度の役目ではないので、抱負を言いませんが、先ほど説明があった RLI には、銚子クラブも何人か参加しています。参加した委員長は楽

しいと言っていました、やはり銚子からは遠いし大変ですから、次に参加しなさいと誰も一言も勧めてくれませんでした。今日の部門別協議会も、諸岡ガバナーエレクトから16時まで、びっしり研修するように指示がありましたが、本音は帰路の交通事情も配慮をお願いしたいです。私は最後まで修学しますが、今後は遠距離クラブの時間的な配慮をお願いしたいと思います。

船橋みなとRC 国分 裕二会員

皆さんこんにちは。途中で帰られた皆さんは、意見交換を予感していたのかなと思っています。申し訳ございませんが、私は深い考えを持って、この場に参加したわけではありません。RLIはなんとなく知ってはいた程度です。今日はすごく理念とかについて話す機会、あるいは、お聞きする機会がありました。日常にはこうした話の場がなくて、とても良い勉強になりました。本当に地区委員の方々、ありがとうございました。問題なのは、自分のクラブに帰りクラブ例会に於いて、研修リーダーとして同じ内容の話をしても多分、皆から嫌われてしまうのかなと思います。というのは、それぞれ、ロータリー理念は各自の思慮と解釈の仕方で違いがあります。ロータリー観の由来がそれぞれ違い、個人個人の温度差があるように思うのです。学ぶきっかけとか、何か共通する話題があれば、興味を持つことでしょう。先程は、寺嶋委員長から言われたように、研修の情報や場の選択肢を差し上げますと知らされましたが、選択するのは我々になります。私も、おそらくクラブでは、地区の皆さんと同じようなことをしなければいけない役目があります。次年度の活動抱負ですが、もうすでに、この時間帯のなかで決めましたが、「LET'SGO4 匹」というプロジェクトを新しくクラブに作ることにしました。活動内容は4人の若手のロータリー経験が浅い方々が主役です。私ぐらいの年代になりますと、ロータリー情報の知識がございまして、自身の理念を、簡単に覆すのが難儀ですから、こういう場に参加してもらうことがちょっと、難しいのかなと懸念します。現実的に考えて、経験が浅い若手の人たちが気楽に集まり、研修に参加したいと意欲が出るような会合を企画してほしいと思います。そして、理念＝フィロソフィーだとか、多様性＝ダイバシティの問題だとか、色んな情報があることを知り、こうやって真剣にロータリークラブを語りあいたい。何故、研修が必要で、この場にいるのか？という基本的な心がまえを感じ、学びと向き合う場を作ってさしあげるのが、先輩のやるべき事なのだろうと考えます。一切、茶化すつもりは、ございません。今年で20年くらいロータリー在籍ですが、クラブを辞めたいなと思ったことは、過去に60回くらいありました。楽しいひとは嬉しいものです。仲間とお酒を飲んだり、ゴルフをしたり、麻雀をしたり、常に仲良くしている状態の内は、ロータリークラブはいいなと思っていたのですが、その楽しさが波のように引くときがあるのです。そういうときに、「じゃあ、俺もロータリーをやめようかな」と思うことが何度もありました。それは、基本的に自分自身を支える精神、いわゆるフィロソフィーという理念が全く自分にはなかったからです。数年ごとに揺れ動く、弱い心の自分がいたのです。それを今日こういう研修の場で改めて地区委員会

の方々に教えて頂けると、いかにロータリーの原点というか、何故、俺はここにいるのか？ということを感じられました。自分のロータリー観を改めて考えさせられる場を今日は頂きました。本当に感謝しております。それと、改めて、この「LET'SGO4 匹」をお伝えして、今後の成果を是非、何かのときに、皆さんにお伝えしたいと思います。今日は、ありがとうございました。

千葉中央RC 須藤 憲一会員

千葉中央RCの須藤と申します。当クラブには研修委員会というものがないのですが、地区委員の今野さんに誘われまして、RLIにパートⅡまで出させて頂いて今は大変なのですが、面白い研修会です。非常に時間が長いプログラムで、4月22日のパートⅢにも行くのですが、クラブとしての研修の場がありません。私個人的にはRLIというプログラムに参加して、いろんな考え方に接して研鑽ができます。クラブに戻りまして、若い人を集めてくだらない話をする前に、RLIを紹介していきます。参加してクラブでは味わえないような事が経験できるということを、個人的に機会を捉えて、クラブの先輩にも、若い人達にも、話しをボチボチしております。今野さんのおかげで、ロータリーを考える機会を与えて頂きまして、本当にありがとうございました。

木更津RC 堀内 正一会員

今、私は地区の管理運営統括委員長でして、石井亮太郎パストガバナー、杉木禧夫パストガバナーのご意見を頂いて、先程、管理運営部会協議会は終わりました。私、ここに参加している理由はですね、クラブの研修委員会の委員長としておりまして、併せて、公共イメージの委員長を兼ねております。今のRLIのお話ですが、私は第2期の東京にある青少年センターの方に勉強して参りました。極端に言えば、ガバナー補佐になる方やクラブ会長になる方は、必ず一回は経験してもらいたいなという風に思います。そのプログラムの良さを味わって、自分の知らなかったことを、かなり勉強することができます。ディスカッション形式が非常に役に立ち、学校形式ではなくて、有効なプログラムだと思います。それをクラブ例会でテーマをもって語り合うことが大切です。私がDLをやったテーマは会員増強でございますけれども、どうやったら会員増強や、女性会員を入れたら良いのかという話題ですから、参加者皆さんで、議論することが、大切だと思います。これはロータリー談義の良さではないかなと思います。先程あった石井パストガバナーと、杉木パストガバナーのお話でも、最後は、ロータリーは原点回帰が必要だと盛んに仰っていました。この研修委員会と関係あるかどうか分かりませんが、最近のRIの変わりようが、今後どうなるかという事を、非常に、心配なさっておられました。

総評

寺嶋 哲生次期研修サブリーダー・研修委員長

ご参加の皆様、長時間にわたりまして、お疲れさまでございます。朝10時からでございますので、もう何時間でございましょうか。諸岡ガバナーエレクトの御意向をちゃんと汲んで頂きまして、最後までお残り頂きました。

皆様には、心より敬意を表する次第でございます。君津クラブの小幡さんからのお話でございますが、クラブ研修リーダーというのは、一体何をすべきか？というお話がございました。各クラブによって、組織構成が色々でございますので、この場に集まっている方々というのは、いろんなお立場があると思います。ただし研修リーダーというのは、CLPに基づいて作られる立場だと思えます。

地区のDLPで言いますと、それは、関口研修リーダーと同等の役割ということでございますので、研修リーダーの役割というのが、市川クラブの山崎さんがおっしゃられたように、会長を補佐するような、一つのお目付け役としての立場であらうかと、思います。

しかし、私が地区研修委員長として、ここに参加させて頂きクラブ委員長をお願いすることは、各クラブ会員に対して、どういう風にロータリーを研修していく役割を担って頂けるのかということがございます。

研修委員会は非常に大切な役割もございますので、是非、その役割を担当委員長に演じていただければありがたいと思います。

それからもう一つ、船橋西クラブの鈴木さんのお話でございますが、2016年の規定審議会で、RIが認めた柔軟性というのは、「そうしても良い」ということであって、「そうしなければいけない」ということではありません。例えば、「例会を月に2回にしても良い。」という風に言ったわけであって、「2回にしなければいけない」といったわけではないのです。ですから、ネットクラブ出席というのも、細則によって認めることも、一切認めないというのも構わないのです。もし、古き良きロータリーの伝統を守って、そのトラディショナル＝古典的な手法が、ロータリーの活性化のために、絶対に重要だと思うのであるならば、これは、RIの意向とは関係なしに、古き良き伝統を踏襲して、クラブ運営されるのが、よろしいと思った次第でございます。

とりまなおさず、今年7月から、新しい諸岡ガバナー年度が始まります。皆様には、是非、各クラブにおいて、ロータリー情報を共有しあう事によって、各クラブの活性化に十分なお役目を果たされますことを、心よりご期待申し上げまして、甚だまともりませんけれども、講評に代えさせていただきます。

長時間のご参加、どうもありがとうございました。

閉会



管理運営部会



■管理運営部会

リーダー	次期・管理運営統括委員会 統括委員長	堀内 正一
サブリーダー	次期・会員増強・維持拡大委員会 委員長	諸岡 正徳
サブリーダー	次期・フェロシップ・親睦活動委員会 委員長	森島 弘道
サブリーダー	次期・広報・公共イメージ向上委員会	大塚 義仁
サブリーダー	パストガバナー	石井亮太郎
サブリーダー	パストガバナー	杉木 禧夫

それでは皆様定刻となりましたので、ただいまより第二部部会別協議会を開会させていただきます。

進行役を務めさせていただきます、次年度会員増強拡大委員を仰せつかりました柏南ロータリークラブ所属の小林亘と申します。同じく成田RCの矢野理恵と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは最初に管理運営統括部会のリーダー並びにサブリーダーのご紹介をさせていただきます。お手元の資料の見開きの部分をお開き下さい。

管理運営統括部会管理運営統括委員長 堀内正一 木更津RC所属でございます。よろしくお願いいたします。

アドバイザー 石井亮太郎パストガバナー、松戸東RC所属であります。こんにちは

アドバイザー 杉木禧夫パストガバナー、茂原RC所属であります。皆さんこんにちは

次に、皆さん申し訳ございません、書き損じておりますが千葉付けくわえて下さいませ。サブアドバイザー、萩原博様 千葉RC所属でございます

サブリーダー 諸岡正徳会員増強・維持拡大委員長成田RC所属であります。どうぞよろしくお願い致します。

サブリーダー 森島弘道、フェロシップ・親睦活動委員長新千葉RC所属でございます。よろしくお願いいたします。

サブリーダー 大塚義仁、広報・公共イメージ向上委員長浦安RC所属でございます。

どうぞよろしくお願い致します。

それでは早速、協議会の方に進めさせていただきます

と思います。この協議会にはお二人のパストガバナーにご出席いただいております。まず、パストガバナーにご挨拶を賜りたいと思います。初めに石井亮太郎パストガバナー、お願いいたします。

皆さんこんにちは。大変長時間にわたるプログラムでお疲れの事とは思いますが、暫時おつき合いを頂きたいと思います。

皆さんのお手元に冊子がいっていると思いますが、堀内委員長の活動指針というものもこの中に記載されておりますし、それから後程またこれについてのご説明があると理解しています。又そののち質疑応答等という形で、皆さんのご意見も拝聴して内容を充実させて頂いて、次の一年間ご検討を頂きたいと思いますが、どうぞご不明や分からない点あるいは自己主張、そんなものがございましたら後程のその時間帯で質疑応答の時にご提言頂ければと思って居ります。開催するに先立って一言ご挨拶申し上げました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

石井亮太郎パストガバナー、ありがとうございました。

続きまして杉木禧夫パストガバナー、お願いいたします。

皆さんこんにちは。高い席ではございますが一言ご挨拶させてください。

本日の地区協議会におかれまして諸岡ガバナーエレクトはクラブの充実が大変大事であるとお話されております。そういう意味からもこの管理運営委員会、ここへ

いらっしゃっている皆さまがたがクラブのある種の盛衰を担っている方々がお集まりかと思っております、どうぞ素晴らしい今日のこの時間を有効にお使いいただき、また、お帰りになりましてそれを生かして頂くという事でよろしく願いをいたします。以上でございます。ありがとうございました。

杉木禧夫パストガバナー、ありがとうございました。

続きまして堀内正一管理運営統括委員長より皆様にご挨拶並びに協議会についてのご説明を申し上げます。堀内正一委員長お願いいたします。

みなさん改めましてこんにちは。次年度管理運営統括委員長を仰せつかりました堀内です。所属は木更津RCです。どうかよろしく願い申し上げます。

先ず、申し訳ございませんが資料の記載ミスがありましてお手元の資料の五行目ですが、大塚義仁委員長によりますフェローシップ・・・というのは、大塚さんは広報・公共イメージの委員長で、森島さんがフェローシップ・親睦活動委員長でございますので入れ換えて訂正していただきたいと思います。

それでは、管理運営統括部会の活動方針並びに部会別協議会のご説明をさせていただきます。

2019 - 20 年度管理統括委員会は諸岡正徳委員長をはじめとする会員増強・維持拡大委員会、大塚義仁委員長による広報・公共イメージ向上委員会、そして森島弘道委員長によりますフェローシップ・親睦活動委員会の3委員会で構成されております。これら3委員会は、いずれもより元気な活動を目指して、会員状況を維持拡大にするために、クラブへの実践支援を目的とし連携し活動して参ります。

マーク・ダニエル・マローニー国際ロータリー会長は会員増強のアプローチにおいては、組織立った戦略的・革新的な方策が必要と述べられております。皆さんご案内の通り2016年の規定審議会でスタンダードからオプションへと柔軟性が導入されました。ロータリーの審議会は会員増強をするために、効果的な方法を自由に決定できるようになりました。またかつてRI定款に規定されました会員資格の6つの基準が廃止され簡潔な要件となりました。もちろん誰でも良いという事ではございませんが、善良さ・高潔さ・リーダーシップをもって示し、職業上及び地域社会でよい評判を受けており、地域社会又は世界において奉仕する意欲のある成人であれば会員になることが可能になりました。

次年度第2790地区諸岡靖彦ガバナーは先程お話がありましたけれど地区3000会員、女性会員300会員、30会員未満のクラブの基盤強化、ロータクトを含み3クラブの新設を地区目標としました。今日、なんと言っても家族との時間を大切にいたします若い職業人や、女性にとってロータリーをより身近で手が届くような存在にすることを必要としています。その為に広報・公共イメージ向上委員会では各クラブのWebサイトやSNSの充実を図り、ロータリーのイメージ向上、そしてブランド化に務めて参ります。

特に2020年開催のオリンピック・パラリンピックでは、ロータリーを広める絶好の機会と捉え活動してまいります。また、ロータリアンの退会防止、維持拡大の為に、フェローシップ親睦活動委員会では、会員同士・地域社会の人々と趣味を生かした同好会、今現在野球リーグ、二輪走友会、女性交流会、スリランカクラブの4つがあります。今後も各クラブ・グループの枠にとられない活動をしてまいります。

更に次年度は先程諸岡ガバナーもおっしゃいましたが、ロータリーの基盤であるクラブを元気にするために、具体的な支援体制の窓口である「クラブ活性化支援チーム」を設置いたします。日本のロータリーも2020年には100周年を迎えます。第2790地区の各クラブのそれぞれに歴史を積み重ねてきた中で、ここで一度立ちどまって、運営方法や組織の在り方などを考えてみることも大切ではないかと思えます。このクラブ活性化支援チームでは、ロータリーの目的をより効果的に推進し、元気なクラブづくりを目指すために皆さまからのご相談を受け付けて参ります。ロータリアン一人ひとりがロータリーの魅力の再現に力を注ぎまして、その中から会員増強・維持拡大の成果が生まれ、ロータリーから千葉を元気にして参りますのでどうか宜しく願い申し上げます。

本日この後、3委員会の活動について委員長さんより活動について発表されます。その後、質疑応答に時間をたっぷりお取りしておりますので、皆様から積極的なご意見を頂き有意義な部会別協議会したいと思いますので、本日、宜しく願い申し上げます。以上でございます。

はい、それでは、ただいま話がありましており、各部会を構成する3委員会の委員長から次年度に向けての活動方針を発表していただきます。お一人20～30分というアバウトな設定になっておりますけれど、3委員長の発表が終わりましたら、質疑応答、質疑だけにとどまらず、皆さまの感じた事、あるいは体験談そして次年度に向けて考えている事などを積極的にお話する場にして頂きたいと考えております。

それでは最初に諸岡正徳会員増強・維持拡大委員長お願いします。

皆様こんにちは。ご紹介いただきました次年度会員増強・維持拡大委員長を仰せつかっております成田RC所属の諸岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この場を借りまして、委員会の委員の方をご紹介させていただきます。既に自己紹介もありましたけれど柏南ロータリークラブ所属小林亘委員、成田RC所属の矢野理恵委員、そして千葉RC所属高橋正博委員でございます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料3P目になりますので、見づらいかもしませんがプロジェクターにも映っておりますのでよろしくお願いいたします。

みなさまの方からも重ねて諸岡ガバナーの2019 - 20 年度に向けた運営方針のお話がありましたけれど元

気にするための目標として、地区 3,000 会員、300 女性会員、30 会員未満のクラブの基盤強化、3クラブ新設を目指すことが求められています。

一方で、現在の会員状況でございますが、2018 年 7月1日地区会員数 2,797 人に対し、申し訳ございません数は合っておりますが標記だけ間違っています、2019 年 2 月末日で地区会員数 2,883 名となっております。期首から比べますと 86 名の会員増。同じく 2018 年 7月1日女性会員数 189 人に対し 2019 年 2 月末日女性会員数 202 名、+ 13 名となっております。資料は月信 4月号より頂戴しております。

こうした状況からしますと、諸岡ガバナーの方から示されました地区運営方針は、項目によっては継続努力目標として取組んでいく内容かもしれません。しかし一方で今年度の単年度の目標として各クラブの皆さまに対して、年度内の会員数の純増 1 名以上、女性会員がクラブの 1 割以上在籍また若手職業人の増強を目指してください。という風に求められております。今年度皆さまも御承知のように年号も変わるこの新しいタイミングが、組織作りを原点から考え直す絶好の機会ととらえて頂ければと考えております。

先ずは、変革の無い組織は衰退するという原理に基づき、どうすれば女性会員並びに若手職業人の入会が得られるのかを最優先に検討する必要があるかと思ひます。実は 2019 年 2 月の段階での女性会員 O のクラブが 83 クラブ中 20 クラブ存在します。そこでどうするかという事でございますが、先程堀内統括委員長からもお話がありました通り、2016 年の規定審議会でクラブの例会回数や形式を柔軟に設定出来るようにかかわっております。こうしたことが、皆様の中でどのように活用されているのかご検証頂き、会員の時間的、経済的負担を軽減して、こうした活動へのこうした取り組みへの最優先課題への取組につなげて頂きたいと思っております。では、何故こうした例会回数や形式を柔軟性の取組が必要なのでしょう。このあと 5P で紹介させていただきますが、昨年の 8 月に実施いたしました会員増強セミナーのこうした柔軟性が必要だという事が明らかになっております。

それでは次のページ、4 P 目にうつります。この 4 P には、去年の 8 月に実施いたしました会員増強セミナー時のアンケート結果でございます。アンケートとしましては、各クラブの皆様は長期会員数を何名とするのか、現在の会員数に対してどの程度の増員が必要なのかという事を表にまとめたものでございます。各クラブの皆様におかれましては御自分のクラブの目標数字がどうなっているのかを是非ご確認いただければと思います。なお、当日会長幹事会員増強委員長の 3 名に出席を頂いております、数字につきましては会長記載数を最優先として取り組ませて頂いております。空白の所は残念ながらその時のセミナーにはご出席いただけなかったという事で空白となっております。今年度を紹介させていただきますと、今年度の会員増強セミナーを 8 月 31 日土曜日 13 時 30 分受付開始 14 時から実施 TKP ガーデンシティ千葉にて会場を予約しております。是非皆さま段取りをおとり頂き、多数の皆様の参加をよろしくお願いしたいと思っております。また、去年の 8 月にいた

きましたアンケートで会員の長期目標数が未提出になっているクラブの皆様は置かれては、その時までには目標数の提出をお願いしたいと思っておりますので、改めて私共からご案内させていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

次のページ 5 ページ目にまいらせていただきます。

同じくセミナーの時のアンケート結果でございます。

まず会員増強の方法並びに成功事例としてどういったことがありましたかという事を質問させて頂きました。1 から 12 は要約させて頂いておりますが、先ず

1. 例会場の場所変更
2. 例会数の削減
3. 夜間例会の増加
4. 増強特別委員会の設置
5. 例会へのオブザーバー参加の推進
6. 休会会員、退会会員へのアプローチ
7. 女性会員 / 若手会員の積極的導入
8. 各会員から推薦者の提出
9. 会員増強委員会の会議数増加
10. SNS の充実
11. 会費の削減
12. メイン銀行からの勧誘となっております。

これが非常に効果的だったという事でございます。

もう一つ会員維持の為の工夫としてどんなことをなさってますかというアンケートの結果が 8 項目になっております。

1. 例会出席の柔軟性
2. 会費の削減
3. 新入会員へのカウンセラー配置
4. 毎月夜間例会の実施
5. 役割分担の平準化
6. 例会出席カウント方法の柔軟化 (ビデオ)
7. 仲間を作り易い環境の提供
8. 若手会員の役職への積極導入

まさしく先程から申しております 2016 年の規定審議会で例会の回数や形式を柔軟にするということが結果として会員増強に結びついている結果となっております。

次ぎに参らせて頂いて 2016 年の規定審議会というのが実際にどういう風変わったのか、

皆さまも是非ご自分の眼でご確認いただければという風に思っております。

代表するところといたしましてはページ数が 7 ページになります。まず、16-07 クラブ会員の入会金を廃止する件、それから 16-21 クラブ例会と出席に柔軟性を認める件、16-30 直接あるいはオンラインの両方による例会出席を認めるよう、出席規定を改正する件、という風になっております。実際にご確認ください。次のページになろうかと思いますが、ページ数で言いますと 6 ページめでございます。まず入会金のところでございます。下の第 11 条でございます。当初はすべての会員は細則の定める入会金および年会費を納入しなければならない。ただし以下ずっと書いてございますけれども、これが 2016 年の規定審議会で入会金およびという所が割愛されております。という事で入会金は必要があり

ませんというように規定審議会で変わっているのが第11条でございます。

続きまして資料の9ページ目、第6条でございます。

例会と出席に関する規定の例外でございます。

本定款の第7条第1節、第10条第1,2,3,4,5節、第13条第4節に従わない規定または要件を細則に含めることができる。そのような規定または要件は、本定款の上記の節の規定または要件に優先する。ただし、クラブは、少なくとも月に2回、例会を行わなければならない。

以前どうなっていたのかというのがその下にございます。

第6条第1節—例会 特に(a)日および時間。本クラブは、毎週1回、細則に定められた日および時間に、定期の会合を開かなければならない。

つまり週1回やらなければいけないと言っていたものが少なくとも月に2回例会を行えばいいというように変わっております。これが第6条でございます。

次に参らして頂きまして12ページでございます。第1節の例会でございます。

(a)日および時間。本クラブは、毎週1回、細則に定められた日および時間に、直接顔を合わせて定期の会合を開かなければならないものとするというのが、開かなければならないというのが消えております。本クラブはまた、この方法では例会に出席できない会員のために、オンライン例会を手配するか、またはオンラインでつながる方法を提供することもできる。という事で顔を合わせての例会だけではなくオンラインでつながっていれば、例会に出席したとみなしていいですよというふうに変わっているというのがこの内容でございます。同様に第9条出席でございます。これは真ん中のところでございますけれども、60パーセント以下でございますけれども、直接出席またはオンラインでつながっているかという事で先程と同じことでございますが直接でなくともオンラインでつながっていれば出席とみなして結構ですよという事になっているという事でございます。

これは2016年4月15日に規定されたものでございます。既に3年が経過しておりますけれども皆さまのクラブではこうした例会形式、例会の頻度を柔軟にするという取り組みができていますでしょうか。私の所属いたします成田ロータリークラブでもまだなかなかこの辺の取組が進んでいないというのが現状でございます。

これは私共会員増強委員会からのお願いでございますけれども、ご案内いたしました例会方法の変更等は、もちろん各クラブの皆さまがクラブの内での話し合いのちどのようにするのかを決定されるものであります。但し冒頭から申しておりますとおり、こうした柔軟性の取組というのは非常に有効であろうと思っておりますので、是非とも一度それぞれのクラブ内にて審議していただければと思っております。そのために参考資料をお付けしております。参考資料といたしましては、ページ11Pからでございます。こちらはマイロータリーからも取得することができます。実際にこうした柔軟性を取り込むためのスタートガイドというものが既に用意されております。実は今年8月の会員増強セミナーでは、各クラブの皆様

にこのスタートガイドに基づいて審議をして頂きその結果の発表をお願いしたいと考えております。発表をお願いするクラブ数や詳細はこれからとなりますが、改めてご案内いたしますので是非事前のご準備を何卒よろしくお願いできればと思っております。

そのスタートガイド11ページ目は先ず例会形式でございます。ちょっと項目だけ読みあげさせていただきます。

1. どんな例会形式で検討しているか。
 2. なぜ例会形式を変えたいと考えているのか。
 3. 例会形式を変えることで、クラブにどんなメリットがあるか。
 4. 例会形式を変えることで発生するかもしれない問題やマイナスの影響は何か。
 5. 顔を合わせる例会をどのくらいの頻度で開くか。
 6. 顔を合わせる例会のうち、(新しく認められた奉仕プロジェクトや交流などを除く)通通常形式のクラブ例会をどのくらいの頻度で導入するか。
 7. 顔を合わせる例会のうち、通常形式ではない方法を取り入れるか(例：奉仕プロジェクト、または交流行事など)。
 8. クラブ例会をオンラインで開けるようにするか(顔を合わせる例会に一部会員がオンラインで参加することを含む)。
 9. オンラインでの活動を例会としてみなすか(例：ラーニングセンターのコースを受講する、クラブウェブサイトのディスカッショングループに投稿するなど)。
- というのが例会形式を取り込むためのスタートとなっております。

続きまして例会頻度でございます。

1. 今後の例会頻度をどうするか(ロータリーは、少なくとも月に2回、例会を開くことをクラブに義務付けています)。
 2. なぜ例会の頻度を変えた方がいいと考えているのか。
 3. この変更によってクラブにどのようなメリットがあるのか。
 4. 例会の頻度を変更することで発生するかもしれない問題やマイナスの影響は何か。
 5. 例会の取り消しをどのように会員に連絡するか。
 6. 例会の予定を会員にどのように伝えるか。
- これが例会頻度に関するものでございます。

続きまして13ページ、出席でございます。

1. ほかにどのような出席要件を検討しているか。
2. なぜ出席要件を変える方がよいと考えているのか。
3. この変更によってクラブにどのようなメリットがあるのか。
4. 出席要件を変更することで発生するかもしれない問題やマイナスの影響は何か。
5. 例会のメイクアップに関し、基本的な要件を設けるか。
6. 出席に関する期待事項または要件は会員全員に適用させるか、または状況によって変えるべきか(例：会員種類に応じて変更)。

というふうになっております。この内容に基づいて是非話し合いをして頂き、来る八月の会員増強セミナー時に、皆さまで話し合ったものを是非ご報告いただければと

思っております。

今後でございますけれど、是非具体的な行動計画を立てて頂ければと思っております。

冒頭からの復唱で恐縮でございますが、新しい組織づくりに挑戦しなければ新しい分野の会員増強は達成できないと考えております。誰もが入会したいと思う魅力あるクラブ組織を目指してまいりたいと思います。

フェローシップ・親睦活動委員会、広報・公共イメージ向上委員会は元より、青少年所管の委員会とも連携し各クラブの会員増強を一生懸命支援して参ります。一年間どうぞよろしくお願いいたします。大変簡単ではございますが以上を以て失礼いたします。ご清聴ありがとうございました。

司会：大変ありがとうございました。諸岡正徳会員増強・維持拡大委員長の活動方針でございました。続きまして森島弘道、フェローシップ・親睦活動委員長をお願いいたします。

続きまして、森嶋弘道フェローシップ親睦活動委員会委員長より宜しくお願い致します。

フェローシップ親睦活動委員会の委員長を拝命いたしました、新千葉ロータリークラブの森嶋弘道でございます。どうぞよろしくお願い致します。

初めに、当委員会でお力を借りる委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

本資料の組織表をご覧ください。(本協議会の資料32ページ)。千葉西ロータリークラブの野城隆憲委員でございます、成田ロータリークラブ角田幸弘委員、そして、千葉幕張ロータリークラブの伊藤愛彦委員、以上のメンバーでフェローシップ親睦活動委員会のほうを進めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

続いて、フェローシップ・親睦活動委員会の方針についてご説明申し上げます(本分科会資料の15ページ)。

地区のロータリー親睦活動委員会の役割は、「ロータリー親睦活動の要覧」を踏まえ、地区内でロータリー親睦活動とロータリークラブの連携を促進し、親睦活動に参加する恩典を広めることとご教示いただいております。

現在の当地区親睦活動は、野球リーグ、二輪走友会、女性会員の交流会、スリランカクラブの会、等々、これから開始する活動も含めていくつかあるように伺っております。私共の委員会としては堀内統括委員長のもとで、まず今までの経緯を確認し、活動クラブ概要について、(その人数、いままでの支援のあり方)及びその認定基準を理解したいと思っております。次に、現況に加えて、諸岡靖彦ガバナーの運営方針(午前中資料の12ページ)に基づき、委員会活動を進めていきたいと考えております。こちらのほうは午前中の運営資料の12ページにガバナーの方針がございますが、こちらとあわせて進めていきたいと考えております。諸岡ガバナーの方針につきましては、ロータリーの原点である親睦のあり方を明確に示して、親睦の奉仕活動に加わる意義を改めて考え、そして地区内の各フェローシップ活動を推奨し、交流の促進、会員の維持につなげるこ

と伺っております。換言しますと、それぞれの所属のクラブの皆様の活動がさらに元気な活動を続けていくためのベースを作ることと心得ております。

先日、過年度の委員会において、活動クラブに関する認定基準等を作成されたということを伺いました。この基準につきまして、今年度の委員会運営の手続き(委員会を開催し、基準について共通理解を図り、その内容について協議及び審議をした後、みなさんに周知をはかるという手続き)を経ていないため、本日は資料として準備をしております。

今後、諸岡年度に向けて、適切な手続きを踏み、フェローシップ親睦活動委員会の支援の在り方を確認し、地区内のすばらしい親睦活動を支援し、その実践を多くの皆様にご報告できるよう役割を果たしていきたいと考えているところでございます。

1年間ご支援の程、宜しくお願いいたします。雑駁でございますが、以上でございます。

最後に大塚義仁広報・公共イメージ向上委員長、お願い致します。

みなさまこんにちは、広報・公共イメージ向上委員会委員長の大塚です。どうぞ宜しくお願い致します。私と一緒に委員会のほうを推進していただくメンバーをご紹介します。

まずはじめに茂原ロータリークラブの岩瀬和仁委員です。続きまして、大原ロータリークラブの吉田正子委員です。こちら3名で次年度広報・公共イメージ向上委員会を進めていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。お手元の資料のほうをですね、参考にして進めていくわけですが、実は皆様のお手元にあるものは、ポイントのところだけをお渡ししているということで、それ以外にもたくさんのスライドのほうを用意しておりますので、見ながら説明をしながら今年度の活動皆様にお伝えしていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。もし、遠くのほうで見づらいという方は前のほう席のあたりでございますのでぜひ移動していただければと思います。途中でも構いませんのでぜひ移動のほうを宜しくお願いします。それではまずはじめに広報・公共イメージの目的とするところを説明したいと思います。まず広報の立場としますとロータリーの立場を知ってもらうことを大前提としています。ロータリークラブを広報することでブランド価値を高める、ロータリーというのはすごいところらしい、いいところらしいと興味を持ってもらう、入ってみたい、興味があるなという人が増えることによって仲間が増え、会員増強、最終的には新しい出会いが増え新たな活動につながるというように、少しでも多くの方に知っていただくことが重要だと考えております。こちらいきなりでございますけれども、皆様のお手元に資料がないので、画面のほうで説明させていただきますけれども、今年度初めてですね、広報・公共イメージ向上委員会に入られた方もいらっしゃると思います。そういう方にどのような活動をしていったらいいのかという基本方針などを知ってもらうのにちょうどいいツールがございます。よく話にあがります、マイロータリーの中にトップページのところの上の帯にですね、ラーニ

シグアンド参考資料というところがありまして、そこをマウス動かしていただくとですね、こういう画面と吹き出しが出てきます、そこの右側にラーニングセンターというところがありますので、そちらのほうまで行っていただきますと、いわゆる各委員会などの説明のツールが出てくるんですね、クラブ会員基盤の強化、クラブ広報・公共イメージ向上委員会の基本の資料というところがございまして、そちらのほうをのぞいていただきますと、こちらのほうにですね、いわゆる講座が二つございます。まず就任前にですね、公共イメージというのはどういうものなの、そのあとどういうことをしていってほしいの、というところが書いてある講座がございます。こちらのほうを見ていただくだけで大体公共イメージというのはこういう風にやっていくんだなという方針が理解できるかと思います。ちなみにこの方針なのですが、ここよく見ると30分で終わるんです。基本的な方針だけですので、そちらを30分くらい見ていただくと大体の方針が理解できて、あとそれぞれこれ以降私共がお話する内容と一緒にやってロータリーをPRしていこうというふうに思っております。ちなみになんですが、広報はこうなのですが、会員増強は7時間半もございます。ほかの講座もやると10時間を超えることになります。広報の人は30分で済みますのでぜひ就任前に30分は必ず消化して見ていただければと思います。

ばいけないのですが、これは外部の業者さん経由で年間安いところで5千円くらいかかる、そのドメインはそれを1回払っただけだと翌年つぶされちゃいますので定期的にホームページを作るにあたっては毎年そのドメイン代は毎年かかる。そしてサーバー代、外部にデータを保存しておく場所ですね、そちらに5千円くらいやっぱり年間かかってくると。それが最低限ランニングコストとして毎年かかりますのでそちらの費用等々はですね、みなさん予算案化はお願いしたいというところがございます。やはり実際お金がないとですね、ホームページを開設してもなかなか続かないということになりますので予算等々を考えて頂ければと思っております。いまあの新規作成ではなくてホームページを持っているところに関しては先程言いましたけれども、スマホ対応等々考えていただきたい。ただですね、更新の頻度ですね、例えばこんなイベントがありました、昨夜例会がありましたというように随時ホームページを少しずつでも更新していただくことによってアクセスも増えてくるかと思っておりますので、そういった更新の頻度等々考えていただければというふうに思っております。そのホームページの具体的な開設や支援の方法なんですけれども、まずホームページを安くどうやったら作れるのかということについてですね、私共考えまして、基本的にロータリーのホームページのデザインを比較的に統一化しちゃえばデザイン代がかからないんじゃないかと、またですね掲載内容等もある程度絞り込んでいけば枝葉が分れず、ある程度の階層で終わるんじゃないかといったことをですね、このような提案をしてみました。例えばですね、ホームページのデザインを基本的には、最初上のほうに帯があって写真があって、変更内容、こっちコンテンツなどがですね、左の方にコンテンツがあって、変更内容、写真とかですね、3パターンくらいデザインを考えまして、あとは各クラブさんで色のイメージや写真などを考えていただけないかと、基本的なデザインはこの中の3種類くらいで終わらせてしまいたいなと、そうすることによってデザイン費用を減らすことができるんじゃないかと。ちなみにいままで作った事例で言いますと、松戸西さんがこのような形で協力させていただいて開設のほうをいたしました。こちらはですね、成田さんのホームページがこちらでございます。直近で言いますと船橋のロータリークラブさんがこのような形で協力させて作らせていただいたと具合でございます。先程の表彰で成田コスモさんがホームページ関係で表彰されまして、私もよかったと思わず安堵しましたけれども、このように支援のほうさせていただきました。その中で、基本的にどのようなことを乗ければいいのかわからない、また難しいかと思いますが、私共の方でいろんな2790地区のホームページを見まして、どんなことが載っているのかなということを見ますとですね、だいたい13項目くらいがあってですね、すべて網羅するとですね、その中で各クラブさんがうちは組織表入れないよとチョイスされていることがほとんどです。ですから13項目これが全部ないといけないというわけではなくてですね、組織図がうちはいらんとか、バーナー?の由来がいらんとかそれぞれのクラブさんに応じて内容をきめて頂いて、この中の5項目とか10項目とか内容を詰めていただいてデータをいただいてそして

ホームページを作るというようなことを過去3クラブについてはやって参りました。ホームページはこのような形で、もし作成に興味がある方はですね、私共のほうへご一報いただいて個別にご相談に乗らせて頂きたいと思っておりますのでぜひお声の方をかけていただきたいと思いますね、その前に予算化のほうもぜひ宜しくお願いしますね、予算があつて作る意思という形を示していただければ、私共は精いっぱいサポートさせていただきたいと思っております。

続きまして、SNSという関係で、フェイスブック関係で、言いますとフェイスブックを2790地区の広報・公共イメージ向上委員会のフェイスブックを開設しております。そちらのほうでいろいろやっておりますので、ぜひ皆様にもフェイスブックを作らせていただいて、お互いリンクを貼って情報を共有しながら外部に情報を発信していきたいというふうに思っております。フェイスブックに関してはひとりの人がフェイスブックに案件をアップするのはかなり根性があると言いますか、すごく手間がかかりますのでできればフェイスブックをやるときには一人とかふたりとかフェイスブック担当を決めていただいて投稿していただければと思います。

あとアカウントの設定、各クラブさんのアカウントを作ってください。また、どんなことでも載せていいということではないかと思っておりますので、例えば人の子供の顔がはっきりわかるような写真を載せようとかこういったテーマはやめようといったガイドラインは必要になるかと思っておりますので、そういったことも含めてお考えの方をしていいたと思います。ちなみにですね、主なSNSという形で参考までにご紹介しますが、ちなみにこれがフェイスブックですね、まあ私共の方でやっているフェイスブック、そしてツイッター、これはやめてしまいましたけれどもグーグルプラス、ライン、インスタグラム、ビートーク、いろいろある中で基本的にはフェイスブックをロータリーとすると進めていきたいと思っております。ちなみにですね、こちらロータリーの方ですね公式ソーシャルメディアがこんなにくさん、フェイスブック、ツイッター、ちょっとこれはわかりませんごめんなさい、インスタ、ユーチューブ、いろんな形で発信しております。とっつきやすいのはフェイスブック位かと思っております。ぜひ皆様の方のご検討をお願いいたします。ちなみに先程言いましたけれど、こちらがげんざいの地区のフェイスブックですね、みなさまもぜひフェイスブック持っていच्छる方は登録をしていただければと思います。ちなみにまだガラケーの方いच्छる方はないと思いますが、スマートフォンを持ってच्छる方はフェイスブックをインストールしていただいて、すぐ友達申請していただくフォローをしていただく、万が一ガラケーを持ってच्छる方はお帰りにドコモさんですとかに寄ってスマートフォンに替えていただきますと非常に助かります。

続きましてオリパラ情報の集約につきましては、地区ホームページにどんなところがキャンプをはりますよ、というイベントがありますよと随時発信していきたいと思っております。できればリアルタイムでできるだけ細かく発信していきたいと思っておりますので、できればあとで皆様にご案内しますけれども広報委員長さんはメールアドレスの登録

やラインでお友達、ライングループを作りたいなと思っているのですが、そういう意味を含めまして、ぜひ皆さまスマートフォンでラインとフェイスブックのアプリはインストールしていただければというふうに思っております。そういった情報を各クラブ、ホームページ、フェイスブックをリンクして、より発信力の強いものにしていきたいというふうに思っております。ちなみにですけれども、昨晚わたしが千葉県ホームページに行ってきたんですけど、まあこれ決まっているんですけれども、東京2020年オリンピックで、幕張メッセでフェンシング、レスリング、テコンドーが7月25日から8月の8日くらいまでオリンピックのイベントがあると、でサーフィンが釣ヶ先海岸のサーフビーチで7月の26から29日、オリンピックの正式競技が行われると。パラリンピックについては幕張メッセでゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車椅子フェンシング、千葉県でもオリンピック競技が行われますので、こちらにどのように関わっていくかですね、こちらの競技実際に見に行ったら、情報等を発信していきたいと思っております。ちなみにですね、こちらオリンピック、パラリンピックの情報をどういうふうに集約していこうとしますと、千葉県のホームページに、各月の開催のイベントというのが、東京オリンピック、イベント、千葉県とそういうふうに検索するとだいたいこのホームページにたどりつくかと思うんですけれども、ちょっとおもしろそうなのやっただけ抜き出してきたんですけれども、例えば5月の10日から15日ですね、フェンシングの女子各国代表キャンプというのが市川の国府台の体育館で行われると。観覧は自由で日本を含めた7か国の合同事前キャンプというのがこれがただで見られるというのが、先程のホームページを見てみるとわかると思います。そうするとじゃあこの日ひまだからみんなで見に行こうか、家族で行ってみようかと、皆さまが親睦の方と共有して企画して行っていただいてホームページにアップするということを発信力というのが高まるかと思えます。5月の14から18でパラリンピックのアーチェリーの強化合宿というのが木更津の公園で私はこれ近所なので見に行こうかなと思っております。6月の23日はアメリカの男子体操チームの事前合宿を公開するといったことを船橋市立の船橋高等学校の第三体育館というところで、やはり無料で行われるということがあります。なかなかそういう世界のトップアスリートの練習風景を見ることというのは稀かと思えます。これはもうオリンピックという競技がこのタイミングで行われることで、この地域に住んでいる私達が享受できるメリットでもあるかと思えますので、こういったイベント等を練習だけでもすごく貴重な経験になるかと思えますので、こういった情報を有効に使っていただいて、皆さまで見に行こうと、またそういったイベントを検討していただければと思っております。これは本当にごく一部を、おもしろそうだなと私が夜にPCからピックアップしたんですけれども、それだけでも、5月6月だけでもこのように後半になりますとものすごくいろいろ出てくるかと思えます。キャンプはアメリカとかイギリスとかそういう大きい国は事前に各自自治体とキャンプするかしないかという情報を打合せをしているのですけれども、まだ例えばアフリカの小さな国とかそういうような国はまだキャンプ地を探していないという所もありまして、これからど

ンドンキャンプ地や練習という情報が上がってくるかと思えます。そういう情報をですね、随時ホームページにアップしてですね、またラインで情報交換をしながら皆様にお伝えしていきたいと思っております。こちらの情報を有効に活用していただいて、私達ロータリアンとしてもですね、2020年オリンピックパラリンピックを楽しみたいと、またそれを外部に発信して、こんなに活気のあるクラブなんだということをアピールしていきたいと思いますので、事前に楽しむということをぜひ皆様とやっていきたいと思えます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。有難うございました。

司会：はい。ありがとうございます。大塚義仁、広報・公共イメージ向上委員長の活動方針でございました。このまま続きまして質疑応答に入りたいと思えます。皆様方の質問および体験談それに各クラブで考えている活動方針などをお話いただければと思えます。

先ずは率直にこれを聞いておきたいという質問のある方おられますか。どうぞ遠慮なく手お上げて下さい。

今日は会員増強で地区表彰されました市川RCと千葉RC、市川RCの木川さんはおられますか。千葉RCは高橋さんがおられます。後、広報活動で地区表彰された木更津RCは、今日はおられませんですね。木川さん、ちょっとお話しして頂けるとありがたいのですが。

木川：ご紹介いただきました市川RCの木川です。今日は表彰をいただきまして、実は今年度、年度始まりには、会員数が35名でスタートしました。その時の会員の平均年齢が確か69.7歳くらい、70歳近いという事で、ほとんどの方が平均年齢を上回っている方が頑張っているクラブでございます。やはり市川クラブは伝統のあるクラブという事で、自分が入会した時もそうなのですが、まだまだ入会するにあたって少し敷居が高いと言いますか、周りから見られる目がちょっと違うなというのを感じながら入会してきているようなクラブでもありました。ただ、そうはいっても35名まで会員数が落ちますと、予算を組むにあたって、中々活動の方も制限され始めてきて、このまま何もしなければドンドン会員数が減っていつの間にはないかと危機感もございました。

さて今回、加藤会長が54歳でして、ここ数年の中では会長としての年齢が若返りました。

次年度以降、3年先までの会長が決まっております、そのメンバー3人が、今、理事として理事会に参加しております。理事会は毎月第一例会時の前に行われるんですけれども、この理事会は大変楽しい雰囲気ができておりまして、それぞれ自分の会長の前に何とかしてくれという事で、どんどんどんどんプレッシャーを皆でかけながら、今年度何とか会員を増やそうという事で、多くの方が候補にあたる方を名前をどんどん出して頂きました。その中で、市川クラブといたしましては、女性会員を入れようという事で、女性会員というのはどこに行けばたどりつくのかと、色々と皆さんのアドバイスを頂きながら、それぞれが女性

会員がいるようなところに声をかけさせていただき、市川ロータリークラブを分かってもらうという事で動き出しました。今現在、女性会員が3名入会して頂いております。この後、まだ候補になる女性会員も何人かいらっしゃいますので、その辺を含めてやはりもう少し女性会員を割合を含めて増やしていければと思っています。

それと後、今の会長が54歳で、次年度の会長が53歳、その次が60歳ちょっとですかね、その後がまた今の年齢ですけれども53歳と、年齢的には大分会長をするには若いというかちょっと遅い年齢ではないかと思っています。もう少しクラブの会長というのは、若い時に走り切ってもらって、そしてその後地区とかいろいろな所に出て行ってもらえばいいかと考えております。現状市川クラブとしては、ここ3、4年の先を見据えた時に、非常にその下の世代を誘いやすいのではないかという事で、今、お声をかけさせていただいております。

現在43名という事で8名の新入会員がございまして、その8名が入会していただくことによって、平均年齢が2歳ほど若返ったという事で、まだまだこの若返りを図っていけばという事で、今、今年度中入会を目指してる方が二名ほどいらして、それ以降、次年度、次次年度につきまして入会してほしいという事でアプローチをかけている方が数名いらっしゃいます。出来れば全員入っていただいて、入った方がまたすぐどなたか誘っていただければ、クラブとしても活性していけるのではないかと思います。

まず、最初にお話した通り、毎月1回運営して行く理事会が、非常に元気に活発な活動をして行く上での重要な戦略会議になっているという事が、ここ数年の中では、クラブとしては一番変わって来たかなという事でございます。但し、この会員増強というのは、誰か一人動いたということでは成し遂げられないという事で、今43名の会員全員が意識を以て会員増強に向けて動いて頂いていただいているというのが現状でございますので、この活動を引き続き続けていきたいと思っております。以上です。

司会：ありがとうございます。今、理事会の話と若い会長、そして女性という話が出ましたけれども、ちょっとよろしいですか、理事会を毎月から隔月に替えたというクラブはあるのでしょうか。皆さん、毎月なんですか。

若い会長という話がありましたけれども、50歳以下の方が次年度会長というクラブはどのくらいあるんでしょうか。ないんですね。入会三年未満の方が会長というクラブは、あるんでしょうか。ないですね。女性が10人以上という所はどのくらいあるんでしょうか。ないですね。大変失礼いたしました。それでは、千葉RC 高橋さんお願いいたします。

高橋：皆さん初めまして。千葉RCの高橋でございます。

入会してちょうど3年と2カ月たった状況です。丁度一年近く前に梶原会長から会員増強やってくれとポンと肩を叩かれたんですが、まさか委員長になると

は思ってもいませんでした。その時の状況ですけれども、ちょうど会員数は85名でございます。今現在、101名になりました。純増が13名で、要するに各ナショナルブランドの支店長様が16名という形になっております。

会員増強委員長を任された時の背景としましては、ちょうど4年ほど前から千葉RCとしては100名の会員を目指そうという状況で、毎年毎年6名7名と純増していった状況の中で、重鎮の方々はなぜそんなに増やすんだと、増やしてどうするのと、関係的にはちょっとアゲインストかなという事がよくありましたけれども、とりあえず100名にするにはという事で、梶原会長の会長方針として、まず100名の会員を目指そうと、当時は85名でしたが、それをどういうふうにやっていくのかという事で、一人一人候補者を出してもらって、会員一人一人がその候補者をしっかり会員にしていこうという思いでやってもらえばいいと。各委員会ごとに、委員長がリーダーになってそれぞれチームになってもらって、候補者を選出してもらおうという形でやっていながら、それを毎月毎月理事会で見える化、要するに書類としてまとめて、各委員会がどの程度候補者を出してくれているのか、会員が今のくらいになっているのか毎月確認できるようにして、次第に渦が、最初は動かすまでが大変でしたが、それを動かすにあたっては会長自ら20名の候補者を出してもらったり、その都度の候補者の進捗状況等々を話しをしてもらいながら、他にこの候補者を知っている人がいないかという事を含めて、全員で共有しながら会員増強をして行こうという事で、基本的にはチーム制を取りながら、チームをそれぞれ評価していくために、会員増強ダービーという形のイベントをしていく状況の中で、今日に至って居ります。

基本的に会員の維持ですが、基本的に千葉RCとしては、何が魅力なのかということをしっかり打ち出さない限り、会員増強はなしえないだろうという事で、私はちょうど入会して4年目になるんですが、各委員会ごとの活動が活発になってきて、全員が基本的に時間をとって委員会活動に参加してもらいながら、委員会活動をしながら、それぞれの自己啓発とか、奉仕活動に対しての意義とか感じながら、会員増強に関してのアプローチなども意識的に出来るような形になってきたのだろうと考えております。新入会員に対してのフォローについては、ベテラン会員の方がフォローにあたって貰ったりだとかしながらクラブとして統制も大分とれるようになってきました。当初アゲインストだったような方が、色々新入会員に対してフォローしていただくような形になって来ているのが、今現在の状況です。毎月会員の候補者の方が、実際に会員になられる方が選出されるようになってきております。以上です。

司会：はい、ありがとうございます。高橋さんとはよくお話をさせて頂くのですが、非常に参考になる話が多いと、いつも感心させられております。

続きまして昨年度会員増強で地区表彰を受けたのが、申し上げにくいのですが私のクラブなんですが、しかも私の会長年度でありました。私自分の口から

申し上げるのは、言いにくいので、うちのメンバーが今日は三人程来ておりまして、会員増強委員長の池田孝さんお願いします。

池田： みなさんこんにちは。柏南 RC の会員増強委員長の池田と申します。昨年寺嶋年度の時に会長が純増の目標を大きく掲げました。まず5名という事で掲げまして、まず5名が早々と達成したので、その後に10人というように先ず会長が方針をしっかり固めて、わたくし会員増強委員長を指名されまして、しっかりお願いしますという事で活動を始めました。その中でやったことは、みなさんやってらっしゃると思いますが、理事会でリストアップをしまして、毎月、月毎に進捗状況を報告して、皆さんにご報告して、この方を誘うにはどなたがアプローチするのがいいのかという所で、そういう所も考えてアプローチを行ってまいりました。

あとは、柏商工会議所は青年部がとても元気がある所で、会員数も100名を超えていまして、そのOBがロータリーにメンバーとしていましたので、その関係を使って商工会議所の青年部、45歳で卒業の後、当ロータリーに入っていただく道筋を付けるべく、有力者を中心にピックアップしてお誘いして入会していただいて、そこから芽づるといふか順次ご紹介いただいて当クラブに入っていただくような形の流れを作ってまいりました。それが現在も継続して、今後も継続していく予定であります。以上でよろしいでしょうか。

司会： 続きまして、特別扱いをするつもりはないんですが、柏南クラブのこの作業が大きく貢献したかなという思いです。当時のガバナー補佐であります大内さんが、先程からクラブ運営に柔軟性をという2016年の規定審議会の決定を早々と情報を取入れて、細則の変更を持っていったという話をしてもらってよろしいでしょうか。

大内： 柏南 RC の大内と申します。その前に一つ堀内委員長、質問させてもらってよろしいでしょうか。

先程ローターアクトクラブを含み3クラブの新設をというお話がありましたけど、これはローターアクトクラブをロータリークラブに昇格することでしょうか。

堀内： これは今規定審議会、山田パストガバナーがお帰りのになったのですが、一応この間あった規定審議会、ローターアクトクラブをロータリークラブに参入するということが、可決されました。2790地区がどのように対応するか、現在この地区ではローターアクトクラブが新しく2クラブ新設されます。その方たちの分担金とかクリアしない問題がございますけれど、諸岡ガバナーがどのようなサゼッションをするかこれからだとは思いますが一応可決されたという情報が入っております。

大内： 私は伝統というのは革新の連続だと思っています。

2016年の規定審議会というのはとても衝撃的で、すぐにこれは細則の変更をしなければいけないのだなとその時思いました。一番そのとき思ったのは、入会金と会費でございます。先程ご説明がありましたように、手続要覧というかまわってきた書類によりまして、会費だけをよこして、入会金を黒く線で抹消してというふうな風に理解していいのかなというのがわからなくて、理事会をかけて、どうもこれからは入会金を取っちゃいけないみたいだぞと話になったんですね、ところがですね、入会金というのは実際問題我々みたいな小さなクラブでは必要な経費でして、いろいろな備品をですね、結構お金がかかるので、我々の勝手な細則、判断ですね、入会金ではなくて入会準備金という恰好でいままで10万円でいただいていた入会金を5万円にしようということを細則で決めました。あと細則では、一週間で祭日のある週は休んでいいとかですね、そういったことを全てもう一回洗い直して、アールアイの言う多様性を重んじるという、そして点若い会員をいっぱい入れてほしいということだったのですが、若い人というのは昼間働いているんですね、なかなかそういう若い人を入れると言ってもこういう風な制度の中で果たしてそういう人を会員として迎えらるのかという疑問もありましたので、我々は細則の中でいろいろ考慮できることは考慮すると。また、歳を召した会員様をですね、ロータリーが好きで毎日毎週通いたいんですけれどもなかなか出られないという会員さんに対してですね、我々はいままでの功績を憂慮しましてね、アールアイの分担金ですとかどうしても会員として必要な金額というのがありますので、それを払っていただくという形の中で、特別に会費の額を設定してですね、それで特別会員ということで歳を重ねた方からのバックアップをさせていただきました。以上でございます。

ちょっといいですか？

いま大内さんの言われたですね、入会金の件でございますが、入会するときに様々な費用がもちろんかかります。従いまして、入会金を取っちゃいけないというわけではなく、入会金とか入会準備金ですか、クラブによっていろいろ名前を変えているようですけれども、それは自由裁量でとらえていいと。実は私共のクラブ、ちょうど30名を一瞬切ったんですね。いま言った祭日規定ですか？ホテルでやっておりますので、非常に会費の収入が30名を切りますと正直言って苦しくなってきました。そこで、私が提案しまして祭日規定を採用したらどうかということで、現在2年目に入っております。ただこれがよかったのかどうか検証をいまこれからしようと思っているのですが、いま大内さんが言ったように、私共は千葉ロータリークラブができて2年目にできた古いクラブでございます。やはりそれなりの長老という方がおられますので、私が会長のときに、12年前、私32年経ちますけれども、女性会員を入れるというときにもだいぶかなり抵抗がございました。でもなんとか説得しまして、現在5名の女性会員がおられますけれども、やはり古い方というのは昔のロータリーが懐かしいと、本物だという

方がいらっしゃると思いますので、毎週みんなと顔を合わせるのがロータリーだよという方もおられますので、お金が足りないといま32名ですけれどもやっていけるのかと、そこはやはり今後クラブで検討してかなければいけないと思っております。以上でございます。

司会：ありがとうございます。いまちょうど女性会員のお話が出て、私も一応女性でございます。実はまだ入会しまして二年と半年たっておりません。こんな私を名門と言われている成田RC、男性だけでできておりまして、勉強されたコスモポリタンRCも男性のみのクラブで、もう70名を越したクラブになっております。私を受け入れて下さった会長が今日こちらの会場にいますので、ぜひ女性を入れるきっかけになったお話を聞かせて頂きたいなあと思っております。すいません、石川元会長、お願いいたします。

成田RCの石川でございます。私が会長の時は、コスモポリタンクラブの青木ガバナー年度でございました。地区の最重要課題が、会員増強という事で純増10名と皆様方に頑張っていただきました。確か8月の会員増強月間に例会の中で時間をいただきまして、6テーブルに分かれましてディスカッションをして会員候補をあげていただきました。そして成田クラブでは毎年新会員の数値目標を純増2名以上と決められておりますが、会長年度が始まる2、3カ月前に、各委員長さんに最重要課題でもあるし、最低でも5名以上は新入会員を、そして成田クラブは女性会員が居りませんでしたので女性会員を数名お願いしますと話しておきました。その結果、女性会員が4名、矢野さんという素晴らしい会員が入会していただきましたが、女性会員4名という運びになりましたが、たいへん明るくなり活気に満ちております。以上でございます。

司会：ありがとうございます。今日こちらの会場に女性会員の方が結構いらっしゃるの、ちょっとお話を聞きたいと思います。横にいました。隠れていたんですけど、女性会員としてはいられて困った、逆に楽しかったという事は何かございますか。

野田RCの白島と申します。入会して3年半、4年になります。私共のクラブは女性が5名6名、比較的他のロータリークラブに比べて多いクラブでしたので、実は入会した第一の理由は女性会員が多い。メンバーも60名弱、50名台くらいおりましたので、メンバーも多いので諸先輩方も多くて、いろんなお仕事を諸先輩方がお手伝いして下さるだろうという事で選びました。入らせて頂きました。それで女性会員として困った事はそういうわけでありございません。楽しいことは、そういう中でも男性会員の方も大変親しくしてくださいますのでそういう意味では混合されているというか、毎回例会を楽しみにさせていただいております。

司会：ありがとうございます。まだ女性会員の方がいらっしゃるの、たぶん女性会員の方は皆さん、私もそうなのですが、ロータリークラブの方は時々女性

扱いしていただける、こちらの皆様方はとても温かく迎えていただけて、会社では鉄の女というような扱いを受けるんですが、さてこちらにお二人いらっしゃるの。

柏東RCの正田と申します。私はまだ入会しまして1年4カ月目となります。柏東RCは41名ですが、女性がそのうち8名になります。入った時は女性が多かったので私自身は余り不安もなく、また皆さん女性も含め、男性も含めとても仲が良く年輩のかたちも温かく見守って下さるので、今は楽しくクラブの例会に参加させていただいております。まだまだわからないこともたくさんあるんですが、学ばさせていただいております。ありがとうございました。

みなさんこんにちは。同じく柏東RC、三井と申します。私も今の増田会員より、1年1、2カ月早く入会しておりますので2年と5ヶ月位になります。今八名ということで増田会員の方から説明がありましたけれど、当クラブは11グループの中でも合同例会などに行きましても、女性が多くていいねと言われるようなクラブで、実際に親睦の面などでも、若手の比較的50代の会員を中心として、銭太鼓という、実際に太鼓をたたくわけではないのですが、リレーのバトンのようなものを右手左手二本持ちまして踊る銭太鼓というバチを振るんですが、そういう部活のように練習して親睦旅行などまた例会などでも披露してまとまった感じでやらせて頂いています。特に困った事はないんですが、年齢で言いますと長くベテランの方もいらっしますので、そういう方々と実際ゆっくりお話するというのが、週1回の例会などではちょっと足りないところもあるので、いろいろまだ足りない所も沢山あるなと思っている次第です。ありがとうございました。

まだまだ女性会員に抵抗のあるクラブがあるのも重々承知しております。逆に東京は女性だけの会員クラブもありまして、男性は敷居が高くて入れないというクラブも存在しております。ただ、いろいろな方が交わることで影響が変わってくると思いますので、ぜひデメリットだけではなくメリットを追っていただいて、女性会員のことはみなさん持ち帰っていただいて、みなさんいま一度お話していただければいいのかなと思います。変わりました、いままで会員状況のお話がメインだったんですが、今年度広報表彰を受けました木更津ロータリークラブの方が今日お見えではないということで代表で堀内委員長お願い致します。

堀内：今日、広報の優秀クラブということで表彰を受けて、今日、部会別会議は堀内が行くからいいだろうということでお休みなんです、で、どういうことで表彰を受けたかということとをさっき冊子を見ましたところ、ブルーベリーを栽培している全日本ブルーベリー協会の副会長をしている方が私共の会員にいますね、彼が一生懸命ブルーベリーの観光農園をやっているんで、それをじゃあみんなでアクアラインマラソンハーフ、フルマラソンとあるんですけども、ブルーベリーを冷凍するんですね、それをみなさんお分けし

たら喜ぶんじゃないかということのアイデアで、ロータリーデーってありますよね、ロータリーデーときに TENT 張ってのぼり旗を立てて、ゴールした人には我々会員が、小さな入れ物に入れて、冷凍ブルーベリーを配ったんですね。これが非常においしいということで評判になりまして、2年に一遍、知事のほうがやろうということでアクアラインマラソンをやっていますが非常に好評で、もうないのかということで、5キロのブルーベリーを配って広報活動で実際に会員増強になっているのかどうかは難しいんですけど、ただロータリークラブはこういう活動をしているよということで、広報して今日表彰を受けたのではないかと考えております。女性会員の件でございますけれども、私が12年前会長のときに思い切って採用したんですね、1989年に RI のほうで女性会員を認めるということをいち早く聞きましたんで、私が会長でご挨拶のときに女性を入れたいと言いましたら猛反対にあいました。当時私は60歳でしたけれど、堀内なに言ってんだと、ロータリーは紳士のクラブで淑女のクラブじゃないんだということを言われまして、そう言われて困ったんですけど、でもそういう反対をされている一人一人と私が話し合いをしましてご理解いただきました。そこで、たまたま私が通っている病院の院長先生にまずお願いして入ってよということで、そしたらその先生の紹介の薬屋さんの女性と我々が良く利用している割烹料理屋のおかみと、3名とりあえず入れたんですね。そのとき48名いて3名だったんです。今現在ですね、残念ながらやはり古いクラブなので、66年経っておりますので、鬼籍に入ったり、退会された方多いということで32名まで減少したのですが、女性が5名、逆に2人増えて、今年度会長にも、女性会員を10名にしようよと今現在話をしております。女性はどういうジャンルがいいのか、美容院の方とかいろいろいるようですけれども、いま現在ふたりほど候補者がいるということで、増強していこうかなというふうに思っております。以上でございます。

司会：ありがとうございました。いまフェローシップ、親睦にもつながるかと思われる話が柏東ロータリークラブさんの太鼓の話、木更津ロータリークラブさんのブルーベリーの話でした。いろいろ各クラブさんで独特な企画をたぶん多くされていると思います。アットランダムにクラブ名を指定させていただきますので、各クラブさんの代表の方、我がクラブではこんなことをやっていますよという話をぜひお話いただければと思います。

第9グループの多古ロータリークラブのどなたか代表の方、お話いただけますでしょうか？いまマイクをお渡ししますのでお願い致します。

ご指名ですので、多古ロータリークラブで会長2回、幹事を2回今度親睦委員長をいたします飯田といいます。多古ロータリークラブでは現会員は17名おります。女性会員、過去一度入られたこと、私が入会するまえあったようですが、いかんせん人口1万6千人の小さな町なので女性経営者、観光業もありませんし、なかなかおりません。過去にコンビニの店長をやっていたらっ

しゃった方とか大きな町だと保険の外交の方とか、私は決して女性が嫌いということではないんですが、なかなか該当する方というのはいないということが現状でございます。まったく参考になりませんが、以上でございます。

ありがとうございます。多古ロータリークラブさんで、なにか親睦や家族だったり、他の方たちとか共同で企画とかなかイベントなどはされておりますか？

17名ですので、とっても仲のいいクラブですね、毎回親睦をやっているようなものです。やっぱり飲み会だとか過去にはスポーツ観戦だとか、いろんな親睦には事欠いていないとは思っております。2年ぐらい前に来られた方には多古は親睦会いりませんねと、人数が少ないものですから、それよりも会員増強したほうがいいのではないですかと苦言を呈されたくらい仲のいいクラブでした。以上です。

それでは、今日いらしている中で比較的クラブの人数の多いクラブをご指名させていただきたいと思います。第13グループの松戸ロータリークラブのみなさま、どちらにいらっしゃいますか？松戸の方いらっしゃいますか？そうしましたらですね、次に多いのが成田コスモポリタンの方いらっしゃいますか？

それでは親睦の、コスモポリタンさんならではのなにかよいところをぜひお願いします。

萩原：成田コスモポリタンロータリークラブの萩原と申します。親睦といいますと特に変わった事はやっていないんですけど、ゴルフが上手な人が多くてですね、ゴルフの練習場かゴルフ場のオーナーなどが多くてですね、そういった会員が何人もいるものですから、そういった中でゴルフのレベルが大変高くてですね、グループの中でやってもいつも優勝できるというのがうちの特長かなというふうに思ってます。

結構ゴルフは皆さまやられている方が多いのかなと、他にうちのクラブは結構独特なことをやっていますよという方は挙手のほうお願いしてもよろしいですか？ご指名したほうがよろしいでしょうか？それでは手が挙がっておりませんので、わりと比較的新しいクラブさんのほうに移っていきたいと思います。浦安ロータリークラブさんいらっしゃいますか？そうしましたら、浦安クラブさんいらっしゃいますか？

古志：浦安ロータリークラブの来年度親睦会長をやります古志と言います。うちのクラブではゴルフは盛んにやっています、併せて地区の野球のチームもやっています、うちのクラブ以外でも、近隣の方々も参加して、それがまた違うクラブさんとの交流の機会にもなっている潤滑剤になっているかなというふうに思います。またうちのクラブ、広報の大塚委員長がうちのクラブでして、先程オリンピックパラリンピックを調べられていたように思いつきでいろいろアイデアが出ることが多いんですけど、それに乗っかってみんなでワ

イワイとやってみようかということで、スポーツ観戦行ってみたり、スカイツリーに行ったり、年度によってあがることがあります。来年度親睦委員長の私と大塚委員長ふたりでオリンピックの観戦に行くということにならないように、みんなを巻き込みながら和気あいあいとやれたらいいかなと思っております。また、近隣のグループのみなさんとの交流会もやっておりまして、第1グループの中でもこの年齢の人達集まりましょうというような懇親を深めたり、市川南さんとも連携を取ってやっています。以上です。

ありがとうございます。それではまだ当てていない第5グループの中からご指名させていただきたいと思います。君津ロータリークラブのみなさまいらっしゃいますか？いらっしゃらないですか？では、君津ロータリークラブのみなさまよろしくお願い致します。

大川：親睦委員長を仰せつかっております君津ロータリークラブの大川と申します。本日はよろしくお願い致します。当クラブの親睦活動としましては、新日鉄君津が地元にある企業ですので、ゴルフ等々過去はあったと聞いております。あとは山砂関係、日本酒、君津は日本酒の産地でございますけれども、そういう事業の方々はゴルフが好きで結構やられていたと聞いていましたけれども、あくまでゴルフ好きの集まりですので、最近としましてはグランドゴルフ、ボーリング等々をいろいろと考えて開催しております。私の時代、次年度といたしましてはボーリングとかゴルフとか考えているんですけれども、やらないというのもひとつの選択かなととりあえず思っております。以上です。

司会：それでは、いまお話の中でオリンピックパラリンピックの話も出て来まして、ちょうど千葉県は開催地区でございますし、先程堀内委員長のほうからもお話がありましたブルーベリーですが、国内第2位の野菜大国の千葉県でございます。そういうのも絡めて、実は今年度、次年度さらにその先、オリンピックも絡めて、実はこんなことを企画していますということはございますか？それをやってみたいと思われるクラブございませんか？ぜひお名前の方お願い致します。

岩佐：流山中央ロータリークラブの岩佐と申します。まだまだ頭の中という状態ですが、私共の活動地域である流山市がオランダの女子だけかもしれないのですが、室内競技の合宿地ということが決定しております、女子バレーは特に強いので、もうすでに去年ワールドカップかなにか国際大会をやられたときに合宿地としてもうすでに合宿をやっていただいております。これからまた出場状況？がハンドボールやバスケットといったものも対象に入ってくるし、男子もどうなのかなというところはあるのですが、なにしろ女子のバレーはほぼほぼ間違いなくオリンピックのほうは出れるんじゃないかと期待しているので、今度は日本でやる時には、私が生きていないだろうということもありますんで、やはり地元とオランダとの交流や応援イベントを特に小学生とか選手と歓迎のセレモニーなどを企

画していききたいなと考えております。以上でございます。

司会：ありがとうございました。他の地域の皆様も誘致が決まっていますという準備も町ぐるみ始めているという、ロータリーも参加できているのではないかと、という地域もあるのではないと思うのですけれども、先程サーフィンでしたっけ、海辺のほうですよね、一宮の管轄するエリアの方の皆様というどちらになりますか？先程お話されました？茂原のエリアの皆様いらっしゃいますか？第7グループですね。

今日来ていらっしゃるのは茂原中央ないしはそのご近所ですと、大網、成田空港南のみなさま、どちらにいらっしゃいますか？お名前のほうお願いいたします。

猿田：茂原ロータリークラブの猿田と言います。サーフィン一宮でやりますが、それにかからめて何か企画しているということは特段ないんです。

なにかやってみようとか、やってみてもいいかなというのは今のお話を聞いて思われましたか？

ちょっとあまりいまのところ思い浮かびません。

広報の大塚ですけれども、例えばその会場の海岸線のゴミ拾いかなにかを地元の自治体でボランティアで募集するかというのが出てくると思うんですね、会場設営の関係で。そういったようなことがございましたら、地元しかそういった情報が流れないケースがあるかと思うので、ぜひ外部ですとか私共に情報をいただきましたらですね、例えば何月何日ロータリーの人達集まりましょうとロータリー的な参加もできるかと思しますので、そういう情報が出ましたらぜひ教えていただければというふうに思います。ぜひよろしくお願いいたします。

はい、承りました。

司会：このような形で地区役員メンバーが皆様のこんなことできないかと、いろいろ相互フェロシップ、奉仕活動等のバックアップをしていきたいと思しますのでぜひみなにかございましたら地区のほうのメンバーまでご連絡いただければと思います。地区委員長の名簿は皆様の今日地区協議会の中に入っておりますので、そちらのほうにご連絡、随時メール等をいただければと思います。よろしくお願い致します。

それではここでお二人のアドバイザーに総評のほうをいただきたいと思います。

石井亮太郎パストガバナーお願いいたします。

石井亮太郎パストガバナー：大変あの目新しい情報がそれぞれのクラブさんでおやりになっている貴重な情報を提供いただいて、発言なさっていらっしゃる方も参考になっているのではないかと思います。

さっきお話が出ましたローターアクトクラブを、ロータ

リークラブに変えるとか、RI 会長が提案されたそうですが、決議された、あと私はどんな形でこれはロータリークラブにできるのかなと、ちょっといま委員長が地区ではまだ議題に入れて審議するような機会を持っていませんとのことで、いずれまた諮問委員会等でそのような議論を行う場ができるかと思いますが、木更津東の山田さんがお見えで、規定審議会代表議員としてアメリカ行ってらしたんですけれども、実情をよく伺いしなないと私もよくわかりませんけれど、この会議で参考になられたことも沢山あるかと思うます。ただ、私個人的に、主観を申しますとね、ロータリーってというのは変ってきているなと思うんですね。私ロータリーに58年いるんですけれども、さっき古いロータリアンが昔のロータリーが懐かしいとおっしゃっている方がいらっしゃるという話がありましたけれど、変わってきてますよね。これでロータリーって成り立ってくるのでしょうか。非常に私は悲観的にロータリーを最近見るようになっていましてね、ロータリー運動ってそんな大それたたいした運動ではないんですよ、クラブですから、クラブってというのはお互いに共感しあえるような方たちが集まって親睦を図るとかですね、あるいは奉仕のことをいろんな共通の課題として、その地域の活動として楽しむというのが基本理念なんですね、だけどロータリークラブの親睦というのはただ楽しくあればいいってということではないように私は理解しております。原点回帰、昔の古きよきロータリーの中にですね、ロータリーの基本理念というのがあって、精神的理念なものを尊重して発展してきたわけですよ、それが最近は何となく行動哲学に移行しようとする、ボランティア団体に変わっていかうように見えて仕方ないんです私には。私のクラブではね、新しく入ってくる方はだいたい JC OB の方が多いんですけれども、さっき商工会議所の青年部というお話がございましたけれど、こういう方たちと昔の話を申し上げて理解していただかないとうちのクラブの体質になかなかそろっていただけないという問題がありまして、私なんかは割合古い頭でロータリーを見て考えているもんですから、私のクラブは得居さんという、私より十何歳若い弁護士さんですが、この方、しかしそのロータリーを見る共通理念というものが彼と私は全く同じなんですね。彼は私より若いんですけれども、やはりロータリーかくあるべしと信念に基づいて、パストガバナーでもございますし、地区の中でもいろいろ活躍されている方です。私はもう年老いて、いま88歳になってですね、89に足が届いてあの世が近くなっていますから、あんまりとやかしくは言いたくないんですが、古き良きロータリーは良かったですよ。親睦の理念というものがただ単に楽しければいいという哲学ではないんですねロータリーは。そして、広報委員長には申し訳ないんですけれどもね、なんでロータリーが公共イメージだとか広報だとかそういうことに関わっていかないといけなくなったんだらなと思うんですよ。企業とか職業団体とは違います。一般社会の人達にロータリーがどう見られたらいいんですか。実質がなくてPRやったってしょうがないじゃないですか。その実質はなんで生まれるのかと考えなきゃいけ

ません。ロータリーの親睦というのは精神誠心誠意尊重する、お互いに週1回の例会が月2回でいいとかインターネットで例会がいいとかこんなんでロータリーでいいのかと私は思うんですよ。やっぱり私は人間の肌のぬくもりを感じられるような心の触れ合い、これがロータリーの真の親睦だとロータリーはずっと言い続けて来たんですよ。そしてその心の高まりを持った、ロータリーの心を持った人が行動を起こす時に、ロータリーはそれを本質というんですよ。絶対団体を組んで力と数で世の中をよくしようなんていう発想はなかったんですよ、元は本来。これをやりますと戦争の要因になりますよ、人は団結して結束して力と数で自分の正義を主張するために他人の正義を破壊し自からの正義を正当化しようとする。これが国家間に起きると戦争になるんですよ。ロータリーは全くその反対を行こうとする団体です。世界中が平和でみんなが幸せになるためになにかができるかっていう根本理念をですね、もう一遍このへんで見つめながら、現代の社会にロータリーは対応しなければいけないのではないかなと、私は密かに思っております。これは総評にはなりませんけれど、ロータリーがあんまり変わるとロータリーでなくなる。さっき女性会員、会員増強、これも永いこと質か量かということをロータリーは喧々諤々やってきたんですね。人間の質ってというのはみんなそれぞれ違いますし、そしてできるだけ良質な方を入れていただく、ただ数だけ増やせばいいってものではないんです。ところが最近解散決議をしたクラブがあるということをやさしく私伺いました。この会員増強の表を見ましてもね、欠員になっているクラブが随分たくさんありますよね、なんで辞めるんでしょう。やっぱりこれは高齢化の社会の中で会員が減っていくという現況もあるかもしれません。それからロータリー面白くないよ、こんな団体しょうがないよと嫌気がさして辞めている方もあるかも知れません。私もこんなロータリーが発展していったら、私もロータリーを辞めるかも知れません。ただ私の心の中のロータリーを残しておきたい。いま私がクラブの中で盛んに語ることは、原点回帰、それを理解した上で現代のロータリー、その中で皆さん生きていきたいと思います。ロータリーの精神性理念、これがなかったらロータリーなんか何もありませんよ。そして団体でなにかしようじゃない、個人が何ができるか、個人が何をするか、ロータリーの心を持った方が動くそれは全てロータリーの奉仕につながるんですねとロータリーは説いています。そしてその生き様を見ている社会の方々がそれを共感できるような、それが公報であり、PRでなきゃならないと私は思うんです。ただ先程委員長には申し訳ないんですが、ああいいうインフォメーションを出して、ロータリーの公共イメージを皆さんに知らしめる、その裏側にあるもののほうが大事だと私は思いますよ。ただPRしてロータリーを理解してもらってそこに何が生まれるか、それよりは一人一人の人がこつこつとロータリーの云う奉仕の実践、それをやるために親睦をどう果たすか、なんで週1回集まるんですか、それを2回でいいなんてそんな略式なものがあつたらロータリーの心なんか育ちませんよ。私はそう思うんですね、で

すからインターネットクラブとか週2回とか世の中が変わっているんですけどもね、ロータリーの本質としてはそれに許容してはいけないんじゃないかなとは思っています。総評にはもちろんならなかったんですけども、私の個人的な主観をちょっと申し上げまして、まあこれに共感していただける方があったら真のロータリーをしっかりとつかんで、そして現代に生きる、こういうふうな生き様をもっていたきたいなとこんなふうに思います。すみません、長くなりました。

石井亮太郎パストガバナー有難うございました。

続きまして、杉木禧夫パストガバナーお願い致します。

杉木禧夫パストガバナー：皆様、お疲れ様でございます。色々など意見拝聴させていただきました。最近のロータリーの考え方は、顕著で、石井 P.G もその点について触れておりますが、2016 年の規定審議会は、特にその変わり方に私共は驚きました。その結果、例会開催につきましても月2回というクラブも出現しました。勿論今まで同様、週1回開催というクラブも多数あるかと存じます。私共茂原 R.C は、週1回例会を踏襲しております。これ等は、それぞれのクラブで時代に即応し、選択することで大変重要なことと存じます。

この例会開催につきましても、今までは画一的なもので、各クラブが特長を持ちませんでしたが、その開催回数も多様なものになって参りました。これからは、クラブも企業と同様に選択される時代となり、その盛衰も生まれてくるのではないのでしょうか。

この様なことを考えますと、先程千葉クラブの高橋さんが触れていましたが、只クラブが増強するというのではなく、どの様なクラブになることが望ましいか、この様なことも肝要なことと存じます。

そこで私見ですが、各クラブは今こそ中長期的なクラブ作り、理想的なクラブ作りを検討すべきではないかと考えます。当然乍ら、各クラブは、自治権を持っている訳ですから、クラブの活動目標に共鳴する地域の人々が参加したい、入会したいというクラブが出来れば素晴らしいことと思うのです。

各クラブの横並びの時代は終わったと思うこと、そして元号も変わる機会をとらえ各クラブが、中長期的なクラブ作りを検討すべきではないのでしょうか。そしてクラブ活動の目標を明確にし、その事が地域社会の方々に理解いただけるならば、大変意義あるものと私は考えます。

私見を交えての事で総評になっているか疑問ですが終わります。

本日は御苦勞様でございました。

杉木禧夫パストガバナーありがとうございました。



奉仕プロジェクト部会



■奉仕プロジェクト部会

リーダー	次期・奉仕プロジェクト統括委員会	統括委員長	関 一憲
サブリーダー	次期・社会奉仕委員会	委員長	三神 秀樹
サブリーダー	次期・職業奉仕委員会	委員長	高橋 潤一
サブリーダー	次期・国際奉仕委員会	委員長	吉田 朋令
サブリーダー	次期・青少年奉仕委員会（ロータリー学友会担当）	委員長	山本 美代子
アドバイザー	パストガバナー		中村 博亘
アドバイザー	パストガバナー		山田 修平

・諸事お知らせ 司会より

青少年交換・RYLA・インターアクト・ロータリーアクト関係は別会場。

各クラブ委員長、担当の方には向けての抱負、事業方針、事業計画等を発表いただくこと。

質疑応答は時間の関係でこの場ではお受けできないため必要があれば、後日委員会にお問い合わせをお願い。

・アドバイザー・委員長・委員の紹介 司会より

・奉仕プロジェクト委員会統括委員長挨拶 関 一憲

次年度の地区組織について案内。奉仕プロジェクト統括委員会は実践部隊と認識している。

4 委員会は、以前は独立していたが、今は統括していることに意味があり、委員会を超えた活動を進めていきたい。

奉仕プロジェクト推進セミナー 9・28 に開催！！

卓話について、ガバナー事務所へたくさんご依頼ください。

統括委員長の発表

現在地球の人口は 76 億人だそうです。その中で約 10 億人が飢餓、水で苦しんでいるといわれています。そして 5 秒に 1 人の子どもが飢餓および水問題で亡くなっているそうです。一方一人の人間が必要な穀物量は年間 180kg。世界の穀物生産量は 23 億トン。人類すべての必要な穀物量は生産さ

れています。一方少量自給率が低い日本においては年間約 2000 万トンもの食糧廃棄物を出しています。これは輸入量に対してなんと 3 分の 1 をしめます。我々は少しでも早く現状認識をして、地球の食糧問題や環境問題について考える必要があるのではないのでしょうか。地球人口爆発が動植物の絶滅を招き、環境変化が起こり様々な問題が世界で起こっています。

ロータリーには 6 つの重点分野があります。なぜこの 6 つになったかは、そもそも我々ロータリーが国際奉仕を行う中で絞られてきたものが重点分野です。つまり地球上で必要な優先順位の高いテーマだからロータリーは重点を置いています。

国連は 2016 年に発表した 17 のゴールを発表しました（SDGs）。6 つのテーマに似ていて、わかりやすいので参考にしてください。補助金を利用する方法もご紹介します。ここに参加されている皆様にはぜひ奉仕プロジェクト活動の推進をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

・青少年奉仕委員会（学友会担当）山本 美代子 委員長

ロータリーの奉仕は 5 つの部門に分けられ、ロータリークラブの活動の土台を形成しています。クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕です。

奉仕の第 5 部門である青少年奉仕は、指導力養成活動、奉仕プロジェクト、交換プログラムを通じて

青少年と若者によって好ましい変化がもたらされる事を認識するものです。

地区の組織上に、青少年奉仕委員会と青少年プログラム統括委員会があります。青少年奉仕委員会は、奉仕プロジェクト統括委員会の中にありまして学友会担当になります。

また、別に、青少年プログラム統括委員会があります。こちらは、インターアクト委員会、ロータリーアクト委員会、青少年交換委員会、ROTEX、ライラ委員会を統括しています。

それぞれが活動しています。

学友会は、大きくわけますと以下の2つです。地区財団委員会には財団学友会があります。米山記念奨学委員会には米山学友会があります。

活性化をめざし、ロータリアン、青少年、学友たちと手をつなぎまして、情報交換、情報共有をしながら、クラブや地域でどのような活動が出来るか模索し、行動の実践に努めたいと思います。

また、ロータリー希望の風奨学金も担当しております。国内外、ロータリークラブ会員有志によって立ち上げられたプログラムです。

東日本大震災により、ご両親を亡くされたり、片親になってしまい震災遺児となった青少年たちに、少しでも学業を継続できるように、教育支援をしていきたいという願いから立ち上げられました。震災遺児の方々が高校を卒業して、その先、大学、短大、専門学校に進学した際、奨学金を支給する制度です。就学の間は、毎月5万円を支援します。返済不用です。震災遺児の成長にとっても役立っています。希望の風奨学金は、2033年3月に終了するという期間限定のプログラムです。ご存知ない方が、多いのではないかと思います。特に、新しく入会した会員さんなどは、ご存知ないと思いますので、例会等で伝えて頂ければと思います。志のある方は、是非ご理解頂きたくお願い申し上げます。

■各クラブの発表

習志野中央RC 奉仕プロジェクト委員長 高山さま

これまでに、数名の米山奨学生を受け入れていたが、カウンセラーの高齢化もあり交流が途絶えている状態。交流を継続していけるように考えていきたい。

松戸RC

青少年交換の受け入れをしていたが、名前と経歴しかわからない。カウンセラーが困ってしまう経験がある。松戸では受け入れを辞めようと思いましたが。

木更津RC 横山さま

去年の7月に入会。RCの運営に慣れていない状態。木更津地区において、青少年に関わることで奉仕活動を考えていきたいと思っている。

千葉西RC 川島さま

台湾からの留学生。カウンセラーの経験がある。

交流が続いている。北海道に就職。2カ月に1回ぐらい手紙の交換をしている。

佐原RC 職業奉仕 ★

青少年奉仕、青少年プログラム統括委員会の違いについてお聞きしたい。

青木年度に学友担当として作られた。

地域における青少年奉仕の切り口ではないのか？

中村PGより プロジェクトとプログラムの違いについて解説★

プロジェクト：各クラブ、地区がやるもの

プログラム：RIが作っているもの

・国際奉仕委員会 吉田 朋令 委員長

配布資料により発表。国際奉仕と言いますと、どうしても海を渡って海外でいろいろな奉仕活動を行うという大前提(固定観念)があるように思います。2790地区内83クラブの置かれている環境はそれぞれに違います。具体的には各クラブの規模や財政、そして地域性などです。そこで国際奉仕を海外(アウトバウンド)に限定せず、2790地区(インバウンド)各クラブの地元の地域に目を向けて、そこに暮らす在留外国人に対する奉仕もある意味立派な国際奉仕ではないかというアプローチをさせて頂きました。

この奉仕活動は国際奉仕委員会だけではなく、在留外国人に対する社会奉仕・職業奉仕・青少年奉仕の全ての多岐に関わる、奉仕プロジェクト統括委員会全体での取り組みになると思われます。

その為の最初の資料としまして、2790地区(千葉県)の在留外国人数に関しますいろいろな資料(千葉県における在留外国人数の推移、在留外国人労働者数、各市町村別の国別在留外国人数など)を配布致しました。今後は在留外国人に対する奉仕活動をしているクラブなどについて調査し、より必要な情報を提供していきたいと思います。

次に2018～19年度米山奨学会の富委員長に、米山奨学生並びに学友会のメンバーとコラボレーション企画として、海外での具体的な国際奉仕活動(アジア各地での人道的奉仕活動)の状況及び事例の案内によります、情報発信をして頂きました。最後に各クラブの2019～20年度の活動指針、及び地区補助金等を活用した事例等を4クラブの国際奉仕委員長に紹介して頂きました。

※具体的な事例として今年度、米山記念奨学委員長 富さんより米山奨学生ができる国際奉仕について、米山学友、奨学生がお手伝いできる国際奉仕があります。米山記念奨学委員会に問い合わせしてください。

事例① スリランカでの国際奉仕プロジェクト 実施RCを募集中
自転車を供与プロジェクト

図書館プロジェクト

事例② インドネシアでの国際奉仕プロジェクト 松戸中央RCで実施

インドネシア共和国バリ州のロータリアン、商工会議所会員との「ビジネスフォーラム」の職業紹介スピーチ原稿の翻訳。

■各クラブへの事例発表

松戸西 国際奉仕 石井さま

米山奨学生を受け入れたことがきっかけ。スリランカの留学生。スリランカの貧しい地域の出身。音楽室に楽器がないとの話から、楽器を提供する。今は、山武市市役所に就職。山武市にオリンピックのスリランカ代表の招致に成功。また、クラブメンバーがモンゴルに出張時、現地のRCに参加。グローバル補助金プロジェクトの井戸採掘、トイレの便器の設置の話し合いに立ち会うことになったことをきっかけに、プロジェクトに参加することに。

流山RCの知人からの質問を代わりに発表。

流山RCではフィリピンにトイレを設置したが、翌年行ったら現地の方が住み込んでいた。

本当にロータリーの国際奉仕に意味があるのか質問したい。

後日、委員長より回答差し上げることに

船橋RC 小西さま

フィリピン、台湾との交流、支援。

船橋市国際交流協会にメンバーを排出。

各国の大使を呼んで、交流会を実施。

千葉南

地区補助金プロジェクトで大連の障害者支援施設に対する支援プロジェクト。

パン屋、喫茶店の開業支援を計画。

劉会員が20年前に千葉南が受け入れた留学生。千葉大学医学部に來られた。今は当クラブのメンバーになっている。

中国でも薬の貿易をされている。りゅう会員の紹介でこの施設に訪問したことがきっかけ。

柏西 ★

45周年の記念事業を企画。タイ在住の日本人ロータリアンがいらっしゃる。タイの山岳地帯に住んでいる赤族に対する支援を続けられている。今回記念プロジェクトで水のタンクを支援することに。今年度も訪問して、子どもたちに社会見学、初めての買物を実施。

・職業奉仕委員会 高橋 潤一 委員長

配布資料により発表。

次年度 諸岡ガバナー年度、奉仕プロジェクト統括委員会の職業奉仕委員会委員長を拝命致し

た、新千葉ロータリークラブの高橋でございます。まず最初に日本のロータリーを世界に誇るロータリー大国に導き、ご指導下さった諸先輩方々に対して敬意を表し、感謝申し上げたいと思います。1905年にシカゴにおいて、ポールハリスの声掛けでロータリークラブができて114年が経ちます。

その頃シカゴの街は荒廃し、職業倫理観は全くなかったと言われておりました。現在の日本においての職業倫理観とは異なるものであります。実践社会の変化に伴い、ロータリーもより良いクラブ運営を迫っていく必要があると考えます。

ポールハリスは「ロータリアンは寛容であれ」と申しております。ロータリーは哲学と申し、ロータリーは人生の道場であると言うのであります。「理念の選択は実践を否定しない、実践は理念を否定しない」であります。

今年は平成が終わり新しい元号の時代を迎えます。我々ロータリアンにも変革して行くことが求められます。現在、日本には約9万人のロータリアンが在籍していますが最盛期には12万人を数えました。日本はロータリー発祥の地であるアメリカに次いで第二のロータリー大国でした。（現在はインドに次いで第三位）今世紀に入って欧米先進国の多くでロータリアンは減少していますが、その中でも日本の減少率が突出しています。メンバーの退会防止や会員増強が思うほど進まないのは日本の景気の影響だけでしょうか。日本のロータリーはもっと積極的に奉仕活動を行い、それを世界に発信していくことが求められています。

日本のロータリーが大切にしている職業奉仕は五大奉仕部門の中の第二の奉仕部門でありその他の奉仕部門と同じように奉仕プロジェクトの実践が必要です。自己の職業の品位と道德水準を高め社会から尊重される存在になることだけで満足するのではなく、クラブが開発した実際の奉仕プロジェクトに積極的に参加することが求められています。近江商人がお手本の「三方良しの精神」の「売り手良し、買い手良し」は経営理念として大切に育み、そして「世間良し」は実際の奉仕プロジェクトを企画して実践することが我々ロータリアンの使命です。職業奉仕とは自分のスキルや知識・人脈など持てるものを使い個人やクラブで時には他の団体と協力して奉仕対象が明確で効果が期待できるプロジェクトを企画・実践する事です。

つまり、自分の職業に対する姿勢をただし職業人としての誇りを持つことだけで満足するのではなく、ロータリアンとして自分の持てるスキルを活かして奉仕プロジェクトを企画・実践する事が五大奉仕部門の一つである職業奉仕であると理解して頂きたいのです。

職業倫理を守るとは職業人であるロータリアンの絶対的必要条件です。そして、実際に奉仕プロジェクトを実践することがロータリアンとして満足できる為の充分条件であります。

「一隅を照らす」

一隅とは、今あなたがいるその場所です。あなた

が、あなたの置かれている場所や立場で、ベストを尽くして照らしてください。あなたが光ればあなたのお隣も光ります。町や社会が光ります。小さな光が集まって日本を、世界を、やがて地球を照らしします。

あなたの一隅から世界を照らしましょう。1人ひとりが輝きあい、手をつなぐことが出来れば、みんなが幸せになり、素晴らしい世界が生まれます。1年間よろしく願いいたします。

■各クラブの発表

市川南 石田さま

まだ計画は立てられていないが、職業奉仕の基礎理念を理解してクラブに還元していきたい。

茂原 山田さま

午前の職業奉仕優秀クラブとして表彰された。17年間、出前教室をやってきた。会員の職場見学を計画。S A Aに協力してもらって、それぞれの制服で参加する仕事着デーを企画し、それぞれの職業を理解していきたい。

小見川 前田さま

会員企業の職場見学会をやってきたが、会員の減少によりなくなっている。

次年度は、具体的な活動は煮詰まっていない。

柏西 松本さま

過去は先進性、話題性のある職場見学をしてきた。個人的には企業の高潔性を高めることを考えると、お客さま、社員、社会に貢献していくことと考えている。

来年度は、原子力関係の職場見学を考えていきたい。

・社会奉仕委員会 三神 秀樹 委員長

ロータリーに於ける五大奉仕の一つである社会奉仕について「ロータリーの樹」で解説、所属している千葉南ロータリークラブが実施している社会奉仕活動の内容について紹介。

現在、千葉南ロータリークラブでは継続事業として、①社会福祉法人「ひかり学園」に対する支援活動、②地域河川に創立50周年を記念して桜の木を植樹したNPO法人「都川の環境を考える会」への支援活動 ③「国際里山の集い」を当クラブの「ロータリーデー」行事として毎年開催し、ロータリー会員家族をはじめ留学生とその家族の皆さん、そして子供たちとの交流を行なっております。地区補助金を活用したものでは、「千葉常胤物語」がありますが、それは紙芝居を千葉市内の小学生を対象にロータリアンが行ない、千葉のまちの礎を築いた千葉氏の歴史を知り、広める社会奉仕活動です。今回は、それらについて参加者に紹介をさせていただきました。また、「あなたのクラブの社会奉仕プロジェクトは？」という投げ掛けを各クラブの代表者にさせて

いただきました。

* 寄付・寄贈だけになっていないか

* 計画段階で参加人数の確認がされているか

* 自己評価に基づき継続性について検討されているか
以上の点について複数のクラブからその実態と今迄の反省点、そして今後の抱負等を語っていただくことができました。他クラブの実施している社会奉仕活動をお互いに知り、自クラブの活動に生かしていくことができるこの様な研修・協議会は大変重要で意義のあるものだと思います。奉仕プロジェクト統括委員会内の職業奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の3委員会とも連携を密にし、RIテーマである「ロータリーは世界をつなぐ」を全うしていく所存です。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

■各クラブへの事例発表

千葉西 与田さん

モノを寄贈するだけでなく、教育に対してプロジェクトを考えたい
子どもたち、学校の先生も待っていると思う。

勝浦 牧野さま

海が近くにあり、風光明媚なウォーキングコースのゴミ拾いをしている。

海開きの時に、他団体と一緒にビーチのクリーン運動をしている。

勝浦市内の小学生を対象に、料理教室をしている。職業奉仕プロジェクトと一緒に。

活動計画等で希望の風奨学生の担当は青少年奉仕となっているが、社会奉仕だと思っていた。

柏 神野さま

継続的にやっていることはほとんどない状態。

昨年、地区の補助金を使って、公園に高齢者向け健康遊具の設置、植樹を実施。

次年度も植樹を実施していく。参加人数もメンバーの1/3ぐらいは参加できている。

他団体の追従ではなく、新たな活動をしていきたい。

野田 三浦さま

継続的にお金を使ってやっていることはほとんどない。

近隣のクラブと一緒に、養護学校のクリスマス会に会長がサンタクロースとして参加。

ごみゼロもやっている。

・アドバイザーからの総評

■中村 博亘パストガバナー

お疲れ様でした。奉仕プロジェクト委員会を地区に持ち込んだのは10年前の私です。なぜならば、当時クラブリーダーシッププラン（活動計画書）をRIが推奨していた。CLPを取り込んだ時に初めて地区で、奉仕プロジェクトを取り入れました。皆様のクラブの活動一つ一つがプロジェクトです。そ

れを定款の中で、奉仕の5つの道に分けると分けてしまっていますが、奉仕の5つの道ということです。つまり奉仕をする中で5つに分けると考えやすいということです。あまり難しく考えないでほしいと思います。

会員基盤、国内・国外への地域社会に対するホウシプロジェクトの実施、財団への貢献、リーダーの育成、という4つの柱があります。これが元気なクラブを作る4つの柱です。だからこそ皆様の活躍がとても重要です。

みなさまが苦勞されるのは職業奉仕だと思います。外国とはだいぶ解釈が異なると思います。海外ではプロジェクトとしてとらえている。職業奉仕はあくまでもプロジェクトの一つです。職業奉仕の責務は、クラブの責務、会員の責務に分けられます。ロータリー章典にまとめられているのでお読みください。奉仕の理念とは、他人のことを思いやり、他人のために役に立とうということです。

社会奉仕は「社会奉仕に関する1992年の声明」をどうか読みください。WCSはRIでは2011年に廃止になりました。WCSはロータリー財団が主体で始めましたが、数があまりに増えすぎて間接費がかかりすぎ取りやめることになりました。本日は素晴らしい会合でした。お疲れ様でした。

各委員長のプレゼンも素晴らしかったし、皆様の発表も素晴らしかったです。

■山田 修平バスターガバナー

ご苦勞様でした。実は昨日夜中にアメリカの規定審議会に参加して帰国したばかりです。ロータリーには組織規定というものがあります。国際ロータリー定款、国際ロータリー細則、標準ロータリー定款がありますが、皆さんのクラブは標準ロータリー定款を使われていると思いますが、その定款や細則を変更する会議です。勝手に皆様のクラブがルールを決めることはできません。

しかしながらこの奉仕プロジェクトに関しては、規定はありますが、義務ではありません。

奉仕プロジェクトにいろいろ分類はあり考え方も様々ですが、難しく考えずに勝手に解釈していただいて結構です。それぞれのクラブで様々な活動することが大事で、活動した結果をどうであれアピールしてください。その活動が会員増強につながるのではないのでしょうか。100人のロータリアンがいれば100通りのロータリー観があります。ぜひ堂々と活動を行っていただきたい。全クラブがなんらかの奉仕活動をやっておられるということが素晴らしいです。





地区・研修協議会 奉仕プロジェクト部会

青少年交換、RYLA、インターアクト、
ローターアクトの関係はこちらの会場ではご
ざいません。
青少年プログラム部会の方へご移動ください。



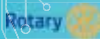
本日のスケジュール(13時～16時)

- 初めの言葉(司会)
- 諸事お知らせ(司会)
- アドバイザー紹介(司会)
- 委員会メンバー紹介(司会)
- 奉仕プロジェクト委員会統括委員長挨拶
- 青少年奉仕委員会より
- 国際奉仕委員会より
- 職業奉仕委員会より
- 社会奉仕委員会より
- アドバイザーからの総評
- 終わりの言葉(司会)



諸事お知らせ

- 青少年交換、RYLA、インターアクト、ローターアクト関係はこちらの会場ではご
ざいません。
- 諸岡ガバナーエレクトの強い要望で予定時間まで充実した会議を行う予定で
す。途中休憩を15分ほどいたします。
- ガバナー事務所から各クラブへのご案内のとおり、クラブ委員長様、またはご
担当者様には抱負、事業方針、事業計画などを発表お願いいたします。(この
時間が重要と考えております)
- 質疑応答は時間的制約のためこの場でお受けできません。必要であれば後
日委員会にお問い合わせをお願いいたします。
- みなさまの積極的参加を期待いたします。



アドバイザーご紹介

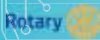
中村博亘DPG(柏西)

山田修平DPG(木更津東)



奉仕プロジェクト統括委員会

統括委員長 関 一憲(勝浦)



社会奉仕委員会

委員長 三神 秀樹(千葉南)

委員 池田 勝之(千葉)

委員 野本 茂雄(千葉)

委員 星 聡(新千葉)



職業奉仕委員会

委員長 高橋 潤一(新千葉)

委員 山崎 新一(船橋東)

委員 寄主 俊雄(千葉北)

委員 藤崎 泰裕(千葉西)



国際奉仕委員会

委員長 吉田 朋令(千葉東)

委員 谷 直知(成田)

委員 関 泰之(千葉)

委員 古西 弘和(成田空港南)



青少年奉仕委員会

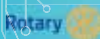
委員長 山本 美代子(習志野中央)

委員 小坂 学(千葉)

委員 安藤 泰健(東金ビュー)

委員 井上 大輔(習志野中央)

委員 富 一 美(成田空港南)



統括委員長挨拶

奉仕プロジェクト統括委員会
委員長 関 一憲(勝浦)

地区研修・協議会

地区奉仕プロジェクト統括委員会
統括委員長 関 一憲(勝浦RC)

第2790地区組織

- ・管理運営統括委員会(クラブ活性化)
- ・奉仕プロジェクト統括委員会(実践部隊)
- ・青少年プログラム統括委員会(青少年育成)
- ・ロータリー財団統括委員会(資金管理)
- ・米山記念奨学委員会(アジアとの懸け橋)

奉仕プロジェクト統括委員会構成

- ・社会奉仕委員会
- ・職業奉仕委員会
- ・国際奉仕委員会
- ・青少年奉仕委員会

※委員会の枠を超えた奉仕プロジェクトの開発

奉仕プロジェクト推進セミナーについて

2019年9月28日(土)

お楽しみに！！！！

卓話について

ガバナー事務所へ
たくさんご依頼ください



この数字は何でしょう？

- ・76億
- ・10億
- ・5秒
- ・180kg・・・1人1年に必要な穀物量
- ・23億トン・・・2011年の世界の穀物生産量。世界人口76億人で分けると1人が1年間に300キロ食べられます。
- ・2000万トン・・・日本の年間食品廃棄物の量。一人当たり150キロ。年間食品輸入量の35%。



6つの重点分野

- 平和と紛争予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生設備
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 経済と地域社会の発展



奉仕プロジェクトの種類

- ・クラブ単独のプロジェクト
継続事業
新規事業
- ・補助金を利用したプロジェクト
クラブ単独でできない大きな事業
新たなニーズに対応する大きな事業

補助金は2つだけ！

地区補助金

グローバル
補助金

以前は12個以上あったそうです。
シンプルになりました！！！！！！！！

22

寄付(＝活動資金)の流れ シェアシステム

皆さまからご寄付頂いた【年次基金】と【恒久基金】は、ロータリー財団で3年間運用後、活動資金として地区に配分されます。



入口はもちろん

出口が大事。



感謝

青少年奉仕委員会

- 委員長 山本 美代子(習志野中央)
委員 小坂 学(千葉)
委員 安藤 泰健(東金ビュー)
委員 井上 大輔(習志野中央)
委員 富 一 美(成田空港南)

青少年奉仕委員会 (学友会担当)

- 委員長 山本 美代子
委員 安藤 泰健
井上 大輔
小坂 学
富 一美

5大奉仕

ロータリーの奉仕は5つの部門に分けられロータリークラブの活動の土台を形成しています。

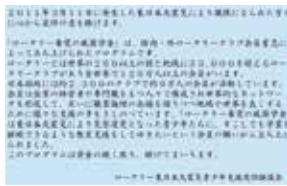
- ▶クラブ奉仕
- ▶職業奉仕
- ▶社会奉仕
- ▶国際奉仕
- ▶青少年奉仕

青少年プログラム統括委員会

- ▶ インターアクト委員会
- ▶ ローターアクト委員会
- ▶ 青少年交換委員会 Rotex
- ▶ ライラ委員会

学友会

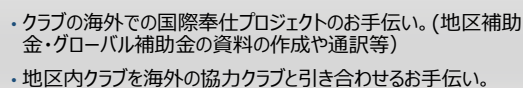
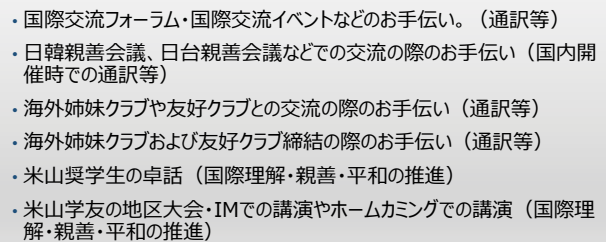
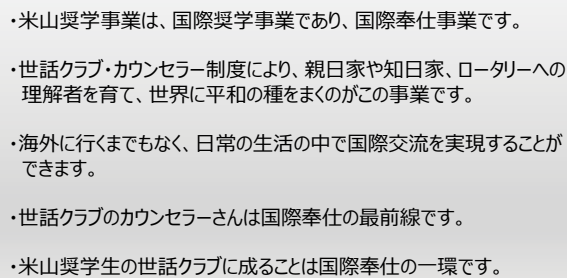
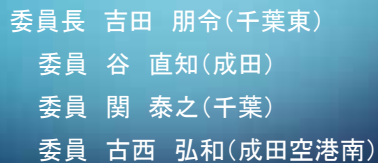
- ▶地区財団委員会
財団学友会
- ▶米山記念奨学委員会
米山学友会



教育支援をしていきたいというのが私たち会員の願いです。

申請期限
申請期限はありません。随時受付をしております。
ただし高校2年生以下の方は高校3年生になって進路が決定してから申請をしてください。

2014年8月1日 現在



スリランカでの国際奉仕プロジェクト



プロジェクト ①
スリランカのアヌラダプラ
(Anuradhapura) 地域周辺
の子供達に自転車を提供



プロジェクト ②
スリランカの子供達に図書館



・出身国：インドネシア
・2018-19年度
ロータリー米山記念奨学生

・アニス コイルン ニサ

・世話クラブ
東金ロータリークラブ

・アラビア語・英語・日本語・
インドネシア語



インドネシアでの国際奉仕プロジェクト

松戸中央ロータリークラブが
行う国際奉仕プロジェクトで
あるインドネシア共和国バリ
州のロータリアン及び商工会
議所会員との「ビジネス
フォーラム開催」に当たり、松
戸中央ロータリークラブ会員の
職業紹介スピーチ原稿の
翻訳を依頼されたものです。



休憩
(15分)

職業奉仕委員会

委員長 高橋 潤一(新千葉)
委員 山崎 新一(船橋東)
委員 寄主 俊雄(千葉北)
委員 藤崎 泰裕(千葉西)

社会奉仕委員会

委員長 三神 秀樹(千葉南)
委員 池田 勝之(千葉)
委員 野本 茂雄(千葉)
委員 星 聡(新千葉)

2019-20RY 地区研修/協議会

奉仕プロジェクト 部会別協議会
社会奉仕委員会
2019.4.20

国際ロータリー第2790地区
社会奉仕委員会

ロータリーの
社会奉仕活動
について

委員長 三神 秀樹 (千葉南RC)



各クラブが行なう社会奉仕プロ
ジェクトを理解し、「リーダーを結
びつける、意見を交わす、行動を
起こす」(Join Leaders,
Exchange Ideas, Take Action)
という国際ロータリーの目指す方
針の下、行事への参加や支援、
又は他クラブへの紹介を積極的
にしようと考えます。
地域によって特色のある活動を
互いを知ることは、大変意義深
いと思います。

社会奉仕
委員会

奉仕プロジェクト統括委員会(社会奉仕委員会)メンバー

奉仕プロジェクト統括委員会 委員長
兼 月信委員会 委員 関 一憲(勝浦RC)

社会奉仕委員会 委員長 三神 秀樹(千葉南RC)
委員 池田 勝之(千葉RC)
委員 野本 茂雄(千葉RC)
委員 星 聡(新千葉RC)

委員会
メンバー

五大奉仕の一つである社会奉仕

「奉仕部門」：クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕・・・ロータリーの綱領を支えるもの

各クラブが主体性を持って行なう活動

地区補助金 (DG) やグローバル補助金 (GG) 等の地区財団活動資金 (DDF) を活用して行なう活動

*ロータリーの綱領
「有益な事業の基盤として、
奉仕の理想を鼓吹、育成すること」



現在：「青少年奉仕」

以前：「新世代奉仕」

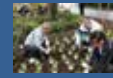
ロータリーに於ける「社会奉仕」

ロータリアンが自分の地域社会の生活の質を向上させるために行なう活動に関係するものです。

しばしば、より良い生活への希望の源としてロータリーを頼りにする若年者、高齢者、障害者その他の人々への援助が含まれます。



RI版「ロータリーのいろは」より



ロータリアンが行なう駅前花壇の手入れ

千葉南RC 社会奉仕活動

活動内容

- ① 社会福祉法人横の実会「ひかり学園」に対する支援の継続。
- ② NPO法人「都川の流れを考える会」の活動を支援し、交流を深める。
- ③ 毎年開催している「国際里山の集い」を当クラブの「ロータリーデー」行事とし、ロータリーの会員家族をはじめ、留学生とその家族の皆さん、そして子どもたちとの交流を深めていきたい。



「国際里山の集い」には、米山や財団の学友達も多数参加

桜の植樹事業（千葉南RC）



創立50周年記念事業

植樹の様子(千葉南RC)



創立50周年記念植樹の写真
(H25.2.22)

揃いのクラブ・ユニフォームを着用
「都川の流れを考える会」と共に



都川沿いに植樹した桜の苗

千葉南ロータリークラブのメンバー



植樹完了後の記念撮影



今年の桜：毎年この季節例会前に確認

社会奉仕プロジェクトの種類 (地区補助金活用分)

2017-18年度申請から抜粋

- ・小学生の食育を推進する運動
- ・常夜灯公園の照明塔への時計設置
- ・多言語紙芝居の普及
- ・公園のベンチ修復・修繕
- ・盲学校での体験学習



など

*皆さんのクラブでは、どの様な社会奉仕プロジェクトを行なっているのでしょうか。

社会奉仕活動紹介

千葉氏プロジェクト(千葉南RC)



千葉市内の小学校でロータリアンが紙芝居を実施

千葉常胤公ものがたり

千葉南ロータリークラブ・プロジェクト
「千葉のまちの礎を築いた千葉氏の歴史を知り、広める」
千葉 常胤(ちば つねたね)は、平安時代末期から鎌倉時代前期の武将。千葉氏を地方豪族から大御家人の地位まで登らせた千葉家中興の祖といわれます。常胤以降、一族は諱(き)に「胤」の一字を受け継ぐことが多くなります。

千葉のまちの礎を築いた千葉氏。なかでも源頼朝を助けて鎌倉幕府成立に貢献した千葉常胤の活躍を描いた漫画「千葉常胤公ものがたり」と紙芝居「千葉常胤物語」を千葉市内小学校111校へ寄付し、寄贈した紙芝居については、上演も行いました。



活動概要



あなたのクラブの社会奉仕プロジェクトは？

- * 寄付・寄贈だけになっていないか
 - * 計画段階で参加人数の確認がされているか
 - * 自己評価に基づき継続性について検討されているか
- 以上の点について活動を分析しましょう！



クラブの
奉仕プロ
ジェクト
を評価し
てくださ
い



2019-20 RIテーマ



ROTARY CONNECTS THE WORLD
一年間どうぞよろしくお願いいたします。

国際ロータリー 第2790地区 社会奉仕委員会

「ロータリーは世界をつなぐ」



アドバイザー総評 中村博亘DPG(柏西)



アドバイザー総評 山田修平DPG(木更津東)



長時間に亘りお疲れ様でございました。
素晴らしい奉仕活動の実践を期待いたします。

青少年プログラム統括部会



■青少年プログラム統括部会

リーダー	次期・青少年プログラム統括委員会	統括委員長	中澤 良夫
サブリーダー	次期・青少年育成統括委員会	統括副委員長	岡村 美智子
サブリーダー	次期・インターアクト委員会	委員長	藤代 祐孝
サブリーダー	次期・ローターアクト委員会	委員長	原田 宗広
サブリーダー	次期・青少年交換委員会	委員長	小菅 和彦
サブリーダー	次期・RYLA委員会	委員長	黒岩 靖之
アドバイザー	パストガバナー		崎山 征雄
アドバイザー	パストガバナー		青木 貞雄
オブザーバー	次期・地区危機管理委員会	委員長	津留 起夫

13 ; 00 ~

開会の辞&挨拶 中澤 統括 委員長

統括委員会の名称がこのところ変わり、2019 年度は青少年プログラム委員会となるが、今まで同様 4 つの常設プログラム委員会を通じ地域の青少年を立派に育成する。年度の方針は地区委員会と各クラブの委員会との距離を近くしたい。そのため地区委員のメールアドレスを各クラブの委員の皆様にお知らせし、いつでもご相談や、各種質問、依頼などに対応出来るようにする。出来るだけこの委員会のプログラムに多くの青少年が参加頂ける様お願いします。

多くの若者に参加いただくことにより、彼らにロータリーというものをアピールし浸透させ、彼らが将来ロータリアンになることによりロータリーの発展に繋がことを願っている。今日は 4 時までフルに使い皆様の忌憚ないご意見を！

13 ; 10 ~

挨拶 崎山 PG アドバイザー

(午後ですが)「お早うございます。」(3 つの挨拶のなかでこれが一番丁寧。この丁寧な気持ちで活動を。青少年と接するとき上から目線は NG。教えようと思っは若者は育たない。若い人々と一緒に多種多様性を共に学び楽しむという目線で頑張っ欲しい。

13 : 15 ~

各委員長発表と地区委員 (自己) 紹介

*インターアクト (藤代 祐孝 委員長) (四街道) プロジェクターで説明。

インターアクトとは →

インターアクトで出来ること →

活動内容 → 2790 地区インターアクトとは →

14 のインターアクトクラブ及び提唱 RC →

2018-19 年度インターアクト活動報告 { 14 校顧問会議 & 合同会議・年次大会於) 安房沢心高校}・国外研修オリエンテーション in 台湾 } →

2019-20 年度スケジュールについて { ほぼ前年度同様 } →

インターアクトクラブ対象のロータリー賞・ロータリー会長特別賞について; 受賞資格条件など →

インターアクトクラブは少なくとも年に 2 回 (地元地域でのプロジェクトを、もう一つは国際理解を促進する) プロジェクトを実施する。「行動する」・「人々を繋ぐ」/「学業をつなぐ」(ロータリーなどによる奨学金等について調べクラブに結果報告)・「地域社会とつなぐ」(クラブ会員がいかに”世界を変える行動人”であるかを示す。

《 インターアクト 地区委員 紹介 》

小沢恒夫（茂原中央）・長谷川七三（新千葉）・坪谷寿一（千葉/欠席）

* ローターアクト(原田 宗広 委員長)(千葉若潮)

ローターアクトは今年度内で盛り上がっている。上手くいけば今年度中に地区内にロータリークラブが2つ出来る予定。次年度も3クラブの新クラブ申請が来ている。→

動画（これまでの活動状況・行事の折等を音楽に乗せての紹介動画ビデオ）

チラシで紹介→現状；地区内4クラブ、34人。地域社会に於ける社会的ニーズに基づき楽しみながら活動。例会月2回。ロータリーの地区委員会地区組織・行事と似ている。18歳～30歳の未来を担う若者のために一つでも多くローターアクトクラブを増やせるようご協力を！！

《 ローターアクト 地区委員 自己紹介 》

土井豊彦（成田）今年度インターアクト、次年度ローターアクト地区委員。両方の経験を生かしローターアクト増強に貢献したい。→小林宏子（茂原中央）→水野正則（勝浦）]

* 青少年交換(小菅 和彦 委員長)(習志野中央)

本年度に引き継ぎ2年連続で委員長を担う。（パワーポイントで説明）

青少年交換の現状（世界100カ国以上、8000～8500人の高校生を対象、語学留学でなく文化を学び伝える高校生親善大使としての交換留学。長期（visa/学校手続きなど必要）と短期（簡素）の手続き、クラブ負担・必要英語力などの比較。近年の派遣生人数。）→地区委員会の役割（長期；交換相手のマッチング・生徒、クラブへの支援、書類作成、危機対策などハブの役目として仕事・大変さ共に多い）・クラブの役割（ホストファミリー・高校の選定、各行事参加、組織予算企画など）／地区委員会は学生やクラブへのサポート、主役はクラブである。色々負担があり大変だがクラブ、地元ともに享受するものも多い。

「2019-20年度 2790地区青少年交換生募集」ちらし参照

スポンサークラブ無しで応募出来ない。クラブへ応募希望を述べる。

スポンサークラブが希望者を面談し見極め、OKならクラブから地区へ応募を。

書類作成などのため希望者に地区のHPを見てクリックするよう案内を。

「応募をお待ちしています！」

◎選抜試験；2019年9月23日（月曜日・祝日）・

締切8月24日（クラブから地区への締切）

《 青少年交換 地区委員会 委員紹介 》

中川雅晃（茂原）短期担当→渡邊昌俊（勝浦）短期担当来期で3年目→大木康正（千葉）長期担当→田村隆治（八千代）（欠席）長期担→岡村美

智子（佐倉）アドバイザー

* RYLA（黒岩 靖之 委員長）(君津)

2年連続委員長。「Rotary Youth Leadership Awards」ロータリー青少年指導者養成プログラムの頭文字をRYLA(ライラ)という。

RYLAセミナー（ロータリー青少年指導者育成プログラム）は、14歳から30歳までの青少年を対象とした、指導者の育成及び人格の養成を目的とした研修プログラムです。当地区では1978年から実施し次年度で第43回目となる。→

セミナー時の様子を動画で紹介→

長年にわたり「歩行ラリー」を教材として、参加者達（若者・ロータリアン）が、寝食を共にし、共に考え、共に議論して、共に検証する、といった一連の流れの中で、若者は様々な職業人であるロータリアンたちと語り合うことで、人間の幅を広げ、リーダーシップに必要な創造力を養っていく。「歩行ラリー」を通じて、参加者に「真実とは何か」を考えていただき、日常生活の中で知らずに身につけてしまっている「先入観・思い込み・既成概念」などから起こる間違いに気づき、どう対処すべきなのかを考える機会を与えるもの。また、同じ目標の下で参加した初めて会った人たちの中から仲間を増やすことも出来る。

毎年参加者から又参加したいとの感想を受けている。

この歩行ラリーは減点方式で順位を確定して表彰を行うが、単純な順位の表彰より重視されるのが、改善率で、つまり初日から2日目への改善率の向上順位。これを重視するのも当地区のRYLAの特徴である。2018-19年度のRYLAセミナーは、2019年2月2日～3日にかけて、参加者、地区委員、実行委員、スタッフ総数約110名で開催した。地区内34のクラブから参加者または実行委員を推薦して頂きながら、未だRYLAセミナーに参加したことがないというクラブも多いのではないかと。もっと多くのクラブからの若者・ロータリアンのご参加を！

来年度のチラシで説明。

2019-20年度「歩行ラリー」を教材にRYLAセミナーを、2020年2月15日（土）16日（日）の1泊2日で南房総市岩井海岸「甚五郎」にて開催。「ぜひ、各クラブから多くの若者・ロータリアンのご参加をお待ちしています。皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします！！」

《 RYLA 委員会 地区委員紹介 》

北原剛志（千葉）→浅野正博（成田）→内藤智介（君津）

#14:10～

各クラブ委員長より自己紹介・現状・感想・抱負など（1～2分）

時間内に委員会ごとにQ&Aも（途中15分休憩）

* インターアクト (11 → 7 名)

- 加藤泰寛 (市川) 我クラブは歴史は長いが青少年育成委員会が無い。次年度も無い。今までインターアクトやローターアクトなどの委員会のプログラムに参加したことが無い。今後の勉強の為に出席した。
- 前野拓郎 (千葉西) 次年度のインターアクトの年次大会・千葉商業高のホストクラブなので年次大会の準備を顧問の先生と打ち合わせ中。8月6日千葉東天紅での年次大会に参加を頂きインターアクターの生徒達と触れあって欲しい!
- 保川和弘 (茂原) 当クラブは茂原商業高校がインターアクト、茂原ローターアクトを提唱、青少年交換も昨年まで2~4名短期を毎年出し、ライラも出席し、殆どのプログラムに関与している。私もクラブの青少年委員長として長く携っている。茂原ローターアクトが休会寸前で案じている。
- 浅野吉朗 (大原) 次々年度 2020-21 当クラブが年次大会を提唱している大原ロータリークラブと共に準備に入っており、重要な年度となる。高校と密に連絡を取り成功させたい。
- 小久保和子 (八街) 千葉黎明高等学校インターアクトの提唱クラブ。娘と台湾の有意義な研修に参加。次年度もインターアクトに力を入れて頑張る。
- 野崎光雄 (松戸) 5月の指導講習会で当クラブがホストになっている。入会1年目だが今年度草野委員長と共に頑張る。

：：：：：：：10分休憩：：：：：：：

* ローターアクト (6 名)

- 志田延子 (茂原中央) 青少年委員会には青少年交換、ライラなど色々関わってきている。ローターアクトのために、役所の職員など、地元の若者が出来るだけ多く関わるよう茂原&茂原中央クラブが力を合わせ頑張っていく。
- 須永清彦 (銚子) 半年前に急遽、クラブ入会即ローターアクト委員就任、分からない事もあるが引きつづき次年度もローターアクトのため全力で頑張る。
- 北川幸靖 (旭) 我がクラブは銚子、銚子東 RC と共に千葉科学大学の提唱クラブ。自分も30年前300名いたローターアクターの一人だったが、今は人数も激減し、今4クラブ+2とのことで寂しい。当時のローターアクトクラブが一校も無いのが残念。昔のクラブがもう一度復活して活躍して欲しい。
- 小坂明宮己 (成田) 入会1年未満だが、昔成田ローターアクトのチャーターメンバー。その当時成田だけで30人いたが今は地区全体で30人、インターアクトにも関わり成田は当時30人いたインターアクト (成田高校) が今3人は驚き。昔大変楽しく有意義な経験をさせて頂いた。妻ともローターアクト。
- 三田英志 (習志野中央) 現在17名のローターアクター、崎山 PG のアドバイスにあったようにこ

のまま勢いに乗せて一気に会員増強に向かいたい。

- 羽鳥鋭一 (鴨川) 「お早うございます!」(崎山 PG のお言葉に添えて) 青少年奉仕の事はよく分からないが、相談できる仲間を多く作り頑張る。

* 青少年交換 (15 → 10 名) → Q & A

- 福田秀人 (浦安) 先日青少年交換のオリエンテーションに参加。行き先も来日生の高校も決定。このところ続けて青少年交換をしているので不安は少ないが更に充実させるよう努力する。
- 植草和典 (千葉幕張) 我がクラブはこの5、6年毎年短期の交換をしている。長期希望の生徒もいるがクラブ事情から短期のみにしている。2ヶ月間密度ある交換をしているので短期でも満足度は高いように思う。高校卒業後国際交流関係に進む生徒が多くこの交換のお陰と思っている。来期も短期交換予定。
- 江上俊彦 (千葉東) 今回初めて青少年のプログラムが分かった、という状況。我がクラブのこのような活動が出来ていないのが現状だが今後は少しでも活動をと希望している。
- 三上直哉 (勝浦) 今年も長期、短期各一名交換予定。どちらも行き先も決定。
長期は娘。我が勝浦 RC は次年度も交換生を送れるよう只今募集中である。
次年度も宜しくお願いしたい。
- 杉森幹男 (成田空港南) 当クラブは青少年プログラムをまだやっていないので、今後のために聞いてくるようにということでここに出席した。クラブに帰り今日の事を報告し広めて行きたいのでよろしく。
- 安田憲史 (館山) ローター、インター、交換など全て一括して活動していく。
自身館山ローターアクトで20~30歳までお世話になった。自分の時代は14クラブあったローターアクトが今は5クラブ。時代の流れと諦めていたが、当時のお仲間に関わり、又なんとか活発になるべく努力したい。
- 郡司圭一郎 (多古) 今日バスのなかで交換に行くように言われた。我がクラブではまだ交換はしていないが妹が40余年前にタスマニアに長期交換で行った。
オーストラリアからの交換生を我が家でも受け入れた。当時は会員数も多くクラブの財政状態も良かったが現在17名という弱小になってしまったが、夢よ、もう一度で何とか又可能にしたい。
- 稲山雅治 (八千代) 昨年イタリアと、今年は娘がアメリカと2年続けて長期交換。娘の行く地区がカリフォルニアと決まり、あちらから高2の男子生が来る。33歳でロータリーに入会していつか自分の娘も交換生として、と思いつづけ42歳の今年実現し嬉しい。大変だが協力を頂き成功させ、これを次に繋げたい。
- 中村 (新倉政明代理) (流山中央) 「お早うござい

ます！」次年度新倉委員長が皆様に顔向けが出来ないということで中村が代理で参りました。今年度長期、短期各1名交換生としてお世話になり、今IBとしてカナダからの女子留学生を受け入れている。短期の津田さんが交換生として認証され留学できることをお願いしたい。

- 谷口貴光（松戸東）我がクラブでは15年間に亘り市内の中学校に出かけ職業に関する出前授業奉仕をやっている。それも踏まえつつ次年度は又新たに異なる活動を、ということで勉強のため参加した。青少年交換で登録したが次年度の会長はRYLAの方に興味があるようだ。次次年度に繋がる何かを得たい。

* Q 小菅委員長より

- ①幕張の植草様へ、長年短期の交換をして頂き、IBの生徒達が色々な経験をさせて頂き、喜んでいる。具体的にどのような体験・経験提供をして頂いているかお教え頂きたい。
- ②勝浦RC三上様へ、先ほど青少年交換優秀賞を受賞されて分かるように、長きに亘り連続して長期、短期共に多くの交換留学生を出して頂いている、長期は多額の費用もかかり大変だと拝察するが、その活力はどこから発しているか、伺いたい。

* A ①植草氏より

特別なことをしているわけ無く普段していることをそのまま経験。試験期間中は大学の方へ行っている。又高校野球の開会式の折プラカードと国旗を持ってパレード参加も楽しんでいる。

* A ②三上氏より

数年前娘が中学生の時、クラブの先輩から勝浦RCは沢山の青少年交換をやっていると聞き、娘を交換留学させるためには入会した方が良いのではとの思いが入会の主な理由だった。家族会などの折に留学経験者達が色々経験話をして会場の中学生達に行きたい思いにさせる。それが例年のエントリーに繋がり活力の源になっている。将来は自分も地区の交換委員になってご協力したい。

* 崎山PGよりのアドバイス

地元の国際交流協会などを上手く繋がる若者発掘とロータリーへの理解、プログラム参加へと結びつく。

* RYLA (13名→7名)

- 金親博栄（千葉南）17年間の里山活動を讃えられ本日受賞！！若者に自然体験をというコンセプト。RYLAには企業の新入社員の研修の一つとして参加させている。非常に好評。関係者の大変さも分かり敬服。
- 日野千草（千葉北）我がクラブはこれまで青少年の活動は出来なかったが、今日色々話を聞けて今後の活動の参考になった。長年ボーイスカウトに

関わってきた経験を生かしRYLAや交換のプログラムに興味を持ったので指導を得ながら活躍していきたい。

- 宮崎慎（君津）青少年委員長をやりつつ、黒岩委員長の指導の下RYLAにも関わっている。頑張っていきたい。
- 川口京子（八日市場）担当者が欠席のため、実行委員と地区委員の経験者として出席した。関係者の皆様と今でも良いお付き合いをしていて嬉しい。クラブから毎年2名参加しているある企業は新入社員の研修にとっても良いと、毎年参加を頂いている。RYLAセミナーは口で言うより参加しなければ良さは分からない。皆様に是非参加頂きたい。
- 岡田勝久（柏南）初めての委員長がこの青少年の委員会で嬉しい。今年RYLAに参加し貴重な良い経験をした。次は運営側として頑張っていきたい。
- 鶴田禮司（習志野）委員長の代理。このところ無沙汰だったが、次年度是非RYLAに参加活動したいのでよく聞いてくるようにとの熱心な会長命令でここに来た。
- 露末みち代（松戸中央）何も分からず勉強のために参加した。これから今日の話を元に頑張って活動をしたい。

→

* 黒岩委員長より

毎年約80名の参加者だが、大体決まったクラブからの参加者が多い。地区内83クラブのうち30～35クラブから来ている。残りの50クラブはまだ理解されていないのでは、次年度43回目に是非他のクラブからも参加を。参加しなければ良さは分からない。企業の新入社員研修に良い。全て初めて人々とコミュニケーションを取りながら歩行ラリーのゴールを目指すゴール出来ない悔しさを話会いながら2日目にクリアするプロセスが非常に良い。未参加のクラブも是非参加を！！

15:30～

地区危機管理委員長挨拶 オブザーバー津留 委員長

これからやるぞ！という皆様に危機管理の話は心を暗くしてしまう。

クラブでは「危機」を殆ど感じないので。この青少年の4つのプログラムはRIのプログラムである。がこの4つだけでなく各クラブの若者相手の活動に於いての危機管理について話す。昔日本に高校生として派遣された米女性から最近「30年前に日本でセクハラを受けた」とRIに電話、RIより日本は当時どのような対応をしたか、と聞いてきた。RIは報告を受けたらすぐに警察にそしてRIに連絡をすることを強く求めている。なぜならRIはロータリーという組織を守りたいから。世界の各地区はRedbook（地区へのレッドカードを意味する）に自

分の地区が載っていないよう祈っている。→（配布の資料を参照しながらロータリー章典の説明）

①青少年に接する際の規範をクラブの青少年担当者は読んで欲しい。青少年の安全を守るために環境を整備するのは我々の責任。青少年のセクハラに対してはかなり厳しい。もし生徒がロータリーに於いて何らかのハラスメントを受けた、と聞いたらすぐに地区の委員長に連絡すること。ロータリーは「申し立てを受ける」、ということを前提にしている。即ち、いかなる言訳も排除し、嘘か本当かをも判断せず、生徒からの「申し立て」を受けなければならない、ということ。そして其れを地区の委員長に報告しそれが危機管理委員会の方に上がってくる。

②どのプログラムでも青少年を海外に行かせる場合はガバナーと青少年交換委員長の許可を取らなければならない。ゆえにクラブで青少年を海外に出すときは青少年交換委員会に相談をすること。

この2点を必ず守って欲しい。セクハラまではいなくても米山他などでもそれに近い出来事は起きている。青少年のプログラムが成功裡に進む用ご協力を。

→

* 崎山 PG より

危機管理委員会は海外のあるガバナーの問題が発端で2007年に出来た。特にライラは注意をすべきと、自覚して欲しい。若い男女が一緒に行動するので、危うい事が数度あったので。

15 ; 45 ~

総評 青木 PG アドバイザー

今年度地区の研修サプリーダーで青少年担当。本日色々な経験者から話を聞き勉強になったと思うが、一方中々理解し辛い面もあったかと思う。それは活動対象がロータリアンでなく、青少年であること。そしてそれを動かしているのが地区委員なので中々クラブが中に入っていくことが少ないからではないか。この今日の様な機会を利用したり、又地区委員を卓話に呼んで頂くのも理解を深める一つの方法。

私のクラブ（成田コスモポリタン RC）は初めて今年長期交換のインバウンド留学生を受け入れ、毎月クラブに来てもらったり、色々な行事を通じてクラブ全体が理解を深めるようになった。先ず、知って頂くということが重要。各 RC 委員長の皆様、クラブに帰られて今日のお話を＝どのようなプログラムがあり、どのようなことをやっているかをクラブの皆様にお話しを。中でも RYLA は一番入り易い。皆様の関係の企業から RYLA に送って頂くことから入ると（費用も 1 万 5 千円で負担も軽い）全体への理解も深まると思う。

ローターアクトクラブについて、今年のラシン会長が各クラブに 2 つ以上造るべく力を入れている。そしてローターアクトをロータリアンに入れるような話もある。当地区はかつて 14 クラブあったロー

ターアクトが今は 4 クラブに減っている。ここ数年ロータリアンを増やすと共にロータリーファミリーを増やすということに力を注いでいる。今 3 つ位話が進んでいるようなので引き続き頑張って実現を。本年度は青少年統括、次年度は青少年プログラム委員会という委員会名でついて行き難い面もあるかとは思いますが、先ず理解し、そして関心を持って出来るだけ多くのクラブがこのプログラムに参加をお願いしたい。

→

* 小菅交換委員長より

成田コスモポリタンが受け入れ中の IB 生のアリアナさんが先日 NHK・BS 1 時間番組に出演した件について：世界中から日本に來ている留学生高校生を 20 人程集め日本での生活の疑問点などそれぞれが色々語りとても興味深い番組だった。

15 ; 55 ~

閉会の辞 中澤 統括委員長

色々話したが、「是非実行を！！」というのが願い。クラブに帰って是非この青少年プログラムをアピールして欲しい。疑問点などいつでも。又卓話も喜んで何う。「長時間、ありがとうございました！！」

司会；岡村 統括副委員長



ロータリー財団部会



■ロータリー財団部会

リーダー	次期・ロータリー財団統括委員会	統括委員長	パストガバナー	櫻木 英一郎
サブリーダー	次期・ロータリー財団統括委員会	統括副委員長		水野 晋治
サブリーダー	次期・ロータリー財団統括委員会	統括副委員長	ガバナー・ミニデジグネート	梶原 等
サブリーダー	次期・財団資金・推進管理委員会	委員長		浅野 肇
サブリーダー	次期・グローバルプロジェクト委員会	委員長		諸岡市郎左衛門
サブリーダー	次期・地区補助金プロジェクト委員会	委員長		坪井 尚也
サブリーダー	次期・奨学生・学友委員会	委員長		沢田 克洋
サブリーダー	次期・ロータリーポリオプラス委員会（ロータリーカード推進兼務）	委員長		朱 孝
サブリーダー	次期・ロータリー平和フェロシップ委員会	委員長		佐川 清
アドバイザー	パストガバナー			鈴木 雅博
アドバイザー	パストガバナー			森島 庸吉

進行：水野

部会別協議会を始めさせていただきます。司会進行を務めます統括副委員長の水野晋治と申します。よろしくお願いいたします。

来年度もう一人統括副委員長がいます。梶原等ガバナー・ミニデジグネートですが、今日は幹事部門の方へ行っておりますので私一人で進行させていただきます。

まずはじめにロータリー財団委員会統括委員長櫻木委員長より挨拶させていただきます。

ロータリー財団委員会統括委員長：

櫻木英一郎（千葉 RC）

本年度橋岡年度も次年度諸岡年度も財団委員長です。

冒頭に本日ご参加いただきましたアドバイザーをご紹介致します。

まず初めに船橋西ロータリークラブ森島庸吉パストガバナーです。

現在ロータリー日本財団の副理事長でいらっしゃいます。

もう一方が鈴木雅博パストガバナー市原中央ロータリークラブです。

鈴木さんもロータリー日本財団の評議員をお勤め

です。

このお二方は常にロータリー財団委員会に心を砕いていただいております。

また非常に恐縮ですが本日は時間が非常にタイトなので、特別な挨拶とか講評とかはいただく時間設けておりませんが、アドバイザーとして随時気がつく点があればアドバイスを頂戴できればと思います。

また、ロータリー日本財団は世界で8か国で認められている財団本部の協力財団で、主にその国の寄付の中継が役割です。通常我々が寄付をすると日本財団へ寄付を送金し、日本財団がまとめて TRF 財団に寄付をするという形になります。

日本財団を通せば日本の税制優遇を受けられるという制度です。

因みに日本財団の理事長は千玄室大宗匠元 RI 理事です。

お二人のアドバイザーには地区の財団委員会が抱えている問題をお聞きいただきご支援、ご指導いただければと思います。よろしくお願い申し上げます。それでは本題に入ります。

毎年この時期4月は地区のロータリー財団委員会は非常に大きな問題を抱えております。

それは代表的なものが二つあります。

その一つは各クラブからの寄付金の事です。

各クラブが寄付をしてくれただろうか？ またどのくらいの寄付になるだろうか？これが地区の財団委員会の一番頭の痛い問題です。

地区の財団委員会が頭が痛いという事は、各クラブの財団委員長さんをお願いする事が多々あるという事になります。

当委員会の寄付金担当の委員長はほぼ毎日MyROTARYで各クラブの寄付状況をチェックしております。

日本ではこの2年間は寄付ゼロクラブがゼロが続いています。後で担当委員長から話があると思いますが、我々地区委員会は寄付を監視し、お願いする立場にあります。

毎年この時期まだ寄付をして頂けないクラブは5つや6つぐらいあります。

財団委員会の担当委員会が事務局に電話をしたり、会長をつかまえてお願いし、幹事をつかまえてお願いし、そういう努力をしております。

本年度はおかげさまで全てのクラブから寄付をいただく目途が立ったようです。

次年度もこのような協力を財団委員長の皆さんにお願いしたと思います。

第二の問題が補助金の事です。

本年度・橋岡年度の補助金はもう皆さんにお使いをいただいておりますが、今はその報告書を集める段階です。報告書がないと後で大変な事になります。報告書が全て出そろったかが補助金委員会の大きな悩みです。

それと並行しまして次年度諸岡年度の各クラブからの補助金申請が上がって参ります。

その内容をチェックし、ロータリー財団の使用目的に合っているか等を確認します。

各補助金の金額を査定するのが地区財団委員会の仕事です。

この補助金事業の内容もいろいろで、ロータリー財団の意向に合うものもあり、どうかな？というものもあります。

この点に付きましては本日のプログラムの最後に補助金の申請について厳しい指導をさせていただきます。

もしかしたら次年度の申請をバサッと切る事も視野に入れて皆様に情報をお伝えします。

各クラブの財団委員長さんもぜひその事をクラブに持ち帰っていただきたいと思います。

途中で休憩がありますが、休憩中に帰ってしまうという事が絶対に無いようお願いを致します。

次に地区のロータリー財団の概要を少しお知らせします。

やっている事はいろいろありますが、それらは各部門の委員長より説明致します。

財団委員会の仕事の主な一つは各クラブまたは個人の方からの寄付を財団本部へ行くよう指導する事です。

皆さんからの寄付は我々地区の財団委員会がプー

ルをしている訳ではありません。

皆さんのクラブあるいは個人からの寄付は日本財団を通じてロータリー財団本部に行きます。

寄付金は我々地区のロータリー財団委員会を通過しませんし、直接現金は扱いません。

その財団への寄付を使うのが補助金です。

この補助金の原資は皆様からの寄付です。

しかしこの寄付は一旦ロータリー財団本部に収まりますとロータリー財団本部の管理となり、ロータリー的に言えば公金になります。

この公金を皆様のクラブで補助金として使うには公金ですから非常に厳しい規制と条件があります。例えて言うならば国の補助金と同じです。

国の補助金は、原資は我々が払う税金です。それが国庫に収まると国庫金になります。

その国庫金から補助金をもらうには非常に厳しい規制や条件がありますし、非常に厳しい報告書が必要となります。正にこれと同じです。

その公金を使うにはどのようなルールがあるかは本日一番最後のプログラムで報告します。

このルールは我々地区の委員会が決めるのではなくて最終的にはロータリー財団本部の裁量、決断となります。

我々地区の委員会はロータリー財団ではこのような規制やルールがありますので皆さん守って下さいとお願いし、指導する立場です。

各クラブの委員長の皆さんは自分のクラブに対して、補助金はこのようなルールがあるのでこれを守ってとお願い或いは指導する立場にある人達であると我々は期待していますし、そうお願いしたいと思います。

良く聞く話は、地区の財団委員会はしこたまお金を貯め込んでいてそれをクラブに配布するんだらうというような事を聞きます。

我々がお金を持つことは一切ございません。

ただし、地区補助金は各クラブからの申請の総額を一括して本部に申請し、一旦地区の財団委員会口座に振り込まれ、これを全部各クラブに配分をするだけです。

このような仕組みをぜひご理解いただきたいと思います。

ロータリー財団というのはどうも分かりづらかった、クラブでは財団委員長というとまた寄付金かと冷たい目で見られるかも知れません。

寄付金というのは活動（補助金）のための元であると、これをぜひ各クラブの皆さんにお話しをしていただきたいと思います。

ロータリー財団委員長さんには大変な役を負っていただく事になるかも知れません。随時地区財団委員会からお願いをする事がと思います。

ぜひそのような事をご認識いただきクラブの立派な財団委員長さんになっていただきたいと思います。

以上となりますが、我が財団員会各部門6部門、正確に言うと8部門ありますがこれより各委員長よりご説明を致します。

ぜひこれらを持ち帰っていただきクラブの中で広めていただきたいと思います。
ありがとうございました。

進行：水野

それでは各委員会の発表に移りたいと思います。

先ず初めにロータリー財団への寄付という事で財団資金推進管理北村副委員長より発表致します。

財団資金・推進管理委員：北村謙介（市原中央 RC）

皆様こんにちは。財団資金・推進管理委員の北村と申します。所属は市原中央 RC です。本日、スケジュールの都合により、発表時間が限られておりますので、重点部分のみを解説することになる事をご承知頂ければと存じます。

さて、ここにいらっしゃる皆様は財団委員長として、クラブ内で寄付のお願いをする立場になると思いますが、そもそも、何故ロータリー財団に寄付をしなければならないのか、皆様ご存知でいらっしゃいますでしょうか。ロータリーの寄付は他の団体に寄付するお金ではございません。通常寄付と言うと、ユニセフですとか、赤十字に寄付されますが、ロータリーの寄付はロータリー財団に寄付されます。ここが他の寄付と大きな違いとなっております。

ロータリーの定款に「ロータリーの目的」があり、その中で「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を推奨し、これを育むことにある」とあります。私たちロータリアンはロータリーの基本理念である『奉仕の理念』Ideal of Service を実現するため、様々な奉仕プロジェクトを実践しています。ロータリー財団はロータリアンや他の個人、法人からの寄付金を財源として奉仕プロジェクトを財政的にサポートしています。すなわち、私たちの寄付はロータリーの基本理念実現のための、ひとつの手段といえます。ロータリーへの寄付は、年次基金寄付、ポリオプラス、恒久基金寄付、その他寄付とございますが、本日は年次基金寄付に絞りまして、ご説明をさせていただきます。

年次基金寄付は、毎年寄付をする事を強くお願いしております。皆様から集められた年次基金は3年間投資に回され、年度によって異なりますが、平均6%程度の収益を得てから活用に戻されます。ロータリー財団の運営費は、この投資運用によって賄われており、皆様から寄付された寄付金は全額、事業の活動費に使われています。

ここで年次基金への寄付がどうなるかを簡単に説明します。年次基金寄付はシェアシステムという仕組みに基づき、寄付された金額の半額はロータリー財団によって管理・運営されます。これを国際財団活動資金、WF、World Fund（ワールドファン）と呼びます。もう半額は寄付した地区に還元され、地区によって管理・運営されます。これを地区財団活動資金、DDF、District Designated Fund（ディストリクト・デジグネーテッド・ファン）と呼びます。年次基金寄付はきっちり半額ずつ、ロータリー財団と地区に分配されます。

WFはロータリー財団が主導する地球規模の活動費として、ロータリー財団本部の主導で活用されます。具体例を上げると、世界中のポリオウイルス保有国に行ってポリオワクチンを飲ませる活動、紛争解決と平和構築の活動、衛生的な水が飲める環境づくり、教育が行き届かない地域への支援、これは無教育が暴力や紛争に繋がるという考えからです、そして平和の構築を目指す学生への奨学金、その他となっております。

続いてDDFは、ロータリーの各クラブが奉仕プロジェクトに使用できる資金になります。使用用途は地区の裁量で決めることが可能です。これには2種類あり、地区補助金は活動が財団の使命に沿うものであれば、6つの重点分野に関連する必要がなく、柔軟な運用が可能になります。もう1つのグローバル補助金、GG、Global Grants（グローバルグランツ）は、いわゆる「6つの重点分野」を中心とした人道的奉仕に使用されます。6つの重点分野を申し上げますと、平和と紛争予防、紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生、母子と健康、基本的教育と識字率の向上、経済と地域社会の発展となっております。グローバル補助金は地区財団活動資金DDFからだけでなく、ロータリー財団から同額の支援を受けることができ、地区補助金より、大規模な国際的活動を支援するものです。

ロータリーの寄付には先程申し上げた4種類がありますが、クラブの活動に使える寄付は年次基金寄付しかありません。つまり、各クラブの活動を活発化させるには年次基金への寄付が重要だと言えます。各クラブはロータリー財団に様々な寄付を行っておりますが、年次基金への寄付を行わないクラブは特に「寄付ゼロクラブ」と呼んでおります。例えば他の寄付項目にいくら寄付をしても、年次基金への寄付をしないと「寄付ゼロクラブ」になってしまいます。それほど財団では年次基金を重要視しております。

日本に所在する約2300のロータリークラブでは、過去2年間に渡り、寄付ゼロクラブがゼロとなっております。しかし、当2790地区では、毎年、年度末に「特定」の「数クラブ」に寄付をお願いするのに大変に労力を使っております。こちらの表をご覧ください。昨年度と今年度の、月別の寄付ゼロクラブ数を集計してみました。地区内83クラブのうち、約4分の1の20クラブは、年度の初月に寄付を行っております。その後徐々に寄付ゼロクラブは減って参りますが、年末の12月でも、10クラブ前後が寄付ゼロであります。そして3月、世間の年度末に財団委員会も危機感を募らせ、特定の数クラブに寄付を促して、ようやく寄付ゼロが解消するというのが、毎年の恒例行事となっております。よろしいでしょうか皆様。「特定の数クラブ」でございます。今年もどうやら、なんとか、やっとの事で、寄付ゼロクラブからも寄付をして頂ける目処は立ったようですが、万一にも今年の5月、これは事務手続き上の問題で、ロータリーの年度末の一ヶ月前の5月までということですが、5月までに寄付をしない

クラブがございまして、下手をすると日本で唯一の寄付ゼロクラブが、当地区から誕生するという可能性がございまして。万が一そのような事になりますと、そのクラブ名が全国に知れ渡るのみならず、次年度のガバナーが大変形見の狭い思いをする事になりますので、くれぐれもそのような事が無いように、次年度の皆様方をお願いします。つまり、今年度の会長さんや、財団委員の不手際で寄付ゼロになった場合でも、矢面に立たされるのは次年度の役職である皆様という事になってしまいますので、次年度の役職の皆様はくれぐれも心得ておくと同時に、今年度の役職の方に、寄付の催促を促して頂くよう、お願い申し上げます。

そのためにも、次年度に入ったら早々に、クラブ会長と財団委員長は年次基金に寄付をして頂きたいと思っております。遅くとも送金は12月末までをお願いします。金額はいくらでも結構です。1人、あるいは2人が10\$、20\$からでも構いません。ロータリー財団に最初に寄せられた寄付は26ドル50セントでした。これで寄付ゼロクラブは根絶されます。クラブ全体の寄付額の増額は、寄付ゼロクラブ根絶の次の目標です。

現在関東地方には10個の地区がございしますが、当千葉県の2790地区の一人あたり寄付金額は、一昨年度までの数年間、毎年、関東で第10位、すなわち最下位でございました。昨年はようやくと言うか、ある地区の平均寄付金額が何故かぐっと下がったおかげで、たまたま10位から9位になりましたが、それでも、何年間を通しての平均寄付金額は最下位となっております。それを踏まえた上で、一人あたり寄付金額の150ドルを目指して頂ければと思います。目安としては、会員一人あたり、年間10\$の増額、つまり1100円程度のご寄付で達成できると考えられます。今、寄付をしていない方が年間1000円ちょっとの寄付をするだけでも、大幅に目標に近づけると考えられますので、ご協力をお願いします。

最後になりますが、皆様、各クラブで様々な奉仕活動をされていますが、もし、ポリオを根絶する奉仕をしたいと思っても、なかなかポリオワクチンの投与にアフガニスタンまで行くことは出来ません。あるいはきれいな水を必要としているバングラディッシュに井戸を掘りに行くこともなかなか出来ることではありません。しかし、寄付をすることで、このような奉仕活動にも参加することができるのです。「寄付は第二の奉仕」、皆様からの寄付で「世界でよい事」が出来るのです。ご清聴ありがとうございました。

進行：水野 【各クラブの目標発表】

続いて各クラブの現状、来年度の目標・抱負についてご意見を頂戴したいと思います。

まず初めにお手元の表2017-18年度地区寄付レポートにございます昨年度1人当たりの寄付額がトップだった佐倉中央ロータリークラブの財団委員長さんどうぞ。

佐倉中央ロータリークラブ財団委員長斉藤です。よろしくお願い致します。

昨年度はガバナー年度という事もあり皆さん寄付をしていました。今年度下の方に行かないよう財団委員長として皆さんに声掛けしていきます。

続いて2番目は昨年度ガバナーを出された柏ロータリークラブの財団委員長さん、昨年度は非常に意識を高く持たれたのではないかと思います。その辺りの事と、来年度の目標についてお願いします。

皆様こんにちは。柏ロータリークラブの今山と申します。どうぞよろしくお願い致します。今言われたように昨年度は寺嶋ガバナー年度という事でクラブ一丸となって積極的に寄付をさせていただきました。

昨年度末私もベネファクターになりましたが、その数を一人でも多く増やそうと新会長の下、少しでも上位に行けるよう頑張ります。

続いて3番目だったまた、例年一位だった習志野中央RCの財団委員長さん。(不在)

続いて4番目だった市原中央RCさん。

皆さんこんにちは、私は初めて財団委員長になるのですが、このような数字になっている事を初めて知りました。例年このような数字ではないかと思えます。来年度も引き続き頑張ります。

では次がないので、その次柏西RCの財団委員長さん。

柏西の鈴木です。本年度の目標は寄付をしない人を無くす。

寄付ゼロクラブをなくすのではなくて、寄付をしない人を無くす、というのが私のクラブの目標です。一つ意見です。寄付ゼロクラブゼロ達成とかあまり言わない方が良いと思います。

寄付ゼロはあり得ない話なので、恥ずかしい話だと私は思います。寄付をするのが当たり前ではないのか。と思います。

ロータリーの精神からすれば奉仕の理念にそって寄付をするのが当たり前です。

目の覚めるご意見ありがとうございました。

続いて寄付の集め方に工夫を凝らしていると聞きましたが、成田コスモポリタンRCの財団委員長さん。

成田コスモポリタンの鈴木と申します。

私はこのロータリー財団初めてですので、この場で説明できませんが、年次基金の方へは前年度以上もしくは同等を目指し私個人も含め積極的に参加さ

せていただきたいと思います。

ではもうクラブ、先ほど出ました佐倉中央もしくは柏さんはガバナーを出されたという事で頑張られて上位になられたのですが、来年度ガバナーを出される成田ロータリークラブさん、意気込みをお願いできればと思います。

皆様こんにちは。成田 RC の斉藤です。話しの流れから多分振られるのではないかと考えておりました。想定していただのですが、意気込みというか、現在クラブの会員数が 69 名おりますので、一割の 7 名~10 名を目標にやっていこうと考えております。

進行・水野

それでは次に奨学生奨学金の流れについて奨学生・学友委員会沢田克洋委員長より発表をお願いします。

奨学生・学友委員会委員長

沢田克洋（成田コスモポリタン RC）

みなさんこんにちは。奨学生・学友委員会の委員長を仰せつかりました沢田と申します。所属は成田コスモポリタン RC です。

奨学生・学友委員会は他の委員会と違いまして、各クラブが自発的に行動する活動ではなく、近くに住む方または近くの学校や職場に通われている方からロータリー財団の奨学金を活用したいと、直接クラブに問い合わせが行きて初めて対応を迫られることになります。

これはどのクラブにも可能性がある事なので、自分のクラブとは関係ないと思わず聞いて頂きたいのですが、ロータリー財団奨学生には種類が 2 つあります。

まず一つ目の地区補助金奨学生は、ロータリーの理念に即した就学と奉仕を志し、奨学金の支給等を通じて国際理解と世界平和の促進を支援することを目的としております。地区財団活動資金から 2 万ドルが授与されます。

もう一つはグローバル補助金奨学生です。国際ロータリーが定めた 6 つの重点分野（平和と紛争予防 / 紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展）のいずれかに合ったキャリアを目指し、研究目的もそれに沿ったものであり、海外の大学院で勉強する意欲のある留学生を支援することを目的としています。地区財団活動資金から 2 万ドル、国際財団活動資金から 2 万ドル、計 4 万ドルが授与されます。

応募に関するお問い合わせは直接クラブにきます。その際は地区補助金セミナーでお配り致しました、ロータリー財団ハンドブック 2019-20 年度用をご覧ください、応募資格、奨学金の条件、応募の手順、提出書類等の記載がありますので参考にして頂きたいと思います。また申請書等の書式は、地区の

ホームページに掲載されておりますのでご利用ください。

また、本年度の奨学生の選考会ですが、先週 14 日に行いまして、グローバル補助金・奨学生が 2 名（銚子 RC 様、松戸 RC 様）、地区補助金奨学生は 1 名（流山 RC 様）、を決定させていただきました。3 名とも、ものすごく前向きで向上心に溢れ、今後の活躍に期待を寄せたくなる将来が楽しみな方々でした。

ぜひこの奨学金を活用して、大きく成長していただき、卒業後は我々の同志として、一緒にロータリー活動のお手伝いをしていただきたいと思いますと考えております。

また、今回の奨学生選考会の反省点ですが、奨学生の申し込みが少なかったことが一つ上げられます。先ほども申し上げましたが、奨学金はグローバル補助金奨学生一人に対し 4 万ドル、地区補助金奨学生一人に対し 2 万ドル支払われます。財源は皆様から頂いた貴重な寄付金です。ですから、誰でもよいという訳にはいきませんので、語学や勉強ができることはもちろんですが、人間性的にも素晴らしい人材を選定して行きたい。そのためには多くの方から応募をいただきその中から選ばせて頂く事が、寄付金の有効的な使い方だと考えます。

そこで本年度は多く方に応募頂けるよう、委員会で話し合い、より素晴らしい方々を奨学生として選定させて頂きたいと思っております。

応募が多くなるということで、皆様のクラブへのお問い合わせも多くなるかと思いますが、地域や世界で活躍できる未来のリーダーを、皆様方のクラブからご推薦頂き、クラブも一緒になって育てる事は素晴らしいことだと考えます。多少ご負担も多くなるかもしれませんが、ぜひとも皆様方のご協力をお願いいたします。

以上です。

進行・水野

続いてポリオのない世界に向けて、ロータリーポリオプラス委員会朱 孝委員長、ロータリーカード推進兼務でございます。

ロータリーポリオプラス委員会委員長、ロータリーカード推進兼務：朱 孝（習志野中央 RC）

まず初めに、永年にわたり日本では『END POLIO NOW』をポリオ撲滅活動と表してまいりましたが、今後は『根絶』と表していく方向であることをお伝え申し上げます。

急性灰白髄炎（小児まひ）は日本では 1960 年に北海道を中心に大流行し 6,000 人近い感染者が出たため時の政府は当時のソビエト等から生ワクチンを緊急輸入し、一斉に予防接種を実施したことによりその後急速に減少し 1982 年に常在国リストから外れております。

RI が初めてポリオのプロジェクトに携わったのは、1979 年フィリピンで 600 万人の児童に予防接種を行ったのが始まりで、1985 年にポリオプラス

プログラムを立ち上げ1億2千万ドルの募金目標を掲げたところ、2倍以上の募金が集まり、それを契機に、RI、WHO、ユニセフ、米国疾病対策センターが集まり GPEI 世界ポリオ撲滅推進計画が発足しました。以来 RI は 17 億ドル以上の資金をポリオ根絶活動に投入しており、2018 年からは、3 年間で 1 億 5 千万ドル、ビル & メリンダゲイツ財団の上乗せマッチングと合わせると 4 億 5 千万ドルの資金提供を約束しています。

1988 年に世界 125 カ国で 35 万件以上の発症が確認されたものが、現在 99.9% その数は減少しています。

しかしながら根絶に向けては、まだなお 15 億ドル以上の資金が必要と言われております。

2018 年現在ポリオ常在国（野生株ポリオウイルスによる発症）は、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの 3 カ国で、昨年の発症者数は 33 例でした。

また、ナイジェリアでは、2017、18 年と発症者の報告が無く、もし今年もゼロであった場合には、ついにアフリカ大陸がポリオフリーとなります。次にポリオワクチンについてですが、経口生ワクチンと、注射による不活化ワクチンの 2 種類があります。

生ワクチンは 1 本あたり約 60 円と安価ですが、不活化ワクチンは 4 種混合で 1 回 5,000 円と非常に高価です。

日本では 2012 年から不活化ワクチンが導入されており、1 人につき 4 回実施されます。これを新生児数 92 万人に掛け合わせると、実に 184 億円もの資金が投入されていることになります。これらはすべて自治体の負担となっていることから、早期に根絶された場合の経済効果は大きいと思われます。

日本のロータリーでは、ポリオプラスに対して一人当たり 30 ドルの寄付をお願いしております。昨年度の実績は一人当たり 28 ドル、250 万ドルでした。

当地区におきましても引き続き一人当たり 30 ドルを目標に掲げておりますので、一日でも早いポリオ根絶を達成させるべく皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

引き続きましてロータリーカードの説明をさせていただきます。

日本では 2002-03 年度よりオリコよりロータリーインターナショナルカード（オリコカード）が発行されました。

このカードで買い物や自動引き落とし等で使用すると、利用額の 0.3% がカード会社より自動的にロータリー財団に寄付として振り込まれ、全額がポリオ根絶活動の資金に充てられます。ただしこれらは認証ポイントには反映されません。

つまり、日常生活や経済活動にロータリーカードを活用していただくだけで、ポリオ根絶に貢献できるのです。

例を挙げると、ロータリーカードで 2 万円の買い物をしたとすると、その 0.3%=60 円が寄付されま

すが、これはポリオ生ワクチン 1 本分と同額です。

2018 年度ロータリーカード利用に伴うポリオプラスへの還元額の累計が初めて 1000 万円を突破いたしました。

オリコカードは年会費無料で作成できますので、お申し込みの際は、以下のネット

<http://www.orico.co.jp/merchant/rotary/index.html>もしくはオリコテレホンサービス 0120-911-004 にお問い合わせください。

2016 年からは、『ロータリーダイナースクラブカード』が発行され、年会費が無料（個人カードは年会費 22,000 円）であることから主に、地区、委員会、クラブ単位での導入が進んでいます。

地区では、ガバナー、ガバナーエレクト、ノミニー他委員会では、地区内委員長、次期委員長などクラブでは、会長、副会長、幹事、会計、理事、会長エレクト、事務局の方々が加入でき、地区大会、委員会、例会経費、RI 人頭分担金、寄付などに利用でき、これらの利用額の 0.3% がオリコカード同様にポリオ根絶活動資金に充てられます。

2018 年 4 月時点において、2790 地区での地区、委員会、クラブカードの加入はゼロでしたが、現在では、地区 2、委員会 3、クラブ 15 となっておりまして、クラブカードの普及率は 18.5% で全国 3 位となっております。

ポリオ根絶活動と、ロータリーカードの普及が表裏一体のものであることをご理解いただき、皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

進行・水野

続いて世界平和、紛争予防推進の人材育成についてロータリー平和フェロシップ委員会佐川 清委員長より発表をお願いします。

平和フェロシップ委員長：佐川 清（松戸 RC）

平和フェロシップ委員長の佐川です。

わたくしの持ち時間は 10 分ですので今しばらく御辛抱ください。

ところで皆さん！平和センタープログラムをご存知でしょうか？

昨年、日本のロータリー 100 周年実行委員会が行ったアンケートで R 平和センターを知っている、よく知っていると答えたクラブは約 22%（3.4 18.2）

これはクラブの会長、幹事に答えを求めたものですべてのロータリアンに答えを求めるともっと低い数字になるでしょう。

一言でロータリー平和センタープログラムは「世界平和の構築」と「紛争予防/解決」に向けた RI 財団の人材育成プログラムです。

このプログラムはポールハリス没後 50 周年を記念し創設されました。

実際には 2002 年から始まるのですが既に 16 年が経っています。

RI 財団プログラムには現在、大きく分けて補助金プログラム、ポリオプラスと、この平和センタープ

プログラムの三つが柱となっております。

しかし先ほども述べましたが地区補助金やグローバル補助金、又ポリオプラスは知っていても平和センタープログラムはまだまだ周知されてないのが現状です。

それは一言でいえば皆さんに直接かかわってないからでもあります。

プロジェクトをご覧ください。

世界には6つのロータリー平和センターと七つの提携大学があります。

「修士号取得プログラム」を学ぶ5つの平和センター(大学6校)と

1校の「専門修了証取得プログラム」平和センターがあります。

日本では東京都三鷹にある国際基督教大学(ICU)が提携大学となり毎年10名のフェローを受け入れております。

ロータリアンの役割 ホストエリアの役割

日本ではICUの平和センターをサポートするためホストエリア制度を採用しています。

ホストエリアはICUがある第2750地区とその周辺の地区で構成され現在は6つの地区が担当しています。

2790地区もその構成メンバーとなっています。

そして地区委員がホストエリア連絡協議会のメンバーとして平和センタープログラムやフェローを支援しています。現在、当地区からは3名のカウンセラーが出ております。

また、現在、日本のロータリアン全員から一人当たり15円の協力金を頂いております。

フェローの研修旅行平和センターが実施する会合の経費に使われています。

ロータリー平和センターは平和構築に力を入れるロータリアンの支援を受けて大きな成果を上げてきました。

2017年10月現在 1131名の平和フェローが平和センターで学び卒業後様々な機関・団体の要職に就いて平和を目指す任務に取り組んでいます。

採用されたフェローのうち日本の地区から海外に派遣したフェローの数はわずか33名にすぎません。

これは日本という国が紛争地域ではなくフェローシップ応募資格の中に紛争地域や紛争解決に向けた機関や団体等の職歴3年以上が引っかけられて候補者が少ないこともあります。

最初に述べたロータリアンがこのプログラムを知らないところに起因しているものと思われます。

ロータリー平和フェローシップは将来のキャリアを通じて平和と紛争解決の分野で大きな貢献をする見込みがある様々な学問分野や職業出身の人に授与されます。

そのため、申請者は、学問研究、ボランティア、職業を通じて、平和と紛争予防/紛争解決に対する強い熱意とリーダーシップに加え、優れた学業成績を証明する必要があります。例として、ロータリー平和フェローシップは、次のような分野出身の候補者に授与されています。

- ・人権、災害救援、支援物資提供、環境保護、難民問題、その他の平和と国際協力に取り組む非営利組織(NGO)
- ・国際組織、国際企業
- ・国務、外務、外交、その他の公務に関する政府機関
- ・青年海外協力隊のような国際ボランティア組織
- ・自衛隊、防衛機関、警察
- ・仲裁や争いの解決を専門とする団体
- ・大学の同窓会、キャリアセンター、留学支援の担当課
- ・国際教育、国際関係、政治、平和研究、紛争解決に関する学部
- ・国際問題、開発、平和構築、紛争解決の分野で活動する元国際親善奨学生、GSE(研究グループ交換)の元メンバー(ほかの地区から派遣された奨学生やGSEメンバーが地区内に居住している場合もある)、ローターアクターなどです。

ハンドブック37ページから39ページにかけプログラムの説明と募集要項、詳細が記載されていますので後ほどご一読ください。

また、ロータリー平和センタープログラム或いはフェローシッププログラムで

検索していただくと詳細が出てまいります。

最後に候補者の発掘やカウンセラーとしてご協力していただけるクラブがございましたら是非ご協力ください。

進行・水野

地区補助金の活用について地区補助金プロジェクト委員会坪井 尚也委員長発表をお願いします。

地区補助金プロジェクト委員会委員長：

坪井 尚也(佐倉 RC)

地区補助金は、地域社会と海外において、幅広いさまざまな人道的・教育的活動を支援するものです。クラブが実施する社会奉仕活動や国際奉仕活動が該当しますが、一定の条件があります。

地区補助金の対象となる活動は、次の活動です。

●ロータリー財団(TRF)の使命にあてはまる活動

ロータリー財団(TRF)の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。

●ロータリアンが積極的に関与する活動

地区補助金は、ロータリアンが柔軟性をもってプロジェクトに活動出来る補助金で、地区財団活動資金(DDF)を通じて提供されます。

国際ロータリー第2790地区では、以下のように2019-20年度に使用する地区補助金要項を定めています。

地区補助金を申請出来るクラブは、次の要件を満たしていなければなりません。

●クラブの参加資格認定：覚書(MOU)を、プロジェクト実施年度のクラブ会長と会長エレクトが署名して地区に提出する。

- 毎年最低1名の会員を、地区ロータリー財団委員会が開催する「補助金管理セミナー」に出席させる。

第2790地区ロータリー財団委員会では、地区補助金の対象となる活動と対象にならない活動について、具体例を以下のように定めています。

- クラブが毎年継続して活動しているものについては、過去に申請され承認されたものは、その後概ね5年間に1回申請することが出来ることとしています。
- ロータリアンのための費用は、不適格です。
- 従来飲食に関する費用は一切認めておりませんが、未来の夢計画に移行しましたので、活動中で必要と認められる飲食に関する費用については、適格とします。
- 物品を贈呈する活動は、単に贈呈ではなく、ロータリアンが直接参加するZZのような活動であり、不特定多数の人々のために利用されるものは適格です。
- 特定の人に贈る場合は不適格です。
- 植樹や環境保全、環境美化活動、公園の遊具やベンチ、これらの維持管理ZZ道具類の寄贈は、地域社会全般に役立つものであれば適格です。
- コンサートや単なる文化講演会は不適格です。
- お祭りや行事への協賛金、他団体が実施する活動への協賛金の贈呈は、不適格です。

人道的国際奉仕に対し優先枠をもうけ1件当たりの補助金支給額を30万から60万に増額しました。提案書相談 時期、相談期間2019年3月31日まで随時となっております。

申請書提出 期間は来年度の補助金については2019年3月1日~3月31日にて締切りました。

審査 期間は2019年4月1日~2019年4月14日となっております。

交付 期間ロータリー財団(TRF)より地区に補助金が振込まれ次第。

プロジェクト実施時期 2019年7月20日~2020年3月31日

最終報告書提出期日 プロジェクト終了後1ヵ月以内

そして最終期限は2020年4月30日までとなっております。

地区補助金の申請には、別紙ロータリー財団地区補助金申請書(様式311)と、同申請書のExcelファイルの両方を提出します。

紙の書類にはプロジェクト実施年度のクラブ会長と会長エレクトが署名し、ガバナーエレクト事務所に郵送して下さい。

Excelファイルの申請書は2790地区公式ホームページ(http://www.rid2790.jp/2018/iinkai/z_hojo.html)

→画面左の「委員会」→画面右側の「ロータリー財団統括委員会」の中の「地区補助金プロジェクト委員会」からダウンロードして記載して下さい。

進行・水野

グローバル補助金の概要についてグローバル事業補助金委員会諸岡 市郎左衛門委員長お願いします。

グローバル事業補助金委員会委員長:

諸岡市郎左衛門(成田RC)

2019-20年度グローバル事業補助金委員会委員長諸岡です。所属は成田ロータリークラブです。

グローバル補助金の事業概要

援助国のロータリークラブと実施国(主に海外)のロータリークラブが協力する事業で、事業の内容がロータリーの「6つの重点分野」に合致すること、事業の持続可能性や成果が測定可能であるといったことが求められます。これらについては、後ほど別のスライドで説明します。

大規模な国際的活動で、事業予算規模は3万から40万米ドルです。

ロータリー財団(TRF)が個別に審査します。年間を通じ随時申請が可能です。

ロータリーの「6つの重点分野」

6つの重点分野は、ロータリーが定めた活動の大方針で、この大方針に沿った活動に対し、ロータリー財団(TRF)からの大規模な資金補助を受けることができます。

【参考】6つの重点分野:

- ・平和と紛争予防/紛争解決、・疾病予防と治療、・水と衛生、・母子の健康・基本的教育と識字率向上、・経済と地域社会の発展

グローバル補助金による活動の種類

グローバル補助金には3つの類型があります。

具体的には、「人道的プロジェクト」は6つの重点分野に合致した大規模な国際的プロジェクトで、「奨学金」は6つの重点分野に合致した大学院レベルの留学、「職業研修チーム」は専門職業に係る研修を提供するチーム等の海外派遣です。

グローバル補助金の要項

グローバル補助金の要項については、『ロータリー財団ハンドブック』29ページを参照下さい。

援助側、実施側のロータリークラブが参加資格の認定を受けていること。

その他の要件としては、今までの説明とも重複しますが、

- ①「6つの重点分野」に該当すること。
- ②持続可能で活動の成果が長期的に持続すること。
事業が完了した後も活動成果が長期的に持続するプロジェクトに補助するものです。大規模な補助は一度限り、同じ事業への再度の補助はされません。
- ③測定可能な目標を持っていること。成果は定量的に評価されます。
- ④地域社会のニーズの調査については、後ほど説明します。
- ⑤ロータリアンと地域社会の人々の両方が積極的に参加すること。プロジェクトを成功させるため役割分担を決めロータリアンが汗をかく必要があります。これらの点を確認するためにも、しっかり

した現地調査が重要です。

- ⑥「授与と受諾の条件」の遵守。「授与と受諾の条件」は随時改訂されます。最新版で確認下さい。

申請までの流れ

手続きの流れについては、『ロータリー財団ハンドブック』33 ページを参照下さい。

地区のロータリー財団委員会としても、クラブの提案が要項に合致しているか等を確認し、DDF(地区財団活動資金)の使用許可を行います。

クラブは地区財団委員会の申請許可を受けて、ロータリー財団(TRF)に申請します。

申請等に当たっての留意点

現地における事業の確実性、組織・体制等の確実性が求められます。

現地で物資調達をする場合、その調達価格等の適正さが求められます。単純な為替レート比較のみならず、調達の適正さを示す根拠となるデータ(タクシー等の公共交通機関の料金、賃金水準、飲料水の価格など)を現地調査等により収集し、適宜、提案書・申請書等に記載下さい。

「地域社会調査の結果フォーム」については、2018年7月から申請書に添付することが義務付けられました。申請前に地域社会の調査を行う必要があります。調査の実施費用については地区補助金で賄うことが可能です。

インド、フィリピンについては、特別な書類の添付が求められます。「授与と受諾の条件」に掲載されておりますので、確認下さい。

当地区のグローバル補助金の実績

第2790地区のグローバル補助金の実績については、『ロータリー財団ハンドブック』34 ページを参照下さい。人道的プロジェクトが6件、奨学生が4件です。

現地調査をしっかりと行い、「世界をつなぐ」手段の一つとして、グローバル補助金の活用を検討下さい。

ロータリー財団統括副委員長：

水野晋治(柏西RC)

【補助金申請の注意】

それでは最後に私より補助金申請に当たっての注意と遵守事項について説明致します。

まず初めに補助金申請に当たっての注意事項についてご説明します。

5項目ございます。

1. 補助金管理セミナーへの参加
2. 申請書作成・提出方法
3. 提出期限
4. 補助金事業実施の注意点
5. 報告書提出に際し

始めに1. 補助金管理セミナーへの参加についてです。

ハンドブック23ページをご覧ください。

■ クラブの参加資格

地区補助金を申請出来るクラブは、次の要件を満たしていなければなりません。

- クラブの参加資格認定：覚書(MOU)を、プロジェクト実施年度のクラブ会長と会長エレクトが署名して地区に提出する。

- 毎年最低1名の会員を、地区ロータリー財団委員会が開催する「補助金管理セミナー」に出席させる。

これらの必要がございます。

特に補助金を申請する必要がないから補助金管理セミナーに参加しないというのでは先ほど説明しました奨学生が突然皆さんのクラブに連絡をしてきて推薦をお願いされたらどうするのでしょうか？

奨学生の補助金の申請ができません。このような事が無いよう毎年必ず補助金管理セミナーにご参加下さい。

来年度は2020年2月2日(日)三井ガーデンホテル千葉にて13時点鐘予定で開催します。

補助金事業申請に関わらずご出席ください。

2. 申請書作成・提出方法についての注意事項です。

今回の申請からExcelの所定のファイルにて申請書の作成→メールでの送信→印刷・署名の上ガバナリーエレクト事務所に郵送(3月31日消印有効)して下さい。

いかなる理由があっても3月31日消印以降のものは一切受け付けません。くれぐれも早い段階でお送り下さい。

所定のファイルは地区ホームページ→委員会→R財団→地区補助金プロジェクト委員会より一式ダウンロードできます。

3. 提出期限について

繰り返しになりますが申請書は作成後ファイルをメール送信し、印刷し署名しガバナリーエレクト事務所へ郵送して下さい。3月31日消印有効です。遅れた申請書は受け付けません

4. 補助金事業実施の注意点です。

来年度は7月20日以降事業を実施して下さい。TRFの承認前に事業実施した場合補助金をお支払いできません。

また、必ず3月31日までに事業を終了して下さい。

遅れた場合は返金していただきます。

5. 報告書提出に際し

事業終了後1カ月以内に必ず報告書を提出して下さい。

最終報告書提出期限 4月30日となっております。

遅れた場合も返金対象となります。1件でも遅れると次の年度の補助金の一括申請ができません。地区全体に迷惑をかける事になります。

事業報告書には活動の様子を収めた写真、領収書を添付して下さい。

事業実施及び報告書作成前に再度申請書を良く読んで下さい。申請書通りの事業を実施して下さい。報告書も申請書通りの報告書になるようご注意下さい。

(変更がある場合必ず担当委員会までご連絡下さい)その他 年次基金寄付について

当地区では3年間寄付ゼロクラブ0が続いています。

また、日本国内では寄付ゼロクラブ0が2年続いています。日本国内クラブ数 約2,260 ございます。

万が一当地区からクフゼロクラブを出してしまうと1/2,260のクラブとなる事になります。

年次基金寄付送金は必ず半期の12月末までに一部でも送金をお願いします。

最後に来年度のセミナーのPRをさせていただきます。

●ロータリー財団セミナー

日時 2019年9月1日(日) 13時点鐘

場所 TKP ガーデンシティ千葉

●補助金管理セミナー

日時 2020年2月2日(日) 13時点鐘

場所 三井ガーデンホテル千葉

以上となります。ありがとうございました。

以上でロータリー財団部門別協議会を終了します。

皆様長時間に渡りありがとうございました。



米山記念奨学部会



■ロータリー財団部会

リーダー	次期・米山記念奨学委員会 委員長	鈴木 荘一
サブリーダー	次期・米山記念奨学委員会 副委員長	生形 健一
サブリーダー	パストガバナー	増田 裕
サブリーダー	パストガバナー	得居 仁
サブリーダー	パストガバナー	宇佐見 透

司会箕輪晃

開会のあいさつ 高木恒雄

資料確認 司会箕輪晃

アドバイザーご挨拶

公益財団法人米山記念奨学会評議員

パストガバナー 得居 仁様

皆さんこんにちは、米山奨学会の評議員を務めております、今年の9月で任を終えることになっております。4年間の評議員を務めて感じたことを皆さんにお話ししたいと思います、当初幹事部会に出席する予定でしたが、こちらに出させてくれという事でこちらに出席しました、多分後任はこちらにおられます宇佐見さんになられると思います。

まず4年間の感想、思いを述べさせてもらいます。この米山の委員会というのは本当に忙しいです、カウンセラーをやられたり、委員長をやられたりしてご存知と思いますが、最初から最後まで本当に一生懸命やられています、このことは地区の誇りであります。更に、今年の委員の皆さんはさらに真面目に一生懸命やられています、本当に安心して評議員をおりることが出来ます私として、お願いがございました。

今回83クラブいる中で全員来ていません、約半数ちょっとしかいません。このことは何を物語っているのかというと、わが地区で米山記念奨学会へ対する理解が年々浅くなってしまっていると思います。その事の一つは、私見ですが米山記念奨学会が米山梅吉さんの遺徳を顕彰する、功績をたたえる

奨学金なんだということを中心にPRしているのですが、私は違うと思います。1967年サンフランシスコ講和条約の発効とともに、この奨学制度は東京ロータリークラブで始まったわけなのですが、その時何故東京ロータリークラブが東南アジアからの留学生を対象に奨学金を出そうとしたのか、その決断をしたのか、ここのところをお調べになってその事をご理解して頂きたい。確かに米山梅吉さんは立派な方です、その奨学金に米山さんの名前を付ける、遺徳、功績をたたえることはすべきことなんです、ですが未だ当時大変貧しかった日本のロータリアンがお金を出したその思いを、ぜひ多くの皆様に伝えて頂いていくことで、その思いが地区全体に広がっていくのではないかと思います。このことを最後にお伝え申し上げたくて本日この場に参加させて頂きました。お出でになっている皆さんは十分理解されていると思います、ここにお出でになっていない、ご理解いただいていない方、浅い方がかなりおられると思います。地区委員も一生懸命やりますがそれだけでは足りません、どうか皆さんにこの制度趣旨を広めて頂いて、さらに地区に善いことになりまようようにこの場に顔を出したという事です、どうもありがとうございました。

委員長挨拶 鈴木荘一

本日のアドバイザーおよび卓話者の紹介をさせて頂きます。公益財団法人R米山記念奨学会評議員 得居 仁 様、公益財団法人R米山記念奨学会理事 (2014~17) PG 増田 裕様、公益財団法人R米山記念奨学会広報委員長 (2017) PG 宇佐見 透様、本日の卓話 第2790地区米山学友会直前会長シュレ

スターラジ様

続きましてお手元の資料に沿って諸岡年度の地区委員をご紹介させていただきます。(委員紹介)

2019-20 諸岡ガバナー年度の米山奨学記念委員会の部会を開催できますこと心より感謝申し上げます。この米山奨学事業におきましては経験豊富で全てに精通されている方から今回初めて米山事業に接し本格的に取り組もうとされる方、様々だと思えます。経験豊富な方々には大変申し訳ございませんが、ご承知おきの部分が多々あるとは思いますが、ご容赦頂きまして進めさせて頂きたいと思えます。この部会では①学友会の会長の卓話②財団のプロモーション DVD ③地区委員会各担当よりのお話し④アドバイザーのバスターから講評⑤質疑応答時間が余りました⑥各クラブ委員長より今年度の抱負という流れになっております。

今年度は地区研修委員長より 16 時までしっかり部会のプログラムを作るようにという事で強いお達しを頂いております。米山部会だけが長いというわけではございませんのでその点皆様にご理解いただきたいと思えます。

「ロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与すること」を目的としている米山記念奨学会は 2017 年に 50 周年を迎え、これまで支援してきた奨学生は 127 の「国」と「地域」にまたがり、累計 20390 名以上が卒業した、国内で民間最大の規模の国際奨学事業となりました。“将来日本と世界を結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる”人材を育成するという事業の使命への期待は増々高まっております。

財団の斎藤理事長は先日台湾の米山学友 50 周年に参加され、「米山卒業生が政官財とあらゆる分野で中心的な役割を果たしている、そして多くの学友の皆さんが米山奨学生であったことに誇りを持ち、感謝している、それを地区の多くの会員皆様に共有できるよう働きかけをすること」と、「14 億円という寄付を託す会員皆さんの思いがかなえられるようにしてほしい」との要請がございました。このように思いが結果として表れるまでには大変な時間を要します、現在の奨学生への取り組みは「未来への投資」という事を実感できるようにご理解、ご周知に努めていきます。

私たち地区委員会の役目は奨学生、カウンセラー、奨学生の所属する学校指導教官皆様の「交流のステージ」である世話クラブをバックアップしていくことです。

将来のリーダーと成り得る奨学生が新しいつながりを持ち、ロータリーの多様性を拡げる役割をサポートして参ります。財団が実施した直近のアンケート結果によるとカウンセラーの皆様が指導教官との交流を持てなかったという割合が半数以上になりました、こちらの結果を踏まえ指導教官の先生方をクラブ例会や、クラブの親睦行事にお招きして交流を図り、更に継続して優秀な奨学生の推薦をして頂けるように取り組んで頂くことをご提案させて頂

きます、各クラブのご事情もあるとは思いますがご一考ください。

もう一つは PETS、地区協議会、地区大会、奨学生の卓話を通じて米山の意義を伝えることです。その中でも地味で見落とされがちですが卓話につきましては地区委員で奨学生の卓話内容を精査して、しっかりと米山奨学生としてのメッセンジャーとしての役割を果たしてもらえるように努力してまいります。そして米山奨学金をより身近に感じてもらうように、米山親善大使、地区内の学友も巻き込んで進めて参ります。地区内のクラブを対象としたセミナーや IM、情報研修会などを利用した啓蒙活動等をこれまで同様に注力して活動してまいります。啓蒙活動と並行して、近年では各地区で言われている「米山の壁」の除去にも努めてまいります。一般的には米山の壁とは寄付金事業にありますが地区寄付金の還付率ですとか、困窮型支援にしてほしい、親日国の方を増やしてほしいという要望、受給期間が過ぎると連絡なしなどがあげられます。) こちらは資料最後の年度の当地区ガバナーの結論に載せさせて頂いております。

* ちなみに還付率につきましては 90% 前後の還付率でございます

昨年末米山奨学委員長を拝命しまして、富委員長より引継ぎます。全国米山委員長セミナーをうけた際には全国でも大変優れた委員長であるというお話を聞きました。浅学非才の私ですからとても富委員長の代わりは務まらないのは重々承知しています、我々地区委員は予定したプログラムを“全員”で“大きな和”で取り組んで参ります。で各クラブの委員長様におかれましてはどうぞ更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

地区の委員を昨年一年通じて、地区内外の多くの会員皆様と交流が出来ました、また米山奨学事業の趣旨にもありますが奨学生との交流を通じて国際親善の懸け橋を作っていく醍醐味、そしてカウンセラーと奨学生の人間模様、寄付金を頂いた会員皆様への思いに応える充実感など実感することが出来ました。

ぜひこの充実感をまた経験豊富なロータリアンだけではなく入会間もない会員方々にも和を拡げて地区内の米山事業へ対する熱を高めていきたいと考えます。

米山記念奨学会の財団法人の設立化の過程では一定の寄付額を会員皆様をお願いし、定期的な金額を送金することを約束することで文科省から「財団法人」という冠を頂けた歴史がございます。私たち地区委員会としましても多くのロータリアンの寄付金へ託す思いをできるだけかなえる環境を整えます、そして他地区の活用例を参考にしたりして「寄付金目標達成の見える化」を工夫したり、ご寄付頂く必要性をご理解に努め、諸岡ガバナーが掲げる「一人当たり寄付目標額 15000 円」を達成に向け努力してまいりますのでご協力をお願い申し上げます。

今年度の RI のテーマは「ロータリーは世界をつなぐ」です。私たちは米山奨学事業を通じ、多くの

方がかけがえのない出会いを重ね、お互いの価値観を共有することで多くの方がつながりを持ち、多くの様々な人財がクラブから輩出され、「地域に存在感のあるロータリークラブ」になる様にプログラムを進めてまいりますので今年一年どうぞご指導とご協力をよろしくお願いします。

シュレスタ・ラジブ

前 2790 地区米山学友会会長卓話

「ロータリアンから学んだ「恩返し」と「恩送り」への挑戦

皆さんこんにちは。

ご紹介にあずかりましたシュレスタ・ラジブと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はこのような貴重な場で卓話をさせていただき機会をいただき光栄に存じます。お招きいただきました地区米山委員会の鈴木委員長ありがとうございます。

まず、はじめに自己紹介いたします。私はネパール出身で、来日して今年で 20 年になりました。その中で 2004 年度の 1 年間ロータリー米山記念奨学会の奨学金をいただくことに恵まれ、無事に修士課程を修了することができました。私の世話クラブは千葉幕張ロータリクラブでカウンセラーはパストガバナーの宇佐見さんです。たくさんの思い出を作ってください、たくさんのインスピレーションをいただき、大変お世話になりました。宇佐見さんはじめ世話クラブの皆さんにいつもいつも感謝をしております。学友になってから皆さんの名誉に傷つけないようにと気をつけながら行動してきました。そして私の行動によりロータリー業界において世話クラブの育て方が評価されるといいなということを念頭に置いて日々努力しております。それが当地区の学友会を活性化するにあたって必死になったことにつながっています。私は昨年まで当地区学友会の会長をつとめまして、今年から顧問という立場でサポートさせていただいております。

さて、本日は米山記念奨学部会プログラムということでロータリーをまつわのお話をさせていただきたいと考えております。

私が宇佐見さんをはじめ他のロータリアンからのインスピレーションを受けて、母国ネパールで教育・医療・文化分野で支援活動をはじめ、現在に至っても継続しております。本日はそれについてお話をさせていただきます。

まず、私がお伝えしたいことのご理解いただくための文脈となるものに少し触れたいと思います。

その一つは私の家庭事情です。(来日前)

- ・4 人兄弟で末っ子。私の上は兄がいて 12 歳も離れている。
- ・相対的にも絶対的にも貧困家族に育てた。父は 1995 年に亡くなっているが、特に収入となる職をもっていなかった。母は 2000 年に亡くなったが、全く読み書きができない人で、収入を得るためにセーターを編んだりなど内職をしたりしてい

た。それでも私たち 4 兄弟の教育のためにはいろいろな犠牲を払って学校に行かせてくれましたし、私が日本に行くことも快諾してくれました。

- ・姉二人と兄が小さい頃からわずかな収入しかない仕事をして大学まで勉強したし、家計を支えてくれました。
- ・姉・兄も早めに結婚しましたが、母が生存中まで少しずつ支援してもらっていました。
- ・私には特に仕事をさせられなかった。それもあり勉強に集中することができた。授業料免除をもらったり、奨学金をもらったりして大学まで勉強することができた。

【つまり、都市部でありながらとても貧しい家庭で育てたこと】

もう一つはネパール（地元）の状況

- ・地元は世界遺産の中にある。
- ・私の年代の人でさえも小学校を卒業してない同年代の人が多かった。より年上の人で学校教育を受けた人は少なかった。中には非識字者もいました。そのために子供たちに教育の必要性を感じない保護者がいます。
- ・周りはカースト別の集落が点在しており、お互いに仲が悪い。頻繁に喧嘩が起きている。特にお祭りと刃物などをもって喧嘩する場合もあり重症者が出るほど発展する。(友達同士で重症を負わせたこともある)とにかく嫌な環境です。
- ・友達の中で泥棒やすりなどの犯罪行為をしたり、過度に喫煙や飲酒をしたり、覚せい剤などに手を染めたりなどする友人もいました。私も特に教育者ではないが、絶対にこういう罪を犯さないと自分の中で決めており、飲酒以外は他に手を出すことはなかった。すでに亡くなった友達も何人かいる。
- ・ネパールにおいて来日前に故郷において青少年クラブの運営に携わっておりました。日本にいくということは向こうの人に、お金の木があるところに行くことです。簡単に収穫できると誤解されています。よって何らかの支援を期待される。

言いたいことは、私はこれらの行動は幼稚な行動と考えており、学校教育を受けてない(中学まで進学していない人が多い)がために起こしてしまったものだと考えております。大人になってからやめる人もいましたが、その行動に依存する人も中にはいました。そこで、そのために何かアクションを起こせないものかと頭の片隅に考えておりました。

それで、1999 年に来日して秀明大学に通い始めました。何とか合格したものの来日までの道のりは簡単ではなかったです。大金が必要なだけに、家にお金がなくお金持ちの親せきから当時 30 万円ほど借りてきました。その返済まで 5 年もかかりました。日本は観光ビザできたので当時それを学生ビザに変更するシステムがないようでとても大変でした。90 日ぎりぎりまで当時私たちを招待してくださいました

先生の尽力で留学ビザに変更することができた。それまでアルバイトもできなくて大変苦労しました。アルバイトも見つからなくて落胆したことがありました。先輩の紹介でお弁当を作る工場にアルバイトすることになった。大学が終わってから夜のわずかな時間、または土日に働いて、学費や生活費を稼ぐことになりました。仕事しなければならぬだけに遊ぶ時間がなく、日本を観光しなかったのは悔しく思います。

何とか大学の卒業ができて、千葉大学の修士課程に進学することができた。しかし、まだまだ大変な日々が続いていた。一人暮らしになり家賃負担も膨れ上がったし、大学の授業料を払わなければならないし、アルバイトを続けながらの修士課程が続いた。大学院に進学してから2年目も大学の授業料免除もないので学業が危機に瀕していました。他の奨学金も並行して申請していたが、次々と不採用の通知がきていて、100%へこんでしまった時期に、ロータリー米山記念奨学会から面接の通知が届く。他の情報を収集する余裕もなく、ありのままに面接に臨みました。運がよく採用されました。それだけでもロータリアンに対する尊敬心が強かった。

・2004年4月～2005年3月 米山奨学生として採用される。

オリエンテーションの時に私を迎えてくれたのは宇佐見さんです。そこで優しく声をかけていただいたこと、その後例会でも千葉幕張ロータリクラブのみなさんをご紹介いただき、暖かく迎えていただきました。

例会の日にゼミがあり、いつも終わってからゼミに参加するかたちでしたが、とにかく例会はとても楽しみにしていたことが記憶に残っております。

1年間の奨学生期間でしたが、多くのクラブ活動に参加させていただき思い出になりました。初めてマリンスタジアムで野球をみました。魚を釣ってきておいしいご飯をたべました。座禅イベントに参加してたたかれました。世話クラブのロータリアンの職場に遊びにいきました。卒業間近になるとどこか行きたいと聞かれ、即京都に行きたいとお伝えしました。地元は世界遺産だったし、京都に似ていると聞いておりましたので。しかし、宇佐見さんと田澤さんに大変ご迷惑をかけることになりました。車で移動することになったのです。花粉が飛ぶ時期でお二人とも花粉症で大変だったのを覚えております。その中で運転されて私の希望にに応じてくださいましたこと一生忘れません。本当にいい思い出でした。

このように社長などの肩書の方が多いと聞いておりましたので、ロータリアンの社会貢献活動、国際貢献活動へ行動に感銘を受けました。母国だったら鼻で動かす社長さんばかりですので考えられなかったからです。

卒業してから現在に至っても苦労の日々が続いています。

昨年初男が生まれ3人の子供に恵まれました。そのうち長男は生まれてから疾病が原因で現在1級の障害者手帳の持ち主です。その子守、子育ては本当

に容易ではないです。病気になったときにロータリアンの方々からも優しく励ましの言葉をいただき、ご協力もいただきました。それをもって難を超えることができました。

子供が生まれた時期にアルバイトもなくなり、大学の延期も余儀なくされ、よってビザも1年間ずつしかもならず、タイミングが合わなくて2年ほど収入も得られませんでした。本当にどん底に暮らしてきました。こどもにミルクを買うお金もなくて、ロータリアンの方々に支援していただきました。その恩も非常に感じております。

2011年に二人目の子が生まれて、日本人ならそのままでは生活保護者の対象になるくらいでした。仕事探しが始まるわけですが、世話クラブにも申し出て、いろいろと調べていただきました。結局私のキャリアで仕事ができるところはなかったのですが、多くの方々にご迷惑をかけてしまいました。とにかく大変難しい時期にも相談に乗っていただきとても感謝しております。

やっと、契約社員の仕事がみつかりましたが、貧しい生活が続きました。

現在は公益財団法人本庄国際奨学財団で働いております。海外の留学生の面倒を見ること、イベントを企画して運営するなどが仕事です。

それから、社会人になって5年になったということで永住許可の条件がクリアしたのでその申請を挑戦しました。そのために宇佐見さんはじめ世話クラブのロータリアンが推薦状を書いていただきました。また、大網ロータリクラブの四之宮由己様が私の保証人になってくださいました。四之宮様は私が奨学生時代の地区米山委員で、その後も引き続き親しくさせていただいております。ロータリアンが保証して、推薦されたので難なく普通に永住許可をもらいました。その後家族の永住許可を申請して、みんなが許可をもらっています。これもとても大きな恩ですね。

奨学生時代に「ロータリアンは奨学生に恩返しを求めない、その代わりに恩送りしてほしい」と聞きました。ただし、私は貧しい家庭に育てて、ほかの人々の支援のおかげで成長した背景があり、その中で親からちゃんと支援者に感謝の気持ちをもってできるなら恩返ししろと教わってきました。

どう恩返しすればよいか卒業後ずっと探っていました。学友会で活躍するのもロータリアンへの思いを示す一つの方法だと聞いており、参加したいと思っておりましたが、そんなに活発ではなく、その後BBQに一回参加した切りで、学友会の案内はありませんでした。学友会への参加という思いが強く、財団事務局からの案内に応じて銀座や藤沢で行われた他地区学友会のイベントに参加したことがあります。

本来なら時間が経つにつれてキャリアアップになり、ロータリアンのように社会貢献できる人になるべきでしょうが、経済的には自分の家計もままならないので理想のままとどまりました。しかし学友会

で活躍するくらいはできるのでそれを通して恩返しの気持ちをあらわす機会がないか探しておりました。そのなかで、第 2790 地区の学友会が機能していき、再活性化しましょうと連絡があり、喜んで再出発の初期メンバーとして加わりました。2011 年から当初の会長の下で再出発を切りました。しかし、容易に進めるものではなかった。会長自身も忙しいし、名ばかりの副会長や理事が多いためイベント実施は難しかった。徐々に会長も他の理事も参加しなくなり、イベント実施には 2,3 人でやることになりました。一方で、地区委員会からの要望が高く、新しい企画などをするように言われてくる。それに答えるかたちで 2012 年に会長が地区大会で米山の集いを実施することを承認したのです。当日になって会長ははじめだれもいないという事態がおきました。地区委員の協力のもとに私が一人参加することになり、イベントを何とか終えることができました。その後は当初の発起メンバーはほとんど来なくなりましたが、新規の学友の協力を得て少しずつですが、私が指導役になってイベントを実施してきました。2014 年になると当初の会長は辞めるわけですが、会長を引き受けるように委員会からプレッシャーがかかった。経済力・社会的な立場（まだ学生）上やるつもりではなかったが、ちょうどその年は宇佐見ガバナーの年だったので、これも一つの縁と思い会長を引き受けました。しかし、組織力が弱く、ほとんどの作業を私がやらなければならなかった。

ガバナー事務所や地区委員会のご協力を得て少しずつ大規模のイベントを実施しました。ただし、仕事では主に土日が勤務になるために次の年に他の会長に譲りました。私が始まった活動が重かったのか、次の年からまた衰退し始め、地区委員会の指令を受けて、2017 年～2018 年度までにふたたび会長を引き受けた。その間地区委員会の絶大な協力、そして本当に私と同じように関心をもつ理事たちがいてどんどんイベントも拡大し、数も増えて成功してきました。今は当地区学友会軌道に乗り始めていると思います。それを維持させるにはしばらく時間がかかるとは思います。それを手伝うのが私の役目だと考えており、今後も引き続き後輩たちにアドバイスをしていきたいと思っています。

他方で、恩送りの言葉は心に深く刻んでおります。エピソードをいうと、私が奨学生時代にロータリアンと無関係の人と電車で会い、お話しすることになり、それが発展して彼がネパールに関心を持ち、学校を作りたいといい始めました。それに付随して私は調査に乗り出し、多くの人々を動かして、多くの人に学校ができることを期待させてしまいました。しかし、先方の都合で突然プロジェクト中止になり途方にくれました。とても困ってしまって、自分で負担してでも何かをアクションを起こさないとネパールにいる家族の名誉にかかることに発展していた。そこで 2005 年にネパールで NGO を設立し、識字学級を開始することになりました。宇佐見さんにもこの話をしたところ、世話クラブの 20 周年

の時に私のプロジェクトのために 20 万円を寄付して下さることになりました。その後、大網ロータリクラブからも四之宮様、会員の飯倉様とクラブで毎年 15 万円ずつ寄付をいただいております。それで予算ありきで毎年 1～3 の教室を実施してきました。私はまだまだ納得していませんが、政府として私の地元は非識字者のいない地域と定められて、識字学級もできなくなりました。

私は奨学生を経験して奨学金の重要性に気が付きました。私だけの考えかもしれませんが、奨学金をもらうことにより自分が助かるから、誰かを助けなければいけないような考えが生まれてくると思います。それを求めて、私が同じ NGO で奨学金基金をつくって毎年 6 人の中学生を奨学生として採用し、高校（ネパールでは 10 年生）まで面倒を見ることを始めました。現在 28 名の生徒に奨学金を与えております。わたしとして毎年 30 名に奨学金を与えるこの活動だけでも今後も継続していきたいです。

もう一つですが、2015 年 4 月 25 日にネパールで大震災が起き、広範囲に被災者がでました。私の家もボロボロになりましたが、幸いにも倒れなかったもので、一部修復し、そこで兄の家族が危険を背負いながら生活しております。私に家を再建する余力がなく負け犬のごとく隠れております。誰かリースでその家を建てて使って一定期間過ぎたら返すという契約に乗る方がいらっしやればうれしいです。

ただ、震災直後宇佐見さんをお願いして世話クラブからある一定の寄付金をいただきました。他のロータリアンからも少しずつ寄付金が集まり、そのお金を持ってネパールに一時帰国し、上記エピソードの学校建築予定だった地域の被災者に食糧を届けたり、食事を食べさせたり、その子供たちに文房具を届けたりして顔を合わせることができました。少しでも汚名返上になった気分でした。

震災のことは瞬く間に風化し、ネパールの政府のリーダーとその家族や親族たちは各国の支援金で肥大化するわけですが、被災者はまだまだ厳しい状況にいます。あまりにも被害が大きいので私個人的にできることはそれ以上なかったので悔しくて仕方ありません。

最後に私の夢を語りたいです。ネパールで障害者施設をつくることです。ネパールでは障害者への設備が少なく、サービスも充実していません。私の長男は障害をもっているのですが、そのためにネパールに帰る勇気がありません。ただ、衛生環境が悪いネパールでは日本よりも障害者が多いと容易に推測できます。一個人としてすこしでもお手伝いができればと考えております。しかし、現状のネパールの経済状況を考えると億単位の予算がないとできません。誰かのご協力がないと夢のままで終わるのは間違いありません。障害者事業に関心を持たれる方がいらっしやいましたら、ご支援をいただける方々がいらっしやいましたら小さいところから少しずつ始めて、将来大きな施設に発展させて、私の夢を実現したい

と考えております。どうぞご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、私は1年間多額の奨学金をいただき大変助かりました。奨学金のための寄付をいただきました全国のロータリアンの皆様、私をここまで育ててくれました宇佐見さんはじめ世話クラブの皆様、地元に恩送りできるように支援をしてくださっている四之宮様はじめ大網ロータリクラブの皆様、学友会活動に絶大にご協力いただきました富委員長、鈴木委員長はじめ委員の皆様はこの場を借りて改めて厚く御礼を申し上げます。

ロータリアンの中でも米山奨学生、学友に関心を持たれるかたが少ない、つまり年々寄付金が減少していると聞きます。その中で米山奨学生・学友のことをよく理解されているのは米山委員長やカウンセラーの皆様だと思います。学友会の活動がますます活発にし、学友になってからも皆さんと交流できる環境をようにしたいので今後とも相変わらぬご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

長い、まとまりのない話になったかもしれませんが私の卓話を修了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

米山事業について 委員長 鈴木荘一

豆辞典 p3-4 に対応

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区が参加する合同プロジェクトです。

1952年に事業が始まって以来、一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべてみなさんからのご寄付で成り立っています。

この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。銀行振込が多い他の奨学金とは違って、米山奨学生にはロータリー活動に共に参加してもらい、交流することを大切にしています。

世話クラブ・カウンセラーになったロータリアンからは、「カウンセラーをして、ロータリーの楽しさを知った」

「いったんロータリーを退会したが、また米山に関わりたくて再入会した」

「目に見える国際奉仕の最前線。これほど面白いチャンスはめったにない」

といった声が寄せられています。

★豆辞典 p1-2 に対応

終戦翌年の1946年、“日本のロータリーの父”米山梅吉氏が亡くなりました。

3年後の1949年、戦争のため解散を余儀なくされた日本のロータリーが、国際ロータリーへ復帰します。

戦後、落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことができるような、何か有益な事業

をやろうではないかという声が大きくなってきました。

当時の日本はまだ食糧事情もはかばかしくなく、会員たちは「クラブへ行けばお茶を入れてもらえる」と、弁当を持参し、ストーブを囲みながら熱心に議論をしていたそうです。『ロータリー米山記念奨学会25年史』より）

そして1952年、東京RCの古沢文作会長が「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたいというものでした。

こうして、東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業として継承され、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました

米山奨学金事業は日本のロータリー独自の奉仕事業として作られ、発展してきました。このため、ロータリーの活動ではあるものの、国際ロータリーとは一線を画す状況が自ずと続いていました。そうした関係が次第に変化してきたのは2004年頃からです。2004年11月のRI理事会で、「奨学金の授与を通し、世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を称賛する」とされ、これ以降、ロータリー米山記念奨学会が「多地区合同奉仕活動」（現在は多地区合同活動）の手続きを取ることで、ロータリーの名称やロータリーマークを今後も続けて使用することを認める、ということが決議されました。

2007年には全34地区からの同意を得て、国際ロータリーの定める多地区合同奉仕活動として、すべての手続きを完了しました。

そして2014年1月のRI理事会では、ロータリー学友の定義が拡大され、米山学友もまた、ロータリー学友の一員となりました。これを受けて、2016年のソウル国際大会には世界中から多くの米山学友が集まりました。ちなみに今年の学友会の世界大会はモンゴルで行われます。多くのロータリアンが地区から参加します。

私委員長として一番大切なことがあります。お心苦しいのですが今年度、

ガバナーが掲げる当地区の目標額は、1人当たり15000円となっております。

昨年実績14686円 全国16068円です、15位/全国34地区。

ちなみに2590地区（横浜・川崎地区）では31000円の平均額になっています

こちらの特徴として個人寄付額の割合を増やしていくようにとのご指導を頂きました。個人寄付率（資料参照）特別寄付、そして米山功労者の数を増やしていく事が寄付額増加への地道ではありますが、近道であるようです。地区で奨学生を何人採用できるかは、ほぼ、寄付額の全国比で決まります。1人でも多くの奨学生を採用できるよう、今年度の目標に向けてご協力をお願いします

これからの世界情勢では、国と国との懸け橋となる

ような、優秀な人材が果たす役割はいつそう大きくなっています。米山記念奨学事業の重要性は、さらに増していくことは間違いありません。これまで日本のロータリアンが蒔いてきた「平和の種」を、今後も絶やすことなく、大きな花を咲かせ続けていくこと、それが我々ロータリアンの使命と思います。今後も、皆さんと一緒に、この米山奨学事業を盛り上げてまいりましょう！ご支援、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

奨学生卓話について 委員長 鈴木荘一

奨学生の卓話につきまして、担当に変わりご説明させていただきます。

諸岡年度は千葉東 RC 加藤隆委員が奨学生の卓話の担当をさせていただきます、どうぞよろしくお願いいたします。

米山記念奨学会への意義そして奨学生へのご理解を頂くためにも 10 月の米山月間を中心にクラブでの米山奨学生の卓話訪問をお願いしたいと思っております。26 名の奨学生がいますがぜひ 3 回くらいは経験させてあげたいので多くのクラブの皆様からご要望頂ければ幸いです。

実は奨学生には 2 回の卓話の研修会そして卓話の原稿を各委員でチェックさせて頂く予定になっております。

- ・彼らがなぜ日本に留学する決意をしたか？
- ・学業研究内容
- ・将来に対しどのような希望を抱き毎日生活しているか

本人の言葉で会員皆様に語り掛ける効果は計り知れません、

「一生懸命話していて好感が持てた」

「将来日本と母国の懸け橋となり活躍するような奨学事業の意義を感じさせた」

「日本語能力の高さに驚かされた」

などの評価を得ています。また卓話をきっかけにして地区内の会員企業に就職したという事例もあると聞いています。

ぜひ皆様のクラブで卓話の依頼をお願いします。面接等を通じ奨学生から聞いた話では奨学生は日夜学費と生活費の捻出に苦労しながら学業に励んでおります、その奨学生の生の声をぜひお聞きください。米山奨学事業の一つの柱であります母国と日本の懸け橋になるためにも彼らの卓話の申し込みをぜひよろしくお願いいたします。

尚、他クラブの方奨学生の本業との調整等がございますのでご希望日に沿えない場合はお許しください。

本日お配りの資料に卓話申込書がございます、ぜひお申込みください。

奨学生と学友会について 委員 劉亜斌

千葉南 RC の劉亜斌です。どうぞよろしくお願いいたします

はじめに奨学生についてお話しさせていただきます。当地区（2790 地区）において本年度新たに採用し

た奨学生は 19 名です。50 余りの大学推薦の優秀な学生の中から選ばれた優秀な学生です。加えて、海外応募者対象の奨学金に募集された学生 1 名、の計 20 名と継続奨学生 5 名にクラブ支援の奨学生一名を加えた 6 名、合わせて 26 名になります。これも皆様から頂いた寄付額のおかげです。ありがとうございます。

今年度は 26 名のクラブの皆様にお引き受けして頂きました、ありがとうございます。先週当地区の奨学生カウンセラーオリエンテーションが行われました。各クラブの委員長様にもカウンセラー皆様と同じ視線に立って奨学生を温かく、時には厳しく接して頂きたいと思っております。

先ほど申しました 4/13 日のオリエンテーションでは「ロータリーとは」「米山奨学金事業とは」「奨学生としての心得」という事でお話しさせていただきましたが、一回だけではすべてを学ぶことは難しいと思います、5 月以降それぞれのクラブの例会において奨学生に対してロータリーの神髄をお話し頂ければ幸いです。

それぞれの奨学生にとって世話クラブとの係りがイコールそのまま「ロータリー」になります。今回は 20 名の奨学生に対し多くのクラブよりご希望があり、今年世話クラブをして頂いたクラブ様などにはお断りした経緯がございます。こちらにつきましてご希望に沿えなかったクラブの皆様にも大変申し訳ありませんがぜひ米山奨学事業への意義を理解して頂く機会を頂ければ幸いです。その際には地区委員も同行させて頂き、諸学事業の素晴らしさを実感して頂くように努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

次に学友会の説明をさせていただきます。

豆辞典 13 ページにもございますが学友会は日本に 33、海外に 9、計 42 学友会がございます。学友会は奨学生終了後も奨学生とロータリーとの結びつきを確固たるものとしています。

先ほど説明させて頂きましたが海外からの直接応募、そしてクラブ支援と奨学生の応募方法が多岐にわたるようになりました、近い将来海外の学友会からの応募もどんどんその割合を増やしてくると思います。歴史ある学友会では、そのメンバーは国の主要な部門を担当する責任者となる方が増えていると聞いています。この学友会の活動こそ米山の未来への投資の形となった一部ではないかと思います。お配りした米山の群像 11 ページにも載せさせて頂いております成田 RC のシルネンさん、そして 12 ページ松戸西 RC のサジーワニーさんなど当地区でも活躍されている方がたくさんいます。豆辞典の 15 ページでも紹介されていますが当地区の学友会是他の地区の学友会に比べ活発な活動をしております、主な活動としましては 9 月のバーベキュー大会、また 11 月の忘年会は 100 名を超える大盛況で、他地区の学友会のメンバーや当地区のローターアクトの会員などが参加される大規模イベントです。300 名近くの学友会の名簿は自らで管理され、その歴代会

長の活発な活動により参加される会員も増えてきています。

またホームカミング制度というものがございいます。こちらは元奨学生の里帰り制度であります。国内外で活躍する学友に里帰りして頂き、現在の活躍を披露して頂く事で「寄付の成果」が実施できる制度です。現役奨学生はもとより当地区の会員皆様になることは間違いありません、昨年も2回のホームカミングを実施しました。今年も同様に実施してまいりたいと思いますのでよろしくお願い致します。最後に、簡単な自己紹介を重ねて、私の経験を皆さんに共用したいと思います。

私は中国出身で、中国医科大学卒業、2000年度千葉大学医学部で医学博士コース留学中にロータリークラブにお世話になりました。現在日本と中国で医療関係の会社を運営しながら、千葉大学附属病院の国際医療センターで国際医療を担当し、客員教授を兼務しています。私は今日ここにいることは、ロータリアンたちの寄附のお掛けです。本当にありがとうございます。

日本には、多くの組織から奨学金を出していますが、私は米山奨学金が一番良い奨学金だと思います。なぜなら、米山奨学金はただのお金をもらうではなく、毎月必ず一回ロータリークラブの例会に参加させて、ロータリークラブの社会奉仕活動などのことをよく理解でき、それから、多くのイベントも参加し、沢山のロータリアンにも友達になれます。日本の文化や日本社会への理解も深められます。これは学業以上に勉強になれます、卒業後社会に出るときに、大いに役に立つことです。私もその恩恵を受けた一人です。卒業後、世話クラブの千葉南 RC の人たちとずっと連絡を取っています、多くのロータリアンと友達になれました。ロータリークラブについての理解も深くなりました。4年前から、千葉南 RC の皆さまの推薦で、私はロータリアンになりました。大変光栄と思います。また、恩返しの機会をいただけたこともとても嬉しいのです。

皆様のご支援した留学生たちは、卒業後、世界の各地で大活躍もしています。皆さんは学友の身分で社会奉仕活動も行っています。これは未来への投資と寄附の成果と思います。

昨年、千葉南 RC 設立 55 周年の記念イベントで、私の出身地中国の大連市で、現地にいる学友会の皆さんと合同で、記念例会と現地の障害者施設への寄附記念会を開催しました。

日本から 17 名のロータリアンが参加しました、現地の学友会の会員は 5 名が参加しました。自閉症の子供と保護者が 20 名ほど参加しました。感動の記念例会でした。それから、その機会を利用して、私は学友と一緒に、現地の企業家とロータリアン間の企業交流会も企画しました。それも大成功しました。今後このような活動をぜひ継続して、広げたいと思います。

ロータリアンの皆様、「米山記念奨学会」の運営は、皆様からのご寄付で支えられております、引き続きぜひ皆様のご寄付をよろしくお願いいたします。

米山奨学事業への寄付について 委員 森秀樹

寄附の詳細につきましては、お手元に配布されております、豆辞典の P17~P21 にかけて掲載されております。

また、本日の配布資料の中に前年度末(2018.6.30)の寄付金納入明細総合表と 2790 地区クラブ別寄付金明細表を入れておきました。併せてご覧ください。クラブによって年度末にまとめて寄付金を納入されるクラブが有りますので寄付金実績差異の記載が無いように前年度末とさせていただきます事をご了承ください。なお、最新の寄付金実績につきましては橋岡ガバナー年度地区ホームページにある米山奨学委員会にアップされているので皆様でご確認ください。

①まず寄付金の種類についてお話しします。P17 にあるように米山記念奨学事業は「普通寄付金」と「特別寄付金」の寄付金で成り立っております。寄付金の額により3年後地区の奨学生数が決まるので協力をお願いします。

「普通寄付金」はあくまで任意ではありますが、財団法人の認可を当時の文部省より頂く際に国内全クラブの普通寄付の確約を条件に設立許可を得た経緯があります。寄付金事業成立の趣旨と歴史をご理解のうえ全クラブ未納の無いようにお願いします。

「特別寄付」は個人、法人、クラブからの普通寄付以外の任意の寄付金になります。基本的に表彰の対象になるのがこちらの特別寄付ですので、P18 の表彰制度をご確認ください。ロータリアン以外からの寄付も受け付けており、クラブを通じて寄付していただくとクラブの累計額に反映され表彰の実績にカウントされます。

②次に税制上の優遇措置についてお話しします。P19 に記載があるように、ロータリー米山記念奨学会は「公益財団法人」の認定を受けており活動への寄付金には税制上の優遇措置が大きな特典としてございます。「所得控除」、「税額控除」のどちらか有利な方式を選択することが出来ます。具体例が P19 下に掲載してありますが、課税所得 750 万円の方が 10 万円寄付すると 39,200 円税額控除となります。こちらのどちらが有利かは会員個々に収入や納税額が違うので一概に言えませんので確定申告を委託している会計事務所や会員の職業分類に税金に関する相談業務取扱者がいたら相談して下さい。

③最後にお手元の配布資料より、昨年度の実績報告と配布資料はありませんが、今年度3月末時点での地区の現況を報告させていただきます。お手元の資料をお開き下さい。2018.6.30 普通寄付・特別寄付の合計は 41,519,215 円となっております個人寄付額の平均は 14,687 円になります。2019.3.31 普通寄付・特別寄付の合計は 40,717,959 円となっております個人寄付額の平均は 14,178 円になります。

ご協力いただいたクラブ・会員の皆さまありがとうございます。橋岡ガバナーが昨年の地区協議会で掲げたお1人15,000円まであと少しですので引き続きクラブに戻りまして会員の方々にご理解ご協力をして頂けるようお願い致します。繰り返しになりますが、寄付金額の目標値を下回りますと3年後の当地区の奨学生の全国での割振りにひびいてきます。

むすびに、2790地区は千葉大学をはじめ多数の大学を地域内にかかえており、30年度千葉県調べのデータでは留学生受入校34校、国費、私費、政府派遣の留学生合計6287人が千葉県で学んでおります、また県北西部は都内の大学への通学の便の良さから外国人の転入も増えております。人口増加は少子高齢化がすすむ日本で販売やサービス・賃貸を営んでいる側の人間には明るい話題であり、増えた外国人との橋渡しを担う人材の育成としても奨学生支援は有効な事業であると考えます。多々お願い事を申しましたが、地区米山委員会としては各クラブの米山記念委員長様と連携をして、クラブ会員の皆さまの米山奨学事業の理解をすすめていく事に取り組んで参ります。

奨学生選考について 副委員長 生形健一

奨学生選考についてご説明させていただきます。奨学生選考につきましては、基本的には優秀な学生で将来に対してのビジョンを持ち、母国と日本の架け橋になって頂ける学生を選考基準の柱としていきたいと思っております。

地区米山記念奨学委員会としては選考に関する委員会を立ち上げ進めて参ります。

奨学生採用に関しての流れをご説明致します。

5月に入り各大学が米山記念奨学会のホームページから応募を兼ねたページに登録を致します。

6月に入りますと、地区内の大学キャンパスがある大学リストが地区委員へ届きます。

地区委員会として、大学応募に関しての選考委員会メンバーを決め、リストに基づき応募大学の募集人数の割り振りなどを決めさせていただきます。

同時に、各大学の留学生の在籍人数に関しても調べ県内の各大学でどのくらい留学生が在籍しているか、把握致します。

合わせて、割り振り人数に関しては、過去の奨学生採用人数などを参考にさせて頂いております。

7月初旬に各大学の担当者に集まって頂き、採用に関しての説明会を開催いたします。説明会の内容は、R米山記念奨学会制度に付きましての説明および今後の進行について、合わせて、地区米山記念奨学委員会の選考に関してのスケジュール等に関しても説明を致し理解を頂きます。

再度、米山記念奨学会へ地区指定に関しての報告を致し、指定に基づきまして米山記念奨学会よりのホームページに記載され、各大学は指定に基づき、学内募集を行います。

応募の多い大学では、事前に学内先行なども行っ

ていると伺っております。

10月中旬に、応募書類が米山記念奨学会より送られて参り、地区米山記念奨学委員会では選考委員により、選考・面接に関しての委員を選び委員の方々にオリエンテーションを行い、選考に関しての注意並びに書類の取り扱いなど情報の外部への漏れを防いでおります。なお、この中にはガバナー、ガバナーエレクトも参加されています。

12月中旬に書類審査、1月中旬には面接試験を行い、最終的に合格者の決定をしております。

1月中旬に世話クラブの募集を行い、世話クラブ、カウンセラーの決定をさせていただきます。

出来るだけ、偏らない方法で選考しておりますが、今のところやはり中国出身者が県内の大学在籍数が多い為に、目立っておりますが、大学別の数字では偏りを防いでおります。

各クラブの米山奨学委員のご理解をお願い致します。

□質疑応答

浦安ベイロータリークラブ 水野様

Q 本年度米山とロータリー財団ふたつの掛け持ちでやっておりますので私が前に出ると「また寄付集めか?」と笑われるんですがちょっと確認ですが地区目標一人15000円というのは通常寄付と、特別寄付合わせたお金でよろしいですか?

A その通りです

Q 当クラブは設立10年目になります資料にある累計金額でも下から2番目になりますが私は委員長今回で3回目なのですが特別功労者10万円になりますとどうしても無理が出ます、私の年度の時だけ皆さんに一万円ずつ頂いております。これは委員長の手引きでもありますが累計表を頂いております、先ほど寄付の発表の時にもありましたが11月までに振り込むと確定申告等でよいという事ですが今まで3回やりましたので準功労者になります、その部分でガバナー月信に写真はともかく名前とクラブ名を明記できないか、寄付なんて名前が載りますとまた寄付しようという意識が強くなります、写真抜きでも構いませんので明記して戴きたい

A 地区の事務局及び月信委員会に確認します

□各クラブから発表

富津中央ロータリークラブ石渡委員長

私のクラブの現状を申し上げます、私はロータリー歴40年になりますが年の割に何もしていませんが、私の愛読書にガバナー月信があります。あまり表紙は見ませんが出席率、会員増強、財団や米山の寄付者この数を千葉県地図に落としていくと千葉県の北側に偏っている状態がここ数年続いております。私のクラブは富津岬の南側に位置する大変ローカルな地域ですが、増田パストガバナーがガバナー時代に千葉みなとの駅前にあるホテルで「あなたは富津中央だな、寄付がゼロではないか」と叱咤されました。非常にショックをうけまして、このことを

クラブに帰って話したらクラブの仲間が「お前に恥をかかせたな」ということで地区表彰を受けるまでになりました。この年になって、増田ガバナーに叱咤されたときはムカッとしていましたが、言う方もつらかったのではないかと考え方を改めましたのでこの場でお詫びします。寄付は皆さんからいただく立場なので米山の意義や理論は誰が聞いても判るんですが命令調に言うわけにいかない。経験から言うと頭を下げて出してもらうというのが一番で、お前にそこまでやらせちゃ格好悪いから寄付があつあまります。寄付のしにくい昨今の経済状況ではありますが、千葉県は北高南低の認識のなかで第5グループから委員長も出ますし一生懸命やらせてもらいます。

柏南ロータリークラブ 猫田岳治カウンセラー

みなさんこんにちは、柏南ロータリークラブの猫田でございます。私は今回委員長の代わりでカウンセラーという事で参加させて頂いております。先週米山奨学会のカウンセラーのオリエンテーションがありましてカウンセラー・担当教官・奨学生が三者で会って話をしました。

その際奨学生のみなさんに話をする機会があったので奨学生皆さんに対してクラブに愛される存在になって下さという話をしました。日本の諺には「郷に入れば郷に従え」という諺があります。この米山奨学金は給付型というより知日派親日派を作るプログラムであるのです。そのためには簡単なんですがいさつしまししょう、「ハイ」と返事をしまししょうそうすれば必ず人間関係が良くなりますという話をさせて頂きました。「挨拶は人と人をつなぐ金の鎖である」どうぞクラブに入ったら皆さんと仲良くしてくださいと話させて頂きました。

ロータリーに入って10年あまりになります。入って思ったのは手続要覧はじめロータリーの関係図書には感謝という言葉は出てきますが、日本人独特の「恩」という概念思想がめったに使われることはない。恩というのは難しくあまり恩を重ねても恩着せがましいと言われる。我々は奨学生に恩を売っているわけではありませんが恩を返してもらうわけではなくて恩を送って頂く、我々日本は20年後にはGDPが3位から50位になるのではないかとわれています。我々が奨学生に与えた恩というのは目巡り目巡ってわが子孫に帰ってくるのではないかと期待をもってこの米山事業に関わっていけばよいのではないのでしょうか？どうやってお金を集めるのかというその部分をメンバーに落としていけばよいのではないのでしょうか？

増田豁 パストガバナー

先ほどの事でございます、15年以上も前の事として私も覚えています。ガバナーになりますとRIからノルマを寄付と押し付けてきます、私もまだ若かったのです、一生懸命であったとはいえ、失礼をかけたことお詫び申し上げます。今日地区の委員の皆さんが発表をしてよく勉強しているなと感心しました。

地区の奉仕活動として米山奨学生事業であります、実際面では留学生が一年各クラブが預かってても留学が終わってその後のお付き合いが長くて1~2年で大体なしのつぶてになってしまう、というのが地区内の実情であります。非常に残念ですが留学が終わった後も長くお付き合いが続くようにお気遣いくださって、奨学生がさみしい思いをしないようにお願いします。

宇佐見透 パストガバナー

皆様最後まで米山部会にご参加頂きお疲れ様でした。鈴木委員長をはじめ登壇された方々は、今年度の活動方針など熱のこもったお話をされ、皆様は米山記念奨学会に関するより多くの知識を改めてご確認頂いたものと推察されます。私はアドバイザーとして増田、得居両パストガバナーと共に米山部会への参加を命じられたのですが偶然にも17年前私自身がカウンセラーを務めさせて頂いたシュレスター・ラジブ君が卓話者として招かれており、久々の再会が出来ました。当時、大学院卒業をお祝いしようと本人の希望から京都、奈良を訪れました。「東大寺二月堂のお水とり」を小雪混じりの中、寒さで震えながら夜を待ちましたね。懐かしい記憶が甦りました。

米山記念奨学会については、配布された資料の「クラブ米山記念奨学委員長の手引き」に掲載されています。10頁の“より良いプログラムを実施するために”で、DVDシリーズを活用する取り組みが紹介されています。先ほど皆さんにご覧頂いたDVDです。皆様のクラブから要請があれば無料で送付されます。ぜひこの15分程のDVDをご活用頂き、米山奨学会について各クラブの皆さんにお話し頂くのが委員長としての第一歩かと思います。

冒頭得居パストが述べられた「この奨学金制度は、米山梅吉翁により始められた事業と思われているが、事実は米山翁が亡くなられてから東京ロータリークラブにより始められた」という事をまずはクラブの皆さんにお話しください。

次に一昨年、米山財団設立50周年を祝い発刊した記念誌の案内が13頁にございます、こちらの記念誌は寺嶋ガバナーにお願いし、全クラブに1冊ずつ配布してあります。活動内容が詳細に書かれていますので是非にもご覧頂き、卓話等で活用頂けたらと思います。

最後に、米山委員長になると「寄付が大変だな」という話をよく耳にします。米山記念奨学会は、確かに寄付も大切に運営の源ですが、最も大切なのは米山奨学生と密に接し、世界に羽ばたく人材に育成することだと思います。「何か困っていることは無いか」からスタートし、千葉南RCの劉委員のように、新たなロータリアンとして活躍したり、母国に戻りロータリアンになれる奨学生を一人でも多く育成出来ればミッションの完成度も高まるのではないのでしょうか？

日本では水道をひねれば浄水が出ます。餓死する飢餓問題ありません。しかし東南アジアやアフリ

カなど、世界には水、食料、など生死に関わる諸問題が多く見受けられます。ラジブ君が話されていたカーストなどの身分制度や部族間の諸問題もあります。私達は単に物資を贈与するだけでは無く、どう生きるか、どう行動すべきかを含め、彼らが自らの手で自らの国家を改革してゆくお手伝い共に考え、実行していく事こそ大事な事だと思います。

奨学生は馴れない日本で、経済的に困窮しながらも勉学に励んでいます。故郷の生家を想えば今こそ頑張る時と悟り、必死に取り組んでいます。先ほど大綱ロータリークラブの四宮会員がラジブ君に、「ロータリアンの社会的地位やお金を期待するのでは無く、君自身が母国に戻り、国や、政治を動かし、社会を変えて行かなければ根本的解決にならない」と励ましておられました。

私もその通りだと思います。彼らを支援し育て、全世界が少しでも良くなるように活動するのが我々本来の目的であり、世界を繋ぐ米山の懸け橋事業だと考えます。

日本を取り巻く近隣諸国の若者と接することでも、昨今の国家間軋轢の緩和に繋がるのではと思います。当地区の米山記念奨学会事業が一步づつ前に向かって進むことをご祈念申し上げ講評にします。





地区研修・協議会ホストクラブ
第11グループ 柏西ロータリークラブ

国際ロータリー 第2790地区
諸岡靖彦ガバナーエレクト事務所

〒260-0042 千葉市中央区椿森3-1-1-302

TEL : 043-284-2790

FAX : 043-256-0008

E-mail: 19-20gov@rid2790.jp